

Oracle Forms Developer

Form Builder リファレンス:Vol.2

リリース 6*i*

2000 年 4 月

部品番号 : J01128-01

Oracle Forms Developer Form Builder リファレンス:Vol.2 リリース 6i

部品番号: J01128-01

原本名: Oracle Forms Developer: Form Builder Reference, Release 6i Volume 2

原本部品番号: A73074-01

Copyright © Oracle Corporation 1997, 1999. All rights reserved.

Printed in Japan.

制限付権利の説明

プログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）の使用、複製または開示は、オラクル社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権に関する法律により保護されています。

プログラムのリバース・エンジニアリング等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。オラクル社は本ドキュメントの無謬性を保証しません。

* オラクル社とは、Oracle Corporation（米国オラクル）または日本オラクル株式会社（日本オラクル）を指します。

危険な用途への使用について

オラクル社製品は、原子力、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションを用途として開発されておりません。オラクル社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は、顧客各位の責任と費用により行ってください。万一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、日本オラクル株式会社と開発元である Oracle Corporation（米国オラクル）およびその関連会社は一切責任を負いかねます。当プログラムを米国国防総省の米国政府機関に提供する際には、『Restricted Rights』と共に提供してください。この場合次の Notice が適用されます。

Restricted Rights Notice

Programs delivered subject to the DOD FAR Supplement are "commercial computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs, including documentation, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement. Otherwise, Programs delivered subject to the Federal Acquisition Regulations are "restricted computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs shall be subject to the restrictions in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software - Restricted Rights (June, 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

目次

はじめに	xix
前提条件	xx
表記規則	xx
関連資料	xx
プロパティ	1
プロパティについて	2
プロパティの設定と変更について	2
プロパティの説明ページの見かた	3
コントロール・プロパティについて	3
「アクセス・キー」プロパティ	4
「警告スタイル」プロパティ	4
「別名」プロパティ	5
「拡張可能」プロパティ	6
「空のブランチを許可」プロパティ	6
「複数行プロンプト使用可」プロパティ	7
「開始 - 連結プロンプト使用可」プロパティ	7
「上 - 連結プロンプト使用可」プロパティ	8
「Application Instance」プロパティ	9
「矢印スタイル」プロパティ	9
「関連メニュー」プロパティ	10
「オーディオ・チャンネル」プロパティ	10
「自動列幅」プロパティ	11
「自動表示」プロパティ	12
「自動位置」プロパティ	12
「自動問合せ」プロパティ	12
「自動最新表示」プロパティ	13
「自動選択」プロパティ	15
「自動スキップ」(項目)プロパティ	15
「自動スキップ」(値リスト)プロパティ	16
「Background_Color」プロパティ	17
「凹凸」プロパティ	18
「ブロック記述」プロパティ	19
「下タイトル」(エディタ)プロパティ	19
「境界ボックスはスケーリング可能」プロパティ	19
「Builtin_Date_Format」プロパティ	20
「ボタン1のラベル」、「ボタン2のラベル」、「ボタン3のラベル」プロパティ	22

「計算モード」プロパティ	22
「Calling_Form」プロパティ	23
「キャンバス」プロパティ	23
「キャンバス・タイプ」プロパティ	24
「端形式」プロパティ	25
「小\大文字区別なしの問合せ」プロパティ	26
「小\大文字区別」プロパティ	27
「文字セル幅/高さ」プロパティ	28
「チャート・タイプ」プロパティ	28
「チャート・サブタイプ」プロパティ	29
「ほかの値のチェックボックス・マッピング」プロパティ	29
「Checked」プロパティ	30
「クリップ高さ」プロパティ	30
「クリップ幅」プロパティ	31
「クリップのX位置」プロパティ	31
「クリップのY位置」プロパティ	32
「クローズ可能」プロパティ	32
「クローズ」プロパティ	33
「列マッピング・プロパティ」プロパティ	34
「列名」プロパティ	36
「列仕様」プロパティ	36
「列タイトル」（値リスト）プロパティ	38
「列値」（レコード・グループ）プロパティ	38
「コマンド・テキスト」プロパティ	38
「コマンド・タイプ」プロパティ	39
「コメント」プロパティ	40
「通信モード」（チャート）プロパティ	40
「通信モード」（レポート）プロパティ	41
「圧縮」プロパティ	42
「圧縮品質」プロパティ	42
「データ隠蔽」プロパティ	43
「接続文字列」プロパティ	44
「コンソール・ウィンドウ」プロパティ	44
「コントロール・ヘルプ」プロパティ	45
「コントロール・プロパティ」プロパティ	45
「座標システム」プロパティ	46
「データ整合」プロパティ	47
「Coordination_Status」プロパティ	48
「（項目の）コピー値」プロパティ	49
「現レコード可視属性グループ」プロパティ	50
「Current_Form」プロパティ	51
「Current_Form_Name」プロパティ	51
「Current_Record」プロパティ	52
「Current_Row_Background_Color」プロパティ	52

「Current_Row_Fill_Pattern」プロパティ	53
「Current_Row_Font_Name」プロパティ	54
「Current_Row_Font_Size」プロパティ	54
「Current_Row_Font_Spacing」プロパティ	55
「Current_Row_Font_Style」プロパティ	56
「Current_Row_Font_Weight」プロパティ	56
「Current_Row_Foreground_Color」プロパティ	57
「Current_Row_White_On_Black」プロパティ	58
「Cursor_Mode」プロパティ	58
「Cursor_Style」プロパティ	60
「カスタム・スペース」プロパティ	61
「幅スタイル」プロパティ	62
「データ・ブロックの記述」プロパティ	62
「データ問合せ」プロパティ	63
「データ・ソースのデータ・ブロック」(チャート)プロパティ	63
「データ・ソースのデータ・ブロック」(レポート)プロパティ	64
「データ・ソースのX軸」プロパティ	64
「データ・ソースのY軸」プロパティ	64
「データ型」プロパティ	65
「データ型」(レコード・グループ)プロパティ	69
「データベースのデータ・ブロック」プロパティ	70
「Database_Value」プロパティ	70
「Data Source」プロパティ	71
「Date_Format_Compatibility_Mode」プロパティ	72
「デフォルト警告ボタン」プロパティ	73
「デフォルト・ボタン」プロパティ	73
「デフォルト・フォント・スケール」プロパティ	74
「延期」プロパティ	74
「遅延を必須強制」プロパティ	74
「削除可」プロパティ	76
「削除プロシージャの引数」プロパティ	76
「削除プロシージャ名」プロパティ	77
「削除プロシージャ結果セット列」プロパティ	77
「レコード削除時の動作」プロパティ	78
「ディテール・データ・ブロック」プロパティ	79
「ディテール参照項目」プロパティ	79
「方向」プロパティ	80
「ヒントの自動表示」プロパティ	85
「キーボード・ヘルプで表示」プロパティ	85
「表示品質」プロパティ	86
「表示幅」(値リスト)プロパティ	87
「権限なしで表示」プロパティ	87
「Display_Height」プロパティ	88
「Display_Width」プロパティ	88

「Displayed」プロパティ	89
「レコード間の距離」プロパティ	89
「イメージの粗さ」プロパティ	90
「DML配列の大きさ」プロパティ	90
「DMLデータ宛先名」プロパティ	91
「DMLデータ宛先タイプ」プロパティ	92
「DMLの戻り値」プロパティ	93
「境界線バックグラウンド・カラー」プロパティ	94
「境界線のフォアグラウンド・カラー」プロパティ	94
「境界線パターン」プロパティ	95
「エディタ」プロパティ	95
「エディタX位置、エディタY位置」プロパティ	96
「リスト内の要素」プロパティ	97
「使用可能」(項目)プロパティ	98
「使用可能」(メニュー項目)プロパティ	99
「使用可能」(タブ・ページ)プロパティ	99
「終了角」プロパティ	100
「列セキュリティの強化」プロパティ	100
「主キーの強化」(ブロック)プロパティ	101
「Enterable」プロパティ	102
「Error_Date/Datetime_Format」プロパティ	102
「実行モード」(チャート)プロパティ	103
「実行モード」(レポート)プロパティ	103
「実行の階層」プロパティ	104
「ファイル名」プロパティ	104
「塗りスタイル」プロパティ	105
「Fill_Pattern」プロパティ	106
「表示前フィルタ」プロパティ	106
「問合せ入力モードで起動」プロパティ	107
「最初のナビゲーション・データ・ブロック」プロパティ	108
「First_Block」プロパティ	109
「First_Detail_Relation」プロパティ	110
「First_Item」プロパティ	110
「First_Master_Relation」プロパティ	111
「固定境界ボックス」プロパティ	111
「固定長」(項目)プロパティ	112
「固定長」(メニュー置換パラメータ)プロパティ	112
「Flag_User_Value_Too_Long」プロパティ	113
「Font_Name」プロパティ	114
「Font_Size」プロパティ	114
「Font_Spacing」プロパティ	115
「Font_Style」プロパティ	116
「Font_Weight」プロパティ	117
「Foreground_Color」プロパティ	118

「フォーム水平ツールバーのキャンバス」プロパティ	119
「フォーム垂直ツールバーのキャンバス」プロパティ	120
「書式マスク」プロパティ	120
「Form_Name」プロパティ	125
「式」プロパティ	126
「枠整列」プロパティ	127
「枠タイトル」プロパティ	129
「枠タイトル整列」プロパティ	129
「枠タイトルのバックグラウンド・カラー」プロパティ	130
「枠タイトルのフォント名」プロパティ	131
「枠タイトルのフォントの大きさ」プロパティ	131
「枠タイトルのフォントの間隔」プロパティ	132
「枠タイトルのフォント・スタイル」プロパティ	132
「枠タイトルのフォントの太さ」プロパティ	133
「枠タイトルのフォアグラウンド・カラー」プロパティ	133
「枠タイトルのオフセット」プロパティ	134
「枠タイトルの読み込み順」プロパティ	134
「枠タイトルの間隔」プロパティ	135
「枠タイトルの可視属性グループ」プロパティ	136
「グラフィック・タイプ」プロパティ	139
「Group_Name」プロパティ	139
「ヘルプ」プロパティ	140
「終了時に隠す」プロパティ	140
「最高許容値」プロパティ/「最低許容値」プロパティ	141
「ヒント」(項目)プロパティ	142
「ヒント」(メニュー項目)プロパティ	143
「ヒント」(メニュー置換パラメータ)プロパティ	144
「水平文字位置」プロパティ	144
「水平マージン」プロパティ	145
「水平オブジェクト・オフセット」プロパティ	146
「水平原点」プロパティ	147
「水平ツールバー・キャンバス」プロパティ	148
「アイコン・ファイル名」プロパティ	149
「メニューのアイコン」プロパティ	150
「アイコン化」プロパティ	151
「イメージの深さ」プロパティ	151
「イメージ形式」プロパティ	152
「インプリメンテーション・クラス」プロパティ	153
「REF項目にインクルード」プロパティ	155
「メニュー継承」プロパティ	156
「初期キーボード状態」プロパティ	156
「初期メニュー」プロパティ	157
「初期値」(項目)プロパティ	158
「挿入可」(ブロック)プロパティ	160

「挿入可」(項目)プロパティ	160
「挿入プロシージャの引数」プロパティ	162
「挿入プロシージャ名」プロパティ	162
「挿入プロシージャの結果セット列」プロパティ	163
「対話モード」プロパティ	164
「孤立モード」プロパティ	165
「項目ロール」プロパティ	165
「項目のタイプ」プロパティ	166
「Item_Is_Valid」プロパティ	167
「Item_Tab_Page」プロパティ	168
「結合条件」プロパティ	168
「結合形式」プロパティ	170
「文字位置」プロパティ	170
「カーソル位置を保持」プロパティ	171
「キー・モード」プロパティ	172
「キーボード・アクセラレータ」プロパティ	173
「キーボード・ヘルプで表示」プロパティ	174
「キーボードで移動可能」プロパティ	175
「キーボード状態」プロパティ	176
「ラベル」(項目)プロパティ	177
「ラベル」(メニュー項目)プロパティ	178
「ラベル」(メニュー置換パラメータ)プロパティ	179
「ラベル」(タブ・ページ)プロパティ	179
「Last_Block」プロパティ	180
「Last_Item」プロパティ	180
「Last_Query」プロパティ	181
「レイアウト・データ・ブロック」プロパティ	181
「レイアウト・スタイル」プロパティ	182
「長さ」(レコード・グループ)プロパティ	183
「線の間隔」プロパティ	183
「線幅」プロパティ	184
「リスト項目値」プロパティ	184
「値リスト」プロパティ	185
「リスト形式」プロパティ	186
「リスト・タイプ」プロパティ	186
「X位置のリスト」プロパティ	187
「Y位置のリスト」プロパティ	188
「データ・ブロック・メニューにリスト済み」プロパティ/「データ・ブロックの記述」 プロパティ	189
「ロック・プロシージャの引数」プロパティ	190
「ロック・プロシージャ名」プロパティ	191
「ロック・プロシージャの結果セット列」プロパティ	191
「ロック・レコード」プロパティ	192
「ロック・モード」プロパティ	193

「マジック項目」プロパティ	195
「メイン・メニュー」プロパティ	196
「ほかの値のマッピング」プロパティ	197
「最大化可能」プロパティ	198
「最大長」プロパティ	198
「最大長」(フォーム・パラメータ)プロパティ	199
「最大長」(メニュー置換パラメータ)プロパティ	200
「1行あたりの最大オブジェクト数」プロパティ	201
「最長問合せ時間」プロパティ	201
「取出しレコードの最大数」プロパティ	202
「ヘルプの説明」プロパティ	203
「メニュー・ディレクトリ」プロパティ	203
「メニュー・ファイル名」プロパティ	204
「メニュー項目コード」プロパティ	205
「メニュー項目ラジオ・グループ」プロパティ	206
「メニュー項目タイプ」プロパティ	206
「メニュー・モジュール」プロパティ	208
「メニュー・ロール」プロパティ	209
「メニュー・ソース」プロパティ	210
「メニュー・スタイル」プロパティ	211
「メッセージ」プロパティ	212
「最小化可能」プロパティ	212
「アイコン化タイトル」プロパティ	213
「モード」プロパティ	214
「Module_NLS_Lang」プロパティ	214
「モジュール・ロール」プロパティ	215
「マウス・ナビゲート」プロパティ	216
「マウス・ナビゲーション限界」プロパティ	217
「移動可能」プロパティ	217
「複数行」プロパティ	218
「複数選択」プロパティ	219
「名前」プロパティ	220
「ナビゲーション形式」プロパティ	221
「次のナビゲーション・データ・ブロック」プロパティ	222
「次ナビゲーション項目」プロパティ	223
「NextBlock」プロパティ	224
「NextItem」プロパティ	225
「Next_Detail_Relation」プロパティ	225
「Next_Master_Relation」プロパティ	226
「表示項目数」プロパティ	226
「バッファ・レコード数」プロパティ	227
「表示レコード数」プロパティ	228
「OLEアクティブ・スタイル」プロパティ	229
「OLEクラス」プロパティ	230

「OLE 同一ウィンドウ・アクティブ」プロパティ	231
「OLE の詳細サポート」プロパティ	231
「OLEポップアップ・メニュー項目」プロパティ	232
「OLEサイズ変更スタイル」プロパティ	234
「OLEテナント形態」プロパティ	235
「OLE テナント・タイプ」プロパティ	236
「Operating_System」プロパティ	237
「オブティマイザ・ヒント」プロパティ	237
「Order By」プロパティ	238
「その他のレポート・パラメータ」プロパティ	239
「Output_Date/Datetime_Format」プロパティ	239
「パラメータのデータ型」プロパティ	240
「パラメータの初期値」(フォーム・パラメータ)プロパティ	245
「メニュー・パラメータ初期値」(メニュー置換パラメータ)プロパティ	245
「Password」プロパティ	246
「PLSQL_Date_Format」プロパティ	246
「PL/SQLライブラリの位置」プロパティ	247
「PL/SQLライブラリ・ソース」プロパティ	248
「ポップアップ・メニュー」プロパティ	249
「サマリーの予備計算」プロパティ	250
「マスターなし操作防止」プロパティ	251
「前のナビゲーション・データ・ブロック」プロパティ	252
「前ナビゲーション項目」プロパティ	252
「PreviousBlock」プロパティ	253
「PreviousItem」プロパティ	254
「主キャンバス」プロパティ	255
「主キー」(項目)プロパティ	255
「プログラム単位のテキスト」プロパティ	256
「プロンプト」プロパティ	257
「プロンプト整列」プロパティ	257
「プロンプト整列オフセット」プロパティ	258
「プロンプト連結棒」プロパティ	259
「プロンプト連結オフセット」プロパティ	260
「プロンプトのバックグラウンド・カラー」プロパティ	260
「プロンプト表示スタイル」プロパティ	261
「プロンプトの塗りパターン」プロパティ	262
「プロンプトのフォント名」プロパティ	263
「プロンプトのフォント・サイズ」プロパティ	263
「プロンプト・フォントの間隔」プロパティ	264
「プロンプトのフォント・スタイル」プロパティ	265
「プロンプトのフォントの太さ」プロパティ	265
「プロンプトのフォアグラウンド・カラー」プロパティ	266
「プロンプトの文字位置」プロパティ	267
「プロンプトの読み込み順」プロパティ	267

「プロンプトの可視属性グループ」プロパティ	268
「Prompt_White_On_Black」プロパティ	269
「プロパティ・クラス」プロパティ	269
「全レコードの問合せ」プロパティ	271
「問合せ可」(ブロック)プロパティ	272
「問合せ可」(項目)プロパティ	272
「問合せ配列サイズ」プロパティ	273
「問合せデータ・ソースの引数」プロパティ	274
「問合せデータ・ソースの列」プロパティ	275
「問合せデータ・ソースの名前」プロパティ	275
「問合せデータ・ソース・タイプ」プロパティ	276
「問合せ長」プロパティ	277
「問合せ名」プロパティ	278
「問合せのみ」プロパティ	278
「Query_Hits」プロパティ	279
「Query_Options」プロパティ	280
「ラジオ・ボタンの値」プロパティ	280
「エントリでレイズ」プロパティ	281
「読み込み順序」プロパティ	282
「実際単位」プロパティ	283
「レコード・グループ」プロパティ	284
「レコード・グループの取出しサイズ」プロパティ	285
「レコード・グループ問合せ」プロパティ	285
「レコード・グループ・タイプ」プロパティ	286
「レコード方向」プロパティ	287
「Records_to_Fetch」プロパティ	287
「リレーション・タイプ」プロパティ	289
「開放」プロパティ	290
「レポートの宛先形式」プロパティ	290
「レポート宛先名」プロパティ	292
「レポート宛先タイプ」プロパティ	293
「Report Server」プロパティ	294
「必須」(項目)プロパティ	294
「必須」(メニュー・パラメータ)プロパティ	295
「サイズ変更可能」プロパティ	296
「戻り項目」(値リスト)プロパティ	296
「回転角度」プロパティ	297
「ランタイム互換性モード」プロパティ	297
「セーブポイントモード」プロパティ	298
「Savepoint_Name」プロパティ	299
「スクロール・バー整列」プロパティ	300
「スクロール・バー高さ」プロパティ	300
「スクロール・バー幅」プロパティ	301
「データ隠蔽」(メニュー・パラメータ)プロパティ	301

「ライブラリをフォームと共有」プロパティ	302
「早送りボタン表示」プロパティ	302
「水平スクロール・バー表示」プロパティ	303
「線を表示」プロパティ	304
「OLEポップアップ・メニュー表示」プロパティ	304
「OLEテナント・タイプ表示」プロパティ	305
「パレット表示」プロパティ	306
「再生ボタン表示」プロパティ	307
「録音ボタン表示」プロパティ	308
「巻戻しボタン表示」プロパティ	308
「スクロール・バー表示」プロパティ	309
「スライダ表示」プロパティ	310
「記号を表示」プロパティ	311
「時間標識表示」プロパティ	312
「垂直スクロール・バー表示」プロパティ	312
「音量ボタン表示」プロパティ	313
「シュリンクラップ」プロパティ	314
「単一オブジェクト整列」プロパティ	314
「単一レコード」プロパティ	315
「サイズ」プロパティ	316
「サイズ」(項目)	316
「サイズ」(エディタ)	317
「サイズ」(値リスト)	317
「サイズ」(ウィンドウ)	318
「サイズ調整形式」プロパティ	319
「サウンド形式」プロパティ	319
「サウンド品質」プロパティ	320
「開始角」プロパティ	321
「開始プロンプト整列」プロパティ	321
「開始プロンプトのオフセット」プロパティ	322
「起動コード」プロパティ	323
「状態」(ブロック)プロパティ	324
「状態」(レコード)プロパティ	324
「サブクラス情報」プロパティ	325
「サブメニュー名」プロパティ	326
「サマリー結果ブロック」プロパティ	326
「サマリー結果項目」プロパティ	327
「サマリー・ファンクション」プロパティ	327
「項目と同期」プロパティ	328
「タブ連結枠」プロパティ	330
「タブ・ページ」プロパティ	330
「タブ・ページXオフセット」プロパティ	331
「タブ・ページYオフセット」プロパティ	332
「コーナーのスタイル」プロパティ	332

「切離しメニュー」プロパティ	333
「Timer_Name」プロパティ	333
「タイトル」プロパティ	334
「ツールチップ」プロパティ	335
「ツールチップのバックグラウンド・カラー」プロパティ	336
「ツールチップの塗りパターン」プロパティ	336
「ツールチップのフォント名」プロパティ	337
「ツールチップのフォント・サイズ」プロパティ	338
「ツールチップのフォント間隔」プロパティ	338
「ツールチップのフォント・スタイル」プロパティ	339
「ツールチップのフォントの太さ」プロパティ	339
「ツールチップのフォアグラウンド・カラー」プロパティ	340
「ツールチップ可視属性グループ」プロパティ	341
「ツールチップの黒地に白」プロパティ	341
「開始プロンプト整列」プロパティ	342
「開始プロンプトのオフセット」プロパティ	343
「Top_Record」プロパティ	344
「タイトル」プロパティ	345
「Topmost_Tab_Page」プロパティ	345
「トランザクション・トリガー」プロパティ	346
「トリガー・スタイル」プロパティ	347
「トリガー・テキスト」プロパティ	347
「トリガー・タイプ」プロパティ	348
「更新可」(ブロック)プロパティ	348
「更新可」(項目)プロパティ	349
「変更列のみ更新」プロパティ	351
「Update_Column」プロパティ	352
「コミット時に更新」プロパティ	353
「レイアウト時に更新」プロパティ	353
「NULLのみ更新」プロパティ	354
「Update_Permission」プロパティ	355
「更新プロシージャの引数」プロパティ	356
「更新プロシージャ名」プロパティ	357
「更新プロシージャの結果セット列」プロパティ	357
「問合せ時に更新」プロパティ	358
「セキュリティ使用」プロパティ	358
「3Dコントロール使用」プロパティ	359
「ユーザー名」プロパティ	360
「User_Date/Datetime_Format」プロパティ	360
「User_Interface」プロパティ	361
「User-NLS_Date_Format」プロパティ	362
「User-NLS_Lang」プロパティ	363
「リストで妥当性チェック」プロパティ	363
「Validation」プロパティ	365

「有効単位」プロパティ	366
「チェック時の値」プロパティ	367
「未チェック時の値」プロパティ	367
「VBX Control File」プロパティ	368
「VBX Control Name」プロパティ	369
「VBX Control Value」プロパティ	370
「垂直方向の埋込み」プロパティ	371
「垂直文字位置」プロパティ	371
「垂直方向のマージン」プロパティ	372
「垂直方向のオブジェクト・オフセット」プロパティ	373
「垂直原点」プロパティ	374
「垂直ツールバー・キャンバス」プロパティ	375
「高さ」プロパティ/「幅」プロパティ	376
「ビューポートのX位置」プロパティ/「ビューポートのY位置」プロパティ	377
「キャンバス上のビューポートのX位置」プロパティ/「キャンバス上のビューポートのY位置」プロパティ	378
「可視」プロパティ	378
「可視」(キャンバス)プロパティ	380
「可視」(項目)プロパティ	380
「可視」(タブ・ページ)プロパティ	381
「水平メニュー・ツールバー表示」プロパティ/「垂直メニュー・ツールバー表示」プロパティ	382
「メニューに表示」プロパティ	382
「可視属性」プロパティ	383
「可視属性グループ」プロパティ	384
「可視属性タイプ」プロパティ	387
「WHERE句」プロパティ/「ORDER BY句」プロパティ	387
「白黒」プロパティ	389
「Width」プロパティ/「Height」プロパティ (WD, HT)	390
「ウィンドウ」プロパティ	390
「Window_Handle」プロパティ	390
「Window_State」プロパティ	391
「ウィンドウ・スタイル」プロパティ	393
「ラップ形式」プロパティ	394
「テキストの折返し」プロパティ	394
「X角の半径」プロパティ	395
「X位置」プロパティ/「Y位置」プロパティ	396
「Y角の半径」プロパティ	397
オプション	399
Form Builderコンポーネントについて	400
Form Builderコンポーネントの起動	400
コマンド・ラインからのForm Builderコンポーネントの起動	401

データベースへのログオン	404
Forms Runtimeのオプションの設定	404
Array (Forms Runtime)	406
Block_Menu (Forms Runtime)	406
Buffer_Records (Forms Runtime)	407
Debug (Forms Runtime)	407
Debug_Messages (Forms Runtime)	408
Help (Forms Runtime)	408
Interactive (Forms Runtime)	409
Keyin (Forms Runtime)	409
Keyout (Forms Runtime)	410
Logon_Screen (Forms Runtime)	410
OptimizeSQL (Forms Runtime)	411
OptimizeTP (Forms Runtime)	412
Options_Screen (Forms Runtime)	412
Output_File (Forms Runtime)	413
PECS (Forms Runtime)	413
Query_Only (Forms Runtime)	414
Quiet (Forms Runtime)	415
Statistics (Forms Runtime)	415
Term (Forms Runtime)	416
Window_State (Forms Runtime)	416
Form Compilerオプションの設定	417
Add_Triggers (Form Compiler)	419
Batch (Form Compiler)	419
Build (Form Compiler)	420
Compile_All (Form Compiler)	420
CRT_File (Form Compiler)	421
Debug (Form Compiler)	421
Delete (Form Compiler)	422
Extract (Form Compiler)	422
Help (Form Compiler)	422
Insert (Form Compiler)	423
Logon (Form Compiler)	423
Module_Access (Form Compiler)	424
Module_Type (Form Compiler)	424
Nofail (Form Compiler)	425
Options_Screen (Form Compiler)	425
Output_File (Form Compiler)	425
Parse (Form Compiler)	426
Script (Form Compiler)	427
Statistics (Form Compiler)	427
Strip_Source (Form Compiler)	428
Upgrade (Form Compiler)	428

Upgrade_Roles (Form Compiler)	429
Version (Form Compiler)	429
Widen_Fields (Form Compiler)	430
Form Builderオプションの設定.....	431
カラー・モード	432
カラー・パレット	433
実行前にビルド	434
Help (Form Builder)	434
HTMLファイル名	435
「アクセス」作業環境 (Form Builder)	435
Module_Type (Form Builder)	436
プリンタ	436
モジュールの非同期実行	436
サブクラス・パス	437
ヒント表示の抑止	438
TERM (Form Builder)	438
USEDI (Forms RuntimeおよびWeb Forms Runtime)	438
システム・エディタの使用	439
ユーザー作業環境ファイル	440
前置きダイアログ	440
前置きページ	441
 システム変数.....	 443
システム変数	444
日付と時刻のシステム・デフォルト値.....	445
\$\$DATE\$\$システム変数.....	447
\$\$DATETIME\$\$システム変数.....	448
\$\$DBDATE\$\$システム変数.....	449
\$\$DBDATETIME\$\$システム変数.....	450
\$\$DBTIME\$\$システム変数.....	451
\$\$TIME\$\$システム変数.....	452
SYSTEM.BLOCK_STATUSシステム変数	452
SYSTEM.COORDINATION_OPERATIONシステム変数	453
SYSTEM.CURRENT_BLOCKシステム変数.....	455
SYSTEM.CURRENT_DATETIMEシステム変数.....	455
SYSTEM.CURRENT_FORMシステム変数.....	456
SYSTEM.CURRENT_ITEMシステム変数	457
SYSTEM.CURRENT_VALUEシステム変数.....	457
SYSTEM.CURSOR_BLOCKシステム変数	458
SYSTEM.CURSOR_ITEMシステム変数.....	459
SYSTEM.CURSOR_RECORDシステム変数.....	460
SYSTEM.CURSOR_VALUEシステム変数	460
SYSTEM.CUSTOM_ITEM_EVENTシステム変数.....	461

SYSTEM.CUSTOM_ITEM_EVENT_PARAMETERSシステム変数	461
SYSTEM.DATE_THRESHOLDシステム変数	462
SYSTEM.EFFECTIVE_DATEシステム変数	463
SYSTEM.EVENT_WINDOWシステム変数	464
SYSTEM.FORM_STATUSシステム変数	465
SYSTEM.LAST_FORMシステム変数	466
SYSTEM.LAST_QUERYシステム変数	466
SYSTEM.LAST_RECORDシステム変数	469
SYSTEM.MASTER_BLOCKシステム変数	469
SYSTEM.MESSAGE_LEVELシステム変数	470
SYSTEM.MODEシステム変数	471
SYSTEM.MOUSE_BUTTON_MODIFIERSシステム変数	471
SYSTEM.MOUSE_BUTTON_PRESSEDシステム変数	472
SYSTEM.MOUSE_BUTTON_SHIFT_STATEシステム変数	473
SYSTEM.MOUSE_CANVASシステム変数	474
SYSTEM.MOUSE_FORMシステム変数	475
SYSTEM.MOUSE_ITEMシステム変数	475
SYSTEM.MOUSE_RECORDシステム変数	476
SYSTEM.MOUSE_RECORD_OFFSETシステム変数	477
SYSTEM.MOUSE_X_POSシステム変数	477
SYSTEM.MOUSE_Y_POSシステム変数	478
SYSTEM.RECORD_STATUSシステム変数	478
SYSTEM.SUPPRESS_WORKINGシステム変数	479
SYSTEM.TAB_NEW_PAGEシステム変数	480
SYSTEM.TAB_PREVIOUS_PAGEシステム変数	481
SYSTEM.TRIGGER_BLOCKシステム変数	481
SYSTEM.TRIGGER_ITEMシステム変数	482
SYSTEM.TRIGGER_NODE_SELECTEDシステム変数	483
SYSTEM.TRIGGER_RECORDシステム変数	483
索引	485

はじめに

Oracle Forms Developer Form Builderリファレンス、リリース6*i*によろこそ。

このリファレンス・ガイドでは、Oracle Forms Developer Form Builderを効果的に利用できるようにするための情報と、次の項目に関する詳細な情報が説明されています。

- Vol. 1
 - ビルトイン
 - トリガー
- Vol. 2
 - プロパティ
 - オプション
 - システム変数

ここでは、このガイドの構成を説明し、Oracle Forms Developer Form Builderを使用する際に参考になるその他の情報源を紹介します。

前提条件

まず、ご使用のコンピュータおよびそのオペレーティング・システムについて精通している必要があります。たとえば、ファイルの削除およびコピーのコマンドの知識があり、検索パス、サブディレクトリおよびパス名を概念を理解していなければなりません。詳細は、各オペレーティング・システムの製品マニュアルを参照してください。

アプリケーション・ウィンドウの要素などのMicrosoft Windowsの基本要素も理解している必要があります。エクスプローラ、タスクバー、タスクマネージャ、またはレジストリなどのプログラムに精通している必要があります。

表記規則

このマニュアルでは、次のような表記上の規則を使用しています。

規則	意味
固定幅フォント	固定幅フォントのテキストは、表示されたとおりに入力するコマンドを示します。PCに入力するテキストでは、特に断りのない限り大文字と小文字を区別しません。 コマンドでは、大カッコと縦線以外の句読点は表示されているとおり正確に入力する必要があります。
小文字	コマンド文の小文字は変数を表します。適切な値に置き換えてください。
大文字	テキスト内の大文字は、コマンド名、SQL予約語、キーワードを表します。
ゴシック・テキスト	メニュー選択項目やボタンなど、ユーザー・インタフェース項目を示すには、ゴシック・テキストが使用されます。
C>	C>はDOSプロンプトを表します。実際とは異なる場合があります。

関連資料

次のOracleマニュアルを参照することもできます。

タイトル	部品番号
『Oracle Forms Developer and Oracle Reports Developer アプリケーション作成ガイド リリース 6 <i>i</i> 』	J00449-01

プロパティ

プロパティについて

Form Builderでアプリケーションを構築するには、オブジェクトを作成し、オブジェクトごとにプロパティと呼ばれる特性を設定します。オブジェクトのプロパティは、オブジェクトの外観と機能を判別します。

プロパティの設定と変更について

各プロパティの説明ページには、設定方法という見出しがあり、そのプロパティの設定方法、つまり、Form Builderで（プロパティ・パレットを使用して）定義するのか、実行時にプログラムによって設定するのが記載されています。

プログラムによるプロパティ設定

オブジェクトのプロパティをプログラムによって動的に変更するには、Form Builderの次のビルトイン・サブプログラムを使用します。

- SET_APPLICATION_PROPERTY
- SET_BLOCK_PROPERTY
- SET_CANVAS_PROPERTY
- SET_FORM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_INSTANCE_PROPERTY
- SET_LOV_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY
- SET_PARAMETER_ATTR
- SET_RADIO_BUTTON_PROPERTY
- SET_RECORD_PROPERTY
- SET_RELATION_PROPERTY
- SET_REPORT_OBJECT_PROPERTY
- SET_TAB_PAGE_PROPERTY
- SET_VIEW_PROPERTY

■ SET_WINDOW_PROPERTY

また、前述のサブプログラムに対応する、プロパティを取得するビルトイン（GET_ITEM_PROPERTYなど）を使用すれば、プロパティに設定されている値の大半はプログラムによって判別できます。

プロパティの説明ページの見かた

説明

プロパティの説明は一般パターンに従います。プロパティ名はボードで出力され、後に簡単な説明が表示されます。

プロパティの説明ページには、次の見出しが表示されます。ただし、プロパティの内容によっては、見出しの一部が表示されない場合があります。

見出し	説明
適用されるオブジェクト	そのプロパティが適用されるオブジェクト・クラス
設定方法	プロパティの設定方法: Form Builder（でプロパティ・パレットを使用して設定）、プログラム（を使用して実行時に設定）
参照するビルトイン	そのプロパティを設定できるビルトイン（プログラムによってプロパティを設定できる場合のみ）
デフォルト	プロパティのデフォルト値
必須/オプション	必須プロパティかオプションか否か
制限事項:	プロパティを使用する際の制限事項
使用上の注意	プロパティを使用する際の考慮事項

コントロール・プロパティについて

説明

レイアウト・エディタにおけるActiveX（OCX）コントロールのプロパティです。現在のOCXコントロールについての説明画面へのリンクが設定されています。

適用されるオブジェクト

ActiveX項目

設定方法

Form Builder

必須/オプション

オプション

「アクセス・キー」プロパティ

Access Key

説明

アクセス・キーとして使用する文字を指定します。アクセス・キーは、[Alt]+「C」のようにオペレータが[Alt]キーと同時に押して特定の項目を選択または実行するためのキーです。

項目ラベルでは、アクセス・キーに相当する文字に下線が付きます。

たとえば、Push_Button1のラベルが「Commit」で、アクセス・キーが「c」と定義されているとします。オペレータが[Alt]+「C」（Microsoft Windows）を押すと、Form Builderが「Commit」コマンドを実行します。

適用されるオブジェクト

ボタン、ラジオ・ボタン、チェックボックス

設定方法

Form Builder

デフォルト

いいえ

必須/オプション

オプション

使用上の注意

- オペレータがアクセス・キーを使用してアクションを起動すると、そのアクションに対応付けられているトリガーが起動されます。たとえば、Push_Button1に登録済みのアクセス・キーがあるとしします。また、Push_Button1に対応付けられているWhen-Button-Pressedトリガーがあるとしします。オペレータがアクセス・キーを押すと、When-Button-PressedトリガーはPush_Button1を起動します。

「アクセス・キー」プロパティの制限事項

- 「アイコン化」プロパティが「はい」に設定されているボタンには、アクセス・キーを設定できません。

「警告スタイル」プロパティ

Alert Style

説明

警告のスタイル、つまり、注意、警告、停止のいずれかを指定します。GUIプラットフォームでは、警告でどのビットマップ・アイコンを表示するのかを指定します。

適用されるオブジェクト

警告

設定方法

Form Builder

デフォルト

警告

「別名」プロパティ

Alias

説明

データ・ブロックが関連付けられている表の別名を決定します。

適用されるオブジェクト

データ・ブロックに関連付けられた表/列

設定方法

Form Builder

デフォルト

データ・ブロック・ウィザードは、表名の最初の文字に対して「別名」プロパティを設定します（たとえば、DEPTという名前の表には、デフォルトで別名Dが与えられます）。

必須/オプション

列オブジェクトまたはREFを含むOracle8の表に対しては必須

使用上の注意

Oracle8の表については、列オブジェクトまたはREFを含むSELECT文は、表とその別名の両方を識別する必要があります。また、その別名を接頭辞として使用し、列名を修飾する必要があります。

次に例を示します。

```
CREATE TYPE ADDRESS_TYPE AS OBJECT
```

```
(STREET    VARCHAR2(30),  
CITY       VARCHAR2(30),  
STATE      VARCHAR2(2));  
CREATE TABLE EMP  
(EMPNO     NUMBER,  
ADDRESS    ADDRESS_TYPE);
```

このEMP表の別名がEの場合、SELECT文を次のように修飾する必要があります。

```
SELECT EMPNO, E.ADDRESS.CITY FROM EMP E;
```

この場合、別名はEです。列オブジェクトADDRESS.CITYはその別名で修飾され、その別名は表名の後ろにも与えられます（通常のリレーション列であるEMPNOには、そのような修飾は不要です）。

ほとんどの場合、この別名はForm Builderによって自動的につけられます。Form Builderは設計時に別名を決定し、次にOracle8 Serverからデータをフェッチするとき、実行時における被修飾名を自動的に使用します。ユーザーがこの別名付けを考慮する必要があるのは、ブロックWHERE句のコーディングのような作業を行っている場合のみです。

「拡張可能」プロパティ

Allow Expansion

説明

フレームの内容がフレームの境界線を超えて拡張するとき、Form Builderが自動的にフレームを拡張できるかどうかを指定します。

適用されるオブジェクト

枠

設定方法

Form Builder

デフォルト

はい

必須/オプション

必須

「空のブランチを許可」プロパティ

Allow Empty Branches

説明

子を持たないブランチ・ノードを許可するかどうかを指定します。「いいえ」に設定されると、子を持たないブランチ・ノードはリーフ・ノードに変換されます。「はい」に設定されると、空のブランチが縮小されたノードとして表示されます。

適用先

階層ツリー

設定方法

Form Builder、プログラム

デフォルト

いいえ

必須/オプション

必須

「複数行プロンプト使用可」プロパティ

Allow Multi-Line Prompts

説明

プロンプトを2行に分割して枠内に余白を作るかどうかを指定します。なお、プロンプトは2行にのみ分割できます。

適用されるオブジェクト

枠

設定方法

Form Builder

デフォルト

はい

必須/オプション

必須

「開始 - 連結プロンプト使用可」プロパティ

Allow Start-Attached Prompts

説明

表スタイルの枠に項目を配置する際、枠内の領域の使用方法を最適化するかどうかを指定します。

デフォルトでは、このプロパティは「いいえ」に設定されていて、プロンプトは項目の上枠に接続されています。「開始 - 連結プロンプト使用可」プロパティを「はい」に設定すると、十分なスペースがあれば、項目の開始枠にプロンプトを接続できるようになります。

適用されるオブジェクト

枠

設定方法

Form Builder

デフォルト

いいえ

必須/オプション

必須

「上 - 連結プロンプト使用可」プロパティ

Allow Top-Attached Prompts

説明

フォーム・スタイルの枠に項目を配置する際、枠内の領域の使用方法を最適化するかどうかを指定します。

デフォルトでは、このプロパティは「いいえ」に設定されていて、プロンプトは項目の開始枠に接続されています。「上 - 連結プロンプト使用可」プロパティを「はい」に設定すると、十分なスペースがあれば、項目の上枠にプロンプトを接続できるようになります。

適用されるオブジェクト

枠

設定方法

Form Builder

デフォルト

いいえ

必須/オプション

必須

「Application Instance」プロパティ

説明

Microsoft Windows プラットフォーム上でアプリケーションのインスタンスへの参照名を指定します。Windows以外のプラットフォームでは、常にNULL値が戻ります。

適用されるオブジェクト

フォームまたはブロック、項目

参照するビルトイン

■ GET_APPLICATION_PROPERTY

デフォルト

NULL

使用上の注意

インスタンス・ハンドルのポインタ値を取得するには、GET_APPLICATION_PROPERTYでAPPLICATION_INSTANCEプロパティを指定します。API「ウィンドウ」のコールにインスタンス・ハンドルを使用するときは、TO_PLS_INTEGERを使用して、このポインタ値を変換する必要があります。

「Application Instance」プロパティの制限事項

このプロパティは、Microsoft Windows上でのみ有効です（他のプラットフォームではNULLが戻ります）。

「矢印スタイル」プロパティ

Arrow Style

説明

線の矢印スタイルを「なし」、「始点」、「終点」、「両端」、「始点に対して中央」または「終点に対して中央」のいずれかに指定します。

適用されるオブジェクト

グラフィック（線）

設定方法

Form Builder

デフォルト

なし

必須/オプション

必須

「関連メニュー」プロパティ

Associated Menus

説明

モジュール内でパラメータが対応付けられているメニューの名前（複数も可）を指定します。パラメータが対応付けられたメニューにオペレータがナビゲートすると、「パラメータ値入力」ダイアログ・ボックスに値を入力するようにというメッセージが表示されます。

適用されるオブジェクト

メニュー・パラメータ

設定方法

Form Builder

必須/オプション

オプション

「関連メニュー」プロパティの制限事項

全画面メニューにのみ適用されます。

「オーディオ・チャンネル」プロパティ

Audio Channels

説明

データベースにサウンド項目を保存するときに使用するチャンネル数、つまり、「自動」、「モノ」、「ステレオ」のいずれかを指定します。

WRITE_SOUND_FILEビルトイン・サブプログラムを使用してサウンド・データをファイルシステムに書き込むときは、チャンネル・パラメータを使用してチャンネル数を設定します。

適用先

サウンド項目

設定方法

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

■ WRITE_SOUND_FILE

デフォルト

自動

必須/オプション

必須

「自動列幅」プロパティ

Automatic Column Width

説明

値リストの列幅を自動的に設定するかどうかを指定します。

■ このプロパティを「はい」に設定すると、各列の幅が次の設定値のうち大きい方の値に自動的に設定されます。

□ 「幅」プロパティに指定した幅。

□ 「列タイトル」プロパティで指定した通りに列のタイトルを表示するのに必要な幅。

■ 「自動列幅」プロパティを「いいえ」に設定すると、各列の幅は「表示幅」プロパティに指定した値に設定されます。

適用先

値リスト

設定方法

Form Builder

デフォルト

いいえ

「自動表示」プロパティ

Automatic Display

説明

値リストが付加されているテキスト項目内にオペレータまたはアプリケーションがナビゲートしたときに、自動的に値リストを表示するかどうかを指定します。

適用先

値リスト

設定方法

Form Builder

デフォルト

いいえ

「自動位置」プロパティ

Automatic Position

説明

値リストの位置を、値リストが起動されたフィールドの近くに自動的に設定するかどうかを指定します。

適用先

値リスト

設定方法

Form Builder

デフォルト

いいえ

「自動問合せ」プロパティ

Automatic Query

説明

「データ整合」を参照。

「自動最新表示」プロパティ

Automatic Refresh

説明

問合せを自動的に再実行して、問合せレコード・グループに基づく値リストに値を挿入するかどうかを指定します。デフォルトでは、値リストの起動時、つまり値リストが表示されるたび、または「はい」に設定された「リストで妥当性チェック」プロパティを持つテキスト項目の妥当性検査をForm Builderが行うたびに、Form Builderは問合せを実行して、値リストの基礎となるレコード・グループを挿入します。

- このプロパティを「はい」（デフォルト）に設定すると、値リストが起動されるたびにForm Builderによって問合せが実行されます。この動作は、値リストの基礎となるレコード・グループが最新のデータベース値を含むことを保証します。
- 「自動最新表示」プロパティを「いいえ」に設定すると、値リストの基礎となるレコード・グループに、この値リストまたはその他の値リストが起動されたために発生する問合せによって値が挿入されたというフラグがたてられていない場合のみ、Form Builderは問合せを実行します（なお、同じレコード・グループに基づいて複数の値リストを定義できます）。値リスト表示の結果として値リストの基礎となるレコード・グループがすでに挿入されていると、Form Builderは問合せを再実行しませんが、かわりに、レコード・グループに現在格納されているレコードを使用して値リストを表示します。

また、「自動最新表示」プロパティによって、問合せで取り出されたレコードが基礎となるレコード・グループに保存される時間の長さも指定できます。

- このプロパティを「はい」に設定すると、問合せによって戻されたレコードは、値リストが必要な間のみ基礎となるレコード・グループに保存されます。オペレータが値リストを画面から消す、あるいは妥当性チェックが終了すると、このレコードのキャッシュは破壊されます。
- 「自動最新表示」プロパティを「いいえ」に設定すると、初期問合せからのレコードは、削除されるか置き換えられるまで、値リストの基礎となるレコード・グループに格納されます。ただし、これらのレコードはプログラムによって操作できます。たとえば、POPULATE_GROUPビルトインをコールすることで、値リストの基礎となるレコード・グループ内のレコードを明示的に置き換えることができます。レコード・グループ・ビルトインを実行すれば、レコード・グループのセルの値を取得したり設定したりすることもできます。

適用先

値リスト

設定方法

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_LOV_PROPERTY
- SET_LOV_PROPERTY

デフォルト

はい

使用上の注意

- 同じレコード・グループに基づく値リストが複数存在する場合、通常はすべての値リストについて「自動最新表示」プロパティに同じ値を設定します。しかし、必ずしも同じ値を設定する必要はありません。値リストごとに異なる値を設定した場合、リフレッシュ動作は次のようになります。

値リスト1と値リスト2は同じレコード・グループを基準にしています。値リスト1の「自動最新表示」プロパティは「はい」に設定され、リスト2は「いいえ」に設定されます。値リスト1を起動すると、Form Builderは問合せを実行して、基礎となるレコード・グループを挿入します。オペレータが値リスト1を画面から消すと、レコード・キャッシュを破棄し、レコード・グループが削除されます。

続いて値リスト2を起動すると、「自動最新表示」を「いいえ」に設定していても、Form Builderは再び問合せを実行してレコード・グループを挿入します。値リスト1が取り消されたときに、値リスト2の基礎となるレコード・グループが消去されているため、Form Builderは値リストの起動が問合せを実行したとはみなさず、問合せが再実行されます。

一方、値リスト1と値リスト2の両方が「自動最新表示」を「いいえ」に設定していると、値リスト1を起動したときにForm Builderは問合せを実行しますが、値リスト2の問合せを再実行しません。初期の問合せが行を戻さない場合も同様です。

- 「自動最新表示」プロパティを「いいえ」に設定した場合は、POPULATE_GROUPビルトインを使用すれば最初の問合せで戻された行をプログラムによって置換できます。この置換操作は、Form Builderで問合せを再実行するかどうか判断されるときは、無視されます（Form Builderでは、問合せが発生したかどうかを示す内部フラグのみがチェックされ、その問合せで実際に戻された行はチェックされません）。

「自動最新表示」プロパティの制限事項

問合せレコード・グループに基づく値リストにのみ有効です。静的レコード・グループや問合せなしレコード・グループに基づく値リストには設定できません。

「自動選択」プロパティ

Automatic Select

説明

値リストが起動され、ユーザーが自動縮小機能および検索機能を使用した結果、リストの選択肢が1つになった場合の動作を指定します。

- 「自動選択」プロパティを「はい」に設定すると、値リストが自動的に画面から消え、1行分の列の値が対応する戻り項目に割り当てられます。
- 「自動選択」プロパティを「いいえ」に設定すると、値リストは表示されたままになり、その値を選択するか、あるいは値リストを画面から消すかをオペレータが明示的に選択できます。

適用先

値リスト

設定方法

Form Builder

デフォルト

いいえ

「自動スキップ」（項目）プロパティ

Automatic Skip (Item)

説明

現在の項目の最後の文字にデータが追加された、または最後の文字でデータが変更されたときに、カーソルを次のナビゲート可能項目に移動するかどうかを指定します。最後の文字は、「最大長」プロパティで定義します。

適用されるオブジェクト

テキスト項目

設定方法

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY

■ SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

いいえ

使用上の注意

「自動スキップ」プロパティを「固定長」プロパティと組み合わせて設定すれば、オペレータが要求された最後の文字を入力したときに、次に適用可能なテキスト項目にカーソルを移動できます。

「自動スキップ」（項目）プロパティの制限事項

- 1行のテキスト項目にのみ有効です。
- このプロパティによってカーソルが移動される場合は、KEY-NEXT-ITEMトリガーは起動されません。したがって、この動作は、オペレータが「次の項目へ」オペレーションを実行していないという事実と矛盾しません。

「自動スキップ」（値リスト）プロパティ

Automatic Skip (LOV)

説明

オペレータが値リストから任意のテキスト項目を選択したときに、カーソルを次のナビゲート可能項目に移動するかどうかを指定します。このプロパティを「いいえ」に設定すると、オペレータが値リストから任意の項目を選択しても、フォーカスはそのテキスト項目上に留まります。

適用先

値リスト

設定方法

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

■ SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

いいえ

「自動スキップ」(値リスト)プロパティの制限事項

- このプロパティによってカーソルが移動される場合は、KEY-NEXT-ITEMトリガーは起動されません。したがって、この動作は、オペレータが「次の項目へ」オペレーションを実行していないという事実と矛盾しません。

「Background_Color」プロパティ

説明

オブジェクトのバックグラウンド領域のカラーを指定します。

適用されるオブジェクト

項目、タブ・ページ、キャンバス、ウィンドウ、ラジオ・ボタン

設定方法

プログラム

デフォルト

指定なし

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY
- GET_RADIO_BUTTON_PROPERTY
- SET_RADIO_BUTTON_PROPERTY
- GET_TAB_PAGE_PROPERTY
- SET_TAB_PAGE_PROPERTY
- GET_CANVAS_PROPERTY
- SET_CANVAS_PROPERTY
- GET_WINDOW_PROPERTY
- SET_WINDOW_PROPERTY

「凹凸」プロパティ

Bevel

説明

オブジェクトの枠の外観、つまり「凸」、「凹」、「凸枠」、「凹枠」、「標準」または「なし」のいずれかを指定します。項目のインスタンス・レベルでは、このプロパティが指定されていない場合も、プログラムでこの設定が可能です。つまり、SET_ITEM_INSTANCE_PROPERTYビルトインを使用して、項目のインスタンス・レベルでこのプロパティをプログラムから指定する場合、枠の凹凸は設計時に指定された項目レベルの値によって決定されるか、あるいはSET_ITEM_PROPERTYビルトインによって実行時に決定されます。

適用されるオブジェクト

チャート項目、イメージ項目、カスタム項目、スタック・キャンパス、テキスト項目（Microsoft Windowsのみ）

設定方法

Form Builder、プログラムによる [BORDER_BEVEL]

参照するビルトイン

- GET_ITEM_INSTANCE_PROPERTY
- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_INSTANCE_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

凹

使用上の注意

- スクロールするウィンドウを作成する場合は、「凹凸」プロパティを「凸」または「凹」に設定することをお勧めします。

「凹凸」プロパティの制限事項

- 凹凸表示がサポートされていないウィンドウ・マネージャ上では、「凸」、「凹」または「なし」のうちどれを指定しても結果は同じです。したがって、項目に枠を付けるかどうかのみを指定します。
- Form Builderで項目の「凹凸」プロパティが「なし」に設定されている場合、BORDER_BEVELをプログラムから設定することはできません。

- プログラムからBORDER_BEVELを「なし」に設定することはできません。

「ブロック記述」プロパティ

Block Description

説明

「データ・ブロック・メニューにリスト済み」プロパティと「データ・ブロックの記述」プロパティの説明を参照してください。

「下タイトル」（エディタ）プロパティ

Bottom Title (Editor)

説明

エディタ・ウィンドウの下部に表示するタイトル（最大72文字）を指定します。

適用されるオブジェクト

エディタ

設定方法

Form Builder

必須/オプション

オプション

「境界ボックスはスケーリング可能」プロパティ

Bounding Box Scalable

説明

テキスト・オブジェクトのサイズが変更されたときに、テキスト・オブジェクトの枠ボックスのサイズを同時に変更するかどうかを指定します。

適用されるオブジェクト

図形テキスト

設定方法

Form Builder

デフォルト

はい

必須/オプション

必須

「Builtin_Date_Format」プロパティ

説明

日付の値と、エンド・ユーザーからは潜在的に見えない文字列との間の変換に使用される書式マスクを決定します。この書式マスクは、ビルトイン・サブプログラムの実行時に最も一般的に使用されます。

適用されるオブジェクト

アプリケーション（グローバル値）

設定方法

プログラム

参照するビルトイン

- GET_APPLICATION_PROPERTY
- SET_APPLICATION_PROPERTY

必須/オプション

オプション。ただし、新規アプリケーションに関しては、完全な世紀情報および時間情報を含む書式マスクをこのプロパティに設定しておくことを強くお勧めします。また、この書式マスクは、「PLSQL_DATE_FORMAT」プロパティで指定されているものと同一にするようお勧めします。

デフォルト

すでに述べたように、新規アプリケーションに対してはこの値を明示的に設定することを強くお勧めします。設定しない場合、デフォルトの値は状況に応じて異なります。

フォームは、まず、項目がDATE2、DATE4またはDATETIMEの各オブジェクトであるかどうかを判断し、次に、その判断に従って一連の書式マスクが試行されます（これらのデフォルト・マスクは、前のリリースとの互換性を保つために使用されます）。

オブジェクト型は次の表の基準に従って決定されます。

データ・オブジェクト	Type
DATETIME型の項目	DATETIME

DATE型の項目: ・yyy、YYYY、rrrrまたはRRRRを含む書式マスクが組み込まれているもの ・yyy、YYYY、rrrrまたはRRRRを含まない書式マスクを持つもの ・書式マスクを持たず、長さ（最大長）が10以上のもの ・書式マスクを持たず、長さが9以下のもの	DATE4 DATE2 DATE4 DATE2
（PARAMETER.myparamに含まれるような）DATE型のパラメータ（DATETIMEパラメータは存在しないことと、パラメータの「最大長」プロパティはCHARパラメータのみに適用されることに注意）	DATE2
DATE型の値リスト列（DATETIME型の値リスト列は存在しないことに注意）	DATE2
システム変数CURRENT_DATETIMEおよびEFFECTIVE_DATEの内部値	DATETIME

変換される項目のオブジェクト型を決定した後、Formsは次のいずれかのマスクを使用します。マスクの集合は2種類存在します。一方はYY操作に設定され、もう一方はRR操作に設定されます。

日付から文字列への操作に関しては、最初の（プライマリの）書式マスクが使用されます。文字列から日付への操作に関しては、Form Builderはまず最初の（プライマリの）書式マスクの設定を試みます。その変換が成功しなかった場合、もう一方の（セカンダリの）マスク設定を、下記に示した順序で試みます。

YY操作に対して使用される書式マスクは次表のとおりです。

オブジェクト型	使用される書式マスク
DATE2	YY-MM-DD DD-MM-SYYYY HH24:MI:SS
DATE4	DD-MON-SYYYY DD-MM-SYYYY HH24:MI:SS
DATETIME	DD-MON-SYYYY HH24:MI:SS DD-MON-SYYYY HH24:MI DD-MM-SYYYY HH24:MI:SS

RR操作に対して使用される書式マスクは次のとおりです。

オブジェクト型	使用される書式マスク
DATE2	DD-MON-RR DD-MM-SYYYY HH24:MI:SS
DATE4	DD-MON-RRRR DD-MM-SYYYY HH24:MI:SS
DATETIME	DD-MON-RRRR HH24:MI:SS DD-MON-RRRR HH24:MI DD-MM-SYYYY HH24:MI:SS

「ボタン1のラベル」、「ボタン2のラベル」、 「ボタン3のラベル」プロパティ

Button 1 Label, Button 2 Label, Button 3 Label

説明

使用可能な3つの警告ボタンのテキスト・ラベルを指定します。

適用されるオブジェクト

警告

設定方法

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

■ SET_ALERT_BUTTON_PROPERTY

必須/オプション

3つのボタンのうち、最低どれか1つにラベルを指定する必要があります。

デフォルト

「ボタン1のラベル」:「OK」、「ボタン2 のラベル」:「取消し」、「ボタン3 のラベル」:(なし)

「計算モード」プロパティ

Calculation Mode

説明

計算項目の値を計算する方法を指定します。有効な値は次のとおりです。

なし	デフォルト。項目が計算項目でないことを表します。
式	ユーザーが記述した式の結果として、項目の値が計算されることを表します。項目の式のために、単一のPL/SQL式を入力する必要があります。値を計算する式でも、Form Builderやユーザーが記述したサブプログラムをコールする式でも構いません。
サマリー	単一のフォーム項目の集計操作の結果として、項目の値が計算されることを表します。サマリー・タイプとサマリーを行う項目を指定します。

適用されるオブジェクト

項目

設定方法

Form Builder

必須/オプション

オプション

デフォルト

なし

「Calling_Form」プロパティ

説明

コール側フォームの名前、つまり、コール側のフォーム・モジュールの「名前」プロパティの値を指定します。

適用されるオブジェクト

アプリケーション

設定方法

設定できません。

参照するビルトイン

■ GET_APPLICATION_PROPERTY

デフォルト

NULL

使用上の注意

コール先フォーム、つまり、CALL_FORMビルトイン・プロシージャを実行した時にコール側フォームから起動されたフォーム内でのみ有効です。

「キャンバス」プロパティ

Canvas

説明

項目を表示するキャンバスを指定します。

適用されるオブジェクト

項目

設定方法

Form Builder

デフォルト

項目の現キャンバス割り当て。

必須/オプション

オプション

使用上の注意

- 項目は特定のキャンバスに割り当てられています。言い換えれば、項目は特定のウィンドウに割り当てられています。
- 「キャンバス」プロパティを空白にすると、その項目がNULLキャンバス項目、つまり、どのキャンバスにも割り当てられていない項目になり、Form Builderでも実行時でも表示できなくなります。
- Form Builderでキャンバス名を変更すると、そのキャンバスに割り当てられているすべての項目の「キャンバス」プロパティがForm Builderによって自動的に更新されます。

「キャンバス」プロパティの制限事項

フォーム上に既に存在するキャンバスを指定する必要があります。

「キャンバス・タイプ」プロパティ

Canvas Type

説明

キャンバスのタイプ、つまり、「コンテンツ」、「スタック」、「垂直ツール・バー」、「水平ツール・バー」「タブ」のいずれかを指定します。キャンバス・タイプによって、割り当てられているウィンドウにキャンバスがどのように表示されるか、そのキャンバスでどのプロパティが意味を持つのかが決まります。

コンテンツ	デフォルト。割り当てられているウィンドウのコンテンツ領域全体にキャンバスが表示されます。キャンバスのほとんどがコンテンツ・キャンバスです。
-------	---

スタック	ウィンドウのコンテンツ・キャンバスと同時に、キャンバスをウィンドウに表示することを指定します。通常、スタックされたビューはプログラムを使用して表示し、同じウィンドウ内に表示されるコンテンツ・ビューの一部を覆う形で表示されます。
水平ツール・バー	ウィンドウのメニュー・バーの下に水平ツールバーとしてキャンバスが表示されます。必要に応じて、このツールバー上にアイコン・ボタンやポップ・リストなど、他の項目を定義できます。
垂直ツール・バー	割り当てられているウィンドウの左側に垂直ツールバーとしてキャンバスが表示されます。

適用されるオブジェクト

キャンバス

設定方法

Form Builder

デフォルト

コンテンツ

使用上の注意

プロパティ・パレットで、「ビューポート」というラベルの下にプロパティ・リストを表示できるのは、「キャンバス・タイプ」プロパティを「スタック」に設定したキャンバスのみです。

「端形式」プロパティ

Cap Style

説明

描画オブジェクトの枠の端形式を「切捨て」、「丸め」または「投影」のいずれかに指定します。

適用されるオブジェクト

物理図形

設定方法

Form Builder

デフォルト

丸め

必須/オプション

必須

「小/大文字区別なしの問合せ」プロパティ

Case Insensitive Query

説明

テキスト項目上で大文字と小文字を区別しない問合せをオペレータに許可するかどうかを指定します。

適用されるオブジェクト

テキスト項目

設定方法

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

いいえ

使用上の注意

大文字と小文字を区別しない問合せは、索引を活用できるように最適化されます。たとえば、次のような場合を考えてみます。

- EMP表上で索引を作成します。
- ENAME上で「小/大文字区別なしの問合せ」プロパティを「はい」に設定します。
- 「問合せ入力」モードでは、名前'BLAKE'を:ENAMEに入力します。
- 問合せを実行します。

Form Builderによって、次のような文が組み立てられます。

```
SELECT * FROM EMP WHERE UPPER(ENAME) = 'BLAKE' AND  
  (ENAME LIKE 'Bl%' OR ENAME LIKE 'bL%' OR  
   ENAME LIKE 'BL%' OR ENAME LIKE 'bl%');
```

索引を使用して、WHERE句の最後の部分が最初に実行されます。blで始まる入力をデータベースが検索すると、文のUPPER(ENAME)='BLAKE'部分をチェックし、完全に一致させます。

「小/大文字区別なしの問合せ」プロパティの制限事項

このプロパティを「はい」に設定すると、問合せの実行時間が長くなる場合があります。

「小/大文字区別」プロパティ

Case Restriction

説明

テキスト項目またはメニュー置換パラメータに入力されたテキストを大文字または小文字に変換するかどうかを指定します。このプロパティに指定できる値は次のとおりです。

Value	結果
複合	入力したとおりにテキストが表示されます。
大文字	小文字のテキストを入力すると大文字に変換されます。
小文字	大文字のテキストを入力すると小文字に変換されます。

適用されるオブジェクト

テキスト項目、メニュー置換パラメータ

設定方法

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY

「小/大文字区別」プロパティの制限事項

- トリガーによってテキスト項目に割り当てられた値には影響しません。
- 「小/大文字区別」プロパティはユーザー・インタフェースによって強制された入出力書式マスクとして機能するため、オペレータが入力したか、プログラムによって割り当てられたかを問わず、すべての文字列がこのプロパティにしたがって表示されます。

プログラムを使用して「小/大文字区別」プロパティの設定と矛盾する値を文字列に割り当てても、文字列は「小/大文字区別」プロパティの現在の設定にしたがって表示されるため、画面上のテキスト項目には一切影響しません。したがって、「小/大文字区別」プロパティの設定と矛盾するデータが問合せ結果として項目に挿入されたり、プログラムによってこのようなデータが項目に割り当てられたりすると、そのテキスト項目の内部値と実際に画面に表示される値が異なる可能性があります。たとえば、「小/大文字区別」プロパティが「大文字」に設定されており、データ・ソースから検索されたデータが小文字と大文字の混合データの場合、フォームにはそれらのデータが大文字で表示されますが、データの実際の値は小文字と大文字が混ざったままです。しかし、そのフィールドのデータが後から修正され、変更がコミットされると、データの値は大文字に変化します。

「文字セル幅/高さ」プロパティ

Character Cell WD/HT

説明

「座標システム」プロパティが「文字」ではなく「実際単位」に設定されている場合に文字セルの幅と高さを指定します。幅と高さは、「実際単位」プロパティに設定された現行の実際単位（センチメートル、インチまたはポイント）で指定します。

適用されるオブジェクト

フォーム・モジュール

設定方法

Form Builder

必須/オプション

オプション

使用上の注意

文字セルのサイズは、「座標システム」ダイアログではピクセル単位で指定されますが、レイアウト・エディタではポイント単位で表示されます。

「チャート・タイプ」プロパティ

Chart Type

説明

基本となるチャート・タイプを指定します。使用可能なチャート・タイプは、「縦棒グラフ（Column）」、「円グラフ（Pie）」、「横棒グラフ（Bar）」、「表（Table）」、「折れ線グラフ（Line）」、「散布図（Scatter）」、「複合グラフ（Mixed）」、「株価チャート（High-low）」、「ダブル-Y軸グラフ（Double-Y）」および「ガント・チャート（Gantt）」です。

適用されるオブジェクト

チャート項目

設定方法

Form Builder

デフォルト

Column

「チャート・サブタイプ」プロパティ

Chart Subtype

説明

チャート・タイプのバリエーションを指定します。各バリエーションは指定済みのチャート・タイプに基づいており、外観を変えるために設定されるさまざまなプロパティを持ちます。

適用されるオブジェクト

チャート項目

設定方法

Form Builder

デフォルト

Plain

「ほかの値のチェックボックス・マッピング」プロパティ

Check Box Mapping of Other Values

説明

事前に定義された「チェックあり」または「チェックなし」の値ではない値が取り出された、または割り当てられた場合、その値を、どのように解釈するかを指定します。

適用されるオブジェクト

チェックボックス

設定方法

Form Builder

デフォルト

不可

使用上の注意

このプロパティに設定できる値は次のとおりです。

設定	説明
----	----

許可なし	ユーザーが定義したチェックありの値およびチェックなしの値以外の値を含む問合せ対象レコードは拒否されます。エラーは発生しません。その他の値を割り当てることはできません。
チェックあり	ユーザーが定義したチェックなしの値以外の値はすべてチェックありの状態にあると解釈されます。
チェックなし	ユーザーが定義したチェックありの値以外の値はすべてチェックなしの状態にあると解釈されます。

「Checked」プロパティ

説明

チェックボックスまたはラジオ形式のメニュー項目の状態、つまり、「CHECKED」または「UNCHECKED」を指定します。

適用されるオブジェクト

メニュー項目

設定方法

プログラム

参照するビルトイン

- GET_MENU_ITEM_PROPERTY
- SET_MENU_ITEM_PROPERTY

デフォルト

NULL

必須/オプション

オプション

「Checked」プロパティの制限事項

「メニュー項目タイプ」プロパティが「チェック」または「ラジオ」に設定されているメニュー項目のみに有効です。

「クリップ高さ」プロパティ

Clip Height

説明

クリップされる（切り取られる）イメージの高さをレイアウト単位で指定します。元のイメージの高さよりも小さい値を指定すると、イメージは下からクリップされます。

適用されるオブジェクト

図形（イメージ）

設定方法

Form Builder

デフォルト

元のイメージの高さ

必須/オプション

必須

「クリップ幅」プロパティ

Clip Width

説明

クリップされる（切り取られる）イメージの幅をレイアウト単位で指定します。元のイメージの幅よりも小さい値を指定すると、イメージは右からクリップされます。

適用されるオブジェクト

図形（イメージ）

設定方法

Form Builder

デフォルト

元のイメージの幅

必須/オプション

必須

「クリップのX位置」プロパティ

Clip X Position

説明

イメージの左側を切り取る量を（レイアウト単位で）指定します。

適用されるオブジェクト

図形（イメージ）

設定方法

Form Builder

デフォルト

0

必須/オプション

必須

「クリップのY位置」プロパティ

Clip Y Position

説明

イメージの上側を切り取る量を（レイアウト単位で）指定します。

適用されるオブジェクト

図形（イメージ）

設定方法

Form Builder

デフォルト

0

必須/オプション

必須

「クローズ可能」プロパティ

Close Allowed

説明

そのウィンドウでウィンドウ・マネージャ固有の「クローズ」コマンドを使用可能にするかどうかを指定します。GUIウィンドウ・マネージャでは、ウィンドウのシステム・メニュー上で、またはウィンドウの左上角のクローズ・ボックスをダブルクリックすることで、「クローズ」コマンドを使用できます。

適用されるオブジェクト

ウィンドウ

設定方法

Form Builder

デフォルト

はい

使用上の注意

- 「クローズ可能」プロパティを「はい」に設定すると、「クローズ」コマンドが使用可能に設定され、オペレータが「クローズ」コマンドを発行すると「Close Window」イベントがForm Builderに送信されます。ただし、このイベントに応答してウィンドウを実際に閉じるには、明示的にウィンドウを閉じるWhen-Window-Closedトリガーを記述する必要があります。また、プログラムを使用してHIDE_WINDOW、SET_WINDOW_PROPERTYまたはEXIT_FORMをコールすることにより、プログラムからウィンドウを閉じることもできます。
- Microsoft Windows上では、オペレータがMDI親ウィンドウを閉じると、Form BuilderによりデフォルトでDO_KEY ('Exit_Form') が実行されます。

「クローズ可能」プロパティの制限事項

ルート・ウィンドウには設定できません。ルート・ウィンドウでは、常に「クローズ」コマンドが使用可能に設定されます。

「クローズ」プロパティ

Closed

説明

円弧が閉じているかどうかを指定します。

適用先

図形（円弧）

設定方法

Form Builder

デフォルト

はい

必須/オプション

必須

「列マッピング・プロパティ」プロパティ

Column Mapping Properties

説明

「列マッピング・プロパティ」プロパティ・グループには、「列名」「列タイトル」、「画面幅」および「戻り項目」があります。

適用先

値リスト

設定方法

Form Builder

列名

値リストの列の名前を指定します。

必須/オプション

列名は最低1つ指定する必要があります。

デフォルト

基礎となるレコード・グループの列名。

使用上の注意

列名はオブジェクトの命名規格を満足している必要があります。

列タイトル

「列名」リストで現在選択されている列の上に表示するタイトルを指定します。

表示幅

「列名」リストで現在選択されている列幅を指定します。

必須/オプション

オプション

使用上の注意

- 「表示幅」プロパティには、Form Builderで「値リスト」ウィンドウのその列に対して確保する幅を、適切な単位（ポイント、ピクセル、センチメートル、インチまたは文字数。フォームの「座標システム」プロパティで指定）で設定します。「表示幅」が列値の幅より小さいと、列値の切捨てが発生する可能性があります。この状況を回避するには、その列の「表示幅」の値を大きくします。
- 列を非表示にするには、「表示幅」を「0」に設定してください（表示列と同じように、非表示列にも戻り項目を指定できます）。
- 「値リスト」ウィンドウで列間の余白を増やすには、「表示幅」の値をその列のデフォルト幅よりも大きくします。ただし、このルールの例外として、NUMBER列の画面幅を大きくしても、NUMBER列と非NUMBER列との間の幅を大きくできないことに注意してください。これは、値リストには右揃えの数値が表示されるためです。たとえば、値リストに3つの列があり、第1列と第3列がCHAR型で、第2列がNUMBER型であるとして、各列間の幅を広げるには、第1列および第3列の「表示幅」の値を大きくします。

戻り項目

オペレータが値リスト・レコードを選択するたびに、Form Builderが列の値を割り当てる必要のあるフォーム項目または変数の名前を指定します。

デフォルト

NULL

必須/オプション

オプション

使用上の注意

「戻り項目」に指定できるオブジェクトは次のとおりです。

- フォーム項目（block_name.item_name）
- フォーム・パラメータ（PARAMETER.my_parameter）
- グローバル・パラメータ（GLOBAL.my_global）

オブジェクト名の前にコロンを付けしないでください。

「列名」プロパティ

Column Name

説明

データ・ブロックと関連付けられた表中の列に、項目が対応していることを示します。

適用されるオブジェクト

ボタン、グラフまたはActiveXコントロール（32ビットWindows）を除くすべての項目

設定方法

Form Builder

参照するビルトイン

■ GET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

はい

必須/オプション

オプション

使用上の注意

選択されている項目が表内の列オブジェクトまたはREF列の項目である場合、Form Builderではドット表記を使用して、その項目の複合名`ObjectColumnName.AttributeName`を作成します。

たとえば、dept_typeがdnum、dnameおよびdlocの各属性を持つオブジェクト型であり、dept_typeに基づいた列オブジェクトdeptがあると仮定します。ここでdnameを選択してデータ・ブロック内の項目とした場合、その列名プロパティの値はdept.dnameになります。

「列仕様」プロパティ

Column Specifications

説明

「列仕様」プロパティ・グループには、「列名」、「列値」、「データ型」および「長さ」があります。

適用先

レコード・グループ

設定方法

Form Builder

列名

レコード・グループの列名を指定します。

必須/オプション

列名は最低1つ指定する必要があります。

デフォルト

基礎となるレコード・グループの列名。

使用上の注意

列名はオブジェクトの命名規格を満足している必要があります。レコード・グループ内の列数は最大255です。

列値

静的レコード・グループに対して、「列名」リストで現在選択されている列の行値を指定します。

デフォルト

NULL

データ型

レコード・グループの列のデータ型を指定します。

デフォルト

問合せレコード・グループを定義する場合以外はCHAR。問合せレコード・グループについては、各列のデータ型のデフォルト設定は対応するデータベースの列のデータ型です。

制限事項

レコード・グループの列のデータ型として指定できるのは、CHAR、NUMBER、およびDATEの3つのみです。

長さ

「列名」リストで現在選択されているレコード・グループ列の長さを文字数で指定します。

デフォルト

問合せレコード・グループでは、データベースの列に指定された幅がデフォルト値になります。静的レコード・グループでは、デフォルト値は30です。

必須/オプション

必須

「列仕様」プロパティの制限事項

- 初期化されていない変数やこのプロパティが設定された項目は参照できません。これは、このようなアクションによって、設計時にForm Builderでは妥当性をチェックできない順方向参照が作成されるためです。
- 値のデータ型は、「列名」プロパティで指定された関連する列のデータ型に対応している必要があります。

「列タイトル」（値リスト）プロパティ

Column Title (LOV)

説明

「列マッピング・プロパティ」を参照してください。

「列値」（レコード・グループ）プロパティ

Column Value (Record Group)

説明

「列仕様」を参照してください。

「コマンド・テキスト」プロパティ

Command Text

説明

現行のメニュー項目に対してメニュー項目コマンド・テキストを指定します。有効な値は、そのメニュー項目の「コマンド・タイプ」プロパティの現行の設定により異なります。たとえば、コマンド・タイプが「メニュー」であれば、有効なコマンド・テキストはそのメニュー・モジュール

ルに含まれるサブメニューの名前です。また、コマンド・タイプが「PL/SQL」であれば、有効なコマンド・テキストは任意の有効なPL/SQL文です。

適用されるオブジェクト

メニュー項目

設定方法

Form Builder

必須/オプション

NULL以外のすべてのコマンド・タイプで必須です。

「コマンド・テキスト」プロパティの制限事項

指定できる値の長さは最大240文字です。

「コマンド・タイプ」プロパティ

Command Type

説明

メニュー項目のコマンド・タイプを指定します。このプロパティによって、Form Builderで「メニュー項目コード」プロパティに入力したテキストがどのように解釈されるかが決まります。

適用されるオブジェクト

メニュー項目

設定方法

Form Builder

デフォルト

NULL

必須/オプション

必須

コマンド・タイプ	説明
NULL	コマンドを発行しないメニュー項目を表します。メニュー項目タイプがセパレータの場合は、必ずNULLコマンド・タイプを指定します。他のタイプのメニュー項目では、必要に応じてNULLタイプを指定します。
メニュー	サブメニューを起動します。有効コマンド・テキストは、起動されるサブメニューの名前です。

PL/SQL	デフォルトのコマンド・タイプ。PL/SQLコマンドを実行するメニュー項目を表します。有効なコマンド・テキストはをPL/SQL文で、これにはビルトインへのコールやユーザー命名のサブプログラムなどが含まれます。 注意: メニュー・モジュールのPL/SQLは、フォーム・モジュール内の項目、変数およびパラメータの値を直接参照できません。このような値を間接的に参照する場合は、NAME_INビルトインおよびCOPYビルトインを使用してください。
Plus*	指定しないでください。SQL*Plusを起動するには、PL/SQLコマンド・タイプを使用し、HOSTビルトインを実行します (Windowsプラットフォームでは、実行可能ファイル名としてplus80.exeと指定します)。
現在のフォーム*	指定しないでください。Form Builderを起動するには、PL/SQLコマンド・タイプを使用し、HOSTビルトインまたはRUN_PRODUCTビルトインを実行して、Form Builderの有効なログイン・プログラムを起動します。
マクロ*	指定しないでください。SQL*Menu マクロを実行します。
* このコマンド・タイプは、旧バージョンとの互換性を確保するために用意されています。したがって、新規アプリケーションを開発する場合は、このコマンド・タイプを使用しないでください。	

「コメント」プロパティ

Comments

説明

このプロパティには、作成するすべてのForm Builderオブジェクトに関する全般的な情報を指定します。コメントを使用して、自分自身、またはアプリケーションの開発、保守、デバッグを担当する他の設計者にとって有用な情報を記録します。

適用されるオブジェクト

すべてのオブジェクト

設定方法

Form Builder

必須/オプション

オプション

「通信モード」(チャート)プロパティ

Communication Mode (Chart)

説明

Form BuilderからGraphics Builderをコールしてチャートを作成するときに使用する通信モードを、「同期」または「非同期」のどちらかに指定します。「同期」を指定すると、コール先アプリケー

ションが終了するまでの間、コール側アプリケーションには制御が戻されません。また、コール先アプリケーションが動作している間、エンド・ユーザーはフォーム内での作業を行うことができません。「非同期」は、コールされるアプリケーションがその表示を完了していない場合でも、コール側アプリケーションに直ちに制御が戻るように指定します。

チャート項目の更新時など、コール先アプリケーションからデータが返されるときには、通信モードは「同期」にする必要があります。

適用されるオブジェクト

チャート項目

設定方法

Form Builder

デフォルト

同期

必須/オプション

必須

「通信モード」(レポート)プロパティ

Communication Mode (Report)

説明

レポートとフォームを統合する際の、フォームとレポートとの間の通信モードを「同期」または「非同期」のどちらかに指定します。「同期」を指定すると、コール先アプリケーションが終了するまでの間、コール側アプリケーションには制御が戻されません。また、コール先アプリケーションが動作している間、エンド・ユーザーはフォーム内での作業を行うことができません。「非同期」は、コールされるアプリケーションがその表示を完了していない場合でも、コール側アプリケーションに直ちに制御が戻るように指定します。

コール先アプリケーションからデータが返されるときには、通信モードは「同期」にする必要があります。

適用先

レポート

設定方法

Form Builder

デフォルト

同期

必須/オプション

必須

「圧縮」プロパティ

Compress

説明

ファイルからフォームに読み込むサウンド・オブジェクトをOracleの内部形式に変換するときに圧縮するかどうかを指定します。

適用先

サウンド項目

設定方法

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

■ WRITE_SOUND_FILE

デフォルト

自動（サウンド・データに圧縮方式が設定されていれば、その方式を使用します）

「圧縮品質」プロパティ

Compression Quality

説明

イメージ・オブジェクトをファイルからフォームに読み込むとき、あるいはフォームからファイルに書き込むときに、（WRITE_IMAGE_FILEビルトインを実行して）圧縮するかどうかを指定します。圧縮する場合は、圧縮率も指定します。有効な値は次のとおりです。

- なし
- 最小
- 低
- 標準
- 高

■ 最大

適用先

イメージ項目

設定方法

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

■ GET_ITEM_PROPERTY

■ SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

なし

「データ隠蔽」プロパティ

Conceal Data

説明

オペレータがテキスト項目に入力した文字を隠す(画面に表示しない)かどうかを指定します。通常、パスワードが他人に知られないように保護する場合に、このプロパティを「はい」に設定します。

このプロパティの設定値と効果は次のとおりです。

はい	「はい」に設定すると、オペレータが入力したデータは画面にエコーされません。
いいえ	「いいえ」に設定すると、オペレータが入力したデータが画面にエコーされます。

適用されるオブジェクト

テキスト項目

設定方法

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

■ GET_ITEM_PROPERTY

■ SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

いいえ

「データ隠蔽」プロパティの制限事項

単一行のテキスト項目にのみ有効です。

「接続文字列」プロパティ

Connect_String

説明

「接続文字列」プロパティは、フォーム・オペレータのNet8接続文字列を指定します。

現在のオペレータがNet8接続文字列を使用していない場合は、Form BuilderによってNULLが戻ります。

適用されるオブジェクト

アプリケーション

参照するビルトイン

■ GET_APPLICATION_PROPERTY

「コンソール・ウィンドウ」プロパティ

Console Window

説明

Form Builderのコンソールを表示するウィンドウ名を指定します。コンソールはこのウィンドウの下部に表示されます。またコンソールには、ステータス行とメッセージ行が表示されます。

Microsoft Windows上では、コンソールは、フォーム内の特定のウィンドウではなく、常にMDIアプリケーション・ウィンドウに表示されますが、コンソールの表示を指示するため、このプロパティにはフォーム・ウィンドウの名前を指定する必要があります。

フォームにコンソールを表示させない場合、このプロパティを<Null>に設定します。

適用されるオブジェクト

フォーム

設定方法

Form Builder

デフォルト

WINDOW1

必須/オプション

オプション

「コントロール・ヘルプ」プロパティ

Control Help

説明

レイアウト・エディタにおけるActiveX（OCX）コントロールのプロパティです。現在のOCXコントロールについてのヘルプ・ドキュメントへのリンクを提供します。

適用されるオブジェクト

ActiveXコントロール

設定方法

Form Builder

必須/オプション

オプション

「コントロール・プロパティ」プロパティ

Control Properties

説明

現在選択しているOLEまたはActiveXコントロール固有のプロパティ・シートをアクティブにします。プロパティ・シートを表示するため、コントロールは「レイアウト・エディタ」で参照できるようにしてください。

適用対象

OLE/ActiveXコントロール

設定方法

Form Builder

「座標システム」プロパティ

Coordinate System

説明

オブジェクトのサイズと位置の値を文字セルの値として解釈するのか、実際単位（センチメートル、インチ、ピクセルまたはポイント）として解釈するのかを指定します。このプロパティに設定できる値は次のとおりです。

文字	座標系の単位を文字セルに設定。オブジェクトのサイズと位置は、使用しているプラットフォームのデフォルトの文字のサイズにより異なります。
実際単位	座標系の単位を「実際単位」プロパティに指定された単位、つまり、センチメートル、インチ、ピクセル、ポイントまたはデシポイントに設定。

フォームの「座標システム」プロパティの値を変更すると、Form Editor上の定規の単位は変わりますが、格子間隔および格子単位の値は変わりません。

適用されるオブジェクト

フォーム

設定方法

Form Builder

デフォルト

ポイント

使用上の注意

このプロパティで指定した座標系は、設計時にも実行時にも適用されます。たとえば、SET_WINDOW_PROPERTYを使用してウィンドウを移動すると、このビルトインに渡した位置座標は現行のフォームの座標単位で解釈されます。

また、座標系を別の座標系に変換すると、設計時に指定したオブジェクトのサイズと位置の値がForm Builderによって自動的に変換されます。ただし、変換後の単位が変換前より粗いと、精度が落ちる場合があります。

移植性を考えれば、このプロパティを「文字」に設定するとプラットフォーム間で最大の移植性が得られますが、格子間隔が粗くなりレイアウトを細かく調整できなくなります。アプリケーションをキャラクタ・モードとGUIモードの両方で稼働させる場合は、どちらのインタフェース・スタイルを最適化するかによりこのプロパティの値を選択します。

GUI向けに最適化する場合は、「実際単位」を指定すればプロポーショナル・フォントを自由に使用できますが、キャラクタ・モード側でフィールドのオーバーラップが生じないように微調整する必要があります。

キャラクタ・モード向けに最適化する場合は、「文字」を指定します。「文字」を指定すると、GUI上で使用できるプロポーショナル・フォントが制限されますが、文字セルの枠を正確に揃えることができます。

アプリケーション・タイプ	「座標システム」プロパティの設定値
GUIのみ	実際単位（インチ、センチメートル、ポイント、デシポイント）
キャラクタ・モードのみ	文字
キャラクタモードとGUIの混在： GUIに最適な設定 キャラクタ・モードに最適な設定	実際単位 文字

「データ整合」プロパティ

Coordination

説明

ブロックのデータ整合の挿入フェーズをいつ、どのように発生させるかを指定します。このプロパティの値は、「延期」プロパティと「自動問合せ」プロパティを使用して指定します。設計時に「延期」プロパティと「自動問合せ」プロパティを設定すると、Form Builderによってブロックをデータ整合するための、適切なマスター/ディテール・トリガーが作成または変更されます。

適用先

リレーション

設定方法

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_RELATION_PROPERTY
- SET_RELATION_PROPERTY

デフォルト

即時データ整合（「延期」=「いいえ」、「自動問合せ」=「いいえ」）

使用上の注意

実行時にマスター・ブロック内の現レコードが変わった（データ整合の原因となるイベントが発生した）場合は、Form Builderを使用してディテール・ブロックに新しいレコードを挿入する必要があります。「データ整合」プロパティを使用すれば、挿入をいつ、どのように発生させるかを厳密に指定できます。このプロパティに指定できる値は次のとおりです。

「延期」=「いいえ」、「自動問合せ」=「いいえ」	デフォルト設定です。マスター・ブロックでデータ整合の原因となるイベントが発生すると、即座にディテール・レコードがフェッチされます。
「延期」=「はい」、「自動問合せ」=「はい」	データ整合の原因となるイベントが発生すると、オペレータがディテール・ブロックにナビゲートするまで、Form Builderによって関連するディテール・レコードのフェッチが延期されます。
「延期」=「はい」、「自動問合せ」=「いいえ」	データ整合の原因となるイベントが発生すると、オペレータがディテール・ブロックにナビゲートして明示的に問合せを実行するまで、Form Builderによって関連するディテール・レコードのフェッチが延期されます。
「延期」=「いいえ」、「自動問合せ」=「はい」	この設定は無効です。

「データ整合」プロパティの制限事項

プログラムを使用してこのプロパティを設定または取得できるのは、カスタム（ユーザー独自の）・マスター/ディテール構造を使用するアプリケーションの中のみです。設計時に作成されるデフォルトのマスター/ディテール・リレーションでは、Form Builderによってデータ整合を実行する適切なトリガーが生成され、実行時に「データ整合」プロパティを設定してもデフォルトのトリガー・テキストには一切影響しません。

「Coordination_Status」プロパティ

説明

あるブロックがマスター/ディテール・ブロック・リレーションのディテール・ブロックのときに、このブロックとマスター・ブロックとの現行のデータ整合ステータスを指定します。ブロックがすべてのマスター・ブロックとデータ整合されている場合は、このプロパティの値を「COORDINATED」に設定します。ブロックがすべてのマスター・ブロックとデータ整合されていない場合は、このプロパティを「NON_COORDINATED」に設定します。

レコードがディテール・ブロックにフェッチされると、直ちにディテール・ブロックのステータスが「COORDINATED」に変わります。また、別のレコードがマスター・ブロックの現レコードになると、ディテール・ブロックのステータスが「NON_COORDINATED」に戻ります。

適用されるオブジェクト

リレーション

設定方法

プログラム

参照するビルトイン

- GET_BLOCK_PROPERTY
- SET_BLOCK_PROPERTY

使用上の注意

このプロパティは、カスタム・マスター・ディテール・ブロックのデータ整合構造をプログラミングする設計者のみが使用します。Form Builderの宣言したマスター/ディテール・データ整合機能を使用する場合は、このプロパティを設定する必要はありません。

「（項目の）コピー値」プロパティ

Copy Value from Item

説明

Form Builderで項目に挿入する値のソースを指定します。マスター/ディテール・リレーションを定義すると、Form Builderによってディテール・ブロックの外部キー項目上でこのプロパティが自動的に設定されます。このような場合は、ディテール・レコードが作成されるとき、あるいはディテール・レコードに対する問合せが実行されるときに、ディテール・ブロックの外部キー項目にコピーされる値を含むマスター・ブロック内の主キー項目が、このプロパティに設定されます。

適用されるオブジェクト

ボタン、チャート項目、イメージ項目を除くその他すべての項目

設定方法

Form Builder

参照するビルトイン

■ GET_ITEM_PROPERTY

必須/オプション

オプション

使用上の注意

- このプロパティは、<block_name>.<block_item_name>の書式で指定してください。
- コピーはデフォルトのレコード処理中に行われるため、「（項目の）コピー値」プロパティを設定しても実行時のレコード・ステータスに影響はありません。
- オペレータが外部キー・リレーションシップの施行を使用不可に設定できないように、外部キー項目の「変更可能」プロパティを「いいえ」に設定します。
- GET_ITEM_PROPERTYを使用してこのプロパティの値を取得するには、定数ENFORCE_KEYを使用します。

「現レコード可視属性グループ」プロパティ

Current Record Visual Attribute Group

説明

項目が現レコードの一部であるときに使用する名前付き可視属性を指定します。

適用されるオブジェクト

フォーム、ブロック、項目

設定方法

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_FORM_PROPERTY
- SET_FORM_PROPERTY
- GET_BLOCK_PROPERTY
- SET_BLOCK_PROPERTY
- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY

必須/オプション

オプション

使用上の注意

このプロパティは、フォームまたはブロック、項目レベルで、あるいはこれらのレベルの任意の組み合わせで設定します。各レベルで名前付き可視属性を指定すると、項目レベルの属性によって他の属性がすべて上書きされ、ブロック・レベルの属性によってフォーム・レベルの属性が上書きされます。

フォーム・レベルの現レコード可視属性を設定すると、フォーム内のすべてのツールバーはその属性値を使用して表示されることに注意してください。これを避けるには、フォーム・レベルで属性値を定義するかわりに、属性が必要なブロックに対してブロック・レベルの現レコード可視属性を定義します。フォーム・レベルの現レコード可視属性を保持する場合、ツールバーに対するブロック・レベルの現レコード可視属性を、有効な任意の値に設定できます。

このプロパティは、主にブロック・レベルで指定します。この場合、マルチ・レコード・ブロックの現在の行が特定のカラーで表示されます。たとえば、ディテール・レコードが4つ表示されるEmpブロックにVis_Att_Blueを定義すると、このブロックには現レコードの一部である項目が含まれているため、現レコードが青色で表示されます。

項目レベルでこのプロパティを定義すると、事前定義された項目が現レコードの一部である場合に、その項目を特定のカラーで表示できます。ただし、入力フォーカスの移動に合わせて現項目を動的に強調表示することはできません。たとえば、EmpNoの「現レコード可視属性グループ」プロパティをVis_Att_Greenに設定すると、現レコード内のEmpNo項目が緑色で表示されます。このとき入力フォーカスをEmpNameに移動しても、EmpNoは緑色のままで、EmpNameのカラーも変わりません。

「Current_Form」プロパティ

説明

現在実行されているフォームの.FMXファイル名を表します。

適用されるオブジェクト

アプリケーション

設定方法

設定できません。

参照するビルトイン

■ GET_APPLICATION_PROPERTY

使用上の注意

アプリケーションで複数のフォームがコールされている場合に、現行のフォームのファイル名は、このプロパティの値から判別できます。

アプリケーション・レベルの「Current_Form」プロパティは、フォーム・レベルの「ファイル名」プロパティに相当します。「ファイル名」プロパティの値は、GET_FORM_PROPERTYビルトインを使用して取得できます。

「Current_Form_Name」プロパティ

説明

フォーム・モジュールの「名前」プロパティで指定された、現行フォームの名前を表します。

適用されるオブジェクト

アプリケーション

設定方法

設定できません。

参照するビルトイン

- GET_APPLICATION_PROPERTY

使用上の注意

アプリケーションで複数のフォームがコールされている場合に、現行のフォームの名前は、このプロパティの値から判別できます。

アプリケーション・レベルの「Current_Form_Name」プロパティは、フォーム・レベルの「Form_Name」プロパティに相当します。「Form_Name」プロパティの値は、GET_FORM_PROPERTYビルトインを使用して取得できます。

「Current_Record」プロパティ

説明

ブロックのレコード・リスト内の現レコードの番号を取得します。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定方法

設定できません。

参照するビルトイン

- GET_BLOCK_PROPERTY

「Current_Row_Background_Color」プロパティ

説明

オブジェクトのバックグラウンド領域のカラーを指定します。

適用されるオブジェクト

項目、ブロック、フォーム

設定方法

プログラム

デフォルト

NULL

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY
- GET_BLOCK_PROPERTY
- SET_BLOCK_PROPERTY
- GET_FORM_PROPERTY
- SET_FORM_PROPERTY

「Current_Row_Fill_Pattern」プロパティ

説明

オブジェクトの塗り領域に使用されるパターンを指定します。パターンは、「Background_Color」プロパティおよび「Foreground_Color」プロパティで指定された2つのカラーでレンダリングされます。

適用されるオブジェクト

項目、ブロック、フォーム

設定方法

プログラム

デフォルト

指定なし

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY
- GET_BLOCK_PROPERTY
- SET_BLOCK_PROPERTY
- GET_FORM_PROPERTY
- SET_FORM_PROPERTY

「Current_Row_Font_Name」プロパティ

説明

オブジェクト内のテキストに使用されるフォント・ファミリ、または書体を指定します。どのようなフォントが使用できるかはシステムによって異なります。

適用されるオブジェクト

項目、ブロック、フォーム

設定方法

プログラム

デフォルト

NULL

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY
- GET_BLOCK_PROPERTY
- SET_BLOCK_PROPERTY
- GET_FORM_PROPERTY
- SET_FORM_PROPERTY

「Current_Row_Font_Size」プロパティ

説明

フォントのサイズをポイント単位で指定します。

適用されるオブジェクト

項目、ブロック、フォーム

設定方法

プログラム

デフォルト

NULL

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY
- GET_BLOCK_PROPERTY
- SET_BLOCK_PROPERTY
- GET_FORM_PROPERTY
- SET_FORM_PROPERTY

「Current_Row_Font_Spacing」プロパティ

説明

フォントの幅（文字間のスペースの大きさ、またはカーニング）を指定します。

適用されるオブジェクト

項目、ブロック、フォーム

設定方法

プログラム

デフォルト

NULL

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY
- GET_BLOCK_PROPERTY
- SET_BLOCK_PROPERTY
- GET_FORM_PROPERTY
- SET_FORM_PROPERTY

「Current_Row_Font_Style」プロパティ

説明

フォントのスタイルを指定します。

適用されるオブジェクト

項目、ブロック、フォーム

設定方法

プログラム

デフォルト

NULL

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY
- GET_BLOCK_PROPERTY
- SET_BLOCK_PROPERTY
- GET_FORM_PROPERTY
- SET_FORM_PROPERTY

「Current_Row_Font_Weight」プロパティ

説明

フォントの幅を指定します。

適用されるオブジェクト

項目、ブロック、フォーム

設定方法

プログラム

デフォルト

NULL

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY
- GET_BLOCK_PROPERTY
- SET_BLOCK_PROPERTY
- GET_FORM_PROPERTY
- SET_FORM_PROPERTY

「Current_Row_Foreground_Color」プロパティ

説明

オブジェクトのフォアグラウンド領域のカラーを指定します。項目については、項目内に表示されるテキストのカラーを定義します。

適用されるオブジェクト

項目、ブロック、フォーム

設定方法

プログラム

デフォルト

NULL

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY
- GET_BLOCK_PROPERTY
- SET_BLOCK_PROPERTY
- GET_FORM_PROPERTY
- SET_FORM_PROPERTY

「Current_Row_White_On_Black」プロパティ

説明

オブジェクトをモノクロのビットマップ表示装置上に、白地のテキストと黒地のバックグラウンドで表示するように指定します。

適用されるオブジェクト

項目、ブロック、フォーム

設定方法

プログラム

デフォルト

NULL

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY
- GET_BLOCK_PROPERTY
- SET_BLOCK_PROPERTY
- GET_FORM_PROPERTY
- SET_FORM_PROPERTY

「Cursor Mode」プロパティ

注意：リリース6.0およびそれ以降では、Form Builderによってカーソル・モードが自動的に処理されます。これは古いプロパティですので使用しないでください。特に、「クローズ」に設定することは絶対に避けてください。次に記載する情報は、過去のアプリケーションの保守のみを目的としています。

説明

トランザクション中のカーソルの状態を定義します。カーソルは、SQL文が実行されているメモリの作業領域に含まれています。カーソルの詳細は、『Oracle8 Server管理者ガイド』を参照してください。このプロパティは、Oracle以外のデータ・ソースに対してアプリケーションを実行する場合に便利です。

このプロパティに設定できる値は次のとおりです。

設定	説明
OPEN (デフォルト値)	トランザクション中もカーソルをオープンにしておきます。
CLOSE	コミットが発行されたときにカーソルをクローズします。

適用されるオブジェクト

フォーム

設定方法

プログラム

参照するビルトイン

■ GET_FORM_PROPERTY

■ SET_FORM_PROPERTY

デフォルト

OPEN_AT_COMMIT

使用上の注意

■ Oracleではトランザクション中もデータベースの状態を維持できるため、Form BuilderでもCOMMIT操作中にカーソルをオープンした状態に保つことができます。このため、カーソルをオープンし直す必要がなく、SQL文を再解析する回数が減るため、同じSQL文をもう1度実行する場合のオーバーヘッドを削減できます。

■ Oracle以外のデータベースには、トランザクション中にデータベースの状態を維持できないものがあります。このようなデータベースでは、「Cursor_Mode」プロパティを「CLOSE_AT_COMMIT」に設定すると、データベースの要件を満足できます。

■ コミット時にカーソルをクローズし、実行時に再度オープンすると、次の3つの時点でパフォーマンスが低下します。

□ COMMIT操作中

□ 同じレコードに対する他のSQL文の次回以降の実行時

□ 問合せ実行中

■ このプロパティを「CLOSE_AT_COMMIT」に設定すると、Form Builderではコミット処理後もカーソルは明示的にクローズされません。この設定値から、Form Builderによって、まず、コミット後はカーソルが未定義状態になる可能性があるとして認識されます。

トランザクション処理中は、トランザクション・タイプを問わず、Form Builderによって必ずトランザクションIDが維持されます。たとえば、カーソルをオープンする、コミットを実行する、あるいはロールバックを実行するたびに、Form BuilderによってトランザクションIDが

増分されます。

また、Form Builderではカーソルが再実行の試行前に、トランザクションIDがチェックされます。そのIDが現行のトランザクションIDでなければ、Form Builderによって新規カーソルがオープン、解析および実行されます。最後のトランザクションIDのみが維持されます。

- 問合せを実行し、データを変更してからコミットすると、Form BuilderによってトランザクションIDが増分されます。次の理由により、次のフェッチでカーソルが再オープンされ実行されることはありません。

- Form Builderによって読み一貫性問題が処理されない、またカーソル内の再配置も処理されないため。
- 暗黙的にクローズされたカーソルからフェッチしようとする、Oracleまたは接続先からエンド・オブ・フェッチ・エラーが戻るとForm Builderで認識されているため。

次に問合せを実行すると、Form Builderによって新規カーソルがオープンされます。

- このプロパティをトランザクション・トリガーとともに使用する場合は、設計者がカーソルを管理する必要があります。たとえば、コミットを実行するたびに、ブロック上のオープンしている問合せをすべてクローズする場合は、設計者がカーソルを管理します。

「Cursor_Style」プロパティ

説明

マウス・カーソルのスタイルを指定します。このプロパティを使用すると、カーソルの形を動的に変更できます。

このプロパティに設定できる値は次のとおりです。

設定	説明
BUSY	GUI固有のビジー記号が表示されます。
CROSSHAIR	GUI固有のクロスヘア記号が表示されます。
DEFAULT	GUI固有の矢印記号が表示されます。
HELP	GUI固有のヘルプ記号が表示されます。
INSERTION	GUI固有の挿入記号が表示されます。

適用されるオブジェクト

アプリケーション

設定方法

プログラム

参照するビルトイン

- GET_APPLICATION_PROPERTY
- SET_APPLICATION_PROPERTY

デフォルト

矢印

使用上の注意

Form Builderが長い操作を実行しているとき、「処理中」メッセージが表示され、BUSYカーソルで指定するカーソル・スタイルを置き換えます。

たとえば、カーソル・スタイルを「HELP」に設定し、オペレータが大きい問合せを実行すると、問合せの実行中はHELPカーソルがBUSYカーソルに置き換わります。Form Builderによる問合せの実行が終了すると、ビジー・カーソルがヘルプ・カーソルに戻ります。

なお、Form Builderでビジー・カーソルが表示されているときにカーソル・スタイルを変更すると、その処理が終了するのを待たず即座にカーソル・スタイルが変わります。

「カスタム・スペース」プロパティ

Custom Spacing

説明

テキスト・オブジェクトの間隔をレイアウト単位で指定します。

適用されるオブジェクト

図形（テキスト）

設定方法

Form Builder

デフォルト

0

必須/オプション

必須

「幅スタイル」プロパティ

Dash Style

説明

図形オブジェクト枠の線種形式を、「実線」、「点線」、「破線」、「1点鎖線」、「2点鎖線」、「長破線」または「2点破線」のいずれかに指定します。

適用されるオブジェクト

物理図形

設定方法

Form Builder

デフォルト

実線

必須/オプション

必須

「データ・ブロックの記述」プロパティ

Data Block Description

説明

データ・ブロックについて説明します。

適用されるオブジェクト

データベース・データ・ブロック

設定方法

Form Builder

デフォルト

NULL

必須/オプション

オプション

「データ問合せ」プロパティ

Data Query

説明

問合せに基づいたデータ・ソースを指定します。

適用先

階層ツリー

設定方法

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

■ ADD_TREE_DATA

デフォルト

NULL

必須/オプション

オプション

「データ・ソースのデータ・ブロック」(チャート)プロパティ

Data Source Data Block (Chart)

説明

Form BuilderからGraphics Builderを起動してチャートを作成するときに、チャート項目のソースとして使用するデータ・ブロックを指定します。

適用されるオブジェクト

チャート項目

設定方法

Form Builder

デフォルト

NULL

必須/オプション

オプション

「データ・ソースのデータ・ブロック」(レポート)プロパティ

Data Source Data Block (Report)

説明

レポートとフォームを統合する際に、レポートのソースとして使用するデータ・ブロックを NULLまたはブロック名のどちらかで指定します。

適用先

レポート

設定方法

Form Builder

デフォルト

NULL

必須/オプション

オプション

「データ・ソースのX軸」プロパティ

Data Source X Axis

説明

チャート項目のX軸のソースとして使用されるデータ・ブロック列を指定します。

適用されるオブジェクト

チャート項目

設定方法

Form Builder

「データ・ソースのY軸」プロパティ

Data Source Y Axis

説明

チャート項目のY軸の基礎として使用されるデータ・ブロック列を指定します。

適用されるオブジェクト

チャート項目

設定方法

Form Builder

「データ型」プロパティ

Data Type

説明

Form Builderで許可する入力値の種類と、その値をどのように表示するかを指定します。

適用されるオブジェクト

チェックボックス、図表項目、リスト項目、ラジオ・グループ、テキスト項目、カスタム項目、フォーム・パラメータ（フォーム・パラメータはCHAR、DATE、DATETIMEおよびNUMBERのみをサポートします）

注意: 項目タイプごとに適用されるデータ型が異なります。

設定方法

Form Builder

使用上の注意

- Form Builder 6.0以降では、CHAR、DATE、DATETIME、NUMBERなどの標準データ型を使用するようお勧めします。これらのデータ型はOracle本来のデータ型に基づいているため、パフォーマンスとアプリケーションの移植性に優れています。その他のデータ型を使用できるのはテキスト項目のみです。これらのデータ型は旧バージョンとの互換性を確保する目的で用意されています。標準データ型に適切な書式マスクを適用すれば、これらのデータ型と同じ書式を生成できます。
- 実表項目のデータ型は、対応するデータベースの列のデータ型と互換性があることが必要です。Oracle VARCHAR2データベースの列に対応する項目には、CHARデータ型を使用してください。
- データベースのCHAR列に対応する項目が問合せで使用される場合、あるいはマスター/ディテール・リレーションを作成する結合条件として使用される場合は、その項目を作成しないでください。このような場合は、VARCHAR2データベースの列を使用してください。

- 必要があれば、Form Builderによって項目上で次のアクションが実行されます。
 - 後続するスペースがあれば削除します。
 - 中身がすべてブランクの項目はNULLに変更します。
 - データ型がNUMBER、INTEGER、MONEY、RINTEGER、RMONEYまたはRNUMBERの場合、（項目の書式マスクが先行ゼロを許可しないかぎり）先行ゼロを削除します。
- フォーム・パラメータの「パラメータのデータ型」プロパティでサポートされるデータ型は、CHAR、DATEおよびNUMBERです。

ALPHA

文字のあらゆる組み合わせ（大文字と小文字、大文字のみ、小文字のみ）。

デフォルト	NULL
例	「Employee」、「SMITH」

CHAR

VARCHAR2では最大2000文字まで使用できます。次の文字のあらゆる組み合わせです。

- 文字（大文字と小文字、大文字のみ、小文字のみ）
- 数値
- ブランク
- 特殊文字（\$, #, @, _）

デフォルト	NULL
例	「100 Main Street」、「CHAR_EXAMPLE_2」

DATE

有効な日付です。項目の書式マスクを変更して、その他の有効な書式のDATE項目を表示できます。

デフォルト	YYYY-MM-DD
制限事項	DATE項目はデータベースのDATE列を参照し、文字列ではなく、実際の日付として処理されます。 DATEデータ型は、時間コンポーネントの格納には適していません。
例	1999-01-01

DATETIME

有効な日時です。

デフォルト	YYYY-MM-DD HH24:MI[:SS]
-------	-------------------------

制限事項	DATE項目はデータベースのDATE列を参照し、文字列ではなく、実際の日付として処理されます。 DATETIMEデータ型の年データは4桁です。DATETIMEデータ型に年データを2桁のみ入力すると、00YYと解釈されます。
例	1998-12-31 23:59:59

EDATE

有効な欧州の日付です。

デフォルト	DD/MM/YY
制限事項	V3データ型。 データベースのNUMBER列を参照する必要があります。 このデータ型は旧バージョンとの互換性を確保するためのものです。その他の目的で使用する場合は、次の推奨事項に従ってください。 ■ DATEデータ型を使用します。 ■ 書式マスクを適用して、欧州日付書式を生成します。 ■ データベースのNUMBER列でなくDATE列を参照します。
例	23/10/92 (1992年10月23日) 01/06/93 (1993年6月1日)

INT

すべての整数（符号付きまたは符号なし）

デフォルト	0
例	1, 100, -1000

JDATE

有効なユリウス暦です。

デフォルト	MM/DD/YY
制限事項	V3データ型。 データベースのNUMBER列を参照する必要があります。 このデータ型は旧バージョンとの互換性を確保するためのものです。その他の目的で使用する場合は、次の推奨事項に従ってください。 ■ DATEデータ型を使用します。 ■ 書式マスクを適用して、ユリウス暦書式を作成します。 ■ データベースのNUMBER列でなくDATE列を参照します。
例	10/23/92 (1992年10月23日) 06/01/93 (1993年6月1日)

LONG

文字のあらゆる組み合わせが含まれます。Oracleデータベースには可変長文字列として格納されます。フォームでは、LONGフィールドに最大65,534バイトまで使用できます。ただし、PL/SQLには最大32,760バイトという制限があります。LONG変数をPL/SQL文のバインド変数として使用する場合、32,760バイトの制限を超えることができません。

デフォルト	NULL
制限事項	SELECT文のWHERE句やORDER BY句内での参照には一切使用できません。 「問合せ入力」モードでLONG項目に対して問合せを実行することはできません。

MONEY

金額を表す符号付きまたは符号なし数値。

制限事項	V3データ型。 このデータ型は旧バージョンとの互換性を確保するためのものです。その他の目的で使用する場合は、数値に書式マスクを適用して金額データを生成してください。
例	10.95, 0.99, -15.47

NUMBER

1.0x10⁻¹²⁹ ~ 9.99x10¹²⁴ の固定または浮動小数点数。このデータ型の特徴は次のとおりです。

- 符号付き
- 符号なし
- 小数点あり
- 正規表記法で表現
- 科学表記法で表現
- 精度最大38桁

NUMBER項目はデータベースのNUMBER列またはFLOAT列を参照し、Form Builderによって文字列ではなく実際の数値として処理されます。

デフォルト	0
制限事項	数値項目には99,999のようなカンマは入力できない。カンマを使用する場合は、書式マスクを使用してください。
例	-1, 1, 1.01, 10.001, 1.85E3

RINT

整数値を右揃えで表示します。

制限事項	V3データ型。 このデータ型は旧バージョンとの互換性を確保するためのものです。その他の目的で使用する場合は、次の推奨事項に従ってください。 ■ NUMBERデータ型を使用します。 ■ 999などの書式マスクを適用して、右揃え数値を生成します。
------	--

RMONEY

MONEYの値を右揃えで表示します。

制限事項	V3データ型。 このデータ型は旧バージョンとの互換性を確保するためのものです。その他の目的で使用する場合は、次の推奨事項に従ってください。 ■ NUMBERデータ型を使用します。 ■ \$999.99などの書式マスクを適用して、右揃え数値を生成します。
------	---

RNUMBER

NUMBERの値を右揃えで表示します。

制限事項	V3データ型。 このデータ型は旧バージョンとの互換性を確保するためのものです。その他の目的で使用する場合は、次の推奨事項に従ってください。 ■ NUMBERデータ型を使用します。 ■ 999.999などの書式マスクを適用して、右揃え数値を生成します。
------	--

TIME

時刻を表す数値とコロンの。このデータ型はデータベースのNUMBER列を参照します。

デフォルト	HH24:MI[:SS]
制限事項	V3データ型。 このデータ型は旧バージョンとの互換性を確保するためのものです。その他の目的で使用する場合は、次の推奨事項に従ってください。 ■ DATETIMEデータ型を使用します。 ■ 書式マスクを適用して時間のみを生成します。 ■ このデータ型はデータベースのDATE列への参照では一切使用できない。
例	:10:23:05 21:07:13

「データ型」(レコード・グループ)プロパティ

Data Type (Record Group)

説明

「列仕様」を参照してください。

「データベースのデータ・ブロック」プロパティ

Database Block

説明

そのブロックが表、プロシージャ、トランザクション・トリガー、副問合せのうちどのブロック・データ・ソース・タイプに基づいているかを指定します（表のソースにはリレーション表、オブジェクト表に加えて、列オブジェクトまたはREFを含んだリレーション表などがあります）。また、そのブロックが制御ブロックではないことも指定します。このプロパティを「いいえ」に設定すると、Form Builderによってそのブロックの「データベースのデータ・ブロック」プロパティがグレー表示になり、無視されます。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定方法

Form Builder

デフォルト

はい

必須/オプション

必須

「Database_Value」プロパティ

説明

実表項目がデータベース・レコードの一部で、このレコードのステータスが「問合せ」または「更新」の場合、「Database_Value」プロパティにはデータベースから最初にフェッチされた値が戻ります。フェッチされた値が更新されてからコミットされると、このプロパティにコミットされた値が戻ります。

データベース・レコードの一部である制御項目では、レコードがデータベースからフェッチされたときに最初にその項目に割り当てられた値がこのプロパティに戻ります。

ステータスが「作成」または「挿入」の非データベース・レコードの一部である項目では、このプロパティにその項目の現行の値が戻ります。

注意: Database_Valueプロパティを調べれば、データベース・レコード内の項目の値がエンド・ユーザーによって変更された場合に、変更前の値を知ることができます。

注意: SYSTEM.RECORD_STATUSシステム変数を調べたり、GET_RECORD_PROPERTYビルトインを使用すると、任意のレコードに対してデータベースから問合せが実行されたかどうかを判断することができます。

適用先

ボタン、チャート項目、イメージ項目を除くすべての項目

設定方法

設定できません。

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY

「Data Source」プロパティ

説明

現在使用されているデータベースの名前を表します。

適用されるオブジェクト

アプリケーション

設定方法

設定できません。

参照するビルトイン

- GET_APPLICATION_PROPERTY

デフォルト

ORACLE

使用上の注意

このプロパティは、Oracle以外のデータ・ソースを使用する場合に使用します。このプロパティには、On-LogonトリガーではなくForm Builderによって接続が確立された、データベースの名前が戻ります。このプロパティに設定できる値は次のとおりです。

- ORACLE
- DB2
- NULL（データベース未指定、またはログオンしていない）

- NONSTOP
- TERADATA
- NCR/3600
- NCR/3700
- SQLSERVER

「Date_Format_Compatibility_Mode」プロパティ

説明

変換操作で使用する日付書式マスクを設定します。「4.5」に設定すると、リリース4.5以前に実行された変換タイプが選択されます。「5.0」に設定した場合は、リリース5.0以降で実行された変換タイプが選択されます。

この選択の影響を受ける変換操作とマスクについては、「日付の書式マスクについて」に注意があります。

適用されるオブジェクト

アプリケーション

設定方法

Form Builder内で設定可能です。

参照するビルトイン

- GET_APPLICATION_PROPERTY
- SET_APPLICATION_PROPERTY

デフォルト

5.0

必須/オプション

必須

使用上の注意

このDate_Format_Compatibility_Modeプロパティが「4.5」に設定されている場合に、Runtime_Compatibility_Modeプロパティが「5.0」に設定されたときは、Date_Format_Compatibility_Modeの設定が「5.0」の値で上書きされます。

「デフォルト警告ボタン」プロパティ

Default Alert Button

説明

3つの警告ボタンのうちデフォルトの警告ボタンとして使用するボタンを指定します。通常、デフォルトの警告ボタンは、他のボタンと区別できるように、特別な枠で囲まれるか、強調表示されます。

適用されるオブジェクト

警告

設定方法

Form Builder

デフォルト

ボタン1

必須/オプション

オプション

「デフォルト・ボタン」プロパティ

Default Button

説明

そのボタンをデフォルト・ボタンとして認識させることを指定します。実行時に、デフォルト・ボタンを含むウィンドウ内にフォーカスがあれば、エンド・ユーザーは[選択]を押してデフォルト・ボタンを起動できます。

ウィンドウ・マネージャの中には、インタフェース上の他のボタンと区別できるように、デフォルト・ボタンを枠で囲んだり強調表示したりするものがあります。

適用されるオブジェクト

ボタン

設定方法

Form Builder

デフォルト

いいえ

必須/オプション

オプション

「デフォルト・フォント・スケール」プロパティ

Default Font Scaling

説明

そのフォームで使用するフォントのデフォルトのサイズを、使用中の表示装置の相対文字スケールに合わせて変更するかどうかを指定します。

適用されるオブジェクト

フォーム・モジュール

設定方法

Form Builder

デフォルト

はい

「デフォルト・フォント・スケール」プロパティの制限事項

「座標システム」プロパティが「文字セル」に設定されている場合にのみ有効です。

「延期」プロパティ

Deferred

説明

「データ整合」を参照してください。

「遅延を必須強制」プロパティ

Defer_Required_Enforcement

説明

「必須」プロパティが「はい」に設定された項目に対する必須項目属性の施行を、レコードの妥当性がチェックされるまで延期するかどうかを指定します。

このプロパティの設定は、「はい」、「4.5」および「いいえ」です。

適用されるオブジェクト

フォーム

設定方法

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_FORM_PROPERTY
- SET_FORM_PROPERTY

デフォルト

いいえ

使用上の注意

このプロパティは、項目レベルの妥当性チェックが有効なときにのみ適用されます。デフォルトでは、ある項目の「必須」プロパティが「はい」に設定されている際には、その項目に有効な値が入力されるまで他の項目にナビゲートできません。「遅延を必須強制」を「いいえ」に設定すると、この動作が実行されます（ただし、項目インスタンスでエンド・ユーザーによる更新が許可されていない場合は例外です。この場合、「遅延を必須強制」が「いいえ」に設定されていても無視され、項目レベルの妥当性チェックは行われません）。

「遅延を必須強制」プロパティを「はい」（実行時にはPROPERTY_TRUE）、または「4.5」（実行時にはPROPERTY_4_5）に設定すると、レコード・レベルで妥当性がチェックされるまで「必須」属性の施行が延期されるため、項目の値がNULLの場合でもエンド・ユーザーはレコード内で項目間を自由に移動できます。

「遅延を必須強制」を「はい」に設定すると、他の項目にナビゲートするときにNULL値「必須」項目の妥当性チェックは行われません。つまり、WHEN-VALIDATE-ITEMトリガー（存在する場合）は起動されず、その項目の「Item_Is_Valid」プロパティは変わりません。その後のレコード・レベルの妥当性チェック時に項目値がまだNULLである場合は、エラーが発生します。

「遅延を必須強制」を「4.5」に設定すると、ナビゲートの際にNULL値「必須」項目の妥当性チェックは行われず、この項目の「Item_Is_Valid」プロパティは変わりません。ただし、WHEN-VALIDATE-ITEMトリガー（存在する場合）が起動されます。トリガーが失敗すると（Form_Trigger_Failureがコールされると）、その項目は妥当性チェックが失敗したとみなされ、Form Builderによりエラーが発行されます。トリガーが正常に終了すると、引き続き処理が行われます。その後のレコードレベルの妥当性チェック時に項目の値が依然としてNULLの場合には、Form Builderによりエラーが発行されます。

「遅延を必須強制」の値を「4.5」に設定すると、エンド・ユーザーが項目の値を変更して（NULLに変更した場合でも）項目の外へナビゲートするたびに、WHEN-VALIDATE-ITEMトリガーのロジックが即時にコード化されます。このロジックにより、たとえば他の項目の値が更新される場合があります。（この設定の「4.5」という名前は、4.5モードで実行されるリリース4.5および

それ以降のリリースにおいて、項目レベルの妥当性チェック中にWHEN-VALIDATE-ITEMトリガーが常に起動されることを表しています。)

「削除可」プロパティ

Delete Allowed

説明

ブロックからのレコードの削除を許可するかどうかを指定します。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定方法

Form Builder、プログラム

デフォルト

はい

参照するビルトイン

- GET_BLOCK_PROPERTY
- SET_BLOCK_PROPERTY

「削除プロシージャの引数」プロパティ

Delete Procedure Arguments

説明

データの削除で使用するプロシージャに渡す引数の名前、データ型および値を指定します。このプロパティは、「DMLデータ宛先タイプ」プロパティが「プロシージャ」に設定されている場合にのみ有効です。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定方法

Form Builder

デフォルト

NULL

必須/オプション

オプション

「削除プロシージャ名」プロパティ

Delete Procedure Name

説明

データの削除で使用するプロシージャの名前を指定します。このプロパティは、「DMLデータ宛先タイプ」プロパティが「プロシージャ」に設定されている場合にのみ有効です。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定方法

Form Builder

デフォルト

NULL

必須/オプション

オプション

「削除プロシージャ結果セット列」プロパティ

Delete Procedure Result Set Columns

説明

データの削除で使用するプロシージャに対応付けられた結果設定列の名前とデータ型を指定します。このプロパティは、「DMLデータ宛先タイプ」プロパティが「プロシージャ」に設定されている場合にのみ有効です。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定方法

Form Builder

デフォルト

NULL

必須/オプション

オプション

「レコード削除時の動作」プロパティ

Delete Record Behavior

説明

注意: このプロパティの以前の名前は「マスター削除 (Master Deletes)」です。

次のように、マスター・ブロック内のレコードの削除動作とディテール・ブロック内のレコードとの関係を指定します。

設定	説明
非孤立	デフォルト設定です。データベース内に関連するディテール・レコードが存在する場合は、マスター・レコードを削除しません。
孤立	データベース内の関連するディテール・レコードには何ら影響を与えずに、マスター・レコードを削除します。
カスケード	マスター・レコードの削除を許可し、自動的にディテール・ブロックのベース表中にある関連するディテール・レコードを削除します。リレーションがネストされたマスター/ディテール・リレーションでは、マスターに直接関連付けられたディテール・ブロック内のレコードのみが削除されます（何も指定しなければ、削除動作はリレーション連鎖の複数のレベルまでカスケードされません）。

適用されるオブジェクト

リレーション

設定方法

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_RELATION_PROPERTY
- SET_RELATION_PROPERTY

デフォルト

非孤立

「レコード削除時の動作」プロパティの制限事項

- 実行時にこのプロパティを設定してもデフォルトのマスター/ディテール・リレーションには一切影響しません。設計時に、Form Builderによって適切なトリガーが作成され、リレーションが施行されるため、実行時にこのプロパティを変更してもデフォルトのトリガー・テキストは変更されません。プログラムを使用してこのプロパティを設定または取得でき

るのは、カスタム（ユーザー独自）のマスター/ディテール調整をコーディングする設計者のみです。

「ディテール・データ・ブロック」プロパティ

Detail Block

説明

マスター/ディテール・ブロック・リレーション内のディテール・ブロック名を指定します。

適用されるオブジェクト

リレーション

設定方法

Form Builder

参照するビルトイン

■ GET_RELATION_PROPERTY

デフォルト:

NULL

必須/オプション

必須

「ディテール・データ・ブロック」プロパティの制限事項

指定したブロックはアクティブ・フォーム内にする必要があります。

「ディテール参照項目」プロパティ

Detail Reference Item

説明

マスター・データ・ブロックへのリンクを形成する、リレーションのディテール・データ・ブロック内の参照項目（REF項目）を識別します。このプロパティは、「リレーション・タイプ」プロパティが「参照」に設定されているときにのみ適用されます。

適用されるオブジェクト

リレーション

設定方法

Form Builder

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

NULL

使用上の注意

このプロパティは、「リレーション・タイプ」プロパティが「参照」に設定されているときにのみ適用されます。

「方向」プロパティ

Direction

説明

注意: このプロパティは、双方向各国語サポート（NLS: National Language Support）アプリケーション専用です。

双方向オブジェクトのレイアウト方向を指定します。

このプロパティの説明では、「Local」は右から左に表示する言語、「Roman」は左から右に表示する言語を表すと仮定します。

「方向」プロパティは包括的なプロパティで、各オブジェクトについてできる限り多くの機能を提供します。テキスト項目と表示項目を除くすべてのオブジェクトについて、「方向」プロパティが唯一の双方向プロパティで、その設定によって双方向機能の他の局面が制御されます。このプロパティを使用して、双方向機能その他の側面を制御できます（ただし、リスト項目には「方向」プロパティと「初期キーボード状態」プロパティがあります）。

フォーム・レベルの「方向」プロパティは、このプロパティの最上位プロパティです。したがって、フォーム・レベルの「方向」プロパティをデフォルト値に設定すると、NLS言語環境変数によって指定された自然言語記述方向がそのフォームのレイアウト方向に引き継がれます。

ほとんどの場合、他の言語記述方向プロパティをデフォルトに設定すると、望ましい機能性が得られます。すなわち、NLS言語環境変数のレイアウト方向を、それぞれの後続レベルに波及させます。継承されたデフォルト値を上書きするときは、双方向プロパティを指定するのみです。

次の表は、「方向」プロパティがどのように継承されるかを要約したものです。

	デフォルト設定値の継承元オブジェクト
フォーム	NLS環境変数

すべてのオブジェクト(警告、ブロック、値リスト、ウィンドウ、キャンバスなど)	フォーム
テキスト項目、表示項目、チェックボックス、ボタン、ラジオ・グループおよびリスト項目などのすべての項目	キャンバス

次の表は、それぞれのオブジェクトの「方向」プロパティを使用して制御できる機能を要約したものです(テキスト項目と図表項目には「方向」プロパティがありません。その代わりに、Form Builderでは、これらの項目に対して特別に「文字位置」、「読取り順」および「初期キーボード方向」の各プロパティを設定できます。ただし、プログラムでは、テキスト項目および図表項目を含めたすべての項目の「方向」プロパティを取得および設定できます)。

	レイアウト方向	テキスト読取り順	テキストの文字揃え	スクロール・バーの位置	初期キーボード状態
フォーム	X				
警告	X	X			X
ブロック(設定後に使用するもの)					
値リスト(設定後に使用するもの)					
ウィンドウ	X(メニューの)	X			X
キャンバス	X(起点も)	X(ボイラークレート・テキスト)		X(および定規)	
チェックボックス	X	X			X
ボタン	X	X			X
ラジオ・グループ	X	X			X
リスト項目	X	X	X	X	

注意: この表の見出しは、プロパティでなく機能を表しています。たとえば、警告オブジェクトの「方向」プロパティは「初期キーボード状態」プロパティを設定するのではなく、キーボードの初期状態の機能を制御するためのものです。

このプロパティに設定できる値は次のとおりです。

値	説明
デフォルト	方向は上の表のプロパティに基づいて決定されます
右から左	右から左方向
左から右	左から右方向

適用されるオブジェクト

上の表のすべてのオブジェクト

設定方法

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_FORM_PROPERTY GETFORMP
- GET_WINDOW_PROPERTY
- GET_VIEW_PROPERTY
- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_FORM_PROPERTY
- SET_WINDOW_PROPERTY
- SET_VIEW_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY

全般的な使用上の注意

- フォーム上のすべての項目のデフォルト値をNLS言語環境変数によって指定された自然言語記述方向に設定する場合は、フォーム・レベルでの「方向」プロパティを「デフォルト」に設定します。これにより、他のレベルの「方向」プロパティもすべて「デフォルト」に設定されます。
- ほとんどの場合、「デフォルト」の設定によって必要な機能が得られます。上位レベルの「方向」プロパティとは反対の方向に表示するオブジェクトがある場合は、そのオブジェクトの「方向」プロパティを設定してデフォルト値を上書きしてください。たとえば、キャンパス上のほとんどの項目の「方向」プロパティの値をそのキャンパスの「方向」プロパティから継承し、特殊なテキスト項目の「方向」プロパティのみを設定してデフォルト値を上書きします。
- 「Local」メニューと「Roman」メニューの両方を表示する2か国語アプリケーションを開発する場合は、トリガーを作成し、GET_APPLICATION_PROPERTYビルトインの「USER-NLS_LANG」プロパティにの値に基づいて、適切な言語のメニューを表示します。
- 「方向」プロパティの値を選択する際には、次のガイドラインに従います。
- 「Local」オブジェクトを「右から左」モードで、「Roman」オブジェクトを「左から右」モードで表示する2か国語アプリケーションを開発する場合は、「デフォルト」を指定します。
- オブジェクトが主に「Local」テキストから構成されている場合、「右から左」を指定します。
- オブジェクトが主に「Roman」テキストから構成されている場合、「左から右」を指定します。

「方向」（警告）

警告インタフェース項目のレイアウト方向を指定します。これには、警告ウィンドウ内に表示されるテキストの読取り順序などが含まれます。

「方向」（ボタン）

ボタン・テキストの読取り順序と、入力フォーカスがボタンに移ったときの初期キーボード状態を指定します。

「方向」（キャンバス）

キャンバスのレイアウト方向を指定します。これには次のようなものが含まれます。

- レイアウト・エディタで使用されるレイアウト方向
- 起点（起点は、「右から左」では右上角、「左から右」では左上角です）
- 定規およびスクロールバーの表示位置
- ボイラープレート・テキストの読取り順序

キャンバス使用上の注意

- 選択する値の判断には、フォーム・レベルの「方向」プロパティの「使用上の注意」を参照してください。
- レイアウト方向の異なる複数のブロックが共存するアプリケーションを開発するには、それぞれのブロックを異なるキャンバス上に配置します。これにより、次のような効果が得られます。
 - キャンバスの「方向」プロパティの値に従って、そのキャンバス内のブロックが自動的に配置されます。
 - ボイラープレート・テキストの読取り順序がデフォルトでキャンバスの「方向」プロパティの値に設定されます。
- 複数のキャンバスにまたがるブロックがある場合、ブロックの一部を別の「方向」プロパティで表示するのでない限り、すべてのキャンバスの「方向」プロパティを同じ値に保つようにしてください。
- Form Builderでは、レイアウト・エディタが開いているときにキャンバスの「方向」プロパティを変更しても、レイアウト・エディタをいったん閉じてもう一度開くまで変更後の設定は有効になりません。

「方向」（チェックボックス）

チェックボックスのレイアウト方向を指定します。これには次のものが含まれます。

- テキストのボックスに対する相対位置
- チェックボックス・ラベルの読取り順序

- 入力フォーカスがチェックボックスに移ったときの初期キーボード状態

「方向」(フォーム)

フォームのレイアウト方向を指定します。フォーム・レベルの「方向」プロパティを「デフォルト」に設定すると、フォームのレイアウト方向はNLS環境変数に指定された自然言語記述方向から継承されます。

フォーム使用上の注意

- 「右から左」および「左から右」の両方向のモードで実行する2か国語アプリケーションを開発する場合は、「デフォルト」の値を使用します。
- フォームを「Local」方向または「Roman」方向でテストするには、テスト中に「方向」プロパティを「右から左」または「左から右」に設定します。完成した実行形式ファイルを生成する前に、設定を「デフォルト」に戻すようにしてください。
- アプリケーションがどちらかの方向モードでのみ動作すればよい場合、動作させる方向モードに対応した値を選択します。

「方向」(リスト項目)

ポップアップ・リストとコンボ・ボックスの両方におけるリスト項目のレイアウト方向を指定します。これには次のものが含まれます。

- スクロール・バーの位置
- リスト・テキストの文字位置
- リスト・テキストの読取り順序
- 入力フォーカスがリスト項目に移ったときの初期キーボード状態

「方向」(ラジオ・グループ)

グループのラジオ・ボタンのレイアウト方向(テキストに対する丸の相対位置)を指定します。これには次のものが含まれます。

- テキストの読取り順
- 入力フォーカスがラジオ・グループに移ったときの初期キーボード状態

「方向」(ウィンドウ)

ウィンドウ・オブジェクトのレイアウト方向を指定します。これには次のものが含まれます。

- メニューのレイアウト方向
- ウィンドウ領域のうち、独自の「方向」プロパティ値を持つオブジェクトの一部でない部分に表示されるテキストの読取り順(たとえば、ウィンドウ・タイトルなど)

「ヒントの自動表示」プロパティ

Display Hint Automatically

説明

項目プロパティに指定されたヘルプ・テキスト、つまりヒントをいつ表示するかを指定します。

- このプロパティが「はい」に設定されていれば、入力フォーカスがその項目に移動すると Form Builderによってヒント・テキストが表示されます。
- このプロパティが「いいえ」に設定されている場合は、入力フォーカスが項目内にある状態でエンドユーザーが[ヘルプ]キーを押すかデフォルト・メニューから「ヘルプ」コマンドを選択したときのみ、Form Builderによってヒント・テキストが表示されます。

適用されるオブジェクト

チャート項目、図表項目、カスタム項目を除くすべての項目

設定方法

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTYGETIMPRO
- SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

いいえ

使用上の注意

トリガーによりForm Builderで複数の項目がナビゲートされてからターゲット項目で停止する場合は、途中の項目のヘルプ・テキストは表示されず、ターゲット項目のヘルプ・テキストのみが表示されます。

「ヒントの自動表示」プロパティの制限事項

「ヒント」プロパティが「NULL」のときは適用できません。

「キーボード・ヘルプで表示」プロパティ

Display in Keyboard Help

説明

実行時の「キー」ヘルプ画面にキー・トリガーの説明を表示するかどうかを指定します。「キー」画面には、キー名とそのキーに対応付けられている物理的なキーストローク（例: [Ctrl]+「S」）のリストが表示されます。

適用されるオブジェクト

トリガー

設定方法

Form Builder

デフォルト

いいえ

使用上の注意

- 「キー一覧」ウィンドウに名前や説明を表示する必要がない場合は、「キーボード・ヘルプの表示」プロパティを「いいえ」に設定します。これはデフォルト設定です。
- トリガーに対応するキー名とそのキーのデフォルトの説明を「キー」ダイアログに表示する場合は、このプロパティを「はい」に設定し、「キーボード・ヘルプ・テキスト」プロパティをブランクにします。
- デフォルトのキーの説明を変更する必要がある場合は、このプロパティを「はい」に設定し、「キーボード・ヘルプ・テキスト」プロパティに任意の説明を入力します。

「キーボード・ヘルプで表示」プロパティの制限事項

キー・トリガーにのみ有効です。

「表示品質」プロパティ

Display Quality

説明

イメージ項目を表示する場合の品質を指定します。このプロパティを使用すると、イメージの品質とメモリー/パフォーマンスとの兼ね合いを調整できます。

このプロパティに設定できる値は次のとおりです。

高	イメージを高品質で表示します。より多くのリソースが必要です。
標準	イメージを標準の品質で表示します。
低	イメージを低品質で表示します。より少ないリソースで表示できます。

適用先

イメージ項目

設定方法

Form Builder

デフォルト

高

「表示品質」プロパティの制限事項

なし

「表示幅」(値リスト)プロパティ

Display Width (LOV)

説明

「列マッピング・プロパティ」を参照してください。

「権限なしで表示」プロパティ

Display without Privilege

説明

現行のフォームのエンドユーザーがその項目へのアクセス権限を持つセキュリティ・ロールのメンバーでない場合に、現行のメニュー項目を表示するかどうかを指定します。

- このプロパティを「いいえ」に設定すると、エンドユーザーがアクセス権限を持たない項目は表示されません。
- このプロパティを「はい」に設定すると、その項目は使用不可(グレー表示)メニュー項目として表示されます。ただし、項目がメニューに表示されても、エンドユーザーはその項目に対応付けられたコマンドを実行できません。

このプロパティでできるのは、ロール・リストに表示されたメニュー・ロールのメンバーにアクセス権限を付与することのみです。ロール・リストにデータベース・ロールを追加するには、メニュー・モジュール・プロパティ「モジュール・ロール」を設定します。ロール・リストの設定方法およびロール・アクセスのメニュー項目への割り当て方の詳細は、Form Builderのオンライン・ヘルプ・システムを参照してください。

適用されるオブジェクト

メニュー項目

設定方法

Form Builder

デフォルト

いいえ

「権限なしで表示」プロパティの制限事項

ロール・リストにデータベース・ロール名が最低1つ指定されている場合にのみ有効です。

「Display_Height」プロパティ

説明

表示装置の高さを表します。単位は「座標単位」フォーム・プロパティに現在設定されている値です。このプロパティを使用すると、ウィンドウの画面上での最適な表示位置を動的に計算できます。

適用されるオブジェクト

アプリケーション

設定方法

設定できません。

参照するビルトイン

■ GET_APPLICATION_PROPERTY

「Display_Width」プロパティ

説明

表示幅を表します。単位は、「座標単位」フォーム・プロパティに現在設定されている値です。このプロパティを使用すると、ウィンドウの画面上での最適な表示位置を動的に計算できます。

適用されるオブジェクト

アプリケーション

設定方法

設定できません。

参照するビルトイン

■ GET_APPLICATION_PROPERTY

「Displayed」プロパティ

説明

項目を使用可能/表示または使用不可/非表示に設定します。使用不可で、非表示に設定された項目は、ナビゲート、問合せ、更新ができません。

パラメータの値

TRUE/FALSE

適用先

項目

設定方法

プログラム

使用上の注意

「Displayed」プロパティを「FALSE」に設定する前に、項目が選択されていないことを確認します。選択した項目の「Displayed」プロパティを「FALSE」に設定するとエラー（FRM-41016）が発生します。

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY

「Displayed」プロパティの制限事項

選択した項目やフォーカスがある項目の「Displayed」プロパティを設定することはできません。

「レコード間の距離」プロパティ

Distance Between Records

説明

マルチレコード・ブロック内の項目のインスタンス間のスペースの量を指定します。マルチレコード・ブロックは、「表示レコード数」プロパティが2以上に設定されたブロックです。

適用されるオブジェクト

項目

設定方法

Form Builder

デフォルト

0

必須/オプション

オプション

使用上の注意

文字セル定規単位で作業している場合、項目インスタンス間のスペースの量は、少なくとも、1つのセルの高さと同じにする必要があります。

たとえば、5レコード項目中の項目インスタンス間のスペースの量を増加させるには、「レコード間の距離」プロパティで、各項目インスタンス間のスペースを4以上に設定する必要があります。

「イメージの粗さ」プロパティ

Dither

説明

イメージをディザリングして表示するかどうかを指定します。

適用されるオブジェクト

図形（イメージ）

設定方法

Form Builder

デフォルト

いいえ

必須/オプション

必須

「DML配列の大きさ」プロパティ

DML Array Size

説明

一度にデータベース内のレコードを挿入、更新および削除するための最大配列サイズを指定します。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定方法

Form Builder

デフォルト

1

使用上の注意

このサイズを大きくすると、データベースとの間のネットワーク通信量が減少するためトランザクション処理にかかる時間は短くなりますが、必要なメモリー量は増加します。最適なサイズは、ユーザーが1回のトランザクションで変更するレコード数です。

「DML配列の大きさ」プロパティの制限事項

- このプロパティの最小値は1（1レコード）。上限はありません。
- このプロパティを2以上に設定し「挿入可」プロパティを「はい」に設定すると、レコードのROWIDを取得できなくなるため、1つ以上の項目を主キーとして指定する必要があります。ROWIDは、Oracleが各レコードを識別するのに使用するデフォルトの構成体です。単一のレコード処理では、将来の参照（更新または削除）に備えてレコードのROWIDが取得されます。一方、配列処理では、配列内の各レコードのROWIDが戻らないため、ブロックに主キー項目を1つ以上指定する必要があります。主キーはロックする行を指定するのに使用され、ROWIDは更新や削除で使用されます。レコードがロックされるまで、BLOCK.ROWIDは使用できません。「キー・モード」の値が「一意」（デフォルト値）の場合も、ブロック内の1つ以上の項目を主キーに指定してください。
- このプロパティを2以上に設定すると、Form Builderで「変更列のみ更新」プロパティを「はい」に設定しても、実行時に「変更列のみ更新」プロパティは常に「いいえ」に設定されます。「変更列のみ更新」プロパティには、実際に値が変更された列のみをCOMMIT中にUPDATE文に組み込むかどうかを指定します。
- ブロック内に長い行項目（イメージ項目、サウンド項目、OLE項目など）があると、実行時に「DML 配列の大きさ」プロパティが必ず1に設定されます。

「DMLデータ宛先名」プロパティ

DML Data Target Name

説明

ブロックのDMLデータ宛先の名前を指定します。このプロパティは、「DMLデータ宛先タイプ」プロパティが「表」に設定されている場合にのみ有効です。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定方法

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_BLOCK_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

NULL

必須/オプション

オプション

「DMLデータ宛先名」プロパティの制限事項

DMLデータ宛先名プロパティを設定するに先立ち、COMMIT_FORM またはCLEAR_FORMを作動させる必要があります。

「DMLデータ宛先タイプ」プロパティ

DML Data Target Type

説明

ブロックのDMLデータ・ターゲット型を指定します。指定できるDMLデータ・ターゲット・タイプは、「表」、「プロシージャ」または「トランザクション・トリガー」です。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定方法

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_BLOCK_PROPERTY

デフォルト

表

必須/オプション

必須

「DMLの戻り値」プロパティ

DML Returning Value

説明

データベースの更新または挿入後に変更された値でクライアント側のデータを更新するときに、新しい動作または古い動作のどちらをFormsが使用するかを指定します。このプロパティを「はい」に設定すると、新しい動作（リリース6以降の最新動作）が選択されます。「いいえ」に設定すると、古い動作（リリース5およびそれ以前の動作）が選択されます。

データベースの更新または挿入アクションによって、サーバー側のトリガーが起動し、さらにデータが変更されることがあります。リリース6以降では、Oracle8データベース・サーバーを使用しているとき、FormsはDMLの戻り値を使用して、そのような変更を速やかに元に戻します。このプロパティを「はい」に設定すると、Formsは自動的にクライアント側のデータを更新するため、ユーザーはデータベースに再び問い合わせて変更後の値を取得する必要はありません。

このプロパティが「いいえ」に設定されると、Formsではクライアント側のデータが自動更新されません（これはリリース6以前の動作です）。この場合、サーバー側で値が変更された行をユーザーが続けて更新しようとする、警告のメッセージが出され、再問合せを行って最新の値を取得するかどうかを尋ねられます。この「いいえ」の設定は、互換性を保つためのオプションとして設けられています。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定方法

Form Builder

有効な値

はい/いいえ

デフォルト

いいえ

必須/オプション

必須

制限事項

- Formsは、Oracle8データベース・サーバーでのみDML戻り値を使用します。このプロパティ

は、Oracle8以外のサーバーを使用しているときは無視されます。

- FormsではINSERT文およびUPDATE文とともに戻り値が使用されますが、（現時点では）DELETE文とともに使用されません。
- LONGの処理時には、Formsは戻り値を使用しません。
- 未変更列の更新は、「変更列のみ更新」プロパティの設定によって制御されます。このプロパティの値は「DML配列の大きさ」プロパティの設定によって変化します。

「境界線バックグラウンド・カラー」プロパティ

Edge Background Color

説明

図形オブジェクトの境界線のバックグラウンド・カラーを指定します。

適用されるオブジェクト

図形フォントおよびカラー

設定方法

Form Builder

デフォルト

NULL

必須/オプション

オプション

「境界線のフォアグラウンド・カラー」プロパティ

Edge Foreground Color

説明

図形オブジェクトの境界線のフォアグラウンド・カラーを指定します。

適用されるオブジェクト

図形フォントおよびカラー

設定方法

Form Builder

デフォルト

NULL

必須/オプション

オプション

「境界線パターン」プロパティ

Edge Pattern

説明

図形オブジェクトの境界線のパターンを指定します。

適用されるオブジェクト

図形フォントおよびカラー

設定方法

Form Builder

デフォルト

NULL

必須/オプション

オプション

「エディタ」プロパティ

Editor

説明

このテキスト項目のデフォルト・エディタとして使用するエディタを次の中から1つ指定します。

- フォーム内でユーザーが指定したエディタ
- SYSTEM_EDITOR環境変数に設定した、Form Builder外部のシステム・エディタ

適用されるオブジェクト

テキスト項目

設定方法

Form Builder

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

ブランク（デフォルトのForm Builderエディタ）

必須/オプション

オプション

使用上の注意

システム・エディタを指定する方法は次のとおりです。

- FORMS60_EDITOR環境変数を設定してシステム・エディタを定義します。
- 「エディタ」フィールドに「SYSTEM_EDITOR」と入力します。

「エディタ」プロパティの制限事項

指定したエディタはアクティブ・フォーム内にする必要があります。

「エディタX位置、エディタY位置」プロパティ

Editor X Position, Editor Y Position

説明

エディタの左上角の水平（x）座標および垂直（y）座標を、ウィンドウのコンテキスト・キャンバスの左上角から見た相対的な座標で指定します。「エディタ」プロパティを設定した場合は、エディタ位置プロパティを設定して、エディタに対して指定されたデフォルトの表示座標を上書きできます。

適用されるオブジェクト

テキスト項目

設定方法

Form Builder

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

0, 0 - この値は、そのエディタ位置プロパティに指定されたデフォルトの表示座標をForm Builderが使用することを示します。

必須/オプション

オプション

「リスト内の要素」プロパティ

Elements in List

説明

「リスト内の要素」プロパティ・グループには、「リスト要素」および「リスト項目値」の各プロパティが含まれます。

適用されるオブジェクト

リスト項目

設定方法

Form Builder

リスト要素

リスト項目内の各要素に対するテキスト・ラベルを指定します。

必須/オプション

必須

項目値

リスト項目内の特定の要素に対応付ける値を指定します。

デフォルト

NULL

必須/オプション

必須

使用上の注意

「リスト項目値」フィールドを空白のままにすると、その要素にはNULL値が対応付けられます。

「リスト内の要素」プロパティの制限事項

- 各要素に対応付ける値は重複しないでください。

「使用可能」（項目）プロパティ

Enabled (Item)

説明

エンド・ユーザーにマウスを使用した項目の操作を許可するかどうか指定します。

ほとんどのウィンドウ・マネージャでは、このプロパティを「いいえ」に設定するとその項目がグレーで表示されます。

適用されるオブジェクト

ボタンおよびチャート項目、図表項目を除くすべての項目

設定方法

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY
- GET_RADIO_BUTTON_PROPERTY
- SET_RADIO_BUTTON_PROPERTY

デフォルト

はい

使用上の注意

「使用可能」が「はい」に設定されている場合、「キーボードで移動可能」は「はい」、「いいえ」のどちらにも設定できます。「使用可能」が「いいえ」の場合は、キーボードによる項目の移動は常に不可とされます。実行時に、「使用可能」プロパティがPROPERTY_FALSEに設定されていると、「Keyboard_Navigable」プロパティもPROPERTY_FALSEに設定されます。

「使用可能」プロパティを「いいえ」に設定すると、その項目がグレーで表示されます。この項目を通常どおり表示させて、実際には変更できなくともユーザーがこの項目を確認できるようにするには、プロパティを次のように設定します。

- 「挿入可」（項目）を「いいえ」に
- 「更新可」（項目）を「いいえ」に
- 「使用可能」を「はい」に

「使用可能」(メニュー項目)プロパティ

Enabled (Menu Item)

説明

メニュー項目を使用可能(通常表示)項目として表示するか、使用不可(グレー表示)項目として表示するかを指定します。

適用されるオブジェクト

メニュー項目

設定方法

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_MENU_ITEM_PROPERTY
- SET_MENU_ITEM_PROPERTY

デフォルト

はい

「使用可能」(メニュー項目)プロパティの制限事項

次のような場合は、メニュー項目が隠されるため、プログラムを使用してメニューを使用可能または使用不可に設定することはできません。

- メニュー・モジュールの「セキュリティ使用」プロパティが「はい」に設定されている場合
- メニュー項目の「権限なしで表示」プロパティが「いいえ」に設定されている場合
- 現在のエンドユーザーがそのメニュー項目へのアクセス権限を持つロールのメンバーではない場合

「使用可能」(タブ・ページ)プロパティ

Enabled (Tab Page)

説明

タブ・ページを使用可能(通常表示)として表示するか、使用不可(グレー表示)項目として表示するかを指定します。

適用されるオブジェクト

タブ・ページ

設定方法

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_TAB_PAGE_PROPERTY
- SET_TAB_PAGE_PROPERTY

デフォルト

はい

「終了角」プロパティ

End Angle

説明

円弧の終了角を指定します。このとき起点として水平軸を使用します。

適用先

図形（円弧）

設定方法

Form Builder

デフォルト

180

必須/オプション

必須

「列セキュリティの強化」プロパティ

Enforce Column Security

説明

ブロックの基礎表に対する列ごとの更新特権を、Form Builderが施行すべきかどうかを指定します。あるエンドユーザーが実表の特定の列に対して更新権限を持たない場合、Form Builderによっ

てフォーム起動時に「更新可」項目プロパティがオフに設定され、このエンドユーザーのみが対応する項目を更新できないように設定されます。

このプロパティの設定値とその効果は次のとおりです。

設定値	効果
はい	データベースに定義された現在のエンドユーザーの更新権限がFormBuilderによって適用されます。
いいえ	データベースに定義された更新権限はForm Builderによって適用されません。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定方法

Form Builder

参照するビルトイン

■ GET_BLOCK_PROPERTY

デフォルト

いいえ

「主キーの強化」(ブロック)プロパティ

Enforce Primary Key (Block)

説明

ブロックに挿入される、またはブロック内で更新されるすべてのレコードが一意的キーを持つ必要があることを示します。これにより、ブロックの実表への行の複製を回避できます。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定方法

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

■ GET_BLOCK_PROPERTY

SET_BLOCK_PROPERTY

デフォルト

いいえ

「主キーの強化」（ブロック）プロパティの制限事項

- 「主キー」項目プロパティが「はい」に設定された項目がブロック内に1つ以上にする必要があります。

「Enterable」プロパティ

説明

そのブロックが入力可能かどうかを表します。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定方法

設定できません。

参照するビルトイン

- GET_BLOCK_PROPERTY

使用上の注意

- ブロックの現在のレコードに含まれる項目インスタンスの「キーボードで移動可能」プロパティが有効値「はい」を持つ場合、そのブロックは入力可能です。「キーボードで移動可能」プロパティの有効な値については、「キーボードで移動可能」プロパティおよび SET_ITEM_INSTANCE_PROPERTY ビルトインの説明を参照してください。

「Error_Date/Datetime_Format」プロパティ

説明

環境変数 FORMSnn_ERROR_DATE_FORMAT または FORMSnn_ERROR_DATETIME_FORMAT で設定された現在のエラー日付または datetime 書式マスクを保持します。Forms ではこの書式マスクを実行時エラー処理時にデフォルトとして使用します。

Error_Date_Format と Error_Datetime_Format という2種類のプロパティがあります。

適用されるオブジェクト

アプリケーション

設定方法

Form Builder 内では設定できません。

参照するビルトイン

- GET_APPLICATION_PROPERTY

「実行モード」(チャート)プロパティ

Execution Mode (Chart)

説明

Form BuilderからGraphics Builderを起動してチャートを作成しているときに使用する実行モードを、このプロパティで「バッチ」または「ランタイム」のどちらかに指定します。バッチ・モードでは、ユーザーの対話なしにレポートまたはグラフィックが実行されます。ランタイム・モードでは、実行の間のユーザーとの対話が可能になります。

適用されるオブジェクト

チャート項目

設定方法

Form Builder

デフォルト

バッチ

必須/オプション

必須

「実行モード」(レポート)プロパティ

Execution Mode (Report)

説明

フォームとレポートを統合する際のレコードの実行モードを、このプロパティで「バッチ」または「ランタイム」のどちらかに指定します。バッチ・モードでは、ユーザーの対話なしにレポートまたはグラフィックが実行されます。ランタイム・モードでは、実行の間のユーザーの対話が可能になります。

適用されるオブジェクト

レポート

設定方法

Form Builder

デフォルト

バッチ

必須/オプション

必須

「実行の階層」プロパティ

Execution Hierarchy

説明

オブジェクトの階層内でより高レベルで定義された同名のトリガーが存在する場合に、現在のトリガー・コードをどのように実行するかを指定します。

このプロパティに設定できる値は次のとおりです。

上書き	高レベルの同名トリガーの代わりに現在のトリガーを起動するように指定します。これを「親を上書き」動作と呼びます。
前	隣接する高レベルのスコープの同じトリガーを起動する前に、現在のトリガーを起動するように指定します。これを「親の前に起動」動作と呼びます。
後	隣接する高レベルのスコープの同じトリガーを起動した後に、現在のトリガーを起動するように指定します。これを「親の後に起動」動作と呼びます。

適用されるオブジェクト

トリガー

設定方法

Form Builder

デフォルト

上書き

「ファイル名」プロパティ

Filename

説明

命名したオブジェクトが格納されているファイル名を表します。

適用されるオブジェクト

フォーム、レポート

設定方法

設定できません。

参照するビルトイン

■ GET_FORM_PROPERTY

必須/オプション

オプション

使用上の注意

フォーム・レベルの「ファイル名」は、アプリケーション・レベルの「Current_Form」に相当します。「Current_Form」の値は、GET_APPLICATION_PROPERTYビルトインで取得できます。

「ファイル名」プロパティの制限事項

同じ名前のフォームが複数ある場合は、最後にアクセスされたフォームが格納されているファイルの名前が「ファイル名」プロパティに戻ります。

「塗りスタイル」プロパティ

Fill

説明

円弧の形状を「円」または「円弧」のどちらかに指定します。「円」を指定すると、円弧によって描かれる円の中心点から円弧をレンダリングします。「円弧」を指定すると、円弧の2つの終点間の線セグメントから円弧をレンダリングします。

適用先

図形（円弧）

設定方法

Form Builder

デフォルト

円

必須/オプション

必須

「Fill_Pattern」プロパティ

説明

オブジェクトの塗り領域に使用されるパターンを指定します。パターンは、「Background_Color」プロパティおよび「Foreground_Color」プロパティで指定された2つのカラーでレンダリングされます。

適用されるオブジェクト

項目、タブ・ページ、キャンバス、ウィンドウ、ラジオ・ボタン

設定方法

プログラム

デフォルト

指定なし

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY
- GET_RADIO_BUTTON_PROPERTY
- SET_RADIO_BUTTON_PROPERTY
- GET_TAB_PAGE_PROPERTY
- SET_TAB_PAGE_PROPERTY
- GET_CANVAS_PROPERTY
- SET_CANVAS_PROPERTY
- GET_WINDOW_PROPERTY
- SET_WINDOW_PROPERTY

「表示前フィルタ」プロパティ

Filter Before Display

説明

「表示前フィルタ」プロパティを「はい」に設定すると、値リストが表示される前に問合せ基準ダイアログが表示されます。エンド・ユーザーは問合せ基準ダイアログで値を入力して、値リストの基礎を形成するレコード・グループを移入するデフォルトSELECT文により返される行をさらに制限できます。Form Builderでは、問合せ基準ダイアログで入力した値を使用してSELECT

文のWHERE句が組み立てられます。この値は、値リストに表示される第1列に適用されます。値リストの隠し列は表示されません。

Form Builderによって組み立てられたWHERE句では、エンド・ユーザーが入力した値の後にワイルドカード記号が付けられます。したがって、たとえば、エンド・ユーザーが7を入力すると、WHERE句はLIKE '7%'と読み、7、712および7290を返します。

問合せ基準ダイアログでエンド・ユーザーがいったん値を入力し、値リストが表示されたとき、その値リストに実際に含まれるのは、デフォルトのSELECT文と、問合せ基準ダイアログでの値によって作成されたWHERE句の両方に対応する行のみです。たとえば、デフォルトのSELECT文がFOO、FARおよびBAZの各値を返す値リストがあるとします。問合せ基準ダイアログでエンド・ユーザーが値FまたはF%を入力した場合、その結果できた値リストには値FOOおよびFARのみが含まれます。その後ユーザーが値リストの選択フィールドで値B%を入力しても、BAZはすでに問合せ基準ダイアログでの入力値によってフィルタリングされているため、何の値も返されません。

適用先

値リスト

設定方法

Form Builder

デフォルト

いいえ

「表示前フィルタ」プロパティの制限事項

- 値リストが基礎を置くレコード・グループのためのSELECT文が表を加えたら、値リストに表示される最初の列は、加えられたすべての表において一意にする必要があります。重複する列名が存在すると、エンドユーザーが「Filter Before Display」機能を使用しようとしたときにエラーが発生します。たとえば、EMP表とDEPT表の両方にDEPTNO列が含まれている場合に、この2つの表を結合すると、DEPTNO列が重複するためエラーになります。このような場合は、データベース内に新規ビューを作成して、問合せ基準ダイアログでエンドユーザーに参照させたい列に一意の名前を割り当ててください。
- 長い値リストで項目の妥当性をチェックする場合には、問合せ条件ダイアログは表示されないで、値リストの妥当性チェックはユーザーとは無関係に行われます。Form Builderではテキスト項目の現行の値を使用し、値リストの最初の表示項目にワイルドカード条件を適用することによって、リスト縮小用のWHERE句を作成します。

「問合せ入力モードで起動」プロパティ

Fire in Enter-Query Mode

説明

「標準」モードのときのみでなく、フォームが「問合せ入力」モードのときもトリガーを起動できるようにするかどうかを指定します。

適用されるオブジェクト

トリガー

設定方法

Form Builder

デフォルト

いいえ

使用上の注意

このプロパティが適用されるトリガーは次のとおりです。

- key
- On-Error
- On-Message
- When- トリガー。ただし、以下を除きます。

When-Database-Record

When-Image-Activated

When-New-Block-Instance

When-New-Form-Instance

When-Create-Record

When-Remove-Record

When-Validate-Record

When-Validate-Item

「最初のナビゲーション・データ・ブロック」プロパティ

First Navigation Block

説明

フォーム起動時およびCLEAR_FORM操作後に、どのブロックにナビゲートするかを指定します。デフォルトにより、最初のナビゲーション・データ・ブロックはフォームのコミット順序中の最初のブロックとされます。これはオブジェクト・ナビゲータ中のブロックの順序により規定され

ます。デフォルト以外のブロックを最初にナビゲートするブロックを指定するとき、プログラムでこの「最初のナビゲーション・データ・ブロック」プロパティを設定します。

適用されるオブジェクト

フォーム・モジュール

設定方法

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_FORM_PROPERTY
- SET_FORM_PROPERTY

デフォルト

そのフォーム内の最初のブロック、つまりオブジェクト・ナビゲータでブロック・リストの最初に表示されるブロック。

必須/オプション

オプション

使用上の注意

フォーム起動時に、Form Builderが内部的にフォームの最初のブロックにナビゲートする前に起動されるWhen-New-Form-Instanceトリガーを使用して、このプロパティを設定することもできます。

「First_Block」プロパティ

説明

フォーム内の最初のブロック、つまり、オブジェクト・ナビゲータでブロック・リストの最初に表示されるブロックの名前を表します。起動時に、Form Builderによって最初のブロック内の最初の項目にナビゲートされます。

適用されるオブジェクト

フォーム

設定方法

設定できません。

参照するビルトイン

- GET_FORM_PROPERTY

「First_Detail_Relation」プロパティ

説明

指定したブロックがディテール・ブロックであるマスター/ディテール・ブロック・リレーションのうち最初のリレーションの名前を表します。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定方法

設定できません。

参照するビルトイン

■ GET_BLOCK_PROPERTY

使用上の注意

このプロパティは、ユーザー独自のマスター/ディテール調整スキームをコーディングする場合に便利です。「Next_Master_Relation」プロパティや「Next_Detail_Relation」プロパティとともに使用すれば、リレーション・リスト全体を順次参照できます。

「First_Item」プロパティ

説明

オブジェクト・ナビゲータに項目シーケンスとして表示される、ブロック内の最初の項目を表します。起動時に、Form Builderによって最初のブロック内の最初の項目にナビゲートされます。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定方法

設定できません。

参照するビルトイン

■ GET_BLOCK_PROPERTY

「First_Master_Relation」プロパティ

説明

指定したブロックがマスター・ブロックであるマスター/ディテール・ブロック・リレーションのうち最初のリレーションの名前を表します。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定方法

設定できません。

参照するビルトイン

- GET_BLOCK_PROPERTY

使用上の注意

このプロパティは、ユーザー独自のマスター/ディテール調整スキームをコーディングする場合に便利です。「Next_Master_Relation」プロパティや「Next_Detail_Relation」プロパティとともに使用すれば、リレーション・リスト全体を順次参照できます。

「固定境界ボックス」プロパティ

Fixed Bounding Box

説明

テキスト・オブジェクトの枠ボックスを固定サイズのままとするかどうかを指定します。このプロパティを「はい」に設定すると、「幅」プロパティおよび「高さ」プロパティの値によって枠ボックスのサイズが決まります。

適用されるオブジェクト

図形テキスト

設定方法

Form Builder

デフォルト

いいえ

必須/オプション

必須

「固定長」（項目）プロパティ

Fixed Length (Item)

説明

固定長に「はい」と設定できるのは、項目が許される最大数の文字をすでに含んでいる場合のみです。許される最大文字数は、最大長プロパティにより設定されます。

適用されるオブジェクト

テキスト項目

設定方法

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

いいえ

「固定長」（項目）プロパティの制限事項

- 「可視」プロパティと「変更可能」プロパティが両方とも「はい」に設定されている必要があります。
- NUMBERデータ型のテキスト項目の値は、先頭がゼロを含めることはできません。Form Builderは自動的に先行ゼロを消去し、テキスト項目を"満杯でない"と解釈します。

「固定長」（メニュー置換パラメータ）プロパティ

Fixed Length (Menu Substitution Parameter)

説明

固定長を「はい」と設定できるのは、パラメータが許される最大数の文字をすでに含んでいるときのみです。許される最大文字数は、最大長プロパティにより設定されます。

適用先

メニューパラメータ

設定方法

Form Builder

デフォルト

いいえ

「Flag_User_Value_Too_Long」プロパティ

説明

Formsにおいて、「最大長」プロパティを超えるユーザー入力値がどのように処理されるかを指定します。

このプロパティは、UTF8以外のマルチバイト・キャラクタ・セットを指定する中間層（Forms Server）を持つ3層環境にのみ適用されます。

適用されるオブジェクト

アプリケーション

設定方法

プログラム

デフォルト

Property_False ('FALSE')

参照するビルトイン

- GET_APPLICATION_PROPERTY
- SET_APPLICATION_PROPERTY

使用上の注意

UTF8以外のマルチバイト・キャラクタ・セット環境の3層では、エンド・ユーザーは「最大長」プロパティに指定されている値を超えるバイト数を項目に入力することが可能です。

「Flag_User_Value_Too_Long」プロパティが設定されている場合またはデフォルトで「FALSE」に設定されている場合、前述のような状況が発生すると、入力した値のバイト・サイズが「最大長」プロパティに指定された値を超えないように、ユーザーが入力した値は文字の境界で切り捨てられます。項目レベルの検証が行われるときに、切捨て値が検証されます。検証（およびナビゲーション・トリガー）が成功すると、エンド・ユーザーはその項目から出ることができます。エラー・メッセージや警告メッセージは表示されません。

「Flag_User_Value_Too_Long」プロパティが「TRUE」に設定されている場合、ユーザーの入力値が「最大長」プロパティを超えても、入力値は切り捨てられません。項目レベルの検証が行われるときに、切捨てが必要であることを示すエラー・メッセージが表示されて、検証は失敗

します。つまり、エンド・ユーザーは現行の検証単位（現行のフォームの「検証単位」プロパティで指定）を出ることができません。

「Font_Name」プロパティ

説明

オブジェクト内のテキストに使用されるフォント・ファミリ、または書体を指定します。どのようなフォントが使用できるかはシステムによって異なります。

適用されるオブジェクト 項目、タブ・ページ、キャンバス、ウィンドウ、ラジオ・ボタン

設定方法

プログラム

デフォルト

指定なし

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY
- GET_RADIO_BUTTON_PROPERTY
- SET_RADIO_BUTTON_PROPERTY
- GET_TAB_PAGE_PROPERTY
- SET_TAB_PAGE_PROPERTY
- GET_CANVAS_PROPERTY
- SET_CANVAS_PROPERTY
- GET_WINDOW_PROPERTY
- SET_WINDOW_PROPERTY

「Font_Size」プロパティ

説明

フォントのサイズをポイント単位で指定します。

適用されるオブジェクト

項目、タブ・ページ、キャンバス、ウィンドウ、ラジオ・ボタン

設定方法

プログラム

デフォルト

指定なし

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY
- GET_RADIO_BUTTON_PROPERTY
- SET_RADIO_BUTTON_PROPERTY
- GET_TAB_PAGE_PROPERTY
- SET_TAB_PAGE_PROPERTY
- GET_CANVAS_PROPERTY
- SET_CANVAS_PROPERTY
- GET_WINDOW_PROPERTY
- SET_WINDOW_PROPERTY

「Font_Spacing」プロパティ

説明

フォントの太さ（文字間のスペースの大きさ、またはカーニング）を指定します。有効な値は次のとおりです。

```
FONT_NORMALf
FONT_ULTRADENSE
FONT_EXTRADENSE
FONT_DENSE
FONT_SEMIDENSE
FONT_SEMIEXPAND
FONT_EXPAND
FONT_EXTRAEXPAND
FONT_ULTRAEXPAND
```

適用されるオブジェクト

項目、タブ・ページ、キャンパス、ウィンドウ、ラジオ・ボタン

設定方法

プログラム

デフォルト

FONT_NORMAL

参照するビルトイン

- GET_CANVAS_PROPERTY
- SET_CANVAS_PROPERTY
- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY
- GET_RADIO_BUTTON_PROPERTY
- SET_RADIO_BUTTON_PROPERTY
- GET_TAB_PAGE_PROPERTY
- SET_TAB_PAGE_PROPERTY
- GET_VA_PROPERTY?
- SET_VA_PROPERTY?
- GET_WINDOW_PROPERTY
- SET_WINDOW_PROPERTY

「Font_Style」プロパティ

説明

フォントのスタイルを指定します。有効な値は次のとおりです。

FONT_PLAIN
FONT_ITALIC
FONT_OBLIQUE
FONT_UNDERLINE
FONT_OUTLINE
FONT_SHADOW
FONT_INVERTED
FONT_OVERSTRIKE
FONT_BLINK

適用されるオブジェクト

項目、タブ・ページ、キャンバス、ウィンドウ、ラジオ・ボタン

設定方法

プログラム

デフォルト

FONT_PLAIN

参照するビルトイン

- GET_CANVAS_PROPERTY
- SET_CANVAS_PROPERTY
- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY
- GET_RADIO_BUTTON_PROPERTY
- SET_RADIO_BUTTON_PROPERTY
- GET_TAB_PAGE_PROPERTY
- SET_TAB_PAGE_PROPERTY
- GET_VA_PROPERTY
- SET_VA_PROPERTY
- GET_WINDOW_PROPERTY
- SET_WINDOW_PROPERTY

「Font_Weight」プロパティ

説明

フォントの太さを指定します。有効な値は次のとおりです。

FONT_MEDIUM
FONT_ULTRALIGHT
FONT_EXTRALIGHT
FONT_LIGHT
FONT_DEMILIGHT
FONT_DEMIBOLD
FONT_BOLD
FONT_EXTRABOLD
FONT_ULTRABOLD

適用されるオブジェクト

項目、タブ・ページ、キャンバス、ウィンドウ、ラジオ・ボタン

設定方法

プログラム

デフォルト

FONT_MEDIUM

参照するビルトイン

- GET_CANVAS_PROPERTY
- SET_CANVAS_PROPERTY
- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY
- GET_RADIO_BUTTON_PROPERTY
- SET_RADIO_BUTTON_PROPERTY
- GET_TAB_PAGE_PROPERTY
- SET_TAB_PAGE_PROPERTY
- GET_VA_PROPERTY?
- SET_VA_PROPERTY?
- GET_WINDOW_PROPERTY
- SET_WINDOW_PROPERTY

「Foreground_Color」プロパティ

説明

オブジェクトのフォアグラウンド領域のカラーを指定します。項目については、項目内に表示されるテキストのカラーを定義します。

適用されるオブジェクト

項目、タブ・ページ、キャンバス、ウィンドウ、ラジオ・ボタン

設定方法

プログラム

デフォルト

指定なし

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY

- SET_ITEM_PROPERTY
- GET_RADIO_BUTTON_PROPERTY
- SET_RADIO_BUTTON_PROPERTY
- GET_TAB_PAGE_PROPERTY
- SET_TAB_PAGE_PROPERTY
- GET_CANVAS_PROPERTY
- SET_CANVAS_PROPERTY
- GET_WINDOW_PROPERTY
- SET_WINDOW_PROPERTY

「フォーム水平ツールバーのキャンバス」プロパティ

Form Horizontal Toolbar Canvas

説明

Microsoft Windows上では、MDIアプリケーション・ウィンドウに水平ツールバーとして表示するキャンバスを指定します。「キャンバス・タイプ」プロパティが「水平ツールバー」に設定されているキャンバスを指定してください。

適用されるオブジェクト

フォーム

設定方法

Form Builder

デフォルト

NULL

必須/オプション

オプション

「フォーム水平ツールバーのキャンバス」プロパティの制限事項

Microsoft Windowsにおいてのみ有効です。その他のプラットフォーム上では、「フォーム水平ツールバーのキャンバス」プロパティは無視され、キャンバスは「ウィンドウ」プロパティに設定されたウィンドウにマッピングされます。

「フォーム垂直ツールバーのキャンバス」プロパティ

Form Vertical Toolbar Canvas

説明

Microsoft Windows上では、MDIアプリケーション・ウィンドウに垂直ツールバーとして表示するキャンバスを指定します。「キャンバス・タイプ」プロパティが「垂直ツールバー」に設定されているキャンバスを指定してください。

適用されるオブジェクト

フォーム

設定方法

Form Builder

デフォルト

NULL

必須/オプション

オプション

「フォーム垂直ツールバーのキャンバス」プロパティの制限事項

Microsoft Windowsにおいてのみ有効です。その他のプラットフォーム上では、「フォーム垂直ツールバーのキャンバス」プロパティは無視され、ツールバー・キャンバスは「ウィンドウ」プロパティに設定されたウィンドウにマッピングされます。

「書式マスク」プロパティ

Format Mask

説明

テキスト項目内のデータの表示書式およびエンド・ユーザーがテキスト項目に入力できるデータを指定します。

適用されるオブジェクト

テキスト項目

設定方法

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY

必須/オプション

オプション

使用上の注意

文字列、数値および日付の有効な書式マスクは次のとおりです。

文字列

文字列の有効な書式マスクは次の表のとおりです。

要素	例	説明
FM	FMXX99	充填モード。入力されたとおりに文字列を受け入れ、右揃えは行いません。エンド・ユーザーは書式マスクより短い文字列も入力できます。
X	XXXX	任意のアルファベット文字または数字、特殊文字。エンド・ユーザーの入力文字列は書式マスクで指定されたとおりの長さにする必要があります。
9	9999	数字のみ。エンド・ユーザーの入力文字列は書式マスクで指定されたとおりの長さにする必要があります。
A	AAAA	アルファベット文字のみ。エンド・ユーザーの入力文字列は書式マスクで指定されたとおりの長さにする必要があります。

文字列の例

書式マスク	説明
XXAA	--ab、abcd、11abは受け入れられますが、--11、ab11、ab--は受け入れられません（ハイフンやその他の特殊文字を受け入れるにはXXを使用する必要があります）。
XXXX	アルファベット、数値、特殊文字のあらゆる組み合わせが許されます。（--ab、abcd、11ab、--11、ab11、ab--など）。123やabcなどは許されません。（マスクより短い入力文字列を受け入れるには、FMXXXXを使用します）。
FMXX99	ab12、ab1、2つのスペースが続くabは受け入れられますが、12abやabcdは受け入れられません。

- ハイフン（-）やカンマ（,）のような追加文字を二重引用符（"）で囲んで埋め込みます。
- 埋込み文字はテキスト項目の値とは区別され、エンド・ユーザーが埋込み文字を入力しても、テキスト項目の値の照合では使用されません。

数値

数値の有効な書式マスクは次の表のとおりです。

要素	例	説明
----	---	----

9	9999	9の数によって表示幅が決まります。先行するゼロがあれば空白で表示されます。
0	0999	先行するゼロが表示されます。
0	9990	値ゼロは、ブランクではなく、ゼロとして表示されます。
\$	\$9999	値の前にドル記号が付けられます。
B	B9999	値ゼロは、"0"（ゼロ）ではなく、スペースで表示されます。
MI	9999MI	負の値の後に "-" が付きます。
PR	9999PR	負の値は、山かっこ (< >) の中に表示されます。
カンマ	9,999	指定した位置にカンマが表示されます。多言語対応アプリケーションで正常に動作させるには、適切なグループ（千単位の）セパレータが戻されるようにGを置き換えてください。
ピリオド	99.99	指定した位置に小数点が表示されます。多言語対応アプリケーションで正常に動作させるには、適切な小数点が戻るようにDを置き換えてください。
E	9.999EEEE	科学表記法に基づいて表記されます（書式はEEEEに準拠）。
FM	FM999	充填モード。入力されたとおりに文字列を受け入れ、右揃えは行いません。

- 数値を9を使用してマスクすると、Form Builderによって数値の前にプラス（+）やマイナス（-）記号を入れるためのスペースが1つ追加されます。ただし、プラス記号は表示されないため、数値の前にスペースが1つ追加されたように見えます（マイナス記号は表示されます）。
- ハイフン（-）やカンマ（,）のような追加文字を二重引用符（"）で囲んで埋め込みます。
- 埋込み文字はテキスト項目の値とは区別され、エンド・ユーザーが埋込み文字を入力しても、テキスト項目の値の照合では使用されません。

数値の例

書式マスク	説明
FM099"-"99"-"9999	社会保障番号の列を作成します。エンド・ユーザーがたとえ9桁のみしか入力しなくても、ハイフンを補って、正しい書式になるようにします。社会保障番号の列は、11桁の列を作り、099"-"99"-"9999の書式マスクを作ります。この書式マスクは、ゼロで始まる社会保障番号を、012-34-5678 または 012345678 のどちらの形で入力されても受入れ、012345678として記憶します。
999999PR	-123を受け入れ、<123>としてフォーマットし直します。
999MI	-678を受け入れ、678-としてフォーマットし直します。
9.999EEEE	1.00E+20の形式で表示します。

Formsにおける長さの不適合の取扱い

実行時にユーザーが書式マスク仕様を超える長さの文字列を入力した場合、値は無効とされます。次に例を示します。

書式マスク	ユーザーの入力	結果
99.9	321.0	不正

99.9	21.01	不正
99.9	21.1	21.1
99.9	01.1	1.1

反対に、データベースからフェッチされた数値が表示フィールドの書式マスク仕様を超過した場合、値は切り捨てられず、マスクに適合するように丸められて表示されます（項目自体は、Formsアプリケーションの内部でその完全な値を保持します）。たとえばデータベースの保持する値が2.0666で、書式マスクが99.9の場合、ユーザーには値2.1が表示されます。しかし、この場合もフォーム内での項目の値は2.0666のままになります。

日付

日付の有効な書式マスクは次の表のとおりです。

要素	説明
YYYYまたはSYYY	4桁で表した年。"- "記号の付いた紀元前日付の前には"S"が付きます。
YYYまたはYYまたはY	年の下3桁または下2桁、下1桁。
Y,YYY	年のこの位置にカンマが付きます。
BCまたはAD	BC/AD標識。
B.C.またはA.D.	ピリオド付きのBD/AD標識。
RR	デフォルトで正しい世紀の値に変換されます。入力した日付から、入力された年とコンピュータ内部クロックに設定された年および世紀を比較して、世紀が推測されます。00～49までの年は21世紀（西暦2000年代）に、50～99までの年は20世紀（1900年代）と見なされます。
MM	月（01～12。01は1月）。
MONTH	月の名前。9文字（英字）の長さにブランクが埋め込まれます。
MON	月の名前。3文字の略称。
DDD	日付（1～366）。
DD	（月のうちの）日（1～31）。
D	曜日を表す数字（1～7。1は日曜）。
DAY	曜日。9文字になるまでブランクで埋め込まれます。
DY	曜日。3文字の略称。
J	ユリウス日。紀元前4712年1月1日から通算した経過日数。
AMまたはPM	正午標識。
A.M.またはP.M.	ピリオド付き正午標識。
HHまたはHH12	時（1～12）。
HH24	時（0～23）。
MI	分（0～59）。
SS	秒（0～59）。
SSSSS	午前零時から通算した経過秒数（0-86399）。
/, , ,	結果で句読点が再生成されます。
"..."	結果で引用符付き文字列が再生成されます。

FM	充填モード。0やスペースなどの暗黙の文字を想定して、有効数字を左詰めで表示します。エンド・ユーザーは書式マスクより短い値も入力できます。（特定のデリミタが必要な場合は、FXとともに指定します。）
FX	デリミタも含め、日付リテラルがすべて書式マスクと一致している必要があります。

- 日付マスクの前にFXを付けると、エンド・ユーザーは、指定されたデリミタをはじめ、定義された書式マスクと完全に一致する日付しか入力できません。

日付の例

書式マスク	説明
FXDD-MON-YY	12-JAN-94は受け入れられますが、12.JAN.94や12/JAN/94はデリミタがマスクとは違うため受け入れられません。12JAN94はデリミタがないため受け入れられません。また、01-JAN-94は受け入れられますが、1-JAN-94は受け入れられません。
FMDD-MON-YY	01-JAN-94を受け入れます。01/JAN/94や01 JAN 94など、その他のデリミタのエントリも受け入れられますが、01JAN94は受け入れられません。1-JAN-94は、それを01-JAN-94に変換した上で受け入れます。
DD-MON-YY	12.JAN.94、12/JAN/94、12-JAN-94の、いずれの形式も受け入れます。注意：いかなるデリミタ文字も受け入れられますが、デリミタがエンド・ユーザーによって取り除かれたら、このマスクは日付文字をデリミタとして解釈します。12-JAN94は受け入れられます（ただし、12-JAN-04に変換されます）。ただし、"AN"は無効な月の名前であるため、12JAN94は受け入れられません。

- 日付の外観のみを変更する書式マスクを指定してください。Form Builderでは、データがどのように表現されていても、有効桁がすべて格納されます。
- 埋込み文字はテキスト項目の値とは区別され、エンド・ユーザーが埋込み文字を入力しても、テキスト項目の値の照合では使用されません。
- ハイフン(-)やカンマ(,)のような追加文字を二重引用符(")で囲んで埋め込みます。ただし、二重引用符自体は文字として使用できないことに注意してください。たとえば「DD""MMM」というマスクを使用しても、「DD"MM」という出力は実現できません。

書式マスク	説明
FMMONTH" "DD", "YYYY	テキスト項目データが、JANUARY 12, 1994のように、スペースやカンマも含め指定された日付書式で表示されます。
FMDD-MONTH-YYYY	12-JANUARY-1994のように表示されます。
DY-DDD-YYYY	WED-012-1994のように表示されます。注意：入力妥当性チェックのために、DY-DD-MM-YYのように曜日も入力させることもできます。

- 曜日書式を使用するときは、データに曜日情報が含まれているかを確認します。不当なマスクが設定されないように、任意の書式で日付(1~366)または月も表示してください。

書式マスク	説明
DD-MONTH-YYYY	12-JANUARY-1994のように表示されます。
DY-DDD-YYYY	WED-012-1994のように表示されます。

DY-DD-MON-YY	WED-12-JAN-94のように表示されます。月が含まれているかを確認します。エラーが発生する恐れがあるため、DY-DD-YYのようなマスクは使用しないでください。
--------------	---

NLS書式マスク

有効な各国語サポート（NLS）書式マスクは次の表のとおりです。

要素	例	説明
C	C999	国際通貨記号が戻ります。
L	L9999	地域別通貨記号が戻ります。
D	99D99	小数点が戻ります。
G	9G999	グループ（千単位）セパレータが戻ります。
カンマ	9,999	指定した位置にカンマが表示されます。
ピリオド	9.999	この位置に小数点を表示します。

NLS書式マスクの例

書式マスク	説明
L99G999D99	地域別通貨記号、グループおよび小数点セパレータが表示されます。この項目は、たとえば、NLS_LANG=Americanであれば\$1,600.00、NLS_LANG=NorwegianであればKr.1.600,00と表示されます。
C99G999D99	適切な国際通貨記号が表示されます。この項目は、たとえば、NLS_LANG=AmericanであればUSD1,600.00、NLS_LANG=FrenchであればFRF1.600,00と表示されます。

「書式マスク」プロパティの制限事項

- テキスト項目の「最大長」プロパティを設定する場合は、指定した書式マスクで挿入される埋込み文字のスペースを考慮して設定します。
- 書式マスクは最大30文字です。
- Form Builderでサポートされる書式マスクは、入力と出力の両方に使用できるOracleの書式マスクのみです。WWなど、出力のみの書式マスクはサポートされません。

「Form_Name」プロパティ

説明

フォームの名前を表します。

適用されるオブジェクト

フォーム

設定方法

設定できません。

参照するビルトイン

- GET_FORM_PROPERTY

使用上の注意

フォーム・レベルの「Form_Name」プロパティは、アプリケーション・レベルの「Current_Form_Name」プロパティに相当します。「Current_Form_Name」の値はGET_APPLICATION_PROPERTYビルトインで取得できます。

「式」プロパティ

Formula

説明

式の計算結果が代入される項目の値を計算するPL/SQL式を1つ指定します。PL/SQL式は、ビルトイン・サブプログラムやユーザーが作成したサブプログラムを参照できます。

適用されるオブジェクト

項目

設定方法

Form Builder

参照するビルトイン

- RECALCULATE

使用上の注意

計算式としてPL/SQL文全体を入力することはできません。したがって、計算式の最後にセミコロンを入力しないでください。Form Builderは、内部で実際の割当てコードを式に加えます。自分でコードを加えないで下さい。たとえば、割当て文全体をコーディングするのではなく、次のように計算式のみを入力します。

```
:emp.sal + :emp.comm
```

Form Builderによって、内部的にこの式が次のような完全な文に変換されます。

```
:emp.gross_comp := (:emp.sal + :emp.comm);
```

必須/オプション

「計算モード」プロパティが「式」に設定されている場合は必須

「枠整列」プロパティ

Frame Alignment

説明

枠内にオブジェクトをどのように配置するかを、「始点」、「終点」、「中央揃え」、「塗り」、「列」の中から指定します。このプロパティは、「レイアウト・スタイル」プロパティが「フォーム」の場合にのみ有効です。

適用されるオブジェクト

枠

設定方法

Form Builder

デフォルト

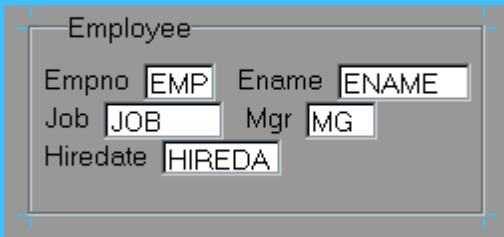
塗り

必須/オプション

必須

「枠整列」の表示

開始



The screenshot shows a form titled "Employee" with a blue border. Inside the form, there are five text input fields arranged in three rows: "Empno" with value "EMP", "Ename" with value "ENAME", "Job" with value "JOB", "Mgr" with value "MG", and "Hiredate" with value "HIREDATA". Above the form, the text "開始" is displayed.

終了

Employee

Empno EMP Ename ENAME

Job JOB Mgr MG

Hiredate HIREDATA

中央

Employee

Empno EMP Ename ENAME

Job JOB Mgr MG

Hiredate HIREDATA

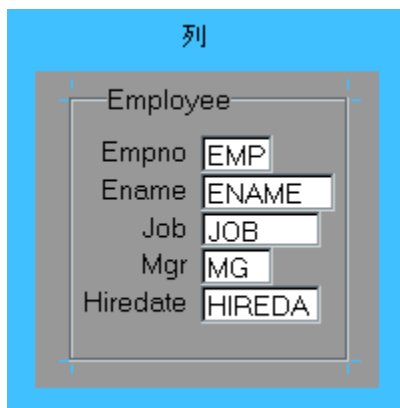
塗り

Employee

Empno EMP Ename ENAME

Job JOB Mgr MG

Hiredate HIREDATA



「枠タイトル」プロパティ

Frame Title

説明

枠のタイトルを指定します。

適用されるオブジェクト

枠

設定方法

Form Builder

デフォルト

ブランク

必須/オプション

オプション

「枠タイトル整列」プロパティ

Frame Title Alignment

説明

枠タイトルの配置方法を「始点」、「終点」、「左揃え」、「右揃え」または「中央揃え」の中から指定します。

注意: タイトルの整列方向は、そのキャンバスが表示されるキャンバスの方向によって決まります。

適用されるオブジェクト

枠

設定方法

Form Builder

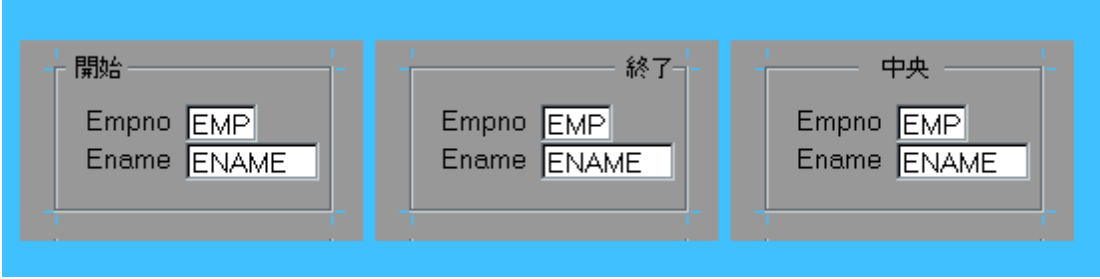
デフォルト

始点

必須/オプション

必須

「枠タイトル整列」の表示



「枠タイトルのバックグラウンド・カラー」プロパティ

Frame Title Background Color

説明

枠タイトルのバックグラウンドに適用するカラーを指定します。

適用されるオブジェクト

枠

設定方法

Form Builder

デフォルト

オペレーティング・システム標準のフォント・カラー（通常は白）

必須/オプション

必須

「枠タイトルのフォント名」プロパティ

Frame Title Font Name

説明

枠タイトルに適用するフォント（書体）の名前を指定します。

適用されるオブジェクト

枠

設定方法

Form Builder

デフォルト

オペレーティング・システムの標準フォント

必須/オプション

必須

「枠タイトルのフォントの大きさ」プロパティ

Frame Title Font Size

説明

枠タイトルに適用するフォント（書体）のサイズを指定します。

適用されるオブジェクト

枠

設定方法

Form Builder

デフォルト

オペレーティング・システム標準のフォント・サイズ

必須/オプション

必須

「枠タイトルのフォントの間隔」プロパティ

Frame Title Font Spacing

説明

枠タイトルのテキストに適用する間隔を指定します。

適用されるオブジェクト

枠

設定方法

Form Builder

デフォルト

オペレーティング・システム標準のフォント間隔

必須/オプション

必須

「枠タイトルのフォント・スタイル」プロパティ

Frame Title Font Style

説明

枠タイトルのテキストに適用するフォント・スタイル（イタリックなど）を指定します。

適用されるオブジェクト

枠

設定方法

Form Builder

デフォルト

オペレーティング・システム標準のフォント・スタイル

必須/オプション

必須

「枠タイトルのフォントの太さ」プロパティ

Frame Title Font Weight

説明

枠タイトルのテキストに適用するフォントの太さ（ボールドなど）を指定します。

適用されるオブジェクト

枠

設定方法

Form Builder

デフォルト

オペレーティング・システム標準のフォントの太さ

必須/オプション

必須

「枠タイトルのフォアグラウンド・カラー」プロパティ

Frame Title Foreground Color

説明

枠タイトルのテキストに適用するカラーを指定します。

適用されるオブジェクト

枠

設定方法

Form Builder

デフォルト

オペレーティング・システム標準のフォント・カラー（通常は黒）

必須/オプション

必須

「枠タイトルのオフセット」プロパティ

Frame Title Offset

説明

枠とそのタイトルとの間の距離を指定します。

適用されるオブジェクト

枠

設定方法

Form Builder

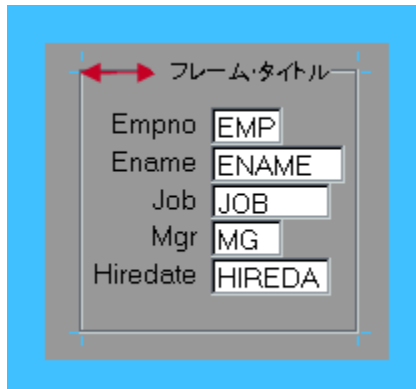
デフォルト

2文字セル（または、そのフォームの座標系でこれと等価の値）

必須/オプション

必須

「枠タイトルのオフセット」の表示



「枠タイトルの読み込み順」プロパティ

Frame Title Reading Order

説明

枠タイトルの読み取り順序を、「デフォルト」、「左から右」、「右から左」の中から指定します。

適用されるオブジェクト

枠

設定方法

Form Builder

デフォルト

デフォルト

必須/オプション

必須

「枠タイトルの間隔」プロパティ

Frame Title Spacing

説明

フレーム・タイトルの両側の余白を指定します。

適用されるオブジェクト

枠

設定方法

Form Builder

デフォルト

1文字セル（または、そのフォームの座標系でこれと等価の値）

必須/オプション

必須

「枠タイトルの間隔」の表示



「枠タイトルの可視属性グループ」プロパティ

Frame Title Visual Attribute Group

説明

フレーム・タイトルの個々の属性（フォント名、背景色、塗りパターンなど）を設定します。このプロパティに設定できる値は次のとおりです。

デフォルト	オブジェクトはデフォルトのカラーおよびパターン、フォント設定で表示されます。可視属性グループを「デフォルト」に設定すると、個々の属性の設定に現行のシステム・デフォルト値が反映されます。実際は、オブジェクトのタイプ、使用しているリソース・ファイル、プラットフォームなど、さまざまな因子の組み合わせによって設定される値が決まります。
名前付き可視属性	オブジェクトに名前付き可視属性が適用されます。名前付き可視属性は、オブジェクト・ナビゲータで作成した独立したオブジェクトで、ワード処理・プログラムと非常によく似たスタイルを持つインタフェース・オブジェクトに適用されます。「可視属性グループ」に名前付き可視属性を設定すると、各属性に名前付き可視属性オブジェクト用に定義された属性の値が設定されます。現行のフォームに名前付き可視属性が1つも含まれていない場合は、このプロパティのポップアップ・リストに「デフォルト」と表示されます。

適用されるオブジェクト

枠

設定方法

Form Builder

デフォルト

デフォルト

使用上の注意

- 「デフォルト」および名前付き可視属性プロパティには、次の属性がプロパティ・パレットと同じ順序で表示されます。

フォント名	そのオブジェクト内のテキストに使用するフォント・ファミリまたは活字書体。どのようなフォントが使用できるかはシステムによって異なります。
フォント・サイズ	フォントのサイズ（単位:ポイント）。
フォント・スタイル	フォントのスタイル。
フォント間隔	フォントの幅、つまり、文字間隔（カーニング）。
フォントの太さ	フォントの太さ。
フォアグラウンド・カラー	フォアグラウンド領域のオブジェクトの色。項目では、「フォアグラウンド・カラー」属性は項目内に表示されるテキストのカラーを定義します。
バックグラウンド・カラー	オブジェクトのバックグラウンド領域のカラー。
塗りパターン	オブジェクトの塗り領域として使用されるパターンです。パターンは、「バックグラウンド・カラー」と「フォアグラウンド・カラー」に指定された2つのカラーでレンダリング処理されます。
キャラクタ・モードの論理属性	Oracle Terminalリソース・ファイルに定義されたキャラクタ・モードの論理属性の名前を指定します。これは、アプリケーションのキャラクタ・モード・バージョンでデバイス属性のベースとして使用するものです。
白黒	オブジェクトをモノクロ・ビットマップ表示装置上にバックグラウンド黒、テキスト白で表示するかどうかを指定します。

オブジェクト・タイプによって有効な属性が異なります。たとえば、ウィンドウ・オブジェクトに対してフォント属性を指定しても、意味がありません（ウィンドウのタイトル・バーに使用するフォントはシステムから導出されます）。

- 新規フォームの新規オブジェクトには「デフォルト」の可視属性が割り当てられます。デフォルト値は内部的に定義されています。新規項目のデフォルトのフォントは、オプションのFORMS60_DEFAULTFONT環境変数を設定して上書きしバイラプレートにできます。たとえば、Microsoft Windowsでは、この変数をORACLE.INIファイルに「FORMS60_DEFAULTFONT="COURIER.10"」と設定します。指定したデフォルト・フォントは、「新規ブロック」ウィンドウで作成される新規バイラプレート・テキスト、および「可視属性グループ」が「デフォルト」に設定された項目で使用されます。
- レイアウト・エディタで項目を作成すると、その項目の可視属性の初期値は、レイアウト・エディタのフォントおよびカラー、パターンに現在設定されている値、つまり「フォント」ダイアログ、「カラー」パレット、「パターン」パレットに指定されている値になります。
- Microsoft Windows上では、ボタンおよびウィンドウのタイトル・バー、ウィンドウの枠線のカラーは、Windowsのコントロール・パネルの該当要素のカラー設定を使用してコント

ロールします。ここで設定されたカラーをForm Builderで変更することはできません。

- Microsoft Windows上で「3Dコントロール使用」フォーム・プロパティを「はい」（デフォルト値）に設定すると、項目は影付きでレンダリングされ、立体的に3次元で表示されます。このプロパティを「はい」に設定すると、結果的に、「可視属性グループ」プロパティが「デフォルト」に設定されたキャンパスのカラーは、Windowsのコントロール・パネルに設定されたカラー（ほとんどのカラー・スキームでグレー）になります。このカラーは、明示的に名前付き可視属性をキャンパスに適用すれば上書きできます。
- 「可視属性グループ」が「デフォルト」に設定された項目、あるいは可視属性の一部が指定されていない項目は、その項目が割り当てられているキャンパスからその可視属性を継承します。同様に、「可視属性グループ」が「デフォルト」に設定されたキャンパス、あるいは可視属性の一部が指定されていないキャンパスは、そのキャンパスが表示されるウィンドウからその可視属性を継承します。たとえば、ウインドウのバックグラウンド・カラーを「CYAN(シアン)」に設定し、そのウインドウに割り当てられたキャンパスのバックグラウンド・カラーを指定しないままにすると、実行時、そのキャンパスはそのウインドウから「CYAN」のバックグラウンドを継承します。ウインドウのキャンパスやキャンパスの項目から継承して導出された可視属性設定は、設計時ではなく、実行時に明らかになります。
- プロパティ・クラスをオブジェクトに適用して、可視属性の値を指定できます。「可視属性グループ」プロパティ全体をプロパティ・クラスにしたり、あるいは各属性プロパティを1つ以上まとめて1つのプロパティ・クラスを作成したりできます。（「可視属性グループ」プロパティと各属性プロパティが同じプロパティ・クラスに含まれている場合は、「可視属性グループ」プロパティの値が優先されます。
- 可視属性の値を含む名前付き可視属性とプロパティ・クラスを両方とも同じオブジェクトに適用した場合は、名前付き可視属性の値が優先され、プロパティ・クラスの可視属性の値は無視されます。
- リソース・ファイルに定義された論理属性定義は、Form Builderで定義した可視属性、およびローカル環境変数定義、デフォルトのForm Builder属性より優先されます。リソース・ファイルを編集するには、Oracle Terminalユーティリティを使用します。

「グラフィック・タイプ」プロパティ

Graphics Type

説明

図形オブジェクトのタイプを指定する読取り専用プロパティです。有効な値は「円弧」、「チャート」、「グループ」、「イメージ」、「線」、「多角形」、「四角形」、「丸い四角形」、「記号」および「テキスト」です（Graphics Builderの「オブジェクト・タイプ」プロパティの有効値と同じです）。

適用されるオブジェクト

図形全般

設定方法

Form Builder

デフォルト

（上記の各）タイプ

必須/オプション

必須

「Group_Name」プロパティ

説明

値リストのベースとなるレコード・グループの名前を指定します。

適用先

値リスト

設定方法

プログラム

参照するビルトイン

■ GET_LOV_PROPERTY

■ SET_LOV_PROPERTY

デフォルト

基礎を形成するレコード・グループ名

使用上の注意

実行時に、値リストの現行レコード・グループを他のレコード・グループに置き換えるために「Group_Name」プロパティを設定します。ただし、置換後のレコード・グループの列の名前およびタイプが置換前のレコード・グループの列の名前とタイプと同じにする必要があります。

「ヘルプ」プロパティ

Help

説明

キャラクタ・モードのプラットフォーム上で、メニュー項目のヘルプ・テキストを指定します。このメニュー項目が選択されているときにエンドユーザーが[Help]キーを押すと、ウィンドウにヘルプ・テキストが表示されます。

適用されるオブジェクト

メニュー項目

設定方法

Form Builder

必須/オプション

オプション

「ヘルプ」プロパティの制限事項

キャラクタ・モードのアプリケーションのみに適用されます。

「終了時に隠す」プロパティ

Hide on Exit

説明

モードなしウィンドウで、エンドユーザーが別のウィンドウ内の項目にナビゲートしたときに、このモードなしウィンドウを自動的に隠すかどうかを指定します。

適用されるオブジェクト

ウィンドウ

設定方法

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_WINDOW_PROPERTY
- SET_WINDOW_PROPERTY

デフォルト

いいえ

「終了時に隠す」プロパティの制限事項

ルート・ウィンドウには設定できません。エンド・ユーザーが別のウィンドウ内の項目にナビゲートしても、ルート・ウィンドウは常に表示されたままです。

「最高許容値」プロパティ/「最低許容値」プロパティ

Highest Allowed Value/Lowest Allowed Value

説明

エンド・ユーザーがテキスト項目に入力できる最大値と最小値を指定します。

適用されるオブジェクト

テキスト項目

設定方法

Form Builder

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY

必須/オプション

オプション

使用上の注意

このプロパティに設定できる値は次のとおりです。

- 有効な定数
- フォーム項目 (:block_name.item_name)
- グローバル変数 (:GLOBAL.my_global)
- フォーム・パラメータ (:PARAMETER.my_param)

次のように、Form Builderによって項目内の値がデータ型ごとに評価されます。

ALPHA	システムの照合順番によるアルファベット順
CHAR	システムの照合順番によるアルファベット順
DATE	年代順
DATETIME	年代順
INT	小さい数値から
NUMBER	小さい数値から

- すべての項目に日付を入力できます。ただし、入力できる日付の書式は次のいずれかです。
 - NLS_LANGに設定されている値のデフォルトの書式
 - 書式マスクとして指定した書式
- 前リリースとの互換性を保つため、フォーム項目または順序への参照は、先頭文字をコロンの (:) ではなく、アンパサンド (&) にして指定することもできます。
- 先頭文字アンパサンド (&) またはコロンの (:) で始まるRAW値を指定するときは、この文字を2回続けて (&&または::) 指定します。(これは、リリース6i以降のFormsの動作変更です)。

「ヒント」(項目)プロパティ

Hint (Item)

説明

実行時にルート・ウィンドウのメッセージ行に表示する、項目固有のヘルプ・テキストを指定します。入力フォーカスがある項目内にあるときに、ヘルプ・テキストが使用可能になります。

適用されるオブジェクト

チャート項目、表示項目、カスタム項目を除くすべての項目

設定方法

Form Builder

参照するビルトイン

■ GET_ITEM_PROPERTY (HINT_TEXT)

デフォルト

「<item name>に値を入力してください」	データ・ブロック・ウィザードを使用して作成された項目
NULL	その他の項目すべて

必須/オプション

オプション

使用上の注意

項目にヘルプ・テキストを設定しない場合は、「ヒント」プロパティをNULLのままにしておいてください。

「ヒント」(メニュー項目)プロパティ

Hint (Menu Item)

説明

キャラクタ・モードのアプリケーションで、メニュー項目のヒント・テキストを指定します。表示形式がプルダウン・メニューやバー・メニューの場合は、入力フォーカスがあるメニュー項目内にあるときに、メッセージ行にヒント・テキストが表示されます。

また、全画面表示形式では、ヒント・テキストが指定されていれば項目記述子として表示され、メニュー項目名は無視されます(ヒント・テキストが指定されていない場合は、Form Builderによって項目名が項目記述子として表示されます)。

適用されるオブジェクト

メニュー項目

設定方法

Form Builder

必須/オプション

オプション

「ヒント」（メニュー項目）プロパティの制限事項

- キャラクタ・モードのアプリケーションのみに適用されます。

「ヒント」（メニュー置換パラメータ）プロパティ

Hint (Menu Substitution Parameter)

説明

エンド・ユーザーがメニュー置換パラメータの値を入力したときに、メッセージ行に表示する説明と指示を指定します。

適用先

メニュー置換パラメータ

設定方法

Form Builder

必須/オプション

オプション

「水平文字位置」プロパティ

Horizontal Justification

説明

テキスト・オブジェクトの水平文字位置を「左揃え」、「右揃え」、「中央揃え」、「始点」または「終点」のいずれかに指定します。

適用されるオブジェクト

図形テキスト

設定方法

Form Builder

デフォルト

始点

必須/オプション

必須

「水平マージン」プロパティ

Horizontal Margin

説明

枠の左右の境界線と枠内のオブジェクトの間隔を指定します。

適用されるオブジェクト

枠

設定方法

Form Builder

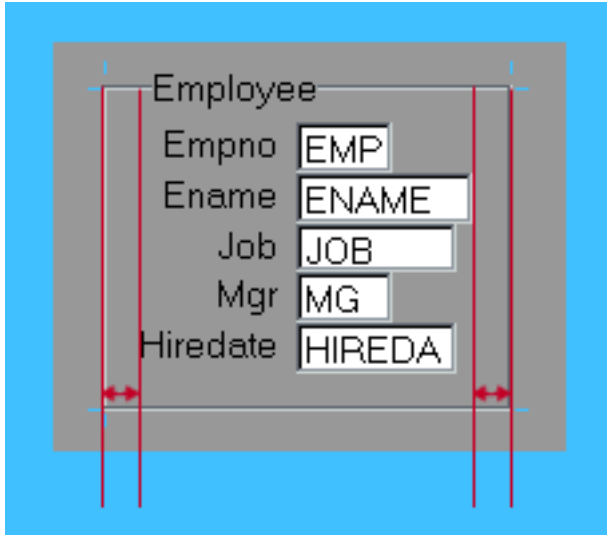
デフォルト

1文字セル（または、そのフォームの座標系でこれと等価の値）

必須/オプション

必須

水平マージンの表示



「水平オブジェクト・オフセット」プロパティ

Horizontal Object Offset

説明

枠内のオブジェクト間の横方向の間隔を指定します。

適用されるオブジェクト

枠

設定方法

Form Builder

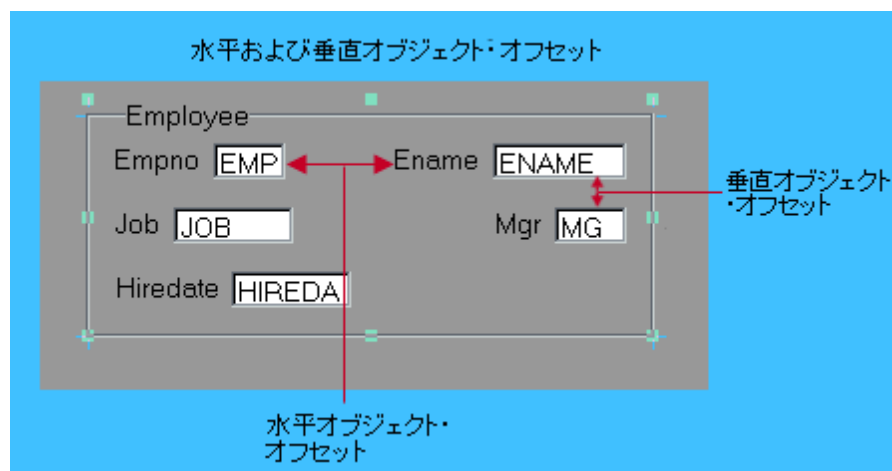
デフォルト

2文字セル（または、そのフォームの座標系でこれと等価の値）

必須/オプション

必須

水平オブジェクト・オフセットの表示



「水平原点」プロパティ

Horizontal Origin

説明

テキスト・オブジェクトの原点に相対的なオブジェクト水平位置を「左揃え」、「右揃え」または「中央揃え」のいずれかで指定します。

適用されるオブジェクト

図形テキスト

設定方法

Form Builder

デフォルト

左

必須/オプション

必須

「水平ツールバー・キャンバス」プロパティ

Horizontal Toolbar Canvas

説明

ウィンドウ上に水平ツールバーとして表示するキャンバスを指定します。ただし、指定するキャンバスは、現在のウィンドウに割り当てられた（「ウィンドウ」プロパティで設定）水平ツールバー・キャンバス（「キャンバス・タイプ」プロパティが「水平ツール・バー」設定されているキャンバス）にする必要があります。

適用されるオブジェクト

ウィンドウ

設定方法

Form Builder

デフォルト

NULL

必須/オプション

水平ツールバーを作成する場合は必須

使用上の注意

- ウィンドウの「プロパティ」ウィンドウでは、「キャンバス・タイプ」プロパティが「水平ツール・バー」に設定されたキャンバスのみが、このプロパティのポップリストに表示されます。
- 実行時に、Form Builderは指定された水平ツールバーをウィンドウ上に表示しようとします。しかし、同じウィンドウに同じタイプのツールバーが複数割り当てられている（キャンバスの「ウィンドウ」プロパティが指定されたウィンドウを指し示すように設定されている）場合は、ナビゲーション・イベントやプログラムによる制御にตอบสนองして別のツールバーが表示される可能性があります。
- Microsoft Windows上では、「フォーム水平ツールバーのキャンバス」フォーム・プロパティを使用して水平ツールバー・キャンバスがMDIアプリケーション上に表示されるように設定した場合は、指定した水平ツールバー・キャンバスはウィンドウ上に表示されません。

「アイコン・ファイル名」プロパティ

Icon Filename

説明

表示するアイコン形式のボタンおよびメニュー項目、ウィンドウを表すアイコン・リソースの名前を指定します。

適用されるオブジェクト

ボタン、メニュー項目、ウィンドウ

設定方法

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY
- GET_MENU_ITEM_PROPERTY
- SET_MENU_ITEM_PROPERTY
- GET_WINDOW_PROPERTY
- SET_WINDOW_PROPERTY

デフォルト

NULL

必須/オプション

オプション

使用上の注意

「アイコン・ファイル名」プロパティの値には、アイコン・ファイルの拡張子（.ico、.xpmなど）を付けないでください。たとえば、my_icon.icoではなく、my_iconと入力します。

アイコンのファイル名は、（大文字、小文字を問わず）A、L、M、S、Xの5種の文字では終わらせないでください。これらは、内部でアイコンのサイズ指定に使用する予約文字です。これ

らの文字でアイコンのファイル名が終わる場合、予想外のアイコン配置が発生することがあります。

アイコン・リソースのディレクトリは、プラットフォーム固有の環境変数を使用して指定してください。たとえば、この変数は、Microsoft WindowsではUI_ICONになります。（変数名の詳細は、使用しているオペレーティング・システムのForm Builderマニュアルを参照してください。）

「アイコン・ファイル名」プロパティの制限事項

- ウィンドウでは、「最小化可能」プロパティを「はい」に設定したウィンドウのみに設定できます。
- アイコン・リソースはフォーム定義には組み込めず、ランタイム・オペレーティング・システム内にする必要があります。したがって、異なるプラットフォーム間でアイコンのリソース・ファイルを移植することはできません。

「メニューのアイコン」プロパティ

Icon in Menu

説明

メニュー項目のメニュー名の横にアイコンを表示するかどうかを指定します。「はい」に設定した場合、表示されるアイコンは「アイコン・ファイル名」プロパティで指定されます。

適用されるオブジェクト

メニュー項目

設定方法

Form Builder

デフォルト

いいえ

必須/オプション

オプション

「アイコン化」プロパティ

Iconic

説明

そのボタンがアイコン・ボタンかどうかを指定します。

適用されるオブジェクト

ボタン

設定方法

Form Builder

参照するビルトイン

■ GET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

いいえ

必須/オプション

オプション

使用上の注意

アイコン化が「はい」の場合、ボタンの「アイコン・ファイル名」プロパティはForm Builderがボタンに対して表示すべきアイコン・リソースを指定します。

「アイコン化」プロパティの制限事項

有効なアイコン・リソース・ファイル名を指定する必要があります。

「イメージの深さ」プロパティ

Image Depth

説明

Form Builderがファイルシステム中のファイルから読み取る（またはファイルに書き込む）画像の深さを指定します。有効な値は次のとおりです。

- オリジナル
- モノクロ
- 灰色
- LUT（検索表: Lookup Table）
- RGB（赤、緑、青）

適用先

イメージ項目

設定方法

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY
- WRITE_IMAGE_FILE

デフォルト

オリジナル

必須/オプション

必須

「イメージ形式」プロパティ

Image Format

説明

イメージ項目をデータベースに格納するときのフォーマットを指定します。有効な値は次のとおりです。

- BMP
- CALS
- GIF

- JFIF
- PICT
- RAS
- TIFF
- TPIC

適用先

イメージ項目

設定方法

Form Builder

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- WRITE_IMAGE_FILE

デフォルト

TIFF

必須/オプション

必須

使用上の注意

- 現バージョンでは、これまでのデフォルトのOracleイメージ格納フォーマットは使用できません。
- イメージ項目を含むレコードがデータベースに格納されるときに、そのイメージの元のフォーマットがこのプロパティに設定した値で上書きされます。たとえば、画像項目の画像書式プロパティがGIFに設定されており、またTIFF画像が実行時に画像項目にペーストされていたら、ペーストされた画像はGIF書式に格納され、レコードはデータベースに保存されます。

「インプリメンテーション・クラス」プロパティ

Implementation Class

説明

標準Form Builderコントロールに代替を提供する際に、コントロール項目タイプのJavaBeanコンテナやカスタム実装のクラス名を識別します。

適用先

次のコントロール項目タイプに適用されます。

- Bean領域
- チェックボックス
- リスト項目
- プッシュ・ボタン
- ラジオ・グループ
- テキスト項目

設定方法

Form Builder

デフォルト

なし

必須/オプション

Bean領域に対しては常に必須。このプロパティは、アプリケーションに追加するJavaBeanコンテナのクラス名を識別します（このプロパティが提供されないと、フォームのエンドユーザーに空の四角形が表示されます）。

それ以外の前述のコントロール項目タイプについても、コントロールをカスタマイズおよびユーザー提供の実装で、フォーム内で使用する場合には必須になります。これは、ユーザー提供の代替コントロールのクラス名を識別します。

実行時の設定方法

不可

使用上の注意

- 「インプリメンテーション・クラス」プロパティは、すべてのコントロール項目タイプに対してではなく、前述のコントロール項目タイプに対してのみ使用可能です。

「REF項目にインクルード」プロパティ

Include REF Item

説明

このブロックに対してREFと呼ばれる隠し項目を作成します。この項目は内部で使用され、REFリンク上に築かれたマスター・ディテール・リレーションを調整します。また、この項目をプログラムで使用して、オブジェクト表中の行のオブジェクトID (OID) にアクセスすることもできます。

適用先

オブジェクト表を基礎とするブロック。特に、マスター・ディテールREFリンク。

設定方法

Form Builder

デフォルト

デフォルトは「いいえ」です。ただし、REFポインタを基礎とするリレーションを作成するときは、Form Builderによって「はい」に設定されます。

必須/オプション

REFポインタを基礎とするマスター・ディテール・リレーションにおけるマスター・ブロックに対して必須。

使用上の注意

- REF項目は、オブジェクト表中の行のオブジェクトID (OID) を取得するために使用されます。
- オブジェクト表中の各行は、一意のオブジェクトID (OID) によって識別されます。OIDはその行に対する一意の識別子です。これらのOIDは、オブジェクト表において暗黙列を形成します。
- 2つの表の間のREFポインタ・リレーションにおいて、指す側の表におけるREF列は、指される側の表のOID値 (アドレス) のコピーを保持します。これにより、2つの表の間にリンクが形成されます。
- REFポインタに基づいたマスター・ディテール・リレーションをユーザーが構築するとき、データ・ブロック・ウィザードはこのプロパティを「はい」に設定して、このREF項目を作成します。項目はREFと名づけられ、マスター・ブロック内に置かれます。この項目はエンド・ユーザーには見えません。加えて、ウィザードはこの新しいREFにアクセスするために、ディテール・ブロックにおいて「Copy_Value_From_Item」プロパティを設定します。Form Builderはこの方法で、実行時にマスター/ディテール・リレーションを調整します。

「メニュー継承」プロパティ

Inherit Menu

説明

この機能がサポートされているウィンドウ・マネージャ上でウィンドウに現在のフォーム・メニューを表示するかどうかを指定します。

適用されるオブジェクト

ウィンドウ

設定方法

Form Builder

デフォルト

はい

必須/オプション

オプション

「メニュー継承」プロパティの制限事項

- Microsoft Windows上では使用できません。

「初期キーボード状態」プロパティ

Initial Keyboard State

説明

注意: このプロパティは、双方向各国語サポート (NLS: National Language Support) アプリケーション専用です。

初期キーボード状態では、キーボードはローカルまたはローマ字に設定され、項目が入力フォーカスを受け取ります。そのため、エンド・ユーザーはキーボード状態を変える必要なく即座にタイプできます。

値	説明
デフォルト	「読み込み順」プロパティの値に基づいてキーボードの初期状態を決定します。
ローカル	キーボードの初期状態は「ローカル」（右から左に記述する言語）です。

ローマ字	キーボードの初期状態は「ローマ字」（左から右に記述する言語）です。
------	-----------------------------------

適用先

表示項目、テキスト項目

設定方法

Form Builder

使用上の注意

- ほとんどの場合、このプロパティを設定するのはテキスト項目のみです。
- エンド・ユーザーは、キーボード状態トグル・キーを押下することにより、初期キーボード状態を上書きできます。

「初期メニュー」プロパティ

Initial Menu

説明

フォーム・モジュール起動時にメイン・メニューまたは最上位メニューとして表示する、メニュー・モジュール内の各メニューの名前を指定します。エンド・ユーザーは、初期メニューとして指定されたメニューより上にはナビゲートできません。

デフォルトでは、初期メニューは、メニュー・モジュール・プロパティ「メイン・メニュー」に指定されたメニューです。「初期メニュー」プロパティを使用すれば、「メイン・メニュー」プロパティの値を上書きできます。

適用されるオブジェクト

フォーム・モジュール

設定方法

Form Builder

デフォルト

ブランク（デフォルトのメイン・メニューが初期メニューとして使用されます。

必須/オプション

オプション

「初期メニュー」プロパティの制限事項

- メイン・モジュール内のメニューを指定する必要があります。

「初期値」（項目）プロパティ

Initial Value (Item)

説明

レコード作成時に項目に割り当てるデフォルトの値を指定します。指定できるデフォルト値は次のとおりです。

- 静的な値（216, 'TOKYO'）
- フォーム項目（:block_name.item_name）
- グローバル変数（:GLOBAL.my_global）
- フォーム・パラメータ（:PARAMETER.my_param）
- 順序（:SEQUENCE.my_seq.NEXTVAL）

適用されるオブジェクト

チェックボックス、表示項目、リスト項目、ラジオ・グループ、テキスト項目、ユーザー領域

設定方法

Form Builder

デフォルト

NULL

必須/オプション

ラジオ・グループ、チェックボックス、リスト項目を除くすべての項目でオプション

ラジオ・グループでは、次に該当しない場合に、有効初期値が必須になります。

ラジオグループで「ほかの値のマッピング」を指定した場合

グループ内のラジオ・ボタンのいずれかに関連する値がNULLの場合

リスト項目では、次に該当しない場合に、有効初期値が必須になります。

リスト項目で「ほかの値のマッピング」を指定した場合

リスト要素のいずれかに関連する値がNULLの場合

チェックボックスでは、次に該当しない場合に、有効初期値が必須になります。

チェックボックスで「ほかの値のマッピング」を指定した場合

「チェック時の値」や「未チェック時の値」に関連した値がNULLの場合

使用上の注意

- デフォルト値を使用してチェックボックス、ラジオ・グループ、リスト項目などの項目の状態を初期化すると、Form Builderによってブロック内にレコードが作成されるまで、デフォルト値は割り当てられません。
- 従属するミラー項目は、マスター・ミラー項目の「初期値」プロパティを使用して初期化されます。ON-SEQUENCE-NUMBERトリガーも同様に、マスター項目から取得されます。従属するミラー項目が「初期値」プロパティおよびON-SEQUENCE-NUMBERトリガーを指定する場合、Form Builderはそれらを無視し、警告を発します。
- 実行時に、項目（または、それをミラーする項目）に対して次のすべての条件が該当する場合、このプロパティによって設定される初期値は無視されます。
 - 項目がポップリスト、Tlist、ラジオ・グループまたはチェックボックスである場合
 - 初期値に対応する要素がない場合
 - 項目がその他の値を許可しない場合
- 前リリースとの互換性を保つため、フォーム項目または順序への参照は、先頭文字をコロン(:)ではなく、アンパサンド(&)にして指定することもできます。
- 先頭文字アンパサンド(&)またはコロン(:)で始まるRAW値を指定するときは、これらの文字を2回続けて(&&または::)指定します(これは、リリース6i以降のFormsの動作変更です)。

「初期値」(項目)プロパティの制限事項

- テキスト項目では、値が「最低許容値」プロパティおよび「最大許容値」プロパティに定義された範囲内にする必要があります。
- ラジオ・ボタンでは、デフォルト値が任意のラジオ・ボタンの名前(ラベルではない)か任意のラジオ・ボタンに関連付けられた値のどちらかにする必要があります。Form Builderでは、まず、ラジオ・ボタン名がチェックされます。
- リスト項目では、デフォルト値が任意のリスト要素の名前か任意のリスト要素に関連付けられた値のどちらかにする必要があります。Form Builderでは、まず、リスト要素名がチェックされます。

「挿入可」(ブロック)プロパティ

Insert Allowed (Block)

説明

ブロック内へのレコードの挿入を許可するかどうかを指定します。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定方法

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_BLOCK_PROPERTY
- SET_BLOCK_PROPERTY

デフォルト

はい

「挿入可」(項目)プロパティ

Insert Allowed (Item)

説明

エンドユーザーに新規レコード内の(つまり、「Record_Status」が「NEW」または「INSERT」のとき)項目の値の変更を許可するかどうかを指定します。

項目の「挿入可」プロパティを「いいえ」に設定すると、エンドユーザーは新規レコード内に項目を挿入できません。たとえば、テキスト項目に入力したり、チェックボックスをチェックしたり、またラジオ・ボタンを選択したりすることができません。

適用されるオブジェクト

テキスト項目、チェックボックス、リスト項目、ラジオ・ボタン、イメージ項目、カスタム項目

設定方法

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_ITEM_INSTANCE_PROPERTY
- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_INSTANCE_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

はい

使用上の注意

- エンドユーザーが表示はできるが変更はできないという項目を作成する場合は、「挿入可」プロパティを「いいえ」に設定します。たとえば、システムによって生成されるキー・フィールドでは、「挿入可」プロパティを「いいえ」に設定して、普通に表示したまま(グレー表示しない)で、しかもエンドユーザーがキーを変更できないように保護する必要があります。
- 項目がマウス・イベントに応答しないようにするには、「変更可能」プロパティを「いいえ」に設定します。使用不可の項目は淡色表示され、現在使用できないことを強調します。これに対し、使用可能ではあるがログオン挿入が不可に設定されている項目においては、ユーザーはマウスまたはキーボードによりその項目の値を参照することはできますが、項目の値を変更することはできません。
- 「挿入可」プロパティは、「Record_Status」が「QUERY」や「CHANGED」のレコードに適用される「更新可」プロパティと似ています。データベース・ブロック内の項目では、「挿入可」プロパティを「更新可」プロパティと組み合わせて使用すれば、特定の項目によって表示される値をエンド・ユーザーに入力または変更させるかどうかを制御することができます。また、非データベース・ブロック内の項目では、「挿入可」プロパティを「いいえ」に設定すれば、使用禁止にしなくても表示専用の項目を作成できます。
- 「変更可能」プロパティまたは「可視」プロパティが「いいえ」(実行時にはPROPERTY_FALSE)に設定されている場合、項目または項目のインスタンスの「挿入可」プロパティは実質的には「いいえ」になります。
- 項目のインスタンスの「挿入可」プロパティを「はい」(または、実行時にはPROPERTY_TRUE)に設定しても、ブロック・レベルおよび項目レベルで一貫してその設定がなされていない限り、インスタンス・レベルでの設定は無効です。たとえば、「挿入可」プロパティがインスタンス・レベルで「はい」であり、項目レベルおよびブロック・レベルで「いいえ」の場合、ユーザーは項目インスタンスにデータを入力できません。

「挿入可」（項目）プロパティの制限事項

- SET_ITEM_PROPERTYビルトインを使用して「挿入可」を「はい」に設定する場合、項目プロパティを次のように設定する必要があります。
 - 「変更可能」を「はい」（実行時にはPROPERTY_TRUE）に設定する
 - 「可視」を「はい」（実行時にはPROPERTY_TRUE）に設定する
- 「挿入可」が複数のレベル（項目インスタンス、項目およびブロック）で指定されているとき、値はAND結合されます。つまり、項目のインスタンスの「挿入可」プロパティを「はい」（実行時にはPROPERTY_TRUE）に設定しても、ブロック・レベルおよび項目レベルで一貫してその設定がなされていない限り、インスタンス・レベルでの設定は無効です。たとえば、「挿入可」プロパティがインスタンス・レベルで「はい」であり、項目レベルおよびブロック・レベルで「いいえ」の場合、ユーザーは項目インスタンスにデータを入力できません。

「挿入プロシージャの引数」プロパティ

Insert Procedure Arguments

説明

データ・ブロックにデータを挿入するプロシージャに渡す、引数の名前、データ型、値を指定します。「挿入プロシージャの引数」プロパティは、「DMLデータ宛先タイプ」プロパティが「プロシージャ」に設定されている場合にのみ有効です。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定方法

Form Builder

デフォルト

NULL

必須/オプション

オプション

「挿入プロシージャ名」プロパティ

Insert Procedure Name

説明

データ・ブロックにデータを挿入するのに使用するプロシージャの名前を指定します。「挿入プロシージャ名」プロパティは、「DMLデータ宛先タイプ」プロパティが「プロシージャ」に設定されている場合にのみ有効です。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定方法

Form Builder

デフォルト

NULL

必須/オプション

オプション

「挿入プロシージャの結果セット列」プロパティ

Insert Procedure Result Set Columns

説明

データ・ブロックにデータを挿入するプロシージャに関連付けられている、結果設定列の名前とデータ型を指定します。「挿入プロシージャの結果セット列」プロパティは、「DMLデータ宛先タイプ」プロパティが「プロシージャ」に設定されている場合にのみ有効です。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定方法

Form Builder

デフォルト

NULL

必須/オプション

オプション

「対話モード」プロパティ

Interaction Mode

説明

フォーム・モジュールに対して対話モードを指定します。対話モードは、ユーザーが問合せの間にフォームとどのように対話できるかを示します。「対話モード」プロパティが「ブロック」に設定されていると、問合せに対するレコードがデータベースからフェッチされるまでの間、ユーザーはフォームのサイズを変更したり、フォームと対話したりできません。対話モードが「非ブロック」に設定されていると、エンド・ユーザーはレコードがフェッチされている間にもフォームと対話できます。

問合せに時間がかかることが予想され、ユーザーによる問合せの割込みまたは取消しを可能にする場合、非ブロック対話モードが役立ちます。このモードでは、ユーザーが問合せを取り消すことのできるダイアログがForms Runtimeによって表示されます。

対話モードはプログラムで設定できませんが、GET_FORM_PROPERTYビルトインを使用すると、プログラムによって対話モードを取得できます。

適用されるオブジェクト

フォーム・モジュール

設定方法

Form Builder

参照するビルトイン

■ GET_FORM_PROPERTY

デフォルト

ブロック化

必須/オプション

必須

「孤立モード」プロパティ

Isolation Mode

説明

セッション中のトランザクションが直列可能か否かを指定します。「孤立モード」プロパティの値が「シリアル化可能」の場合、エンド・ユーザーはトランザクションの全体の長さに対応してデータベースの首尾一貫した表示を見ることができます。これは、他のユーザーによって更新がコミットされても関係ありません。エンド・ユーザーが行の問合せおよび変更を行い、2番目のユーザーが別のセッションから同じ行の更新およびコミットを行う場合、最初のユーザーはエラー（ORA-08177:アクセスを逐次化できません。）となります。

適用されるオブジェクト

フォーム・モジュール

設定方法

Form Builder

使用上の注意

シリアル化可能モードは少数ユーザーが大規模なデータベースに対してトランザクションを行う場合に最適です。言い換えれば、2つのトランザクションが同じ行を更新する可能性が低く、長時間実行のトランザクションは問合せである場合です。トランザクション集中の処理系のためには、孤モードを読み込みコミット済み（デフォルト）にします。シリアル化可能モードは、ブロック・レベルのプロパティ「ロック・モード」が「遅延」に設定されている場合に使用するのが最適です。

デフォルト

読み込みコミット済み

必須/オプション

必須

「項目ロール」プロパティ

Item Roles

説明

そのメニュー項目に対するアクセス権限を付与するメニュー・ロールを指定します。

適用されるオブジェクト

メニュー項目

設定方法

Form Builder

必須/オプション

オプション

使用上の注意

このプロパティでできるのは、ロール・リストに表示されたメニュー・ロールのメンバーにアクセス権限を付与することのみです。ロール・リストにロールを追加するには、メニュー・モジュール・プロパティ「モジュール・ロール」を設定します。

「項目ロール」プロパティの制限事項

メニュー・モジュールのロール・リストにロール名が最低1つ指定されている場合にのみ有効です。

「項目のタイプ」プロパティ

Item Type

説明

項目のタイプを指定します。項目に指定できるタイプは次のとおりです。

- ActiveXコントロール（32ビットWindowsプラットフォーム）
- Bean領域
- チャート項目
- チェックボックス
- 表示項目
- 階層ツリー
- イメージ
- リスト項目

- OLEコンテナ
- 押しボタン
- ラジオ・グループ
- サウンド
- テキスト項目
- ユーザー領域
- VBXコントロール (Microsoft Windows 3.1のみ)

適用先

メニュー項目

設定方法

Form Builder

デフォルト

テキスト項目

必須/オプション

必須

「Item_Is_Valid」プロパティ

説明

項目が有効であるというマークを内部的に付けるかどうかを指定します。

適用されるオブジェクト

項目

設定方法

プログラム

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY

■ SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

新規レコードの項目: いいえ

問合せ対象レコードの項目: はい

使用上の注意

- テキスト項目の現在のステータスが有効かどうかをチェックする場合に、「Item_Is_Valid」プロパティを使用します。
- 「Item_Is_Valid」プロパティを「はい」に設定すると、Form Builderでは項目の現在のデータが有効とみなされ、次の妥当性チェックに進みます。「Item_Is_Valid」を「いいえ」に設定すると、Form Builderではテキスト項目内のデータが無効とみなされ、そのデータが次の妥当性チェックでチェックされます。

「Item_Tab_Page」プロパティ

説明

項目を配置するタブ・ページを指定します。

適用されるオブジェクト

項目

参照するビルトイン

■ GET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

なし

「Item_Tab_Page」プロパティの制限事項

「結合条件」プロパティ

Join Condition

説明

マスター・ブロック内のレコードとディテール・ブロック内のレコードをリンクするリレーションシップを定義します。

適用されるオブジェクト

リレーション

設定方法

Form Builder

必須/オプション

リレーション・オブジェクトの場合は必須

使用上の注意

次の項目により結合条件を指定できます。

- マスター・ブロックとディテール・ブロック (block_2.item_3) の両方に存在する項目名。
- 2つの項目名の等価条件。ここで、2つの項目の1つはマスター・ブロック内の項目、もう1つはディテール・ブロック内の項目です。
- 項目名と等価条件の組合せ。

「結合条件」プロパティの制限事項

- 結合条件の最大文字数は255です。

結合条件の例

両方のブロックに共通するORDIDテキスト項目を使用して、ディテール・ブロックをマスター・ブロックにリンクする場合は、結合条件を次のように定義します。

ORDID

複数のテキスト項目を使用してディテール・ブロックをマスター・ブロックにリンクする場合は、結合条件を次のように定義します。

block1.item1 = block2.item1 AND block1.item2 = block2.item2

なお、定義する結合条件は、ブロックの基になる表の列間のリレーションではなく、各ブロック内の項目間のリレーションです。したがって、フォーム内に実在しない項目を指定すると、結合条件が無効になります。

「結合形式」プロパティ

Join Style

説明

図形オブジェクトの結合形式を「角」、「凹凸」または「丸め」のいずれかに指定します。

適用されるオブジェクト

物理図形

設定方法

Form Builder

デフォルト

角

必須/オプション

オプション

「文字位置」プロパティ

Justification

説明

項目内のテキストの位置を指定します。このプロパティに指定できる値は次のとおりです。

値	説明
左揃え	「読み込み順序」プロパティの値に関係なく、「左揃え」で表示します。
中央揃え	「読み込み順序」プロパティの値に関係なく、「中央揃え」で表示します。
右揃え	「読み込み順序」プロパティの値に関係なく、「右揃え」で表示します。
始点	項目の枠ボックスの読み取り開始位置にテキストを表示します。開始境界線は項目の「読み取り順序」プロパティの値に依存します。 「始点」は、「読み込み順序」プロパティが「右から左」であれば「右揃え」と、「読み込み順序」が「左から右」であれば「左揃え」と等価です。
終点	項目の枠ボックスの読み取り終了位置にテキストを表示します。終わりの境界線は項目の「読み取り順序」プロパティの値に依存します。 終点は読み取り順序が「右から左」の場合は「左揃え」で評価され、「左から右」の場合は「右揃え」で評価されます。

適用先

表示項目、テキスト項目

設定方法

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

始点

使用上の注意

- 一方向アプリケーション（「読み込み順番」が「左から右」）の場合は、大抵、デフォルト値「始点」をそのまま使用します。一方向アプリケーションでは、「始点」は「左揃え」と、「終点」は「右揃え」とまったく同じ結果になります。
- 双方向アプリケーションの場合:
 - データが項目の読み取り順序に整列する必要がある場合は、始点(デフォルト)を選びます。
 - データが項目の読み取り順序と逆に整列する必要がある場合は、終点を選びます。
- このプロパティは、一部のウィンドウ・マネージャではサポートされません。

「カーソル位置を保持」プロパティ

Keep Cursor Position

説明

テキスト項目において最後にアクセスしたときと同じ位置にカーソルを配置するかどうかを指定します。

適用されるオブジェクト

テキスト項目

設定方法

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

いいえ

使用上の注意

エンド・ユーザーに項目間でカーソルを自由に移動させ、一部のみ入力した項目に戻ったときに入力したテキストの最後にカーソルが表示されるようにする場合は、このプロパティを「はい」に設定します。

「カーソル位置を保持」プロパティの制限事項

このプロパティは、一部のウィンドウ・マネージャではサポートされません。

「キー・モード」プロパティ

Key Mode

説明

Form Builderでデータベース内の各行を識別する方法を指定します。このプロパティは、Oracle以外のデータ・ソースを使用するアプリケーションのために用意されています。Oracleデータベースを使用するアプリケーションでは、デフォルト値を使用します。

デフォルトでは、Oracleデータベースは重複しないROWIDの値を使用して各行を識別します。一方、Oracle以外のデータベースにはROWIDの構成体がないため、一意の主キーを使用して個々の行を識別します。したがって、Oracle以外のデータ・ソースを使用するフォームを作成する場合は、主キーを使用し、主キーの設定に合わせて「キー・モード」ブロック・プロパティを設定する必要があります。

値	説明
自動（デフォルト）	データソースがROWIDをサポートしている場合に、Form BuilderがROWID構成体を使用してデータソースの一意の行を識別するよう指定します。
更新不可	Form BuilderがUPDATE文に主キー列を一切含めないよう指定します。この設定は、データベースが主キー値の更新を許可しない場合に使用されます。
一意	ROWID構成体を使用して、ORACLEデータベースの一意の行を識別するようForm Builderに指示します。

更新可能	Form Builderが主キー値を含むUPDATE文を発行するよう指定します。この設定は、データベースにおいて主キー列の更新を許可し、アプリケーションにおいて主キー値を更新する場合に使用してください。
------	---

適用されるオブジェクト

ブロック

設定方法

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_BLOCK_PROPERTY
- SET_BLOCK_PROPERTY

デフォルト

一意

使用上の注意

「キー・モード」プロパティを「更新可能」または「更新不可」に設定した場合は、そのブロックの「主キーの強化」ブロック・プロパティを「はい」に、そのブロック内の項目の少なくとも1つの「主キー」項目プロパティを「はい」に設定して、フォームの主キー項目が識別できるようにする必要があります。

「キーボード・アクセラレータ」プロパティ

Keyboard Accelerator

説明

メニュー項目に関連付ける論理ファンクション・キーを指定します。アクセラレータ・キーはACCELERATOR1、ACCELERATOR2などと呼ばれます。エンドユーザーは、キーまたは論理アクセラレータ・キーにマップされたキーの組合せを押下することでメニュー項目を選択できます。

適用されるオブジェクト

メニュー項目

設定方法

Form Builder

必須/オプション

オプション

使用上の注意

論理アクセラレータ・キーの物理デバイス・キーに対するマッピングは、ランタイム・リソース・ファイルに定義されています。Oracle Terminal内のリソース・ファイルを編集して、キー・マッピングを変更する必要があります。また、Oracle Terminal内に新たなアクセラレータ・キー（アクセラレータ6、アクセラレータ7、...）を作成して、メニュー・モジュールのメニュー項目に関連付けることもできます。

「キーボード・アクセラレータ」プロパティの制限事項

- このプロパティは、セパレータ・メニュー項目には設定できません。
- キー・マッピングをForm Builderの標準キー・マッピングに連動させないでください。
- バー形式のメニューに関連付けた場合、アクセラレータ・キーを使用できるのは現在表示されているメニュー上の項目のみです。

「キーボード・ヘルプで表示」プロパティ

Keyboard Help Description

説明

「キーボード・ヘルプで表示」プロパティを「はい」に設定した場合に、ランタイム「キー」ヘルプ画面に表示するキー・トリガーの説明を指定します。「キー」画面には、キー名とそのキーに対応付けられている物理的なキーストローク（例: [Ctrl]-[S]）のリストが表示されます。

適用されるオブジェクト

トリガー

設定方法

Form Builder

デフォルト

ブランク

使用上の注意

- キーウィンドウに名前や説明を表示する必要がない場合、「キーボード・ヘルプで表示」プロパティを「いいえ」に設定します。これはデフォルト設定でもあります。
- トリガーに対応するキー名とそのキーのデフォルトの説明を「キー」ウィンドウに表示する場合は、「キーボード・ヘルプで表示」プロパティを「はい」に設定し、「キーボード・ヘルプで表示」プロパティを空白にします。
- デフォルトのキーの説明を変更する場合は、このプロパティを「はい」に設定し、「キーボード・ヘルプで表示」フィールドに説明を入力します。

「キーボード・ヘルプで表示」プロパティの制限事項

キー・トリガーにのみ有効です。

「キーボードで移動可能」プロパティ

Keyboard Navigable

説明

デフォルトのナビゲーション操作で、エンド・ユーザーまたはアプリケーションがその項目内に入力フォーカスを移動できるかどうかを指定します。このプロパティを「はい」に設定すると、その項目がナビゲート可能になります。「いいえ」に設定すると、Form Builderによってその項目が飛ばされ、デフォルトのナビゲーション順序の次のナビゲート可能項目に移動します。項目のデフォルトのナビゲーション順序は、オブジェクト・ナビゲータで定義された項目の順序と同じです。

適用されるオブジェクト

チャート項目と図表項目を除くすべての項目

設定方法

Form Builder、プログラム [NAVIGABLE]

参照するビルトイン

- GET_ITEM_INSTANCE_PROPERTY
- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_INSTANCE_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

はい

使用上の注意

- 「変更可能」プロパティまたは「可視」プロパティが「いいえ」に設定（実行時にはPROPERTY_FALSE）されている場合、その項目または項目のインスタンスの「キーボードで移動可能」プロパティは実質的には「いいえ」になります。実行時に、「変更可能」プロパティがPROPERTY_FALSEに設定されると、「Keyboard_Navigable」プロパティもPROPERTY_FALSEに設定されます。ただし、その後「変更可能」プロパティの設定が、PROPERTY_TRUEに戻された場合でも、「キーボードで移動可能」プロパティはPROPERTY_TRUEに設定されません。これは明示的に変更する必要があります。
- 「キーボードで移動可能」プロパティが複数のレベル（項目インスタンス、項目およびブロック）で指定されているとき、値はAND結合されます。すなわち、項目のインスタンスの「キーボードで移動可能」プロパティを「はい」に（または、実行時のPROPERTY_TRUEをNAVIGABLEに）設定しても、項目レベルで一貫してその設定がなされていない限り、インスタンス・レベルでの設定は無効です。たとえば、「キーボードで移動可能」がインスタンス・レベルで「はい」であり、項目レベルで「いいえ」の場合、ユーザーは項目インスタンスにナビゲートできません。
- GO_ITEMビルトイン・プロシージャを使用すると、「キーボードで移動可能」プロパティが「いいえ」に設定された（実行時にはPROPERTY_FALSE）項目にナビゲートできます。

「キーボードで移動可能」プロパティの制限事項

- SET_ITEM_PROPERTYビルトインを使用してこのプロパティを「はい」に設定する場合、項目プロパティを次のように設定する必要があります。
 - 「変更可能」を「はい」（実行時にはPROPERTY_TRUE）に設定する。
 - 「可視」を「はい」（実行時にはPROPERTY_TRUE）に設定する。

「キーボード状態」プロパティ

Keyboard State

説明

サポートされているインターナショナルのキーボードの状態を「Any」、「ローマ字のみ」または「ローカルのみ」のいずれかに指定します。

適用されるオブジェクト

インターナショナルの項目

設定方法

Form Builder

デフォルト

Any

必須/オプション

必須

「ラベル」(項目)プロパティ

Label (Item)

説明

ボタン、チェックボックス、ラジオ・グループのラジオ・ボタンに表示するテキスト・ラベルを指定します。

適用されるオブジェクト

ボタン、チェックボックス、ラジオ・グループ・ボタン

設定方法

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY
- GET_ITEM_INSTANCE_PROPERTY
- GET_RADIO_BUTTON_PROPERTY
- SET_RADIO_BUTTON_PROPERTY

デフォルト

blank

必須/オプション

オプション

「ラベル」（メニュー項目）プロパティ

Label (Menu Item)

説明

各メニュー項目のテキスト・ラベルを指定します。

適用されるオブジェクト

メニュー置換項目

設定方法

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_MENU_ITEM_PROPERTY
- SET_MENU_ITEM_PROPERTY

必須/オプション

オプション

使用上の注意

- 各メニュー項目には、名前とラベルが割り当てられます。ラベルはランタイムGUIでのみ使用され、プログラミングに使用できる名前とは区別されます。
- メニュー項目の名前はPL/SQLの命名規則に従う必要がありますが、ラベルにはさまざまな文字や句読点を使用できます。たとえば、「More info...」は有効なラベルですが、このオブジェクトの名前はmore_infoのように指定する必要があります。
- メニュー・エディタに新しいメニュー項目を作成した場合、Form Builderはデフォルト名前たとえばITEM2、およびデフォルトラベル、<New Item>を作成します。オブジェクト・ナビゲータまたはプロパティ・パレットで変更するまでITEM2のような名前であったものが、メニューエディタ使用して項目を編集する際、“キー表示”のような名前に変更できます。

「ラベル」(メニュー置換パラメータ)プロパティ

Label (Menu Substitution Parameter)

説明

置換パラメータの値をエンド・ユーザーに入力させるときにプロンプトとして表示するラベルを指定します。

適用先

メニュー置換パラメータ

設定方法

Form Builder

必須/オプション

オプション

「ラベル」(メニュー置換パラメータ)プロパティの制限事項

なし

「ラベル」(タブ・ページ)プロパティ

Label (Tab Page)

説明

タブ・ページのタブに表示するラベルを指定します。エンド・ユーザーがこのラベル付きタブをクリックすると、タブ・キャンバスのタブ・ページが表示されます。

適用されるオブジェクト

タブ・ページ

設定方法

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

■ GET_TAB_PAGE_PROPERTY

■ SET_TAB_PAGE_PROPERTY

必須/オプション

オプション

「ラベル」（タブ・ページ）プロパティの制限事項

なし

「Last_Block」プロパティ

説明

そのフォームで順序番号が最も大きいブロック、つまり、オブジェクト・ナビゲータでブロック・リストの最後に表示されるブロックの名前を表します。

適用されるオブジェクト

フォーム・モジュール

設定方法

設定できません。

参照するビルトイン

■ GET_FORM_PROPERTY

「Last_Item」プロパティ

説明

そのブロックで順序番号が最も大きい項目、つまり、オブジェクト・ナビゲータで項目リストの最後に表示される項目の名前を表します。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定方法

設定できません。

参照するビルトイン

■ GET_BLOCK_PROPERTY

「Last_Query」プロパティ

説明

そのブロックの最後の問合せで使用されるSQL文を表します。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定方法

設定できません。

参照するビルトイン

■ GET_BLOCK_PROPERTY

「レイアウト・データ・ブロック」プロパティ

Layout Data Block

説明

その枠が関連付けられているデータ・ブロックの名前を指定します。このブロック内の項目が枠内に配置されます。1つの枠に関連付けられるブロックは1つのみです。複数の枠内にはブロックの項目は配置できません。

適用されるオブジェクト

枠

設定方法

Form Builder

デフォルト

NULL

必須/オプション

必須

「レイアウト・スタイル」プロパティ

Layout Style

説明

枠内に表示する項目のレイアウト・スタイルを指定します。

フォーム	枠のデフォルトのスタイル。「レイアウト・スタイル」プロパティを「フォーム」に設定すると、Form Builderによって項目が2列に配置され、各項目の左にテキスト図形のプロンプトが表示されます。
単表	「レイアウト・スタイル」プロパティを「単表」に設定すると、Form Builderによって項目が1列に配置され、各項目の上にテキスト図形のプロンプトが表示されます。

適用されるオブジェクト

枠

設定方法

Form Builder

デフォルト

フォーム

必須/オプション

必須

「レイアウト・スタイル」の表示

フォーム

Employee				
Empno	EMP	Ename	ENAME	
Job	JOB	Mgr	MG	
Hiredate	HIREDATA	Sal	SAL	
Comm	COMM	Deptno	D	

単表

Employee				
Empno	Ename	Job	Mgr	Hiredate
EMP	ENAME	JOB	MG	HIREDATA

「長さ」(レコード・グループ)プロパティ

Length (Record Group)

説明

「列仕様」を参照。

「線の間隔」プロパティ

Line Spacing

説明

テキスト・オブジェクトの線間隔を「シングル」、「1-1/2」、「ダブル」または「カスタム」のいずれかに指定します。「カスタム」を選択した場合、線の間隔は「カスタム・スペース」プロパティの値によって決まります。

適用されるオブジェクト

図形テキスト

設定方法

Form Builder

デフォルト

シングル

必須/オプション

必須

「線幅」プロパティ

Line Width

説明

オブジェクトの枠の幅をポイント (1/72インチ) 単位で指定します (Graphics Builderの「境界幅」プロパティと同じ)。

適用されるオブジェクト

物理図形

設定方法

Form Builder

必須/オプション

オプション

「リスト項目値」プロパティ

List Item Value

説明

ラジオ・ボタンに関連付ける値を指定します。

適用先

ラジオ・ボタン

設定方法

Form Builder

デフォルト

NULL

必須/オプション

必須

使用上の注意

「リスト項目値」フィールドをブランクのままにすると、そのラジオ・ボタンにはNULL値が関連付けられます。

「リスト項目値」プロパティの制限事項

- ラジオ・ボタンに対応付ける値はラジオ・グループ内で一意にする必要があります。

「値リスト」プロパティ

List of Values

説明

テキスト項目に関連付ける値リストを指定します。テキスト項目に値リストが関連付けられている場合に、エンド・ユーザーがその項目にナビゲートして「値リスト」ボタンを押すと、値リストが表示されます。値リストが使用可能なことをエンド・ユーザーに知らせるために、値リストが関連付けられたテキスト項目が入力フォーカスを取得すると、Form Builderによってメッセージ行に値リスト・リスト・ランプが表示されます。

適用されるオブジェクト

テキスト項目

設定方法

Form Builder

参照するビルトイン

■ GET_ITEM_PROPERTY

必須/オプション

オプション

「値リスト」プロパティの制限事項

値リストはアクティブなフォーム・モジュール内にする必要があります。

「リスト形式」プロパティ

List Style

説明

リスト項目の表示形式、つまり、「ポップリスト」、「コンボ・ボックス」、「Tlist」のいずれかを指定します。ポップリストとコンボ・ボックスはTlistより場所をとりませんが、エンド・ユーザーはポップリストやコンボ・ボックスを開いてリスト要素を表示する必要があります。Tlistは"オープン"にし、エンド・ユーザーはリストが複数の値を表示可能な大きさである場合は、同時に複数の値を見ることができます。

適用されるオブジェクト

リスト項目

設定方法

Form Builder

デフォルト

ポップリスト

使用上の注意

「リスト形式」プロパティで指定するリスト項目の表示形式は、リスト項目のデータ構造には一切影響しません。

「リスト・タイプ」プロパティ

List Type

説明

値リストの基となるレコード・グループ・オブジェクトを参照する方法を指定します。各値リストにはレコード・グループが関連付けられており、実行時にこのグループから値が取り出されます。

適用先

値リスト

設定方法

Form Builder

デフォルト

問合せ

必須/オプション

必須

使用上の注意

このプロパティに設定できる値は次のとおりです。

レコード・グループ	既存のレコード・グループから値リストを取り出す場合に、このオプションを指定します。このオプションを選択した場合は、「レコード・グループ」プロパティのドロップダウン・リストからレコード・グループ名を選択する必要があります。指定できるレコード・グループは、既にそのアクティブ・フォーム内に存在する静的レコード・グループまたは問合せレコード・グループです。
旧	このオプションは、Form Builderの旧バージョンとの互換性を確保するために用意されています。新しいアプリケーションでは使用できません。

「リスト・タイプ」プロパティの制限事項

なし

「X位置のリスト」プロパティ

List X Position

説明

値リストの左上角の水平 (X) 座標を画面上の相対位置で指定します。「値リスト」プロパティを設定してテキスト項目に値リストを関連付けた場合は、「X位置のリスト」プロパティと「Y位置のリスト」プロパティを設定して値リストのデフォルトの表示位置を変更できます。

適用されるオブジェクト

テキスト項目

設定方法

Form Builder

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

0。デフォルトのX座標に値リストが表示されます。

必須/オプション

必須

使用上の注意

- 「X位置のリスト」プロパティと「Y位置のリスト」プロパティを両方ともデフォルトの0のままにすると、値リスト作成時に指定した位置に値リストが表示されます。配置調整を指定したら、値リストのデフォルト位置に調整するよう上書きします。
- 「値リスト」プロパティをブランクにすることはできません。

「Y位置のリスト」プロパティ

List Y Position

説明

値リストの左上角の垂直 (Y) 座標を画面上の相対位置で指定します。「値リスト」プロパティを設定してテキスト項目に値リストを関連付けた場合は、「Y位置のリスト」プロパティと「X位置のリスト」プロパティを設定して値リストのデフォルトの表示位置を変更できます。

適用されるオブジェクト

テキスト項目

設定方法

Form Builder

参照するビルトイン

■ GET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

0。デフォルトのY座標に値リストが表示されます。

必須/オプション

必須

使用上の注意

- 「X位置のリスト」プロパティと「Y位置のリスト」プロパティを両方ともデフォルトの0のままにすると、値リスト作成時に指定した位置に値リストが表示されます。配置調整を指定したら、値リストのデフォルト位置に調整するよう書きします。
- 「値リスト」プロパティをブランクにすることはできません。

「データ・ブロック・メニューにリスト済み」プロパティ/「データ・ブロックの記述」プロパティ

Listed in Data Block Menu/Data Block

そのブロックをブロック・メニューに表示するかどうかを指定します。表示する場合は、メニュー上に表示するテキストを入力します。

Form Builderには組み込みメニューがあります。このメニューでは、エンド・ユーザーが[Block Menu]を押すと、現在フォームのブロックのリストが呼び出されます。エンド・ユーザーがリストからブロックを選べば、Form Builderはブロック内で最初に入力可能な項目にナビゲートします。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定方法

Form Builder

デフォルト

「はい」。「データ・ブロックの記述」プロパティは、新規ブロックの場合は「NULL」、既存ブロックの場合はそのブロックが作成されたときのブロック名です。

必須/オプション

オプション

「データ・ブロック・メニューにリスト済み」プロパティと「データ・ブロックの記述」プロパティの制限事項

「データ・ブロック・メニューにリスト済み」プロパティを「はい」に設定しても「データ・ブロックの記述」プロパティをブランクのままにすると、そのブロックは「ブロック・メニュー」に表示されません。

「ロック・プロシージャの引数」プロパティ

Lock Procedure Arguments

説明

データをロックするプロシージャに渡す引数の名前およびデータ型、値を指定します。「ロック・プロシージャの引数」プロパティは、「DMLデータ宛先タイプ」プロパティが「プロシージャ」に設定されている場合にのみ有効です。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定方法

Form Builder

デフォルト

NULL

必須/オプション

オプション

「ロック・プロシージャ名」プロパティ

Lock Procedure Name

説明

データをロックするのに使用するプロシージャの名前を指定します。「ロック・プロシージャ名」プロパティは、「DMLデータ宛先タイプ」プロパティが「プロシージャ」に設定されている場合にのみ有効です。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定方法

Form Builder

デフォルト

NULL

必須/オプション

オプション

「ロック・プロシージャの結果セット列」プロパティ

Lock Procedure Result Set Columns

説明

データをロックするプロシージャに関連付けられた結果設定列の名前とデータ型を指定します。「ロック・プロシージャの結果セット列」プロパティは、「DMLデータ宛先タイプ」プロパティが「プロシージャ」に設定されている場合にのみ有効です。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定方法

Form Builder

デフォルト

NULL

必須/オプション

オプション

「ロック・レコード」プロパティ

Lock Record

説明

テキスト項目の値がエンド・ユーザーあるいはプログラムにより更新された時は常に、ブロック内の現行レコードに接続しているデータベースの中の行をForm Builderがロックするように設定します。

適用されるオブジェクト

テキスト項目

設定方法

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

いいえ

使用上の注意

- テキスト項目が制御項目（実表の列に対応付けられていない項目）であっても、Form Builderでそのブロック内の現行のレコードに対応するデータベース内の行をロックする場合に、このプロパティを「はい」に設定します。
- このプロパティは、基礎を形成するレコードをロックする必要のある参照テキスト項目に使用します。
- SET_ITEM_PROPERTYビルトインを使用して「ロック・レコード」プロパティを設定する場

合は、定数LOCK_RECORD_ON_CHANGEを使用します。

「ロック・レコード」プロパティの制限事項

このプロパティは、その項目がデータ・ブロック内の制御項目（「データベース項目」プロパティが「いいえ」に設定されている項目）の場合にのみ有効です。

「ロック・モード」プロパティ

Locking Mode

説明

フォーム内の問合せ対象レコードに対応する行をいつロックするかを指定します。このプロパティの設定値とその効果は次のとおりです。

値	説明
自動（デフォルト）	データソースがOracleデータベースの場合、即時と同じです。その他のデータソースについては、Form Builderは使用可能なロック機能を判断し、できる限り即時と同じような動作をします。
即時	エンド・ユーザーがキーを押して、テキスト項目内で値を入力または編集すると、Form Builderは直ちに対応する行をロックします。
遅延	エンド・ユーザーがレコードを編集している間でなく、トランザクションがデータベースにポストされている間のみForm Builderは行をロックします。Form Builderでは、ブロックのフィールド値が変更された場合にユーザーがコミット動作を行うと、そのコミット動作の処理が防止されます。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定方法

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_BLOCK_PROPERTY
- SET_BLOCK_PROPERTY

デフォルト

自動

使用上の注意

ほとんどのアプリケーションに対して、「自動」のデフォルト設定を使用します。

「即時」の設定は既存のアプリケーションとの互換性を保持しますが、新しいアプリケーションに対してこの設定を使用する必要はありません。この場合は、「自動」を使用してください。

「遅延」の設定は、ロックの回数、または行がロックされている時間を最小限に抑える必要があるアプリケーションに対して有効です。「遅延」モードは、フォームの「孤立モード」プロパティがシリアル化可能に設定されている場合に使用します。

遅延ロックの不利な点は次のとおりです。

- エンド・ユーザーがブロックに対して行う変更を、コミット時に再び行う必要があることがあります。
- 別のユーザーのロックによって、最初のエンド・ユーザーは無期限に待機するか、変更を諦めるかの選択を余儀なくされることがあります。

「マジック項目」プロパティ

Magic Item

説明

カスタム・メニュー用の事前定義済みメニュー項目、つまり「カット」、「コピー」、「ペースト」、「消去」、「元に戻す」、「情報」、「ヘルプ」、「終了」、「ウィンドウ」の中から1つ選択します。マジック・メニュー項目は、そのときフォームが実行されているプラットフォームに固有のスタイルで自動的に表示されます。マジック・メニュー項目には適切なアクセラレータ・キーもそれぞれ割り当てられています。

「カット」、「コピー」、「ペースト」、「消去」、「ウィンドウ」および「終了」マジック・メニュー項目にはForm Builderによってビルトイン機能が割り当てられますが、その他の項目にはコマンドを対応付けることができます。

適用されるオブジェクト

メニュー項目

設定

Form Builder

デフォルト

カット

必須/オプション

オプション

使用上の注意

このプロパティに設定できる値は次のとおりです。

設定	説明
カット、コピー、ペースト、消去	これらの項目は、一般的なテキスト操作命令を実行します。Form Builderによってビルトイン機能が提供されるので、設計者がコマンドを入力する必要はありません。
元に戻す、情報	これらの項目にはビルトイン機能がないため、設計者がコマンドを入力する必要があります。「メニュー」以外であれば、あらゆるタイプのコマンドを入力できます。
ヘルプ	「ヘルプ」メニュー項目のコマンド・タイプは「メニュー」であることが必要です。設計者はこのサブメニュー上に項目の機能を追加します。

終了	「終了」にもビルトイン機能が用意されているため、設計者がコマンドを割り当てる必要はありません。
ウィンドウ	「ウィンドウ」マジック・メニュー項目により、開いているすべてのウィンドウのサブメニューが表示されるので、ユーザーはこのメニュー項目を使用して各ウィンドウをアクティブ化できます。「ウィンドウ」マジック・メニュー項目にサブメニューを起動するコマンドを割り当てると、開いているウィンドウのリストとユーザーが定義したサブメニュー項目が、Form Builderによって決定された順序で、サブメニューに表示されます。「ウィンドウ」マジック・メニュー項目に指定できるコマンド・タイプは、「NULL」または「メニュー」です。

「マジック項目」プロパティの制限事項

- あるメニュー・モジュールのメニュー階層に同じマジック・メニュー項目を2回以上定義することはできません。たとえば、マジック・メニュー項目「カット」を含むメニューを、同じメニュー・モジュールの2つの異なるオプションのサブメニューにすることはできません。
- マジック・メニュー項目の「メニューのアイコン」、「キーボード・アクセレレータ」、「ヒント」プロパティをブランクにしておいてください。

「メイン・メニュー」プロパティ

Main Menu

説明

メイン・メニューにする、あるいは実行時の起動メニューとなる、文書内の各メニューの名前を指定します。

プルダウン・メニューを作成する場合は、最初に作成したメニューの名前が自動的に設定され、メニュー名を変更した場合も自動的に更新されるので、このプロパティを変更する必要はありません。

通常、「メイン・メニュー」プロパティは、エンドユーザーがアクセスできるメニューを制限する目的で、全画面メニューに使用します。エンドユーザーは、メニュー・モジュール階層でメイン・メニューより上位のメニューにはナビゲートできません。

適用されるオブジェクト

メニュー・モジュール

設定

Form Builder

デフォルト

ブランク

必須/オプション

必須

使用上の注意

「フォーム・モジュール」プロパティ・シートで適切なプロパティを設定して、メニュー・モジュールをフォームに追加した場合は、「初期メニュー」プロパティを設定すれば、その文書内の別のメニューをメイン・メニューにすることができます。

「ほかの値のマッピング」プロパティ

Mapping of Other Values

説明

特定のリスト要素やラジオ・ボタンに対応付けられた事前定義済みの値以外の値がフェッチされたり割り当てられたりしたときに、その値をどのように解釈するかを指定します。

適用されるオブジェクト

リスト項目、ラジオ・グループ

設定

Form Builder

デフォルト

ブランク

必須/オプション

オプション

使用上の注意

- このプロパティをブランクにすると、該当する項目またはラジオ・グループに未定義の値は許可されません。ユーザーが定義した要素の値以外の値を含む問合せレコードは、すべて通知なしに拒否されます。その他の値を割り当てようとする試みは禁止されます。
- このプロパティに指定できる値は、次のいずれかに評価されるものである必要があります。

- リスト要素またはラジオ・グループのどれか1つに対応付けられている値。
- 任意のリスト要素の名前（ラベルではありません）。

「最大化可能」プロパティ

Maximize Allowed

説明

エンドユーザーにランタイム・ウィンドウ・マネージャのズーム機能を使用したウィンドウのサイズ変更を許可するかどうかを指定します。

適用されるオブジェクト

ウィンドウ

設定

Form Builder

デフォルト

はい

「最大化可能」プロパティの制限事項

- 「サイズ変更可能」プロパティが「いいえ」に設定されている場合にのみ有効。

「最大長」プロパティ

Maximum Length

説明

その項目に格納できるデータ値の最大の長さを指定します。

適用されるオブジェクト

ボタン、イメージ項目、チャート項目を除くすべての項目

設定

Form Builder

参照するビルトイン

GET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

■データベース項目の場合は、データベース表の対応する列の長さ。

注意: 項目のデータ型がNUMBERの場合は、定義された列の長さに2を加えた値が最大長に設定されます。これにより、マイナス符号(負の値の場合)と小数点を使用することもできるようになります。

■制御項目の場合は、30。

■LONG項目の場合は、240バイト。

必須/オプション

必須

使用上の注意

- 1 実行時に、項目の最大長を超える長さを書式マスクが必要とする場合、「最大長」プロパティの値はFormsによって拡張されます(書式マスクは、フォームの設計者がこの項目に対して指定した明示的なマスクか、Forms内部の変換操作で使用される暗黙的なマスクのうちの1つのどちらかになります)。
- 2 CHAR項目の場合は、「最大長」プロパティは2,048文字です。

注意: マルチバイト・キャラクタ・セットを使用するアプリケーションを作成する場合は、次の点に留意してください。

■エンドユーザーは「最大長」に指定された長さまで、シングルバイト文字を入力できます。

■エンド・ユーザーがシングルバイト文字とマルチバイト文字を混ぜて入力し、文字列のバイト単位の合計長が項目の最大長を超えた場合、その文字列は制限内に収まる文字までで切り捨てられ、警告が表示されます。このようなことのないように、その項目の「最大長」の値を設定してください(「最大長」の値がその項目の表示幅より大きい場合は、エンドユーザーが項目の中身をスクロールできるようにForm Builderによって自動的に設定されます)。

「最大長」(フォーム・パラメータ)プロパティ

Maximum Length (Form Parameter)

説明

データ型CHARのフォーム・パラメータの最大長を文字数で指定します。

適用されるオブジェクト

フォーム・パラメータ

設定

Form Builder

デフォルト

CHAR型のパラメータの場合は、30。

必須/オプション

必須

「最大長」(フォーム・パラメータ)プロパティの制限事項

■CHARパラメータの最大長は2,048バイト。

「最大長」(メニュー置換パラメータ)プロパティ

Maximum Length (Menu Substitution Parameter)

説明

メニュー・パラメータの最大長を文字数で指定します。

適用先

メニューパラメータ

設定

Form Builder

デフォルト

30

必須/オプション

必須

「1行あたりの最大オブジェクト数」プロパティ

Maximum Objects Per Line

説明

枠内の各行に表示できるオブジェクト数の最大値を指定します。

「1行当りの最大オブジェクト数」プロパティを0（デフォルト値）に設定すると、オブジェクト数の上限がなくなり、枠内の各行に表示できる数のみオブジェクトが配置されます。

このプロパティは、「レイアウト・スタイル」プロパティが「フォーム」に、「垂直方向の埋込み」プロパティが「いいえ」に設定されている場合に有効です。

適用されるオブジェクト

枠

設定

Form Builder

デフォルト

0

必須/オプション

必須

「最長問合せ時間」プロパティ

Maximum Query Time

説明

問合せの経過時間がこのプロパティの値を超えると、その問合せを終了するオプションを提供します。

適用されるオブジェクト

フォーム、ブロック

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_FORM_PROPERTY
- GET_BLOCK_PROPERTY

必須/オプション

オプション

使用上の注意

このプロパティは、「全レコード問合せ」プロパティが「はい」に設定されている場合にのみ有効です。

「取り出しレコードの最大数」プロパティ

Maximum Records Fetched

説明

問合せ中止前に実行した問合せでフェッチされたレコード数を指定します。

適用されるオブジェクト

フォーム、ブロック

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_FORM_PROPERTY
- GET_BLOCK_PROPERTY

必須/オプション

オプション

使用上の注意

取り出しレコードの最大数は、「問合せ可」および「全レコードの問合せ」プロパティが「はい」に設定されている場合にのみ有効になります。「取り出しレコードの最大数」プロパティを設定して、ユーザーの問合せで返されるレコード数を制限します。

「ヘルプの説明」プロパティ

Menu Description

説明

プルダウン・メニューやバー・メニューの表示をキャラクタ・モードで行うアプリケーションで、エンドユーザーがこのメニューにナビゲートしたときにメニュー行に表示する文字列を指定します。全画面表示形式では、このプロパティにメニュー・モジュールを識別する文字列を指定します。

適用されるオブジェクト

メニュー・モジュール

設定

Form Builder

デフォルト

デフォルトの文書名

必須/オプション

オプション

「ヘルプの説明」プロパティの制限事項

- このプロパティを適用できるのは、キャラクタ・モードのアプリケーションのみです。

「メニュー・ディレクトリ」プロパティ

Menu Directory

説明

Form Builderに.MMXランタイム・メニュー・ファイルを検索させるディレクトリを指定します。このプロパティを適用できるのは、直接参照ではなくデータベースの検索機能を使用し、.MMXランタイム・メニュー・ファイルを検索する場合のみです。

データベースの検索機能を使用するには、そのメニュー・モジュールがデータベースに格納されている必要があります。実行時に、Form Builderによってデータベース内に格納されたメニュー・モジュール定義に対して問合せが実行され、.MMXランタイム・メニュー・ファイルのディレクトリと名前が検索されます。「メニュー・ディレクトリ」と「メニュー・ファイル」

名」の2つのメニュー・モジュール・プロパティを使用して、.MMXメニュー・ファイルを検索するパスを指定します。

適用されるオブジェクト

メニュー・モジュール

設定

Form Builder

デフォルト

ブランク

必須/オプション

オプション

使用上の注意

このプロパティをブランクにすると、まずデフォルト・ディレクトリでファイルが検索され、次に事前に定義されているパスがあればそれが検索されます。検索パスの詳細は、ご使用のプラットフォームのForm Builderマニュアルを参照してください。

「メニュー・ディレクトリ」プロパティの制限事項

直接参照を使用して.MMXランタイム・メニュー・ファイルの位置を指定する場合は、このプロパティは無効です。「メニュー・ソース」フォーム・モジュール・プロパティを「ファイル」に設定してメニューをフォームに割り当てる場合に、直接参照を使用します。

「メニュー・ファイル名」プロパティ

Menu Filename

説明

フォーム起動時にForm Builderに検索させる.MMXランタイム・メニュー・ファイルの名前を指定します。このプロパティを適用できるのは、直接参照ではなくデータベースの検索機能を使用して、.MMXランタイム・メニュー・ファイルを検索する場合のみです。

データベースの検索機能を使用するには、そのメニュー・モジュールがデータベースに格納されている必要があります。実行時に、Form Builderによってデータベース内に格納されたメニュー・モジュール定義に対して問合せが実行され、.MMXランタイム・メニュー・ファイルのディレクトリと名前が検索されます。「メニュー・ディレクトリ」と「メニュー・ファイル

名」の2つのメニュー・モジュール・プロパティを使用して、.MMXメニュー・ファイルを検索するパスを指定します。

適用されるオブジェクト

メニュー・モジュール

設定

Form Builder

デフォルト

「モジュール名」プロパティの値

必須/オプション

必須

使用上の注意

このプロパティをブランクにすると、まずデフォルト・ディレクトリでファイルが検索され、次に事前に定義されているパスがあればそれが検索されます。検索パスの詳細は、使用しているプラットフォームのForm Builderマニュアルを参照してください。

「メニュー・ファイル名」プロパティの制限事項

■ファイルの拡張子.MMXを指定する必要はありません。

「メニュー項目コード」プロパティ

Menu Item Code

説明

メニュー項目に対するPL/SQLコマンドをその内容とするプロパティです。

適用先

メニュー項目

設定

Form Builder

必須/オプション

必須

使用上の注意

「詳細...」ボタンをクリックすると、そのメニュー項目に対してPL/SQLエディタが開き、PL/SQLコマンドが編集できます。

「メニュー項目ラジオ・グループ」プロパティ

Menu Item Radio Group

説明

現行のラジオ・メニュー項目が属しているラジオ・グループの名前を指定します。

適用されるオブジェクト

メニュー項目

設定

Form Builder

必須/オプション

必須

使用上の注意

同じ論理セットに属しているラジオ項目には、すべて同じラジオ・グループ名を指定してください。

「メニュー項目ラジオ・グループ」プロパティの制限事項

- ラジオ項目は同じメニュー上に隣接させて配置します。
- 各メニューに対応付けられるラジオ・グループは1つのみです。

「メニュー項目タイプ」プロパティ

Menu Item Type

説明

メニュー項目のタイプ、つまり、「プレーン」、「チェック」、「マジック」、「ラジオ」、「セパレータ」のいずれかを指定します。メニュー項目のタイプによって、その項目がどのように表示されるか、その項目にコマンドを対応付けられるかどうかが決まります。

適用先

メニュー項目

設定

Form Builder

デフォルト

プレーン

使用上の注意

使用可能なメニュー項目タイプは次のとおりです。

プレーン	これがデフォルトです。標準のテキスト・メニュー項目。
チェック	「はい」または「いいえ」、「チェックあり」または「チェックなし」に設定されるBOOLEAN型メニュー項目。 エンドユーザーが「チェック」メニュー項目を選択すると、Form Builderによってその項目の状態がトグルされ、そのメニュー項目にコマンドが対応付けられていればそのコマンドが実行されます。
マジック	事前定義済みのメニュー項目、つまり、「カット」、「コピー」、「ペースト」、「消去」、「元に戻す」、「情報」、「ヘルプ」、「終了」、「ウィンドウ」のいずれかを示します。マジック・メニュー項目は、適切なアクセラレータ・キーが割り当てられて、プラットフォームの規則で定義する位置に、フォームが実行されるプラットフォームの元のスタイルで自動的に表示されます。「カット」、「コピー」、「ペースト」、「消去」、「ウィンドウ」および「終了」マジック・メニュー項目にはForm Builderによってビルトイン機能が割り当てられますが、その他の項目にはコマンドを対応付ける必要があります。
ラジオ	ラジオ・グループの一部であるブール型メニュー項目。「メニュー項目ラジオ・グループ」プロパティ・フィールドにラジオ・グループ名を入力してください。グループ内のラジオ・メニュー項目が1度に1つのみ選択されます。 エンドユーザーが任意の「ラジオ」メニュー項目を選択すると、Form Builderによってその項目の選択状態がトグルされ、そのメニュー項目にコマンドが対応付けられていればそのコマンドが実行されます。
セパレータ	線または外観項目。メニュー上で他のメニュー項目を分ける場合に、「セパレータ」メニュー項目を指定します。「セパレータ」メニュー項目は選択できません。したがって、コマンドを対応付けることはできません。

■GET_MENU_ITEM_PROPERTYやSET_MENU_ITEM_PROPERTYビルトインを使用して、

チェック・メニュー項目やラジオ・メニュー項目の状態を取得したり設定することができます。

- 「カット」、「コピー」、「消去」および「ペースト」の「マジック」メニュー項目は、Form Builderによって自動的に使用可能または無効に設定されます。また、GET_MENU_ITEM_PROPERTYやSET_MENU_ITEM_PROPERTYビルトインを使用して、プログラムによってマジック・メニュー項目の状態を取得したり設定したりすることもできますが、どのマジック・メニュー項目が使用してに設定されるかはそのプラットフォームの動作によって異なります。

「メニュー項目タイプ」プロパティの制限事項

最上位のメニューで使用できるのは、プレーンまたはマジックのメニュー項目のみです。

「メニュー・モジュール」プロパティ

Menu Module

説明

このフォームで使用するメニューの名前を指定します。このプロパティを「DEFAULT&SMARTBAR」に設定すると、すべてのフォームに組み込まれるスマートバー付きデフォルトのメニューを使用してフォームが実行されます。このプロパティを「NULL（ブランク）」のままにすると、メニューなしでフォームが実行されます。

「DEFAULT&SMARTBAR」とNULL以外の値を指定した場合は、「メニュー・ソース」プロパティの値によって「メニュー・モジュール」プロパティの値がどのように解釈されるかが決まります。

- 「メニュー・ソース」プロパティが「ファイル」の場合は、そのフォームで使用する.MMX ランタイム・メニュー・ファイルの名前を「メニュー・モジュール」プロパティに指定します。
- 「メニュー・ソース」プロパティが「データベース」の場合は、そのフォームで使用する.MMX メニュー・ファイルの名前を検索するためにフォーム起動時に問い合わせる、データベース内のメニュー・モジュール名を「メニュー・モジュール」プロパティに指定します。

適用されるオブジェクト

フォーム・モジュール

設定

Form Builder

デフォルト

DEFAULT&SMARTBAR。スマートバー付きのデフォルトのフォーム・メニューでフォームが実行されます。

必須/オプション

オプション

「メニュー・ロール」プロパティ

Menu Role

説明

そのメニューを実行するときにForm Builderによって使用されるセキュリティ・ロールを指定します。「メニュー・ロール」プロパティを指定すると、現行のエンドユーザーが指定したセキュリティ・ロールのメンバーである場合のみ、そのメニューが実行されます。

適用されるオブジェクト

フォーム・モジュール

設定

Form Builder

必須/オプション

オプション

使用上の注意

「メニュー・ロール」プロパティは旧バージョンとの互換性を確保するために用意されています。したがって、新規アプリケーションを作成する場合は、このプロパティを使用しないでください。

Form Builderの旧バージョンでは、設計者は「メニュー・ロール」プロパティを使用してメニュー内のすべての項目にアクセスできるマスター・ロールを作成し、そのロールでメニューを実行して、メニューをテストしていました。メニュー・モジュール・プロパティ「セキュリティ使用」を「いいえ」に設定することで同じ結果が得られます。メニュー・モジュール・プロパティ「セキュリティ使用」を「いいえ」に設定するとき、すべてのエンドユーザーはすべてのメニュー項目にアクセスできるため、特定ロールのメンバーになって各自のアプリケーションをテストする必要はありません。

「メニュー・ソース」プロパティ

Menu Source

説明

フォーム・モジュールにカスタム・メニューを追加する場合は、このプロパティを使用し、.MMXランタイム・メニュー・ファイルの位置を指定します。.MMXファイルはフォーム起動時にロードされます。

適用されるオブジェクト

フォーム・モジュール

設定

Form Builder

デフォルト

はい

必須/オプション

オプション

使用上の注意

「メニュー・ソース」プロパティを「ファイル」に設定すると、直接参照またはデータベース検索機能を使用して.MMXランタイム・メニュー・ファイルの位置を指定できます。通常は、ファイル・システムへの直接参照を使用します。データベース検索は旧バージョンとの互換性を確保するために用意されている機能です。

直接参照	.MMXファイルを直接参照するには、「メニュー・ソース」プロパティを「ファイル」に設定し、「メニュー・モジュール」フィールドに.MMXファイルのパスとファイル名を入力します。
データベース検索	データベース検索機能を使用してメニューを参照するには、「メニュー・ソース」プロパティを「データベース」に設定し、データベースに格納されているメニュー・モジュールの名前を入力します。フォーム起動時に、必要な.MMXランタイム・ファイルの名前を検索するために、メニュー・モジュール定義に対して問合せが実行されます（ファイル・システム内の.MMXファイルのパスは、「メニュー・ファイル名」メニュー・モジュール・プロパティおよび「メニュー・ディレクトリ」プロパティで定義します）。 実行時にフォームがロードされるときに、メニュー・モジュール・プロパティ「メニュー・ファイル名」および「メニュー・ディレクトリ」で定義された.MMXファイルへのポインタを検索するための問合せがデータベースに対して実行され、.MMXファイルが特定されます。

次の表は、メニューをフォームに追加するときに、直接参照を使用する場合とデータベース検索を使用する場合のプロパティの設定値とデータベース条件の違いを示しています。

条件またはプロパティ	直接参照	データベース検索
「フォーム・モジュール」プロパティ: 「メニュー・ソース」	ファイル	データベース
「フォーム・モジュール」プロパティ: 「メニュー・モジュール」	.MMXランタイム・ファイル名。	データベース内の.MMBメニュー設計文書の名前。
「メニュー・モジュール」プロパティ: 「メニュー・ディレクトリ/メニュー・ファイル名」	適用外。	ファイル・システム内の.MMXファイルのパス名とファイル名。
データベース結合	結合する必要なし。	フォーム起動時に結合する必要あり。
ロード時のメニュー.MMBの位置	適用外。	データベースに格納されている必要あり。

「メニュー・スタイル」プロパティ

Menu Style

説明

「メニュー・モジュール」プロパティに指定したカスタム・メニューを実行するときに使用されるメニューの表示形式を指定します。表示形式オプションには、「プルダウン」、「バー」があります。

適用されるオブジェクト

フォーム・モジュール

設定

Form Builder

デフォルト

プルダウン

必須/オプション

オプション

「メニュー・スタイル」プロパティの制限事項

このプロパティは、「メニュー・モジュール」プロパティが「DEFAULT&SMARTBAR」に設定されている場合は無効です（デフォルト・メニューは常にプルダウン表示形式で実行されます）。

「メッセージ」プロパティ

Message

説明

警告に表示するメッセージを指定します。

適用されるオブジェクト

警告

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

■ SET_ALERT_PROPERTY

必須/オプション

オプション

「メッセージ」プロパティの制限事項

最大200文字です。ただし、表示できる文字数の最大値は、選択したフォントやランタイム・ウィンドウ・マネージャの制限事項など、複数の因子に左右されます。

「最小化可能」プロパティ

Minimize Allowed

説明

アイコン化機能をサポートするウィンドウ・マネージャ上で、このウィンドウのアイコン化を許可するかどうかを指定します。

適用されるオブジェクト

ウィンドウ

設定

Form Builder

デフォルト

はい

必須/オプション

オプション

「最小化可能」プロパティの制限事項

ルート・ウィンドウには設定できません。ルート・ウィンドウは常にアイコン化が可能です。

「アイコン化タイトル」プロパティ

Minimized Title

説明

アイコン化されたウィンドウの下にテキスト文字列を表示するかどうかを指定します。

適用されるオブジェクト

ウィンドウ

設定

Form Builder

デフォルト

いいえ

必須/オプション

オプション

「アイコン化タイトル」プロパティの制限事項

このプロパティを適用できるのは、「最小化可能」プロパティが「はい」に設定されている場合のみです。

「モード」プロパティ

Modal

説明

そのウィンドウをモードありにするかどうかを指定します。モードありウィンドウにすると、エンド・ユーザーがこのウィンドウを消すまでの間、次の対話処理を実行できません。

適用されるオブジェクト

ウィンドウ

設定

Form Builder

デフォルト

いいえ

「モ - ド」プロパティの制限事項

「モーダ」プロパティを「はい」に設定すると、次のウィンドウ・プロパティが無視されます。

「クローズ可能」	「サイズ変更可能」
「アイコン・ファイル名」	「アイコン化タイトル」
「最小化可能」	「メニュー継承」
「移動可能」	「最大化可能」
「垂直表示スクロール・バー表示」および「水平表示スクロール・バー表示」	

「Module_NLS_Lang」プロパティ

説明

フォームの各国語サポートで使用するよう定義されたNLS_LANG環境変数の現行の値を表します。MODULE_NLS_LANGは次のプロパティを連結したものと等価です。

■MODULE-NLS_LANGUAGE（言語のみ）

■MODULE-NLS_TERRITORY（地域のみ）

■MODULE-NLS_CHARACTER_SET（キャラクタ・セットのみ）

適用されるオブジェクト

フォーム

設定

Form Builder内では設定できません。オペレーティング・システム・レベルで設定してください。

参照するビルトイン

■GET_FORM_PROPERTY

デフォルト

デフォルトは通常「America_American.WE8ISO8859P1」ですが、すべてのデフォルトはポート固有のものとすることができます。

「モジュール・ロール」プロパティ

Module Roles

説明

このメニュー・モジュール内の項目で利用できるデータベース・ロールを指定します。

適用先

メニュー・モジュール

設定

Form Builder

必須/オプション

オプション

使用上の注意

最初に、「モジュール・ロール」プロパティを使用してこのメニュー・モジュールへのアクセス権限を付与するロールのリストを構築し、次にメニュー項目の「項目ロール」プロパティを使用して各メニュー項目へのアクセス権限を付与するロールを指定します。

「マウス・ナビゲート」プロパティ

Mouse Navigate

説明

エンドユーザーがマウスを使用してその項目をアクティブ化したときに、その項目にナビゲートするかどうかを指定します。

適用されるオブジェクト

ボタン、チェックボックス、リスト項目、ラジオ・グループ

設定

Form Builder

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

はい

使用上の注意

「マウス・ナビゲート」プロパティを「いいえ」に設定すると、エンドユーザーがマウスを使用してその項目をアクティブ化してもその項目にナビゲートされません。たとえば、ボタンやチェックボックスをマウスでクリックしても、ナビゲーション・イベントとは解釈されません。そのボタンやチェックボックスにトリガー（When-Button-Pressedなど）が定義されていれば、FormBuilderによってそのトリガーが起動されますが、現行の項目内の入力フォーカスは移動しません。

「マウス・ナビゲート」プロパティを「はい」に設定すると、その項目にナビゲートされ、適切なナビゲーションおよび妥当性チェック・トリガーが起動されます。

「マウス・ナビゲート」プロパティの制限事項

マウス駆動環境でのみ適用されます。

「マウス・ナビゲーション限界」プロパティ

Mouse Navigation Limit

説明

エンドユーザーがマウスを使用してナビゲートできる項目の範囲を指定します。「マウス・ナビゲーション限界」プロパティに設定できる値は次のとおりです。

フォーム	(デフォルト) エンドユーザーは現行のフォーム内のすべての項目にナビゲートできます。
データ・ブロック	エンドユーザーは現行のブロック内の項目のみにナビゲートできます。
レコード	エンドユーザーは現行のレコード内の項目のみにナビゲートできます。
項目	エンドユーザーは現行の項目の外にはナビゲートできません。この値に設定すると、エンドユーザーはマウスを使用したナビゲートが一切できなくなります。

適用されるオブジェクト

フォーム

設定

Form Builder

デフォルト

フォーム

「移動可能」プロパティ

Move Allowed

説明

ウィンドウを移動できるかどうかを指定します。

ウィンドウはユーザーの操作またはプログラムによって、画面上である位置から別の位置に移動できます。プログラムによる移動の場合には、適切なビルトイン・サブプログラムを使用します。

適用されるオブジェクト

ウィンドウ

設定

Form Builder

デフォルト

はい

必須/オプション

オプション

使用上の注意

通常、ウィンドウは常に移動可能に設定しておくことをお勧めします。

「移動可能」プロパティの制限事項

ROOT_WINDOWという名前のウィンドウに対しては、このプロパティを「いいえ」に設定できません。ルート・ウィンドウは常に移動可能です。

「複数行」プロパティ

Multi-Line

説明

テキスト項目の編集領域を単一行にするか複数行にするかを指定します。

適用されるオブジェクト

テキスト項目

設定

Form Builder

参照するビルトイン

■ GET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

いいえ

使用上の注意

「複数行」プロパティを「はい」に設定すると、テキスト項目に2行以上のテキストを格納できますが、項目のサイズは複数行が表示できる大きさに自動的に変更されるわけではありません。したがって、表示する行数と文字数に応じて、「幅」、「高さ」、「フォント・サイズ」および「最大長」プロパティを設定する必要があります。

単一行	入力フォーカスがシングルライン・テキスト項目内にあるときにキャリッジ・リターン・キーを押すと、「Next Item」機能が起動されます。
複数行	マルチライン・テキスト項目内にあるときにキャリッジ・リターン・キーを押すと、入力フォーカスがその項目の次の行に移ります。

「複数行」プロパティの制限事項

データ型がCHAR、ALPHA、LONGのテキスト項目のみに有効です。

「複数選択」プロパティ

Multi-Selection

説明

複数のノードを同時に選択できるかどうかを指定します。「いいえ」に設定した場合、あるノードをすでに選択した状態で別のノードを併せて選択しようとする、最初に選択していたノードの選択は解除され、新しく選択しようとしたノードのみが選択された状態になります。

適用先

階層ツリー

設定

Form Builder

デフォルト

いいえ

必須/オプション

必須

「名前」プロパティ

Name

説明

オブジェクトの内部名を指定します。各オブジェクトには、Oracleの命名規則に従って有効な名前を付ける必要があります。

適用されるオブジェクト

すべてのオブジェクト

設定

Form Builder

デフォルト

OBJECT_CLASS_N。ここで、*OBJECT_CLASS*はオブジェクトのタイプ、*N*はその文書で次に使用可能な番号です。例: BLOCK5、EDITOR3。

必須/オプション

必須

使用上の注意

メニュー項目とラジオ・ボタンの「名前」プロパティには、次のような特徴があります。

- 実行時に表示されない内部ハンドルを「名前」プロパティに指定します。
- 「名前」プロパティは、PL/SQLコードでメニュー項目やラジオ・ボタンを参照するために使用されます。
- 「ラベル」プロパティには、メニュー項目または現行のラジオ・ボタンに表示するテキスト・ラベルを指定します。

メニュー・パラメータでは、次の制限事項があります。

- 置換パラメータは2文字の識別子にする必要があります。
- 英数字にする必要があります。
- 最初の文字は英字にする必要があります。
- メニュー・コマンド行でパラメータを参照する場合は、パラメータの前にアンパサンド(&RN)

を付ける必要があります。

■PL/SQL参照では、パラメータの前にコロンの(:SS)付ける必要があります。

「名前」プロパティの制限事項

■最大30文字。

■最初の文字は英字にする必要があります。

■文字、数字、特殊記号\$および#、@、_（アンダースコア）を使用できます。

■大/小文字は区別されません。

■そのオブジェクトは識別できるものにする必要があります。

■項目名は同じブロック内で一意の名前にする必要があります。

■リレーション名は同じマスター・ブロックを持つリレーション間で一意の名前にする必要があります。

■ルート・ウィンドウには設定できません。

「名前」の例

ENAME, ADDRESS1, PHONE_NO1

「ナビゲーション形式」プロパティ

Navigation Style

説明

入力フォーカスはそのブロックの最後のナビゲート可能項目または最初のナビゲート可能項目内にあるとき、それぞれ「Next Item」または「Previous Item」操作をどのように処理するかを指定します。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_BLOCK_PROPERTY
- SET_BLOCK_PROPERTY

デフォルト

同一レコード

使用上の注意

このプロパティに設定できる値は次のとおりです。

同一レコード	デフォルトのナビゲーション・スタイル。ブロックの最後のナビゲート可能項目からの「次の項目」操作によって、入力フォーカスは、同一レコードのブロック内の最初のナビゲート可能項目に移動します。
レコード変更	ブロックの最後のナビゲート可能項目からの「Next Item」操作によって、入力フォーカスは、同一レコードのブロック内の最初のナビゲート可能項目に移動します。現レコードがそのブロック内の最後のレコードであり、現在実行中の問合せがなければ、Form Builderにより新規レコードが作成されます。そのブロックに現在実行中の問合せがある（そのブロックに問合せ対象レコードが含まれている）場合は、Form Builderにより、必要に応じて追加レコードが取り出されます。
データ・ブロックの変更	Aブロックの最後のナビゲート可能項目からの「Next Item」操作によって、入力フォーカスは、次のブロックの最初のレコード内の最初のナビゲート可能項目に移動します。同様に、ブロックの最初のナビゲート可能項目で「Previous Item」が選択されると、入力フォーカスが前のブロックの現行のレコードの最後の項目に移動します。「次のナビゲーション・データ・ブロック」と「前のナビゲーション・データ・ブロック」プロパティを設定して、ブロックの「次」または「前」のナビゲーション・ブロックを再定義できます。

「次のナビゲーション・データ・ブロック」プロパティ

Next Navigation Block

説明

このブロックについて「次のナビゲーション・データ・ブロック」と定義されているブロック名を指定します。デフォルトでは、次のナビゲーション・ブロックは、オブジェクト・ナビゲータのブロック・リストに表示される順序番号がそのフォームで次に大きいブロックです。ただし、このプロパティを設定して、ナビゲーションのためにブロックの「次」のブロックを再定義できます。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

■GET_BLOCK_PROPERTY

■SET_BLOCK_PROPERTY

デフォルト

オブジェクト・ナビゲータのブロック・リストに表示される順序番号が次に大きいブロックの名前

必須/オプション

オプション

使用上の注意

このプロパティの値を変更しても、「NextBlock」プロパティの値は変わりません。

「次ナビゲーション項目」プロパティ

Next Navigation Item

説明

この現行の項目について「次ナビゲーション項目」と定義されている項目名を指定します。デフォルトでは、次のナビゲーション項目は、オブジェクト・ナビゲータに項目リストとして表示される順序番号が次に大きい項目です。ただし、このプロパティを設定して、ナビゲーションのために「次項目」を再定義できます。

適用されるオブジェクト

項目

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

「NULL」。順序番号が次に大きい項目の名前です。

「次ナビゲーション項目」プロパティの制限事項

「次ナビゲーション項目」プロパティに指定する項目は、現行の項目と同じブロックにあることが必要です。

「NextBlock」プロパティ

説明

オブジェクト・ナビゲータのブロック・リストに表示される順序番号がそのフォームで次に大きいブロックの名前を表します。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定

設定できません。

参照するビルトイン

- GET_BLOCK_PROPERTY

使用上の注意

- GET_BLOCK_PROPERTYビルトインを使用して「First_Block」と「NextBlock」の値を取得すれば、プログラムによってフォーム内のあらゆるブロックに移動できます。
- 現行のブロックより順序番号が大きいブロックがない場合は、「NextBlock」プロパティの値はNULLになります。
- 「次のナビゲーション・データ・ブロック」プロパティの値を変更しても「NextBlock」プロパティの値は変わりません。

「NextItem」プロパティ

説明

オブジェクト・ナビゲータの項目リストに表示される順序番号がそのブロックで次に大きい項目の名前を表します。

適用されるオブジェクト

項目

設定

設定できません。

参照するビルトイン

■GET_ITEM_PROPERTY

「Next_Detail_Relation」プロパティ

説明

指定したリレーションと同じディテール・ブロックを含む次のリレーションの名前が戻ります。同じディテール・ブロックを含むリレーションがない場合は、NULL値が戻ります。

適用されるオブジェクト

リレーション

設定

設定できません。

参照するビルトイン

■GET_RELATION_PROPERTY

使用上の注意

このプロパティを「FIRST_DETAIL_RELATION」プロパティとともに使用すれば、任意のディテール・ブロックのリレーション・リスト全体を参照できます。

「Next_Master_Relation」プロパティ

説明

指定されたリレーションと同じマスター・ブロックを含む次のリレーションの名前が戻ります。
同じディテール・ブロックを含むリレーションがない場合は、NULL値が戻ります。

適用されるオブジェクト

リレーション

設定

設定できません。

参照するビルトイン

■ GET_RELATION_PROPERTY

使用上の注意

このプロパティを「FIRST_MASTER_RELATION」プロパティとともに使用すれば、任意のマスター・ブロックのリレーション・リスト全体を参照できます。

「表示項目数」プロパティ

Number of Items Displayed

説明

項目がマルチレコード・ブロック内にある場合に、表示する項目の項目インスタンスの数を指定します。

「表示項目数」の設定が0以上の場合は「表示レコード数」ブロック・プロパティを上書きします。

適用されるオブジェクト

項目

設定

Form Builder

デフォルト

0(ゼロ)。「表示レコード数」ブロック・プロパティの値と同じ数のみ項目インスタンスが表示されます。

必須/オプション

オプション

使用上の注意

マルチレコード・ブロックの一部として、単一のボタン、チャート、OLE項目、イメージ、VBXコントロール(16ビットのMicrosoft Windowsの場合)およびActiveXコントロール(32ビットのWindowsの場合)を作成する場合は、「表示ブロック数」プロパティを使用します。たとえば、「表示ブロック数」プロパティを5に設定して、マルチレコード・ブロックを作成し、さらにそのブロックにボタンを作成すれば、デフォルトで各レコードにボタンが5つ作成されます。ボタンを1つのみ作成するには、「表示ブロック数」プロパティを1に設定します。

「表示項目数」プロパティの制限事項

「表示項目数」プロパティの値は「表示レコード数」ブロック・プロパティの値以下に設定する必要があります。

「バッファ・レコード数」プロパティ

Number of Records Buffered

説明

そのブロックでの問合せ中にメモリーにバッファリングするレコード数の最大値を指定します。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定

Form Builder

デフォルト

NULL。このプロパティの最小値(「表示レコード数」プロパティの値に3を足した値)。

必須/オプション

オプション

使用上の注意

- このプロパティの値を超えたレコードは、ディスク上の一時ファイルにバッファリングされません。
- 処理速度を上げるには、バッファリングするレコード数を増やします。
- メモリの使用量を減らすには、バッファリングするレコード数を減らします。ただし、この場合、ディスクのI/O速度が低下します。
- 問合せの結果、あるいはデータ・エントリ数が多いために、ブロックに多数のレコードが入る可能性がある場合は、「バッファ・レコード数」プロパティの値を増やすと、パフォーマンスが向上します。
- イメージ項目などの大きな項目を取り出す場合は、各項目のバッファリングに必要なメモリ容量が増えるため、「バッファ・レコード数」プロパティの値を小さくすることを考慮してください。

「バッファ・レコード数」プロパティの制限事項

- 最小値より小さい値を指定すると、値を取得しようとしたときにエラーが戻されます。

「表示レコード数」プロパティ

Number of Records Displayed

説明

そのブロックに同時に表示できるレコード数の最大値を指定します。デフォルト値は1です。「表示レコード数」プロパティに1より大きい値を指定すると、マルチレコード・ブロックが作成されます。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定

Form Builder

参照するビルトイン

GET_BLOCK_PROPERTY

デフォルト

1

必須/オプション

必須

「OLEアクティブ・スタイル」プロパティ

OLE Activation Style

説明

項目を含むOLEをアクティブ化するイベントを指定します。

適用先

OLEコンテナ

設定

Form Builder

デフォルト

ダブル・クリック

使用上の注意

このプロパティに設定できる値は次のとおりです。

ダブル・クリック	デフォルトのOLEアクティブ化スタイル。OLEオブジェクトをダブルクリックすると、そのOLEオブジェクトがアクティブになります。
フォーカスイン	OLEオブジェクトにナビゲートすると、そのOLEオブジェクトがアクティブになる。
手動	「OLE」ポップアップ・メニューの「オブジェクト」サブメニューから「編集」または「オープン」を選択すると、OLEオブジェクトがアクティブになります。「OLE ポップアップ・メニュー表示」プロパティが「はい」に、「オブジェクト」メニュー項目が「表示」および「使用可能」に設定されている必要があります。「OLE」ポップアップ・メニューは、OLEオブジェクトにマウス・カーソルを合わせて、マウスの右ボタンを押すと表示されます。

	「OLEポップアップ・メニュー表示」プロパティが「はい」に、「オブジェクト」メニュー項目が「表示」および「使用可能」に設定されている場合は、「OLE アクティブ・スタイル」を「ダブル・クリック」または「フォーカスイン」に設定すれば、「OLE」ポップアップ・メニューを使用してOLEオブジェクトを手動でアクティブ化することもできます。
--	--

「OLEアクティブ・スタイル」プロパティの制限事項

Microsoft Windows上でのみ有効。

「OLEクラス」プロパティ

OLE Class

説明

OLEコンテナに挿入できるOLEオブジェクトのクラスを指定します。このプロパティに設定できる値は次のとおりです。

NULL	デフォルトのOLEクラス。OLEコンテナ内の登録データベースに指定されたすべてのOLEオブジェクト・クラスを挿入できます。
NULL以外	指定したクラスのOLEオブジェクトのみが、実行時にOLEコンテナに挿入される。選択できるOLEオブジェクト・クラスは、登録データベース内の情報によって決まります。また、登録データベース内の情報は、使用しているコンピュータにインストールされているOLEサーバー・アプリケーションによって異なります。

適用先

OLEコンテナ

設定

Form Builder

デフォルト

NULL

使用上の注意

エンドユーザーがOLEコンテナ内の現行のOLEオブジェクトを変更でき、しかも特定のクラスのOLEオブジェクトのみは作成できないようにする場合は、このプロパティに任意のクラスを指定します。

「OLEクラス」プロパティの制限事項

Microsoft Windows上でのみ有効。

「OLE 同一ウィンドウ・アクティブ」プロパティ

OLE In-place Activation

説明

埋込みOLEオブジェクトを編集するときにOLE同一ウィンドウ・アクティブを使用するかどうかを指定します。このプロパティに設定できる値は次のとおりです。

はい	OLE同一ウィンドウ・アクティブをオンに設定します。OLE同一ウィンドウ・アクティブを使用して埋込みOLEオブジェクトが編集されます。また、リンクOLEオブジェクトは外部のアクティブ化操作によってアクティブ化されます。
いいえ	OLE同一ウィンドウ・アクティブをオフに、外部アクティブ化をオンに設定します。外部アクティブ化を使用して埋込みまたはリンクOLEオブジェクトが編集されます。

適用先

OLEコンテナ

設定

Form Builder

デフォルト

はい

「OLE 同一ウィンドウ・アクティブ」プロパティの制限事項

■ Microsoft Windows上でのみ有効。

「OLE の詳細サポート」プロパティ

OLE Inside-Out-Support

説明

同一ウィンドウ・アクティブ中に詳細サポートを埋込みオブジェクトのOLEサーバーに許可するかどうかを指定します。詳細サポートでは、複数の埋込みオブジェクトがOLEコンテナ内に編集ウィンドウを1つ持つことができます。このプロパティに設定できる値は次のとおりです。

はい	「同一ウィンドウ・アクティブ」プロパティが「はい」に設定された埋込みオブジェクトの詳細サポートをオンに設定します。
いいえ	「同一ウィンドウ・アクティブ」プロパティが「はい」に設定された埋込みオブジェクトの詳細サポートをオフに設定します。

適用先

OLEコンテナ

設定

Form Builder

デフォルト

はい

「OLE 詳細のサポート」プロパティの制限事項

■ Microsoft Windows上でのみ有効。

「OLEポップアップ・メニュー項目」プロパティ

OLE Popup Menu Items

説明

OLEオブジェクトにマウス・カーソルを合わせてマウスの右ボタンを押したときに、どのOLEポップアップ・メニュー・コマンドを表示し使用可能にするかを指定します。OLEポップアップ・メニュー・コマンドはOLEオブジェクトを操作するためのコマンドです。OLEポップアップ・メニュー・コマンドとそのアクションは次のとおりです。

OLEポップアップ・メニュー・コマンド	対策
カット	OLEオブジェクトを切り取って、クリップボードに貼り付ける。
コピー	OLEオブジェクトをコピーして、クリップボードに貼り付ける。
ペースト	クリップボードの中身をOLEコンテナ貼り付ける。
特殊ペースト	クリップボードのOLEオブジェクトをOLEコンテナに元のフォーマットとは違うフォーマットで貼り付ける。
オブジェクト挿入	OLEコンテナにOLEオブジェクトを挿入します。
オブジェクト削除	OLEコンテナからOLEオブジェクトを削除します。
リンク	リンクの更新方法およびリンクされたソース・ファイルの編集、リンク先ソース・ファイルの変更方法を設定するためのダイアログを表示します。

オブジェクト	OLEサーバーによって、OLEオブジェクト上でさまざまな操作を実行できる。たとえば、OLEオブジェクトのオープン、OLEオブジェクトの編集、OLEオブジェクトのフォーマットの変換などの操作が実行できます。
--------	--

適用先

OLEコンテナ

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

■GET_ITEM_PROPERTY

■SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

すべてのメニュー・コマンドの「表示」および「使用可能」オプションがオンに設定されます。

必須/オプション

必須

使用上の注意

- Form Builderでは、チェックボックスを選択するのみで、OLEポップアップ・メニュー・コマンドごとに次の2つを指定できます。

表示	選択したメニュー・コマンドを表示するかどうか。
使用可能	「表示」をオンに設定したメニュー・コマンドを使用可能にするかどうか。使用して設定した項目はグレー表示されます。

- Form BuilderではOLEポップアップ・メニュー・コマンドのプロパティを設定できるのみでなく、OLEポップアップ・メニュー・コマンドのプロパティをプログラムによって設定したり取得したりできます。プログラムによってOLEポップアップ・メニュー・コマンドのプロパティを設定または取得する場合は、各メニュー・コマンドに対応するプログラム用のプロパティ名を使用します。OLEポップアップ・メニュー・コマンドと対応するプログラム用プロパティ名は、次のとおりです。

メニュー・コマンド	プログラム用プロパティ名
カット	POPUPMENU_CUT_ITEM
コピー	POPUPMENU_COPY_ITEM
ペースト	POPUPMENU_PASTE_ITEM
特別ペースト	POPUPMENU_PASTESPEC_ITEM

オブジェクト挿入	POPUPMENU_INSOBJ_ITEM
オブジェクト削除	POPUPMENU_DELOBJ_ITEM
リンク	POPUPMENU_LINKS_ITEM
オブジェクト	POPUPMENU_OBJECT_ITEM

- プログラムを使用して前述のOLEポップアップ・メニュー・コマンド・プロパティを次のいずれかの値に設定できます。

DISPLAYED	DISPLAYEDOLEポップアップ・メニュー・コマンドを表示し、使用可能に設定します。
ENABLED	ポップアップ・メニュー・コマンドを表示し、使用不可に設定します。使用して設定した項目はグレー表示されます。
HIDDEN	OLEポップアップ・メニュー・コマンドはOLEポップアップ・メニューに表示されない。表示されないコマンドは使用可能になりません。

- プログラムによって値を設定できるのみでなく、各OLEポップアップ・メニュー・コマンドの次に示す値を取得することもできる。

DISPLAYED	OLEポップアップ・メニュー・コマンドが表示され使用可能のときに値が戻る。
ENABLED	OLEポップアップ・メニュー・コマンドが表示され使用不可のときに値が戻る。使用して設定した項目はグレー表示されます。
HIDDEN	OLEポップアップ・メニュー・コマンドがOLEポップアップ・メニューに表示されないときに値が戻ります。表示されないコマンドは使用可能になりません。
UNSUPPORTED	OLEポップアップ・メニューがサポートされていないときに値が戻ります。Microsoft Windows以外のプラットフォームでは、常にこの値が戻ります。

「OLEポップアップ・メニュー項目」プロパティの制限事項

Microsoft Windowsにおいてのみ有効です。

「OLEサイズ変更スタイル」プロパティ

OLE Resize Style

説明

OLEコンテナ内にOLEオブジェクトをどのようなサイズで表示するかを指定します。このプロパティに設定できる値は次のとおりです。

クリップ	デフォルトのOLEサイズ変更スタイル。OLEコンテナのサイズに合わせてOLEオブジェクトが切り取られます。
------	---

スケール	OLEコンテナのサイズに合わせてOLEオブジェクトのサイズが変更されます。
初期	作成時にOLEオブジェクトのサイズに合わせてOLEコンテナのサイズが変更されます。
ダイナミック	OLEオブジェクトのサイズを変更すると、自動的にOLEオブジェクトに合わせてOLEコンテナのサイズが変更されます。

適用先

OLEコンテナ

設定

Form Builder

必須/オプション

必須

デフォルト

スケール

「OLEサイズ変更スタイル」プロパティの制限事項

Microsoft Windows上でのみ有効。

「OLEテナント形態」プロパティ

OLE Tenant Aspect

説明

OLEコンテナ内にOLEオブジェクトをどのように表示するかを指定します。

適用先

OLEコンテナ

設定

Form Builder

デフォルト

コンテンツ

使用上の注意

■このプロパティに設定できる値は次のとおりです。

コンテンツ	このプロパティのデフォルト値。OLEコンテナにOLEオブジェクトの内容を表示します。OLEオブジェクトの内容は、「OLEサイズ変更スタイル」プロパティの値により、クリップされたりサイズ変更されたり、また内容全体が表示されたりします。
アイコン	OLEコンテナにOLEオブジェクトのアイコンを表示します。デフォルトでは、OLEオブジェクトを作成したOLEサーバー・アプリケーションを表すアイコンが表示されます。「オブジェクトの挿入」ダイアログを使用すれば、使用するアイコンを選択できます。
縮小プレビュー	OLEコンテナにOLEオブジェクトを縮小して表示します。

■OLEオブジェクト・タイプはデータベースのLONG RAW列に保存されます。データベースからOLEオブジェクトに対して問合せを実行する場合は、そのオブジェクトの「OLEテナント形態」プロパティがデータベースに保存されているOLEオブジェクトと同じ値に設定されていることを確認してください。データベースに保存されているOLEオブジェクトの「OLEテナント形態」プロパティの値が問合せ対象のOLEオブジェクトの値と異なる場合は、そのオブジェクトを含むレコードが自動的にロックされます。

「OLEテナント形態」プロパティの制限事項

Microsoft Windowsにおいてのみ有効です。

「OLE テナント・タイプ」プロパティ

OLE Tenant Types

説明

OLEコンテナのテナントにできるOLEオブジェクトのタイプを指定します。このプロパティに設定できる値は次のとおりです。

すべて	このプロパティのデフォルト値。すべてのタイプのOLEオブジェクトをOLEコンテナのテナントにできます。
なし	OLEコンテナにオブジェクトを挿入できません。
スタティック	静的OLEオブジェクトのみをOLEコンテナのテナントにできます。静的OLEオブジェクトは、ソースとのリンクが切断されたリンクOLEオブジェクトのスナップショット・イメージです。したがって、静的OLEオブジェクトは変更できません。
埋込み	埋込みOLEオブジェクトのみをOLEコンテナのテナントにできます。
リンク	リンクOLEオブジェクトのみをOLEコンテナのテナントにできます。

適用先

OLEコンテナ

設定

Form Builder

デフォルト

任意

「OLEテナント・タイプ」の制限事項

Microsoft Windows上でのみ有効。

「Operating_System」プロパティ

説明

現在のオペレーティング・システムの名前（Microsoft WINDOWS、WIN32COMMON、UNIX、Sun OS、MACINTOSH、VMS、HP-UXなど）を表します。

適用されるオブジェクト

アプリケーション

設定

設定できません。

参照するビルトイン

■GET_APPLICATION_PROPERTY

使用上の注意

このプロパティの戻り値はプラットフォームごとに異なります。したがって、前述以外のプラットフォームを使用している方は、使用しているオペレーティング・システムのForm Builderマニュアルを参照してください。

「オブティマイザ・ヒント」プロパティ

Optimizer Hint

説明

問合せ組立て時にRDBMSオブティマイザに渡すヒント文字列を指定します。オブティマイザを使用すると、データベースのトランザクション処理のパフォーマンスが向上します。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定

From Builder、プログラム

参照するビルトイン

■ GET_BLOCK_PROPERTY

■ SET_BLOCK_PROPERTY

制限事項:

このプロパティはOracle7またはOracle8 Serverを使用するアプリケーションのみに有効です。

使用上の注意

DEPT表に基づくDeptBlockという名前のブロックを含むフォームを考えてみましょう。エンドユーザーが基準の「> 25」をDEPTNO列に入力して問合せを実行すると、Form Builderが生成してデータベースから適切な行を問い合わせるデフォルトSELECT文は、次のようになります。

```
SELECT DEPTNO, DNAME, LOC, ROWID
FROM DEPT
WHERE (DEPTNO > 25)
```

応答時間が最も短くなるようにSQL文を最適化するようにOracle7 ServerまたはOracle8 Serverに要求するには、次のようにSET_BLOCK_PROPERTYビルトインを使用して「オブティマイザ・ヒント」プロパティを設定します。

```
Set_Block_Property('DeptBlock', OPTIMIZER_HINT, 'FIRST_ROWS');
SELECT /*+ FIRST_ROWS */ DEPTNO, DNAME, LOC, ROWID
FROM DEPT
WHERE (DEPTNO > 25)
```

「Order By」プロパティ

説明

「WHERE句」プロパティ/「ORDER BY句」プロパティ」を参照してください。

「その他のレポート・パラメータ」プロパティ

Other Reports Parameters

説明

レポートの実行時に取り込むパラメータの<keyword>=<value>リストです。有効なパラメータのリストは、Report Builderオンライン・ヘルプのキーワード一覧を参照してください。

適用されるオブジェクト

Report Builderレポート

設定

Form Builder

デフォルト

ブランク

必須/オプション

オプション

使用上の注意:

WHERE句で複数語パラメータを渡すときは、WHERE句全体を一重引用符で囲む必要があります。このような複数語パラメータに名前が表示される場合は、その名前の開始と終了に一重引用符を2つずつ使用します。たとえば、「ename = 'MILLER'」というパラメータ値を渡すときには、次のようにコード化する必要があります。

```
'where ename = ''MILLER'''
```

「Output_Date/Datetime_Format」プロパティ

説明

環境変数FORMSnn_OUTPUT_DATE_FORMATまたはFORMSnn_OUTPUT_DATETIME_FORMATで設定された現在の出力日付またはdatetime書式マスクを保持します。Formsではこの書式マスクをランタイム出力処理時にデフォルトとして使用します。

次の2種類のプロパティがあります。Output_Date_FormatおよびOutput_Datetime_Format

適用されるオブジェクト

アプリケーション

設定

Form Builder内では設定できません。

参照するビルトイン

■ GET_APPLICATION_PROPERTY

「パラメータのデータ型」プロパティ

Parameter Data Type

説明

Form Builderで許可する入力値の種類と、その値をどのように表示するかを指定します。

適用されるオブジェクト

チェックボックス、図表項目、リスト項目、ラジオ・グループ、テキスト項目、カスタム項目、フォーム・パラメータ

注意: 項目タイプごとに適用されるデータ型が異なります。

設定

Form Builder

使用上の注意

- 標準データ型CHAR、DATE、LONG、NUMBERのみを使用することをお勧めします。これらのデータ型はOracle本来のデータ型に基づいているため、パフォーマンスとアプリケーションの移植性に優れています。その他のデータ型を使用できるのはテキスト項目のみです。これらのデータ型は旧バージョンとの互換性を確保する目的で用意されています。標準データ型に適切な書式マスクを適用すれば、これらのデータ型と同じ書式を生成できます。
- 実表項目のデータ型は、対応するデータベースの列のデータ型と互換性があることが必要です。Oracle VARCHAR2データベースの列に対応する項目には、CHARデータ型を使用してください。
- データベースのCHAR列に対応する項目が問合せで使用される場合、あるいはマスター/ディテール・リレーションを作成する結合条件として使用される場合は、その項目を作成しないでください。このような場合は、VARCHAR2データベースの列を使用してください。

- 必要があれば、Form Builderによって項目上で次のアクションが実行される。
- 後続するスペースがあれば削除します。
- 中身がすべてブランクの項目はNULLに変更します。
- データ型がNUMBER、INTEGER、MONEY、RINTEGER、RMONEYまたはRNUMBERの場合、（項目の書式マスクが先行ゼロを許可しないかぎり）先行ゼロを削除します。
- フォーム・パラメータの「パラメータのデータ型」プロパティでサポートされるデータ型は、CHAR、DATE、NUMBER。

ALPHA

文字のあらゆる組み合わせ（大文字と小文字、大文字のみ、小文字のみ）。

デフォルト	ブランク
例	「Employee」、「SMITH」

CHAR

VARCHAR2では最大2000文字まで使用できます。次の文字のあらゆる組み合わせです。

- 文字（大文字と小文字、大文字のみ、小文字のみ）
- 数値
- ブランク
- 特殊文字（\$, #, @, _）

デフォルト	ブランク
例	「100 Main Street」、「CHAR_EXAMPLE_2」

DATE

有効な日付です。項目の書式マスクを変更して、その他の有効な書式のDATE項目を表示できます。

デフォルト	YY-MM-DD
制限事項	DATE項目はデータベースのDATE列を参照し、文字列ではなく、実際の日付として処理されます。 DATEデータ型では、ゼロ時コンポーネントも使用できます。
例	01-JAN-92

DATETIME

有効な日時です。

デフォルト	DD-MON-YY HH24:MI[:SS]
制限事項	DATE項目はデータベースのDATE列を参照し、文字列ではなく、実際の日付として処理されます。 DATETIMEデータ型の年データは4桁です。DATETIMEデータ型に年データを2桁のみ入力すると、00YYと解釈されます。
例	31-DEC-88 23:59:59

EDATE

有効な欧州の日付です。

デフォルト	DD/MM/YY
制限事項	V3データ型。 データベースのNUMBER列を参照する必要があります。 このデータ型は旧バージョンとの互換性を確保するためのものです。その他の目的で使用する場合は、次の推奨事項に従ってください。 DATEデータ型を使用します。 書式マスクを適用して、欧州日付書式を生成します。 データベースのNUMBER列でなくDATE列を参照します。
例	23/10/92 (October 23, 1992) 01/06/93 (June 1, 1993)

INT

すべての整数（符号付きまたは符号なし）

デフォルト	0
例	1, 100, -1000

JDATE

有効なユリウス暦です。

デフォルト	MM/DD/YY
-------	----------

制限事項	V3データ型。 データベースのNUMBER列を参照する必要があります。 このデータ型は旧バージョンとの互換性を確保するためのものです。その他の目的で使用する場合は、次の推奨事項に従ってください。 DATEデータ型を使用します。 書式マスクを適用して、ユリウス暦書式を作成します。 データベースのNUMBER列でなくDATE列を参照します。
例	10/23/92 (October 23, 1992) 06/01/93 (June 1, 1993)

LONG

文字のあらゆる組み合わせ。最大65,534文字。Oracleデータベースには可変長文字列として格納されます。

デフォルト	ブランク
制限事項	SELECT文のWHERE句やORDER BY句内での参照には一切使用できません。 「問合せ入力」モードでLONG項目に対して問合せを実行することはできません。

MONEY

金額を表す符号付きまたは符号なし数値。

制限事項	V3データ型。 このデータ型は旧バージョンとの互換性を確保するためのものです。その他の目的で使用する場合は、数値に書式マスクを適用して金額データを生成してください。
例	10.95, 0.99, -15.47

NUMBER

1.0x10⁻¹²⁹ ~ 9.99x10¹²⁴ の固定または浮動小数点数。このデータ型の特徴は次のとおりです。

- 符号付き
- 符号なし
- 小数点を含む
- 正規表記法で表される
- 科学表記法で表される
- 精度最大38桁

NUMBER項目はデータベースのNUMBER列を参照し、Form Builderによって文字列ではなく実際の数値として処理されます。

デフォルト	0
制限事項	数値項目には99,999のようなカンマは入力できません。カンマを使用する場合は、書式マスクを使用してください。
例	-1, 1, 1.01, 10.001, 1.85E3

RINT

整数値を右揃えで表示します。

制限事項	V3データ型。 このデータ型は旧バージョンとの互換性を確保するためのものです。その他の目的で使用する場合は、次の推奨事項に従ってください。 NUMBERデータ型を使用します。 999などの書式マスクを適用して、右揃え数値を生成します。
------	--

RMONEY

MONEYの値を右揃えで表示します。

制限事項	V3データ型。 このデータ型は旧バージョンとの互換性を確保するためのものです。その他の目的で使用する場合は、次の推奨事項に従ってください。 NUMBERデータ型を使用します。 \$999.99などの書式マスクを適用して、右揃え数値を生成します。
------	---

RNUMBER

NUMBERの値を右揃えで表示します。

制限事項	V3データ型。 このデータ型は旧バージョンとの互換性を確保するためのものです。その他の目的で使用する場合は、次の推奨事項に従ってください。 NUMBERデータ型を使用します。 999.999などの書式マスクを適用して、右揃え数値を生成します。
------	--

TIME

時刻を表す数値とコロンの。このデータ型はデータベースのNUMBER列を参照します。

デフォルト	HH24:MI[:SS]
-------	--------------

制限事項	V3データ型。 このデータ型は旧バージョンとの互換性を確保するためのものです。その他の目的で使用する場合は、次の推奨事項に従ってください。 DATETIMEデータ型を使用します。 書式マスクを適用して時間のみを生成します。 このデータ型はデータベースのDATE列への参照では一切使用できない。
例	:10:23:05 21:07:13

「パラメータの初期値」（フォーム・パラメータ）プロパティ

Parameter Initial Value (Form Parameter)

説明

フォーム起動時にパラメータに割り当てる値を指定します。

適用されるオブジェクト

フォーム・パラメータ

設定

Form Builder

デフォルト

NULL

必須/オプション

オプション

使用上の注意

このプロパティには、有効なすべての定数を指定できます。

「メニュー・パラメータ初期値」（メニュー置換パラメータ）プロパティ

Menu Parameter Initial Value (Menu Substitution Parameter)

説明

フォーム起動時にパラメータに割り当てる値を指定します。

設定

Form Builder

必須/オプション

必須

「Password」プロパティ

説明

現行のエンドユーザーのパスワードを表します。

適用されるオブジェクト

アプリケーション

設定

設定できません。

参照するビルトイン

■ GET_APPLICATION_PROPERTY

使用上の注意

「Password」プロパティにはパスワードのみが戻ります。接続文字列も知りたい場合は、「接続文字列」プロパティの値を調べてください。

「PLSQL_Date_Format」プロパティ

説明

このプロパティは、次に挙げる場合にFormsで（トリガーまたは呼出し先のファンクションやプロシージャに対して）PL/SQLを実行するときに日付値の変換に使用される書式マスクを決定します。

■ 明示的な書式マスクを伴わないTO_DATE（char_value）またはTO_DATE（date_value）を評価

します

■CHAR値を日付変数に割り当てる、またはその逆の割り当てを行います

適用されるオブジェクト

Formsアプリケーション全体（グローバル値）

設定

プログラム

参照するビルトイン

■GET_APPLICATION_PROPERTY

■SET_APPLICATION_PROPERTY

必須/オプション

オプション。ただし、新規アプリケーションに関しては、完全な世紀情報および時間情報を含む書式マスクをこのプロパティに設定しておくことを強くお勧めします。また、この書式マスクは、「Builtin_Date_Format」プロパティで指定されているものと同一にすることをお勧めします。

デフォルト

すでに述べたように、新規アプリケーションに対してはこの値を明示的に設定することを強くお勧めします。設定しない場合、デフォルトの値はDD-MON-YYになります（これは、リリース4.5およびそれ以前との互換性を考慮した値です）。

他のOracle製品との互換性

Form Builder以外のOracle製品において、PL/SQLバージョン2は必ずしも、DD-MON-YYのデフォルトの書式マスクを使用するとは限りません。その代わりに、現在のNLS環境から継承された書式マスクが使用されるのが一般的です。何らかの理由により、Formsアプリケーションにおいて書式マスクを現在のNLS環境から継承させる場合、「USER_NLS_DATE_FORMAT」アプリケーション・プロパティを使用して現在のNLS日付書式マスクを取得し、それをアプリケーションの「PLSQL_DATE_FORMAT」プロパティに割り当てることができます。

「PL/SQLライブラリの位置」プロパティ

PL/SQL Library Location

説明

連結されるPL/SQLライブラリの場所を示します。

このプロパティは、FormsモジュールにPL/SQLライブラリを連結するときに設定されます。ユーザーがディレクトリ・パスを保持するよう求めた場合、このプロパティの値はライブラリの完全パス名になります。ディレクトリ・パスの削除を求めた場合には、このプロパティの値は単なるライブラリ名になります。

このプロパティは、情報としてのみ表示されます。これはプロパティ・パレットを使用した設定や変更ができません。

適用されるオブジェクト

PL/SQLライブラリ

設定

Form Builder

必須/オプション

表示のみ

デフォルト

なし

「PL/SQLライブラリ・ソース」プロパティ

PL/SQL Library Source

説明

このプロパティは、FormsモジュールにPL/SQLライブラリを連結するときに設定されます。これによりPL/SQLライブラリのソースが「ファイル」または「データベース」のどちらであるかが示されます。

このプロパティは、情報としてのみ表示されます。これはプロパティ・パレットを使用した設定や変更ができません。

適用されるオブジェクト

PL/SQLライブラリ

設定

Form Builder

必須/オプション

表示のみ

デフォルト

ファイル

「ポップアップ・メニュー」プロパティ

Popup Menu

説明

キャンバスや項目に表示されるポップアップ・メニューを表します。

適用されるオブジェクト

キャンバスおよび項目

設定

設定できません。

必須/オプション

オプション

デフォルト

NULL

参照するビルトイン

■ GET_MENU_ITEM_PROPERTY

■ SET__MENU_ITEM_PROPERTY

注意: ポップアップ・メニューの場合、有効なプロパティの値は「ENABLED」、「DISABLED」および「LABEL」です。

「ポップアップ・メニュー」プロパティの制限事項

- ポップアップ・メニューは現行のフォーム・モジュール内に定義されている必要があります。
- 個々のラジオ・ボタンにはポップアップ・メニューを追加できませんが、ラジオ・グループにはポップアップ・メニューを割り当てられます。

「サマリーの予備計算」プロパティ

Precompute Summaries

説明

データ・ブロックの「サマリー結果項目」すべての値を、ブロックの標準問合せが発行される前に計算するかどうかを指定します。Form Builderによって、サマリー項目の（データベース内の）すべてのレコードを選択して、すべてのレコード上でサマリー操作（総和、カウントなど）を実行する、特殊な問合せが発行されます。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定

Form Builder

必須/オプション

必須になるのは、ブロックにサマリー項目があり、ブロックの「全レコードの問合せ」プロパティを「いいえ」に設定している場合です。

デフォルト

いいえ

使用上の注意

「サマリーの予備計算」を「はい」に設定しているブロックでエンド・ユーザーが問合せを実行する際に、Form Builderは、特殊な問合せの実行前にPre-Selectトリガー(定義があれば)を1回起動します。Pre-Selectトリガーは、（定義があれば）2回、つまり、特殊な問合せの実行前に1回、標準問合せの実行前に1回起動されます。

「サマリーの予備計算」プロパティの制限事項

- 次のいずれかが真の場合には、「サマリーの予備計算」を「はい」に設定することはできません。(1)ブロックにサマリー制御項目がある。(2)最小または最大操作がブロック内のサマリー

項目で実行される。(3)ブロックの「問合せデータ・ソース・タイプ」が「プロシージャ」または「トランザクション・トリガー」(表または副問合せであることが必要です)。(4)ブロックに、チェックボックス項目、リスト項目または「Other Values」プロパティが空のラジオ・グループがある。

- 読取り一貫性が保証されるのは次の2点が満たされている場合のみです。(1) そのフォームで使用するデータベースがOracle7.3である。(2) フォーム・レベルの「孤立モード」プロパティが「シリアル化可能」に設定されている。

「マスターなし操作防止」プロパティ

Prevent Masterless Operations

説明

エンド・ユーザーにマスター/ディテール・リレーションのディテール・ブロックであるブロックへの問合せやレコードの挿入を許可するかどうかを指定します。「はい」に設定すると、マスター・ブロックにマスター・レコードがないときにディテール・ブロックにレコードを挿入したり、データベースから取り出されたマスター・ブロックがないときにディテール・ブロック内のレコードに対して問合せを実行したりすることができなくなります。

「マスターなし操作防止」が「はい」に設定されている場合は、エンドユーザーがレコードを挿入したりレコードに対して問合せを実行しようとする、Form Builderによって次のようなメッセージが表示されます。

FRM-41105: 保存済み親レコードがなければ、レコードの問合せはできません。

FRM-41106: 親レコードがなければ、レコードの作成はできません。

適用されるオブジェクト

リレーション

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_RELATION_PROPERTY
- SET_RELATION_PROPERTY

デフォルト

いいえ

「前のナビゲーション・データ・ブロック」プロパティ

Previous Navigation Block

説明

このブロックについて「前のナビゲーション・データ・ブロック」と定義されているブロック名を指定します。デフォルトでは、前のナビゲーション・ブロックは、オブジェクト・ナビゲータのブロック・リストに表示される順序番号がそのフォームで次に小さいブロックです。ただし、このプロパティを設定して、ナビゲーションのためにブロックの「前」のブロックを再定義できます。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_BLOCK_PROPERTY
- SET_BLOCK_PROPERTY

デフォルト

そのフォームで順序番号が次に小さいブロックの名前

必須/オプション

オプション

使用上の注意

このプロパティの値を変更しても、「Previous Block」プロパティの値は変わりません。

「前ナビゲーション項目」プロパティ

Previous Navigation Item

説明

現項目で「前のナビゲーション項目」と定義されている項目名を指定します。デフォルトでは、前のナビゲーション項目は、オブジェクト・ナビゲータの項目リストに表示される順序番号がそのフォームで次に小さい項目です。ただし、このプロパティを設定して、ナビゲーションのために「前項目」を再定義できます。

適用されるオブジェクト

項目

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

■GET_ITEM_PROPERTY

■SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

「NULL」。そのフォームで順序番号が次に小さい項目です。

必須/オプション

オプション

「前ナビゲーション項目」プロパティの制限事項

「前ナビゲーション項目」プロパティに指定する項目は、現行の項目と同じブロックにする必要があります。

「PreviousBlock」プロパティ

説明

オブジェクト・ナビゲータのブロック・リストに表示される順序番号がそのフォームで次に小さいブロックの名前を表します。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定

設定できません。

参照するビルトイン

■ GET_BLOCK_PROPERTY

必須/オプション

オプション

使用上の注意

- このプロパティを「First_Block」フォーム・プロパティや「Last_Block」フォーム・プロパティとともに使用すれば、ブロック・リスト全体を参照できます。
- 現行のブロックより順序番号が小さいブロックがない場合は、「Previous Block」プロパティの値はNULLになります。
- 「前ナビゲーション・データ・ブロック」プロパティの値を変更しても「Previous Block」プロパティの値は変わりません。

「PreviousItem」プロパティ

説明

オブジェクト・ナビゲータの項目リストに表示される順序番号がそのブロックで次に小さい項目の名前を表します。

適用されるオブジェクト

項目

設定

設定できません。

参照するビルトイン

■ GET_ITEM_PROPERTY

必須/オプション

オプション

「主キャンバス」プロパティ

Primary Canvas

説明

ウィンドウの主コンテンツ・ビューとなるキャンバスを指定します。実行時には常に、Form Builderによってウィンドウへの主コンテンツ・ビューの表示が試みられます。たとえば、SHOW_WINDOWビルトイン・プロシージャを実行してそのセッションで初めてウィンドウを表示すると、Form Builderによって主コンテンツ・ビューを含むウィンドウが表示されます。

しかし、そのビューの項目にナビゲートしたために、主コンテンツ・ビューがターゲット・ビューに置き換えられた場合は、Form Builderを使用して主コンテンツ・ビューとは異なるビューを表示する必要があります。

適用されるオブジェクト

ウィンドウ

設定

Form Builder

デフォルト

NULL

必須/オプション

ウィンドウに割り当てられたキャンバス上の項目へのナビゲーションに対する応答ではなく、プログラムによりウィンドウを表示する場合は必須。

「主キャンバス」プロパティの制限事項

このプロパティに指定できるビューは、コンテンツ・ビュー（「キャンバス・タイプ」プロパティが「コンテンツ」に設定されたビュー）のみであり、指定されたウィンドウ（「ウィンドウ」キャンバス・プロパティで設定）に割り当てられている必要があります。

「主キー」（項目）プロパティ

Primary Key (Item)

説明

その項目がデータ・ブロックの実表項目であるかどうか、また、実表の主キー列に対応しているかどうかを指定します。Form Builderでは、主キー項目の値は一意にする必要があります。

適用されるオブジェクト

ボタン、チャート項目、イメージ項目を除くその他すべての項目

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

いいえ

必須/オプション

オプション

「主キー」（項目）プロパティの制限事項

「主キーの強化」ブロック・プロパティは、項目を所有するブロックについて「はい」に設定している必要があります。

「プログラム単位のテキスト」プロパティ

Program Unit Text

説明

プログラム単位に含まれるPL/SQLコードを指定します。プロパティ・パレットで「詳細」をクリックすると、プログラム単位エディタが起動されます。

適用されるオブジェクト

プログラム単位

設定

Form Builder

必須/オプション

必須

「プロンプト」プロパティ

Prompt

説明

その項目に表示するテキスト・ラベルを指定します。

適用されるオブジェクト

項目プロンプト

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

■ GET_ITEM_PROPERTY

■ SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

ブランク

必須/オプション

オプション

「プロンプト整列」プロパティ

Prompt Alignment

説明

プロンプトが項目の「始点」、「終点」または「中央揃え」枠にそってどのように揃えられるかを指定します。

適用されるオブジェクト

項目プロンプト

設定

Form Builder、プログラム（注意: PL/SQLプログラムでこのプロパティを使用する場合、「Prompt_Alignment」のようにスペースをアンダースコアに置換します）。

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

始点

必須/オプション

必須

「プロンプト整列オフセット」プロパティ

Prompt Alignment Offset

説明

プロンプトの整列オフセットを指定します。

適用されるオブジェクト

項目プロンプト

設定

Form Builder、プログラム（注意: PL/SQLプログラムでこのプロパティを使用する場合、「Prompt_Alignment_Offset」のようにスペースをアンダースコアに置換します）。

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

blank

必須/オプション

オプション

「プロンプト連結枠」プロパティ

Prompt Attachment Edge

説明

プロンプトを連結する枠、つまり「始点」、「終点」、「上」、「下」のいずれかを指定します。

適用されるオブジェクト

項目プロンプト

設定

Form Builder、プログラム（注意: PL/SQLプログラムでこのプロパティを使用する場合、「Prompt_Attachment_Edge」のようにスペースをアンダースコアに置換します）。

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

始点

必須/オプション

必須

「プロンプト連結オフセット」プロパティ

Prompt Attachment Offset

説明

項目と項目のプロンプトとの間隔を指定します。

適用されるオブジェクト

項目プロンプト

設定

Form Builder、プログラム（注意: PL/SQLプログラムでこのプロパティを使用する場合、「Prompt_Attachment_Offset」のようにスペースをアンダースコアに置換します）。

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

0

必須/オプション

オプション

「プロンプトのバックグラウンド・カラー」プロパティ

Prompt Background Color

説明

オブジェクトまたはバックグラウンド領域のカラーを指定します。

適用先

項目プロンプト、ラジオ・ボタン

設定

Form Builder、プログラム（注意: PL/SQLプログラムでこのプロパティを使用する場合、「Prompt_Background_Color」のようにスペースをアンダースコアに置換します）。

デフォルト

指定なし

必須/オプション

オプション

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY
- GET_RADIO_BUTTON_PROPERTY
- SET_RADIO_BUTTON_PROPERTY

「プロンプト表示スタイル」プロパティ

Prompt Display Style

説明

プロンプトの表示スタイルを指定します。

最初のレコード	最初のレコードの横にプロンプトが表示される。
隠し	プロンプトは表示されません。
全レコード	各レコードの横にプロンプトが表示されます。

適用されるオブジェクト

項目プロンプト

設定

Form Builder、プログラム（注意: PL/SQLプログラムでこのプロパティを使用する場合、「Prompt_Display_Style」のようにスペースをアンダースコアに置換します）。

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY

■ SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

最初のレコード

必須/オプション

必須

「プロンプトの塗りパターン」プロパティ

Prompt Fill Pattern

説明

オブジェクトの塗り領域に使用されるパターンを指定します。パターンは、「Background_Color」プロパティおよび「Foreground_Color」プロパティで指定された2つのカラーでレンダリングされます。

適用先

項目、項目プロンプト、ラジオ・ボタン

設定

Form Builder、プログラム（注意: PL/SQLプログラムでこのプロパティを使用する場合、「Prompt_Fill_Pattern」のようにスペースをアンダースコアに置換します）。

デフォルト

指定なし

必須/オプション

オプション

参照するビルトイン

■ GET_ITEM_PROPERTY

■ SET_ITEM_PROPERTY

■ GET_RADIO_BUTTON_PROPERTY

■ SET_RADIO_BUTTON_PROPERTY

「プロンプトのフォント名」プロパティ

Prompt Font Name

説明

オブジェクト内のテキストに使用されるフォント・ファミリ、または書体を指定します。どのようなフォントが使用できるかはシステムによって異なります。

適用先

項目、項目プロンプト、ラジオ・ボタン

設定

Form Builder、プログラム（注意: PL/SQLプログラムでこのプロパティを使用する場合、「Prompt_Font_Name」のようにスペースをアンダースコアに置換します）。

デフォルト

指定なし

必須/オプション

オプション

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY
- GET_RADIO_BUTTON_PROPERTY
- SET_RADIO_BUTTON_PROPERTY

「プロンプトのフォント・サイズ」プロパティ

Prompt Font Size

説明

ポイント数で指定されるフォントのサイズ。

適用先

項目、項目プロンプト、ラジオ・ボタン

設定

Form Builder、プログラム（注意: PL/SQLプログラムでこのプロパティを使用する場合、「Prompt_Font_Size」のようにスペースをアンダースコアに置換します）。

デフォルト

0

必須/オプション

オプション

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY
- GET_RADIO_BUTTON_PROPERTY
- SET_RADIO_BUTTON_PROPERTY

「プロンプト・フォントの間隔」プロパティ

Prompt Font Spacing

説明

フォントの幅（文字間のスペースの大きさ、またはカーニング）を指定します。

適用先

項目、項目プロンプト、ラジオ・ボタン

設定

Form Builder、プログラム（注意: PL/SQLプログラムでこのプロパティを使用する場合、「Prompt_Font_Spacing」のようにスペースをアンダースコアに置換します）。

デフォルト

標準

必須/オプション

オプション

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY
- GET_RADIO_BUTTON_PROPERTY
- SET_RADIO_BUTTON_PROPERTY

「プロンプトのフォント・スタイル」プロパティ

Prompt Font Style

説明

フォントのスタイルを指定します。

適用先

項目、項目プロンプト、ラジオ・ボタン

設定

Form Builder、プログラム（注意: PL/SQLプログラムでこのプロパティを使用する場合、「Prompt_Font_Style」のようにスペースをアンダースコアに置換します）。

デフォルト

指定なし

必須/オプション

オプション

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY
- GET_RADIO_BUTTON_PROPERTY
- SET_RADIO_BUTTON_PROPERTY

「プロンプトのフォントの太さ」プロパティ

Prompt Font Weight

説明

フォントの幅を指定します。

適用先

項目、項目プロンプト、ラジオ・ボタン

設定

Form Builder、プログラム（注意: PL/SQLプログラムでこのプロパティを使用する場合、「Prompt_Font_Weight」のようにスペースをアンダースコアに置換します）。

デフォルト

標準

必須/オプション

オプション

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY
- GET_RADIO_BUTTON_PROPERTY
- SET_RADIO_BUTTON_PROPERTY

「プロンプトのフォアグラウンド・カラー」プロパティ

Prompt Foreground Color

説明

オブジェクトのフォアグラウンド領域のカラーを指定します。項目については、項目内に表示されるテキストのカラーを定義します。

適用先

項目、項目プロンプト、ラジオ・ボタン

設定

Form Builder、プログラム（注意: PL/SQLプログラムでこのプロパティを使用する場合、「Prompt_Foreground_Color」のようにスペースをアンダースコアに置換します）。

デフォルト

指定なし

必須/オプション

オプション

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY
- GET_RADIO_BUTTON_PROPERTY
- SET_RADIO_BUTTON_PROPERTY

「プロンプトの文字位置」プロパティ

Prompt Justification

説明

プロンプトの行の位置を「左揃え」、「右揃え」、「中央揃え」、「始点」または「終点」のいずれかに指定します。

適用されるオブジェクト

項目プロンプト

設定

Form Builder

デフォルト

始点

必須/オプション

必須

「プロンプトの読み込み順」プロパティ

Prompt Reading Order

説明

プロンプトの読み込み順を、「デフォルト」、「左から右」、「右から左」のいずれかに指定します。

適用されるオブジェクト

項目プロンプト

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

■ GET_ITEM_PROPERTY

■ SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

デフォルト

必須/オプション

必須

「プロンプトの可視属性グループ」プロパティ

Prompt Visual Attribute Group

説明

実行時にプロンプトに適用する名前付き可視属性を指定します。

適用されるオブジェクト

項目プロンプト

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

■ GET_ITEM_PROPERTY

■ SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

DEFAULT

必須/オプション

必須

「Prompt_White_On_Black」プロパティ

説明

オブジェクトをモノクロのビットマップ表示装置上に、白地のテキストと黒地のバックグラウンドで表示するように指定します。

適用されるオブジェクト

項目、ラジオ・ボタン

設定

プログラム

デフォルト

指定なし

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY
- GET_RADIO_BUTTON_PROPERTY
- SET_RADIO_BUTTON_PROPERTY

「プロパティ・クラス」プロパティ

Property Class

説明

そのオブジェクトがプロパティの設定値を継承できるプロパティ・クラスの名前を指定します。

適用されるオブジェクト

すべてのオブジェクト

設定

Form Builder

デフォルト

NULL

必須/オプション

オプション

「全レコードの問合せ」プロパティ

Query All Records

説明

問合せが実行されたときに、問合せ基準に一致したレコードをすべてフェッチしてデータ・ブロックに挿入するかどうかを指定します。

はい	問合せからのレコードをすべてフェッチします。これはEXECUTE_QUERY (ALL_RECORDS) ビルトインの実行に相当します。
いいえ	「問合せ配列サイズ」ブロック・プロパティで指定された数のレコードをフェッチします。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定

Form Builder

参照するビルトイン

- GET_BLOCK_PROPERTY
- SET_BLOCK_PROPERTY

デフォルト

いいえ

必須/オプション

データ・ブロックにサマリー対象項目が入っており、ブロックの「サマリーの予備計算」プロパティが「いいえ」に設定されている場合は必須。

「問合せ可」（ブロック）プロパティ

Query Allowed (Block)

説明

エンドユーザーまたはアプリケーションに、このブロック内での問合せの実行を許可するかどうかを指定します。「問合せ可」が「いいえ」の場合は、エンドユーザーがこのブロックで問合せを実行しようとする、次のメッセージが表示されます。

FRM-40360：ここではレコードの問合せはできません。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_BLOCK_PROPERTY
- SET_BLOCK_PROPERTY

デフォルト

はい

制限事項:

「問合せ可」ブロック・プロパティを「はい」に設定する場合は、少なくともそのブロック内のどれか1つの項目の「問合せ可」項目プロパティが「はい」に設定されている必要があります。

「問合せ可」（項目）プロパティ

Query Allowed (Item)

説明

この項目を所有するブロックの実表に対する問合せに組み込めるようにするかどうかを指定します。

適用されるオブジェクト

ボタン、チャート項目、イメージ項目を除くその他すべての項目

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

「はい」。ただし、その項目がマスター/ディテール・ブロック・リレーションのディテール・ブロックの外部キーの一部である場合は、Form Builderによってこのプロパティが「いいえ」に設定されます。

使用上の注意

「問合せ可」(項目)プロパティをプログラムによって設定する場合は、定数QUERYABLEを使用します。

「問合せ可」(項目)プロパティの制限事項

- 「可視」プロパティも「はい」に設定する必要があります。
- データ型LONGの項目は直接問い合わせることができません。

「問合せ配列サイズ」プロパティ

Query Array Size

説明

データベースから一度にフェッチできるレコード数の最大値を指定します。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定

Form Builder

参照するビルトイン

- GET_BLOCK_PROPERTY

デフォルト

そのブロックに表示できるレコード数、つまり「表示レコード数」ブロック・プロパティに設定されている値

必須/オプション

必須

使用上の注意

このプロパティを1に設定すると、Form Builderによって一度にフェッチされ表示されるレコードが1つのみになるため、応答時間が最も短くなります。逆に、10に設定すると、10レコードすべてがフェッチされるまでレコードは1つも表示されなくなりますが、レコードに関するデータベースへのコール回数が減るため全体的な処理時間が短くなります。

「問合せ配列サイズ」プロパティの制限事項

- このプロパティに設定できる値には上限はありません。

「問合せデータ・ソースの引数」プロパティ

Query Data Source Arguments

説明

データに対する問合せを実行するためにプロシージャに渡す引数の名前およびデータ型、値を指定します。「問合せデータ・ソースの引数」プロパティは、「問合せデータ・ソース・タイプ」プロパティが「プロシージャ」に設定されている場合のみ有効です。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定

Form Builder

デフォルト

NULL

必須/オプション

オプション

「問合せデータ・ソースの列」プロパティ

Query Data Source Columns

説明

ブロックの問合せデータ・ソースに対応する列の名前とデータ型を指定します。「問合せデータ・ソースの列」プロパティは、「問合せデータ・ソース・タイプ」プロパティが「表」または「FROM句問合せ」、「プロシージャ」に設定されている場合のみ有効です。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定

Form Builder

デフォルト

NULL

必須/オプション

オプション

「問合せデータ・ソースの名前」プロパティ

Query Data Source Name

説明

ブロックの問合せデータ・ソース名を指定します。

「問合せデータ・ソースの名前」プロパティは、「問合せデータ・ソース・タイプ」プロパティが「表」または「FROM句問合せ」、「プロシージャ」に設定されている場合のみ有効です。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_BLOCK_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

NULL

必須/オプション

オプション

「問合せデータ・ソースの名前」プロパティの制限事項

「問合せデータ・ソースの名前」プロパティを設定する前に、COMMIT_FORMまたは CLEAR_FORMを実行してください。

「問合せデータ・ソース・タイプ」プロパティ

Query Data Source Type

説明

このブロックの問合せデータ・ソース・タイプを指定します。問合せデータ・ソース・タイプは「表」または「プロシージャ」、「トランザクション・トリガー」、「FROM句問合せ」のいずれかです。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_BLOCK_PROPERTY

デフォルト

表

必須/オプション

必須

「問合せ長」プロパティ

Query Length

説明

フォームが「問合せ入力」モードのときに、エンドユーザーがテキスト項目に入力できる文字数を指定します。

適用されるオブジェクト

テキスト項目

設定

Form Builder

デフォルト

項目の「最大長」プロパティの値

使用上の注意

エンドユーザーが複雑な問合せ条件を入力できるようにする場合は、このプロパティに「最大長」プロパティの値より大きい値を入力します。たとえば、このプロパティを5に設定すると、エンドユーザーは「最大長」が3のテキスト項目に「!=500」という問合せ条件を入力できます。

「問合せ長」プロパティの制限事項

- このプロパティの最大値は、255文字です。

「問合せ名」プロパティ

Query Name

説明

フォームのブロックを関連付けるレポート内の問合せの名前を指定します。

適用先

レポート統合

設定

Form Builder

デフォルト

ブランク

必須/オプション

オプション

「問合せのみ」プロパティ

Query Only

説明

ある項目を、実行時にForm Builderによって発行されるINSERT文やUPDATE文に組み込まれない問合せ専用項目にするかどうかを指定します。

適用先

チェックボックス、ラジオ・グループ、リスト項目、イメージ項目、テキスト項目、カスタム項目（OLE）

設定

プログラム

デフォルト

いいえ

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY

「Query_Hits」プロパティ

説明

COUNT_QUERY操作で識別されたレコード数を示すNUMBER値を表します。問合せからレコードが取り出されている最中に「QUERY_HITS」の値を調べる場合は、この値は取り出されたレコード数を表します。

このプロパティは、Oracle以外のデータ・ソースを使用するアプリケーションのために用意されています。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定

プログラム

参照するビルトイン

- GET_BLOCK_PROPERTY
- SET_BLOCK_PROPERTY

使用上の注意

このプロパティは次のような場合に使用します。

- Oracle以外のデータ・ソースを使用するアプリケーションでは、On-Countトリガーの中でSET_BLOCK_PROPERTY(QUERY_HITS)を使用すると、問合せによって戻されるレコード数をForm Builderに知らせることができます。この方法で、Form Builderのデフォルトの問合せ件数のカウント処理と同じ処理がインプリメントできます。
- 問合せ件数のカウント処理中にGET_BLOCK_PROPERTY(QUERY_HITS)を使用すると、問合せで取り出される可能性のあるレコード数をあらかじめ調べることができます。
- フェッチ処理中にGET_BLOCK_PROPERTY(QUERY_HITS)を使用すると、それまでに問合せによって検索され、ブロックのレコード・リストに入れられたレコード数を調べることができます。

「Query_Hits」プロパティの制限事項

このプロパティに設定できる値は0以上です。

「Query_Options」プロパティ

説明

アプリケーションがデフォルト処理を迂回するように設計されていない場合に、Form Builder によってデフォルトで行われる問合せ操作のタイプを表します。このプロパティは、Oracle以外のデータ・ソースを使用するアプリケーションのために用意されています。

このプロパティには、次のいずれかの値が設定されます。

- VIEW
- FOR_UPDATE
- COUNT_QUERY
- NULL

適用されるオブジェクト

ブロック

設定

設定できません。

参照するビルトイン

- GET_BLOCK_PROPERTY

「ラジオ・ボタンの値」プロパティ

Radio Button Value

説明

ラジオ・グループのラジオ・ボタン項目に対応付ける値を指定します。

適用先

ラジオ・ボタン

設定

Form Builder

デフォルト

ブランク

「エントリでレイズ」プロパティ

Raise on Entry

説明

あるキャンバスが他の1つ以上のキャンバスとともに同じウィンドウに表示される場合に、エンドユーザーまたはアプリケーションがそのキャンバス上の項目にナビゲートしたときに、そのキャンバスをどのように表示するかを指定します。

- 「エントリでレイズ」プロパティを「いいえ」に設定すると、そのビューはウィンドウ内の別のビューの手前に、ターゲット項目が別のビューの後ろにある場合のみ表示されます。
- 「エントリでレイズ」プロパティを「はい」に設定すると、エンドユーザーまたはアプリケーションがそのビュー上の任意の項目にナビゲートした場合、そのビューは常にウィンドウの一番手前に表示されます。

適用されるオブジェクト

キャンバス

設定

Form Builder

デフォルト

いいえ

「エントリでレイズ」プロパティの制限事項

このプロパティを適用できるのは、同じウィンドウに複数のキャンバスが割り当てられている場合のみです。

「読み順序」プロパティ

Reading Order

説明

注意: このプロパティは、双方向各国語サポート (NLS: National Language Support) アプリケーション専用です。

1つのテキスト項目内の同じ言語で書かれた文字グループ(セグメント)をどちらから読み取るかを指定します。

「読み順序」プロパティを使用すると、2か国語テキスト項目つまり「ローマン」と「ローカル」の両方の言語で書かれたセグメントを含むテキスト項目をどのように表示するかを制御できます(「読み順序」プロパティは1か国語のみで記述されたテキスト項目には影響しません)。

このプロパティに設定できる値は次のとおりです。

Value	説明
デフォルト	そのテキスト項目のキャンパスの「方向」プロパティに指定された読取り順序を継承します。
右から左	項目を右から左に読み取ります。
左から右	項目を左から右に読み取ります。

適用先

表示項目、テキスト項目

設定

Form Builder

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

デフォルト

使用上の注意

- 通常、「読み順序」プロパティを明示的に設定する必要はありません(デフォルト値のまままで必要な機能が得られます)。項目のデフォルトの読取り順序を上書きする必要がある場合のみ、「読み順序」プロパティを設定します。

- 「読み込み順序」プロパティの値をプログラムによって取得または設定する場合は、「方向」プロパティを使用します。
- 「ローカル」セグメントは「右から左」モードで、「ローマン」セグメントは「左から右」モードで表示する場合は、このプロパティを「デフォルト」に設定します。
- テキスト項目の大半が「ローカル」で構成されている場合は、このプロパティを「右から左」に設定します。
- テキスト項目の大半が「ローマン」で構成されている場合は、このプロパティを「左から右」に設定します。

「実際単位」プロパティ

Real Unit

説明

「座標システム」プロパティを「実際単位」に設定した場合は、「実際単位」プロパティにフォームのサイズと位置座標を指定するときの実際単位を指定します。実際単位とは、cm、インチ、ピクセル、ポイント、小数点などを指します（1ポイントは72分の1インチです）。

そのフォーム内で指定されるサイズと位置座標はすべて、このプロパティに指定した実際単位で解釈されます。したがって、実際単位を変更すると、既存オブジェクトのサイズと位置の値の精度が低下するおそれがあります。

適用されるオブジェクト

フォーム・モジュール

設定

Form Builder

デフォルト

ポイント

必須/オプション

オプション

「実際単位」プロパティの制限事項

「座標システム」プロパティが「実際単位」に設定されている場合にのみ有効です。

「レコード・グループ」プロパティ

Record Group

説明

値リストまたは階層ツリーの値を取り出すレコード・グループの名前を指定します。

適用先

値リスト、階層ツリー

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_LOV_PROPERTY (GROUP_NAME)
- SET_LOV_PROPERTY (GROUP_NAME)
- POPULATE_TREE
- POPULATE_GROUP_FROM_TREE

デフォルト

NULL

必須/オプション

値リストに対しては必須。階層ツリーに対してはオプション。

使用上の注意

値リストには、基礎を形成するレコード・グループに格納されているレコードが表示されます。各値リストは1つのレコード・グループに基づいている必要があります。レコード・グループは、問合せ（問合せレコード・グループ）または固定値（静的レコード・グループ）を使用して挿入できます。

「レコード・グループの取出しサイズ」プロパティ

Record Group Fetch Size

説明

フェッチされるレコード・グループのサイズを指定します。フェッチサイズを大きくすると、レコード・グループの取得に必要なフェッチの回数が減ります。たとえば、5000レコードのレコードグループの場合、「レコード・グループの取出しサイズ」が「10」に設定されているときは、500トリップのフェッチが必要になりますが、1000に設定されているときは、5トリップのみが必要とされます。

適用先

レコード・グループ汎用ファンクション

設定

Form Builder

デフォルト

20

必須/オプション

必須

使用上の注意

このプロパティは、「レコード・グループ・タイプ」プロパティが「問合せ」に設定されているときに限り有効です。

「レコード・グループ問合せ」プロパティ

Record Group Query

説明

レコード・グループに対応付けられている問合せのSELECT文を指定します。

適用先

レコード・グループ

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

POPULATE_GROUP_WITH_QUERY

必須/オプション

オプション

「レコード・グループ・タイプ」プロパティ Record Group Type

説明

レコード・グループのタイプ、つまり「スタティック」か「問合せ」のどちらかを指定します。

スタティック	列名と列の値を明示的に定義してレコード・グループを作成することを表します。静的レコード・グループの値は設計時に指定し、実行時にこの値を変更することはできません。
問合せ	レコード・グループがSELECT文に対応付けられていることを表します。問合せレコード・グループは、実行時に動的に挿入できます。このオプションを選択した場合は、表示される複数行フィールドにSELECT文を入力して、「適用」を選択します。

適用先

レコード・グループ

設定

Form Builder

デフォルト

問合せ

「レコード方向」プロパティ

Record Orientation

説明

ブロック内のレコードの方向、つまり「水平」か「垂直」かを指定します。このプロパティの値に従って、ブロック内の項目の表示位置が調整されます。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定

Form Builder

デフォルト

垂直

必須/オプション

オプション

使用上の注意

「新規ブロック」ウィンドウでブロックを作成するときに、「レコード方向」オプションを「垂直」または「水平」に設定しても、このオプションが設定されます。

「レコード方向」プロパティの制限事項

このプロパティは、マルチレコード・ブロック（「表示レコード数」プロパティが2以上に設定されたブロック）のみに有効です。

「Records_to_Fetch」プロパティ

説明

On-Fetchトリガーで問合せ対象レコードとしてフェッチまたは作成されるレコード数が戻ります。

Oracle以外のデータ・ソースを使用するアプリケーションで、トランザクション・トリガーを使用してForm Builderのデフォルトのトランザクション処理を置換する場合は、プログラミングによってRecords_To_Fetchの値を調べることができます。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定

設定できません。

参照するビルトイン

GET_BLOCK_PROPERTY

使用上の注意

Records_To_Fetchを定義できるのは、On-Fetchトリガーが有効な範囲内のみです。

初めてOn-Fetchトリガーが起動されたとき、Records_To_Fetchの値は配列サイズ(「問合せ配列サイズ」ブロック・プロパティの値)か、表示レコード数に1を足した値のどちらか大きい方です。

On-Fetchトリガーによってこの値の数のみ問合せ対象レコードが作成されれば、次にOn-Fetchトリガーが起動されたときのRecords_To_Fetchの値は1回目と同じ数になります。

しかし、On-Fetchトリガーで作成されたレコード数がRecords_To_Fetchの値より少なく、Form_Trigger_Failureがコールされずにこのトリガーが戻された場合は、Form BuilderによってOn-Fetchトリガーがもう一度起動されます。Records_To_Fetchには、前の値から直前に起動されたOn-Fetchトリガーで作成された問合せ対象レコード数を引いた値が設定されます。

この動作は、次のイベントのいずれかが発生するまで繰り返されます。

- トリガーによって問合せ対象レコードが1つも作成されません(フェッチが正常に終了したというメッセージが表示されました)。
- 問合せ対象レコードが必要な数のみ作成されました。
- トリガーによってForm_Trigger_Failureがコールされました(エラーによりフェッチが異常終了したためフェッチ処理を中断するというメッセージが表示されました)。

「Records_to_Fetch」プロパティの例

```
/*
** Call a client-side package function to retrieve
** the proper number of rows from a package cursor.
*/
DECLARE
    j NUMBER := Get_Block_Property(blk_name, RECORDS_TO_FETCH);
    emprow emp%ROWTYPE;
BEGIN
```

```
FOR ctr IN 1..j LOOP
    /* Try to get the next row.*/
    EXIT WHEN NOT MyPackage.Get_Next_Row(emprow);
    Create_Queried_Record;
    :Emp.rowid := emprow.ROWID;
    :Emp.empno := emprow.EMPNO;
    :Emp.ename := emprow.ENAME;
    :
    :
END LOOP;
END;
```

「リレーション・タイプ」プロパティ

Relation Type

説明

マスター・ブロックとディテール・ブロックの間のリンクが、リレーショナル結合またはオブジェクトREFポインタのどちらであることを示します

適用先

マスター/ディテール・リレーション

設定

Form Builder

デフォルト

結合

使用上の注意

有効な値は「結合」（リレーショナル結合を表す）または「参照」（他のブロック内の被参照データを指している、単一ブロック内のREF列を表す）です。

リンクがREF経由のときは、「ディテール参照項目」プロパティの項を併せて参照してください。

リンクが結合経由のときは、「結合条件」プロパティの項を併せて参照してください。

「開放」プロパティ

Rendered

説明

項目がフォーカスを取得していないときに、その項目をレンダー・オブジェクトとして表示するかどうかを指定します。

適用先

テキスト項目、図表項目

設定

Form Builder

デフォルト

はい

使用上の注意

システム・リソースを節約する場合は、「開放」プロパティを「はい」に設定します。レンダー項目では、フォーカスを取得するまでシステム・リソースを使用しません。また、レンダー項目からフォーカスが移動すると、その項目を表示するために使用されていたリソースが解放されます。

「レポートの宛先形式」プロパティ

Report Destination Format

説明

ビットマップ環境では、「レポート宛先タイプ」プロパティの値が「ファイル」のときに使用されるプリンタ・ドライバを指定します。キャラクタ・モード環境では、「レポート宛先名」プロパティで命名されたプリンタの特性を指定します。

取りうる値は、長さが1Kを超えない有効な宛先書式です。このキーワードの有効値の例としては、hpl、hplwide、dec、decwide、decland、dec180、dflt、wideなどがあります。有効な宛先書式については、システム管理者に問い合わせてください。また、Report Builderでサポートされている宛先書式は次のとおりです。

PDF	レポート出力は、PDFビューアで読取り可能なファイルに送られます。PDF出力は、システムのその時点でのプリンタ構成を基に行われます。出力の生成には、現在選択されているプリンタのドライバが使用されます。レポートを実行しているマシンに対して、プリンタをあらかじめ構成しておく必要があります。
HTML	レポート出力は、HTML 3.0準拠のブラウザ（Netscape 2.2など）で読取り可能なファイルに送られます。
HTMLCSS	ファイルに送られるレポート出力にスタイル・シート拡張が含まれていることを表します。このスタイル・シート拡張は、カスケード・スタイル・シートをサポートした、HTML 3.0準拠のブラウザで読み取ることができます。
HTMLCSSIE	ファイルに送られるレポート出力にスタイル・シート拡張が含まれていることを表します。このスタイル・シート拡張は、Microsoft Internet Explorer 3.xで読み取ることができます。
RTF	レポート出力は、標準的なワード・プロセッサ（Microsoft Wordなど）で読み取ることが可能なファイルに送られます。ファイルをMicrosoft Wordで開くときは、「表示」→「ページ レイアウト」を選択して、レポートに含まれるすべてのグラフィックおよびオブジェクトが表示されるようにする必要があります。
DELIMITED	レポート出力は、Microsoft Excelなど標準的なスプレッドシート・ユーティリティで読み取ることが可能なファイルに送られます。DELIMITERも必ず指定してください。

このプロパティの詳細は、Report Builderオンライン・ヘルプの索引カテゴリ「コマンドライン引数」にある「DESFORMAT」の項を参照してください。

適用先

Reportレポート

設定

Form Builder

デフォルト

ブランク

必須/オプション

オプション

「レポート宛先名」プロパティ

Report Destination Name

説明

レポート出力の送信先となるファイル、プリンタ、InterOfficeディレクトリ、または電子メールのユーザーID（または配布リスト）の名前です。有効な値は次のとおりで、長さは最大1Kまでです。

- ファイル名（「レポート宛先ファイル」プロパティの値が「ファイル」または「ローカル・ファイル」の場合）
- プリンタ名（「レポート宛先タイプ」プロパティの値が「プリンタ」の場合）
- 電子メール名または配布名リスト（「レポート宛先タイプ」プロパティの値が「メール」の場合）

レポートを電子メール経由で送信するには、電子メール・アプリケーション（Oracle InterOfficeなどのWindows用MAPI準拠アプリケーション、またはUNIX上のネイティブのメール・アプリケーション）での指定と同じように、電子メールIDを指定します。複数のユーザー名を指定するには、(name, name,name)のように名前をカッコで囲み、カンマで区切ります。プリンタ名については、オプションでポートを指定できます。次に例を示します。

```
printer, LPT1:
```

```
printer, FILE:
```

このプロパティの詳細は、Report Builderオンライン・ヘルプの索引カテゴリ「コマンドライン引数」にある「DESNAME」の項を参照してください。

適用先

Reportレポート

設定

Form Builder

デフォルト

ブランク

必須/オプション

オプション

「レポート宛先タイプ」プロパティ

Report Destination Type

説明

出力の送信先を表します。有効な値は「画面」、「ファイル」、「プリンタ」、「プレビュー」、「メール」または「キャッシュ」です。このプロパティの詳細は、Report Builderオンライン・ヘルプの索引カテゴリ「コマンドライン引数」にある「DESTYPE」の項を参照してください。

スクリーン	出力をプレビューアに送信し、対話形式のビューを表示します。この値は、バッチ・モードではなくランタイム・モードでレポートを実行しているときに限り有効です。フォントのエイリアシングは実行されません。
ファイル	出力は、「レポート宛先名」プロパティで指定したファイルに保存されます。
プリンタ	出力は、「レポート宛先名」プロパティで指定したプリンタに送信されます。
プレビュー	出力をプレビューアに送信し、対話形式のビューを表示します。ただし、この値を指定した場合、出力はPostScript出力としてフォーマットされます。プレビューアでは、「レポート宛先名」プロパティの値によって、出力の表示に使用されるプリンタ・フォントが決定されます。このプロパティ値に対しては、フォントのエイリアシングが実行されます。
メール	「レポート宛先名」プロパティで指定されたメール・ユーザーに出力が送信されます。MAPI準拠の、またはサービス・プロバイダ・ドライバをインストール済みの任意のメール・システムに向けてメールを送信できます。レポートは添付ファイルとして送信されます。
キャッシュ	出力はReportサーバーのキャッシュへ直接送られます。

適用先

Reportレポート

設定

Form Builder

デフォルト

ファイル

必須/オプション

必須

「Report Server」プロパティ

説明

Reportの実行対象にできるReport Serverを指定します。

適用先

Reportレポート

設定

Form Builder

必須/オプション

オプション

デフォルト

ブランク

「必須」(項目)プロパティ Required (Item)

説明

新規レコードの挿入時に、値がNULLの項目を無効にするかどうかを指定します。

適用先

リスト項目、テキスト項目

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_ITEM_INSTANCE_PROPERTY
- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_INSTANCE_PROPERTY

■ SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

いいえ

使用上の注意

項目のプロパティを「はい」に設定されており、項目レベルの妥当性チェックが有効な場合、有効な値が入力されるまではその項目の外にナビゲートできなくなります(デフォルト)。エンドユーザーが自由にレコード内の項目間を移動できるようにする場合は、「Defer Required Enforcement」プロパティを「はい」に設定します。このようにすると、「必須」属性の施行時期を項目の妥当性チェック時からレコードの妥当性チェック時まで延期できます。

プロパティが「はい」に設定されていても、項目の値がNULLとなる場合があります。Form Builderでは、妥当性チェック・プロセスの中で必須項目がチェックされます。新規レコードの各項目は妥当性チェックの対象になりますが、問合せ対象データは有効であると仮定されるため、変更されない限り項目の妥当性はチェックされません。たとえば、データベースから既存レコードに対する問合せを実行すると、プロパティが「はい」に設定された項目にNULL値が挿入される可能性があります。

ポップリストまたはTリストの「必須」プロパティの設定によって、リストに表示される値が変化することがあります。ポップリスト・インスタンスの現在の値がNULLである場合、あるいはインスタンスの「必須」プロパティが有効でかつ「いいえ」に設定されている場合にそのインスタンスが選択されると、不必要なNULL値が表示されます。Tリスト・インスタンスの現在の値を選択したとき、その「必須」プロパティが有効でかつ「いいえ」に設定されていると、選択は解除されます(Tリストは値が選択されていない状態でそのまま残ります)。ただし、有効な「必須」プロパティが「はい」の場合は、Tリストのインスタンスの現行の値を選択しても影響はありません。値は選択されたままの状態になります。

「必須」(メニュー・パラメータ)プロパティ

Required (Menu Parameter)

説明

エンドユーザーに必ずメニュー置換パラメータの値を入力させるかどうかを指定します。

適用先

メニューパラメータ

設定

Form Builder

デフォルト

いいえ

「サイズ変更可能」プロパティ

Resize Allowed

説明

ウィンドウのサイズを固定し、実行時に変更できないように指定します。プラットフォームによってはサポートされない場合があります。

適用されるオブジェクト

ウィンドウ

設定

Form Builder

デフォルト

いいえ

使用上の注意

「サイズ変更可能」プロパティを「はい」に設定すると、エンドユーザーはウィンドウのサイズを変更できなくなりますが、アプリケーション内のRESIZE_WINDOWやSET_WINDOW_PROPERTYによるウィンドウのサイズ変更には影響しません。

「サイズ変更可能」プロパティの制限事項

- 「サイズ変更可能」プロパティは、「最大化可能」プロパティが「いいえ」に設定されている場合にのみ有効です。

「戻り項目」(値リスト)プロパティ

Return Item (LOV)

説明

「列マッピング・プロパティ」を参照。

「回転角度」プロパティ

Rotation Angle

説明

図形オブジェクトの回転角を指定します。オブジェクトが最初に作成されたときの角度が0とみなされます。このプロパティは、オブジェクトがその時点で初期角度から時計周りに何度ずれているかを表します。このプロパティを設定することにより、オブジェクトを絶対角度にまで回転できます。

適用先

物理図形

設定

Form Builder

デフォルト

0

必須/オプション

必須

「ランタイム互換性モード」プロパティ

Runtime Compatibility Mode

説明

現在のフォームのランタイム動作と互換性のあるForm Builderのバージョンを指定します（4.5または5.0から6.0まで）。デフォルトでは、Form Builder 5.0から6.0で作成される新しいフォームは、5.0互換に設定されます。バージョン4.5からアップグレードされた既存のフォームは4.5互換です。バージョン5.0から6.0の新しいランタイム動作を使用するようにこれらのフォームを設定するには、このプロパティを5.0に設定します。このプロパティの影響を受けるランタイム動作は主に、妥当性チェックと初期化です。バージョン5.0から6.0のランタイム動作については、オンラインのForm Builderリファレンスの「デフォルト・プロセス」の章の、初期化および妥当性チェックの節を参照してください。バージョン4.5のランタイム動作の詳細は、オンラインのForm Builderリファレンスの「前バージョンとの互換性」の章の、「Form Builder 4.5のランタイム動作」の節を参照してください。

適用先

フォームの互換性

設定

Form Builder

デフォルト

新規フォームについては5.0。Form Builder 4.5を使用して作成されたフォームについては4.5。

必須/オプション

必須

「セーブポイントモード」プロパティ

Savepoint Mode

説明

セッション中にセーブポイントを発行するかどうかを指定します。このプロパティは、Oracle以外のデータ・ソースを使用するアプリケーションのために用意されています。Oracleデータベースを使用するアプリケーションでは、デフォルト値を使用します。

このプロパティの設定値とその効果は次のとおりです。

設定	説明
はい（デフォルト）	フォーム起動時および各ポストおよびコミット処理の最初に、セーブポイントが発行されます。
いいえ	セーブポイントは発行されず、セーブポイントへのロールバックも実行されません。

適用されるオブジェクト

フォーム・モジュール

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_FORM_PROPERTY

■ SET_FORM_PROPERTY

デフォルト

はい

必須/オプション

オプション

「セーブポイントモード」プロパティの制限事項

「セーブポイントモード」プロパティを「いいえ」に設定すると、変更をコミットしていないフォームではCALL_FORMプロシージャを使用して別のフォームを起動できなくなります。

「Savepoint_Name」プロパティ

説明

Form Builderによって設定またはロールバックされるセーブポイントの名前を表します。

適用されるオブジェクト

アプリケーション

設定

設定できません。

参照するビルトイン

GET_APPLICATION_PROPERTY

使用上の注意

このプロパティの値は、次のようにOn-SavepointまたはOn-Rollbackトリガーの中のみで確認してください。

- ISSUE_SAVEPOINTのコールによって設定されるセーブポイントを調べる場合は、On-Savepointトリガー内でSavepoint_Nameを使用します。
- ISSUE_ROLLBACKのコールによってFormBuilderがロールバックするセーブポイントを調べる場合は、On-Rollbackトリガー内で Savepoint_Nameを使用します。NULLのセーブポイント名は完全なロールバックが要求されていることを表します。

「スクロール・バー整列」プロパティ

Scroll Bar Alignment

説明

スクロール・バーを枠の始点あるいは終点のどちらに表示するのかを指定します。

適用されるオブジェクト

枠

設定

Form Builder

デフォルト

終了

必須/オプション

オプション

「スクロール・バー高さ」プロパティ

Scroll Bar Height

説明

スクロール・バーの高さを指定します。

適用先

スクロール・バー

設定

Form Builder

必須/オプション

オプション

「スクロール・バー幅」プロパティ

Scroll Bar Width

説明

スクロール・バーの幅を指定します。

適用先

スクロール・バー

設定

Form Builder

必須/オプション

オプション

「データ隠蔽」（メニュー・パラメータ）プロパティ

Secure (Menu Parameter)

説明

エンドユーザーが入力するパラメータの文字を隠すかどうかを指定します。

適用先

メニューパラメータ

設定

Form Builder

デフォルト

いいえ

必須/オプション

オプション

「ライブラリをフォームと共有」プロパティ

Share Library with Form

説明

同一のライブラリが連結されたフォームは、ライブラリ・パッケージ・データを共有できます(詳細は、「関連項目」のCALL_FORM、OPEN_FORMおよびNEW_FORMの各ビルトインのdata_modeパラメータを参照)。「フォームとライブラリを共有」プロパティを設定することにより、フォームに関連付けられたメニュー間で、フォームと同様にライブラリ・パッケージ・データを共有することが可能になります。

適用先

メニュー

設定

Form Builder

デフォルト

はい

使用上の注意

- 1つのオブジェクトを共有している2つのフォームが設計時に共に開かれていて、フォームAでオブジェクトに変更が加えられた場合、変更がフォームAによって保存され、次にフォームBがいったん閉じられて再び開かれるまでの間、その変更はフォームBには影響しません。
- OPEN_FORMビルトインを使用して異なるデータベース・セッション内のフォームを開く場合、そのフォーム、またはそのフォームに関連付けられたメニューとライブラリ・データを共有することはできません。このプロパティを「はい」に設定してライブラリ・データを共有しようとしても無視されます。

「早送りボタン表示」プロパティ

Show Fast Forward Button

説明

サウンド項目のコントロールによって、を(レイアウト・エディタ内、かつ実行時に)表示するかどうかを判断します。

適用先

サウンド項目のコントロール

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

■ GET_ITEM_PROPERTY

■ SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

いいえ

必須/オプション

必須

「水平スクロール・バー表示」プロパティ

Show Horizontal Scroll Bar

説明

キャンバス、2次ウィンドウ、イメージ項目にスクロール・バーを表示するかどうかを指定します。

適用先

キャンバス、ウィンドウ、エディタ、イメージ項目

設定

Form Builder

デフォルト

いいえ

必須/オプション

オプション

「水平スクロール・バー表示」プロパティの制限事項

- ウィンドウでは、「モード」プロパティが「いいえ」に設定されている場合にのみ有効。
- 水平スクロール・バーをサポートするウィンドウ・マネージャ上でのみ有効。

「線を表示」プロパティ

Show Lines

説明

階層ツリーで、それぞれのノードに至る線を表示するかどうかを指定します。

適用先

階層ツリー

設定

Form Builder

デフォルト

TRUE

必須/オプション

必須

「OLEポップアップ・メニュー表示」プロパティ

Show OLE Popup Menu

説明

マウスの右ボタンが押されたときに、OLEオブジェクトを操作するためのコマンドのポップアップ・メニューを表示するかどうかを指定します。このプロパティに設定できる値は次のとおりです。

はい	デフォルトのOLEポップアップ・メニューの選択。マウス・カーソルをOLEオブジェクトに合わせてマウスの右ボタンを押すと、OLEポップアップ・メニューが表示されます。
いいえ	マウス・カーソルをOLEオブジェクトに合わせてマウスの右ボタンを押しても、OLEポップアップ・メニューは表示されません。

適用先

OLEコンテナ

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

はい

必須/オプション

必須

使用上の注意

- Form Builderによって、あるいはプログラムでもSHOW_POPUPMENUプロパティを使用してOLEポップアップ・メニューの値を設定および取得できます。SET_ITEM_PROPERTYビルトインでSHOW_POPUPMENUプロパティをPROPERTY_TRUEに設定すると、OLEポップアップ・メニューが表示されます。SHOW_POPUPMENUプロパティをPROPERTY_FALSEに設定すると、OLEポップアップ・メニューは表示されません。また、GET_ITEM_PROPERTYビルトインでSHOW_POPUPMENUプロパティを使用すると、現在のOLEポップアップ・メニューの設定値を取得できます。OLEポップアップ・メニューが表示される場合は、GET_ITEM_PROPERTYビルトインによってTRUEが戻り、OLEポップアップ・メニューが表示されない場合はFALSEが戻ります。

- Microsoft WindowsおよびMacintosh上でのみ有効。

「OLEテナント・タイプ表示」プロパティ

Show OLE Tenant Type

説明

OLEオブジェクト・タイプを規定している枠で、OLEコンテナを囲むかどうかを指定します。枠のタイプはOLEオブジェクトのタイプによって異なります。

適用先

OLEコンテナ

設定

方法 Form Builder

デフォルト

はい

「OLEテナント・タイプ表示」プロパティの制限事項

Microsoft Windows上でのみ有効。

「パレット表示」プロパティ

Show Palette

説明

実行時に対応するイメージ項目の近くにイメージ操作パレットを表示するかどうかを指定します。パレットには、エンドユーザーが表示されたイメージ項目を操作するためのツールが3つ表示されます。

- **ズーム** このツールをクリックしてからイメージを繰り返しクリックすると、イメージ項目の境界内に表示されているソース・イメージの量が一定量減少します。
- **パン** 手の形をしたポインタを使用して、ソース・イメージの隠れている部分をパンして表示します（この操作は、ソース・イメージがイメージ項目の少なくとも1本の境界線を超えている場合にのみ可能です）。
- **回転** イメージを繰り返しクリックすると、イメージが90度ずつ時計回りに回転します。

適用先

イメージ項目

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY

■ SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

いいえ

必須/オプション

必須

「再生ボタン表示」プロパティ

Show Play Button

説明

サウンド項目のコントロールにより  を（レイアウト・エディタと、実行時に）表示するかどうかを決めます。

適用先

サウンド項目のコントロール

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

■ GET_ITEM_PROPERTY

■ SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

はい

必須/オプション

必須

使用上の注意

- 「録音ボタン表示」プロパティが既に「いいえ」に設定されている場合に、「再生ボタン表示」プロパティを「いいえ」に設定すると、実行時に  がForm Builderによって自動的に表示されます。

「録音ボタン表示」プロパティ

Show Record Button

説明

サウンド項目のコントロールにより  を（レイアウト・エディタ内と、実行時に）表示するかどうかを決めます。

適用先

サウンド項目のコントロール

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

いいえ

必須/オプション

必須

使用上の注意

- 「再生ボタン表示」プロパティが既に「いいえ」に設定されている場合に、「録音ボタン表示」プロパティを「いいえ」に設定すると、実行時にForm Builderによって  が自動的に表示されます。

「巻戻しボタン表示」プロパティ

Show Rewind Button

説明

サウンド項目のコントロールにより  を（レイアウト・エディタ内と、実行時に）表示するかどうかを決めます。

適用先

サウンド項目のコントロール

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

■ GET_ITEM_PROPERTY

■ SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

いいえ

必須/オプション

必須

「スクロール・バー表示」プロパティ

Show Scroll Bar

説明

定義しているブロックにブロック・スクロール・バーを作成するかどうかを指定します。「スクロール・バー表示」プロパティを「はい」に設定すると、Form Builderによって「スクロール・バー・キャンバス」プロパティに指定されたキャンバス上にスクロール・バーが作成されます。

ブロック・スクロール・バーを作成すると、スクロール・バー・オブジェクト自体のプロパティ、たとえば「スクロール・バー・キャンバス」、「スクロール・バー方向」、「スクロール・バーx位置」、「スクロール・バーy位置」、「スクロール・バー幅」、「スクロール・バー高さ」、「逆方向」、「可視属性グループ」などが設定できます。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定

Form Builder

デフォルト:

いいえ

必須/オプション

オプション

使用上の注意

「逆方向」プロパティを「はい」に設定した場合、エンドユーザーがスクロール・バーを上スクロールすると、Form Builderによって次のレコード・セットがフェッチされます。逆に、エンドユーザーが下にスクロールすると、既にフェッチされたレコードが表示されます。

プロパティ	説明
スクロール・バー・キャンバス	ブロックのスクロール・バーを表示するキャンバスを指定します。そのフォーム内にあるキャンバスを指定してください。
スクロール・バー方向	ブロック・スクロール・バーを水平に表示するか垂直に表示するかを指定します。
スクロール・バーx位置	ブロック・スクロール・バーのX座標を指定します。この値はスクロール・バーの左上角で計測されます。デフォルト値は0です。
スクロール・バーy位置	ブロック・スクロール・バーのY座標を指定します。この値はスクロール・バーの左上角で計測されます。デフォルト値は0です。
スクロール・バー幅	ブロック・スクロール・バーの幅を指定します。デフォルト値は2です。
スクロール・バー高さ	ブロック・スクロール・バーの高さを指定します。デフォルト値は10です。
逆方向	スクロール・バーを逆方向にスクロールするかどうかを指定します。デフォルト値は「いいえ」です。
可視属性グループ	スクロール・バーに使用するとフォントおよびカラー、パターンの属性を指定します。詳細は、「可視属性グループ」プロパティを参照してください。デフォルトの設定は、プラットフォームおよびリソース・ファイルの定義により異なります。

「スライダ表示」プロパティ

Show Slider

説明

サウンド項目のコントロールにより  を（レイアウト・エディタ内と、実行時に）表示するかどうかを決めます。

適用先

サウンド項目のコントロール

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

■ GET_ITEM_PROPERTY

■ SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

はい

必須/オプション

必須

「記号を表示」プロパティ

Show Symbols

説明

階層ツリーにおいて、各ブランチ・ノードの先頭に「+」または「-」の記号を表示するかどうかを示します。「+」記号は、子を持ったノードが拡張表示されていないことを示します。「-」記号はノードが拡張済みであることを示します。

適用先

階層ツリー

設定

Form Builder

デフォルト

True

必須/オプション

必須

「時間標識表示」プロパティ

Show Time Indicator

説明

サウンド項目のコントロールにより  を（レイアウト・エディタ内と、実行時に）表示するかどうかを決めます。

適用先

サウンド項目のコントロール

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

はい

必須/オプション

必須

「垂直スクロール・バー表示」プロパティ

Show Vertical Scroll Bar

説明

垂直スクロール・バーをキャンパスまたはウィンドウの横に表示するかどうかを指定します。

適用先

キャンパス、ウィンドウ、イメージ項目、エディタ、項目

設定

Form Builder

デフォルト

いいえ

必須/オプション

オプション

「垂直スクロール・バー表示」プロパティの制限事項

- 垂直スクロール・バーをサポートするウィンドウ・マネージャ上でのみ有効です。
- ルート・ウィンドウでは設定できません。ルート・ウィンドウにスクロール・バーを表示することはできません。
- 垂直スクロール・バーをサポートするウィンドウ・マネージャ上でのみ有効です。
- テキスト項目では、「複数行」プロパティが「はい」に設定されている必要があります。

「音量ボタン表示」プロパティ

Show Volume Control

説明

サウンド項目のコントロールにより  を（レイアウト・エディタ内と、実行時に）表示するかどうかを決めます。

適用先

サウンド項目のコントロール

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

はい

必須/オプション

必須

「シュリンクラップ」プロパティ

Shrinkwrap

説明

枠内のスペースを自動的に削除するかどうかを指定します。「シュリンクラップ」プロパティが「はい」に設定されていると、Form Builderは、枠内の項目の周りの枠を自動的に縮小します。

注意: 「シュリンクラップ」プロパティが「はい」に設定されているときに枠のサイズを変更しても、枠のサイズは変わりません。たとえば、枠のサイズを大きくしても、Form Builderによって枠の大きさが縮小サイズに自動的に戻されます。枠のサイズを変えたい場合は、「シュリンクラップ」プロパティを「いいえ」に設定してください。

適用されるオブジェクト

枠

設定

Form Builder

デフォルト

はい

必須/オプション

オプション

「単一オブジェクト整列」プロパティ

Single Object Alignment

説明

「枠整列」プロパティが「塗り」に設定されている場合にシングルライン・オブジェクトの位置を指定します。

適用されるオブジェクト

枠

設定

Form Builder

デフォルト

始点

必須/オプション

必須

「単一レコード」プロパティ

Single Record

説明

この制御ブロックにレコードが必ず1つ含まれているように指定します。なお、このプロパティは、ブロック内に表示されるレコードの数を指定するものではありません。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定

Form Builder

デフォルト

いいえ

使用上の注意

- 集計計算済みの項目を含む制御ブロック、またはActiveXコントロール（32ビットWindows）では、「単一レコード」プロパティを「はい」に設定します。一方、集計計算中であるが計算済み項目に表示されている値を持つブロックでは、「単一レコード」プロパティを「いいえ」に設定します。
- データ・ブロックでは、「単一レコード」プロパティを「はい」に設定することはできません。

「サイズ」プロパティ

Size

説明

「座標システム」フォーム・プロパティに指定された現在のフォームの座標単位で、キャンバスの幅と高さを指定します。

適用されるオブジェクト

キャンバス

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_CANVAS_PROPERTY
- SET_CANVAS_PROPERTY

「サイズ」（項目）

Size(Item)

「座標システム」フォーム・プロパティに指定された現在のフォームの座標単位で、項目の幅と高さを指定します。

適用されるオブジェクト

項目

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY
- GET_RADIO_BUTTON_PROPERTY

■ SET_RADIO_BUTTON_PROPERTY

「サイズ」(エディタ)

Size(Editor)

「座標システム」フォーム・プロパティに指定された現在のフォームの座標単位で、エディタの幅と高さを指定します。

適用されるオブジェクト

エディタ

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

■ EDIT_TEXTITEM

■ SHOW_EDITOR

使用上の注意

- テキスト項目や図表項目では、項目内に格納できる文字数は「最大長」プロパティによって決まり、「サイズ」プロパティの値には影響されません。
- キャラクタ・モードのプラットフォームで稼動するアプリケーションでは、テキスト・ラベルを表示する項目の高さは2文字セル以上にする必要があります。これより小さい値を指定すると、テキストが正しく表示されません。

「サイズ」(値リスト)

Size(LOV)

「座標システム」フォーム・プロパティに指定された現在のフォームの座標単位で、値リストの幅と高さを指定します。

「座標システム」フォーム・プロパティに指定された現在のフォームの座標単位で、値リストの幅と高さを指定します。

適用先

値リスト

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_LOV_PROPERTY
- SET_LOV_PROPERTY

制限事項

値リストの幅は、Form Builderによって、値リストの下部にボタンをすべて表示するのに十分なサイズに設定されます（値リストのサイズが変更できるプラットフォームでは、値リストのサイズを変更して、ボタンの一部が表示されなくなるまで小さくすることができます）。

「サイズ」（ウィンドウ）

Size(Window)

「座標システム」フォーム・プロパティに指定された現在のフォームの座標単位で、ウィンドウの幅と高さを指定します。

適用されるオブジェクト

ウィンドウ

設定

Form Builder、プログラム

デフォルト

80文字 X 24文字

参照するビルトイン

- GET_WINDOW_PROPERTY
- SET_WINDOW_PROPERTY

「サイズ」プロパティの制限事項

エディタの幅は、Form Builderによって、エディタの下部にボタンをすべて表示するのに十分なサイズに設定されます（エディタのサイズを変更できるプラットフォームでは、エディタのサイズを変更して、ボタンの一部が表示されなくなるまで小さくすることができます）。

「サイズ調整形式」プロパティ

Sizing Style

説明

イメージのサイズがイメージ項目のサイズと一致しない場合のイメージの表示形式を指定します。

このプロパティに設定できる値は次のとおりです。

切り取り	イメージを表示四角形に入る部分のみ表示します。
調整	イメージのサイズを表示四角形に入る大きさに変更して、イメージ全体を表示します。

適用先

イメージ項目

設定

Form Builder

デフォルト

切り取り

「サウンド形式」プロパティ

Sound Format

説明

サウンド項目をデータベースに格納するフォーマットであるAU、AIFF、AIFF_C、WAVEのいずれかを指定します。

ビルトイン・サブプログラムのREAD_SOUND_FILEまたはWRITE_SOUND_FILEを使用して、ファイルシステムから読み取るか、またはファイルシステムへ書き込むサウンド・データを処理するときは、*file_type*パラメータを使用して、読み取りまたは書き込み対象のサウンド・データのサウンド・フォーマットを指定します。

適用先

サウンド項目

設定

Form Builder

参照するビルトイン

- READ_SOUND_FILE
- WRITE_SOUND_FILE

デフォルト

WAVE

必須/オプション

必須

「サウンド品質」プロパティ

Sound Quality

説明

サウンド項目をデータベースに格納するときの品質、つまり、「自動」、「最高」、「高」、「標準」、「低」、「最低」のいずれかを指定します。

WRITE_SOUND_FILEビルトイン・サブプログラムを使用してサウンド・データをファイルシステムに書き込む場合は、書き込むサウンド・データのサウンド・フォーマットを`sound_quality`パラメータで制御します。

適用先

サウンド項目

設定

Form Builder

参照するビルトイン

- WRITE_SOUND_FILE

デフォルト

自動

必須/オプション

必須

「開始角」プロパティ

Start Angle

説明

円弧の開始角を指定します。起点には水平軸が使用されます。

適用先

図形（円弧）

設定

Form Builder

デフォルト

90

必須/オプション

必須

「開始プロンプト整列」プロパティ

Start Prompt Alignment

説明

プロンプトを項目の水平方向の枠のどの位置(開始点、中央または終了点)に置くかを指定します。このプロパティは、「レイアウト・スタイル」プロパティが「フォーム」の場合にのみ有効です。

適用されるオブジェクト

枠

設定

Form Builder

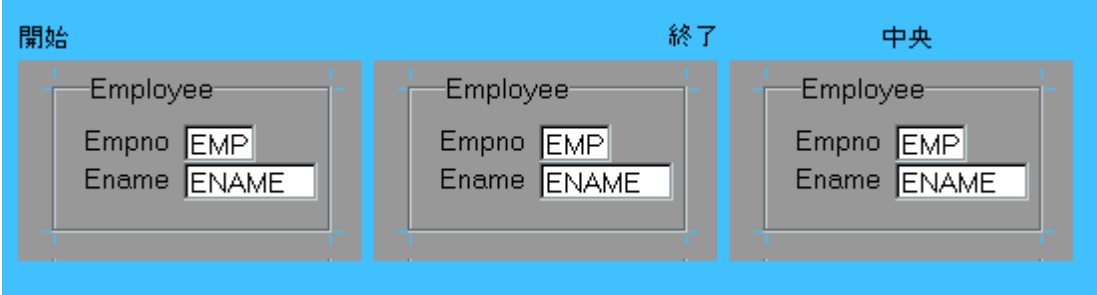
デフォルト

始点

必須/オプション

必須

「開始プロンプト整列」の表示



「開始プロンプトのオフセット」プロパティ

Start Prompt Offset

説明

「開始プロンプト整列」プロパティが「始点」に設定されているときに、プロンプトと項目間の間隔を指定します。

適用されるオブジェクト

枠

設定

Form Builder

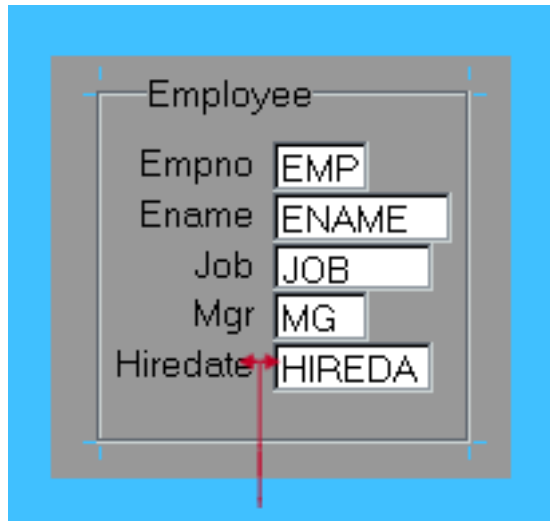
デフォルト

0(文字セル)

必須/オプション

必須

「開始プロンプトのオフセット」の表示



「起動コード」プロパティ

Startup Code

説明

フォーム起動時にメニュー・モジュールがメモリー内にあるときに、Form Builderで実行するオプションPL/SQLコードを指定します。起動コードは、メニュー・モジュールのロード時に起動される一種のトリガーと考えてください。

適用されるオブジェクト

メニュー・モジュール

設定

Form Builder

必須/オプション

オプション

使用上の注意

Form Builderがコール先フォームから戻るときは起動コードは実行されません。

「状態」(ブロック)プロパティ

Status (Block)

説明

そのブロックの現在のステータスを表します。ブロックのステータスは新規作成、変更済み、問合せのいずれかです。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定

設定できません。

参照するビルトイン

GET_BLOCK_PROPERTY

使用上の注意

フォームの現在のブロックのステータスは、SYSTEM.BLOCK_STATUSシステム変数の値を調べることで判断することができます。また、フォームのステータスは、SYSTEM.FORM_STATUSシステム変数の値で調べます。

「状態」(レコード)プロパティ

Status (Record)

説明

そのレコードの現在のステータスを表します。レコードのステータスは新規作成、変更済み、問合せ、挿入のいずれかです。

適用先

レコード

設定

プログラム

参照するビルトイン

- GET_RECORD_PROPERTY
- SET_RECORD_PROPERTY

使用上の注意

「状態」プロパティを使用すると、すべてのレコードのステータスを調べることができます。また、SYSTEM.RECORD_STATUSシステム変数の値を調べると、フォームの現在のレコードの状態がわかります。

一般に、割当て値が前値と同一であっても、データベース項目に割当てを行うと、レコードのステータスがQUERYからCHANGEDまたはNEWからINSERTに変更されます。割当て時には、項目がOUTパラメータかIN OUTパラメータカウントとしてプロシージャに渡されます。

「サブクラス情報」プロパティ

Subclass Information

説明

参照オブジェクトのソース・オブジェクトおよびソース・モジュールに関する次の情報を指定します。

モジュール	ソース・モジュールの名前。
記憶域	ソース・モジュール・タイプ（フォームまたはメニュー）と位置（ファイル・システムまたはデータベース）。
名前	ソース・モジュール内のソース・オブジェクトの名前（参照オブジェクトの名前はソース・オブジェクトの名前と同一である必要はありません）。

適用先

任意の参照オブジェクト

設定

Form Builder

必須/オプション

オプション

「サブメニュー名」プロパティ

Submenu Name

説明

メイン・メニューに関連付けられたサブメニュー名を指定します。「サブメニュー」プロパティを起動するには、「コマンド・タイプ」プロパティが「メニュー」に設定されている必要があります。

適用先

メニュー項目

設定

Form Builder

必須/オプション

必須

デフォルト

NULL

「サマリー結果ブロック」プロパティ

Summarized Block

説明

サマリー計算した項目に値を割り当てるため、その項目で集計されたすべての行（合計、平均など）に対してForm Builderブロックを指定します。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定

Form Builder

必須/オプション

対応する項目の「計算モード」プロパティが「サマリー」に設定されている場合は、必須

「サマリー結果項目」プロパティ

Summarized Item

説明

サマリー計算した項目に値を割り当てるため、集計した値（合計、平均など）を持つ項目を指定します。

適用されるオブジェクト

項目

設定

Form Builder

必須/オプション

対応する項目の「計算モード」プロパティが「サマリー」に設定されている場合は、必須

「サマリー結果項目」プロパティの制限事項

- サマリー結果項目をサマリー項目にすることはできません。
- サマリー結果項目がサマリー項目と同じブロック内でない場合、サマリー項目の「単一レコード」プロパティが「はい」に設定された制御ブロック内にある必要があります。

「サマリー・ファンクション」プロパティ

Summary Function

説明

Form Builderがサマリー結果項目上で実行する計算関数のタイプを指定します。

平均	ブロック内の全レコードのサマリー結果項目の平均値（算術平均）。
カウント	ブロック内の全レコードのサマリー結果項目のNULL以外のすべてのインスタンスの件数。
最大	ブロック内の全レコードのサマリー結果項目の最大値。
最小	ブロック内の全レコードのサマリー結果項目の最小値。
標準偏差	ブロック内の全レコードのサマリー結果項目の値の標準偏差
合計	ブロック内の全レコードのサマリー結果項目のすべての値の合計。
平方偏差	ブロック内の全レコードのサマリー結果項目の値の標準偏差（平方偏差は標準偏差の2乗として定義されています）。

注意: 算術演算の詳細は、『Oracle8 Server SQLリファレンス』を参照してください。

適用されるオブジェクト

項目

設定

Form Builder

必須/オプション

対応する項目の「計算モード」プロパティが「サマリー」に設定されている場合は、必須

デフォルト

なし

「サマリー・ファンクション」プロパティの制限事項

項目の「サマリー・タイプ」が「Max」または「Min」でない限り、「パラメータのデータ型」プロパティはNumberに設定する必要があります。この場合、データ型は対応するサマリー結果項目のデータ型をミラー化してください。たとえば、HIREDATE列に最も新しい（つまり最大の）日付を表示する計算項目にはDateのデータ型が必要です。

「項目と同期」プロパティ

Synchronize with Item

説明

現在の項目の値を取り出す項目の名前を指定します。このプロパティを設定すると、2つの項目の値が同期化され、効果的にミラー化されます。エンドユーザーまたはアプリケーションによってどちらかの項目の値が変更されると、もう一方の値も変更されます。

適用先

OLEコンテナを除くすべての項目

設定

Form Builder

必須/オプション

オプション

デフォルト

NULL

使用上の注意

- このプロパティは、前のリリースでの「ミラー項目」プロパティに相当するプロパティです。
- 実表や制御ブロックに対して、「項目と同期」プロパティを設定できます。「項目と同期」プロパティを指定すると、現在の項目の「実表項目」プロパティは無視され、項目はその値をデータベース内の列からではなく、指定されたミラー項目から導出します。
- GET_ITEM_PROPERTYビルトインを使用して「実表項目」プロパティを取得する場合、指定されたミラー項目から値が取得されます。
- ミラー項目を使用すると、ブロック内に同じデータベース列の値を表示する複数の項目を作成できます。

「項目と同期」プロパティの制限事項

- 同じミラー項目を指し示すフォーム内の項目数の最大値は100です。

「タブ連結枠」プロパティ

Tab Attachment Edge

説明

タブ・キャンバスに連結するタブの位置を指定します。

適用されるオブジェクト

タブ・キャンバス

設定

Form Builder

デフォルト

上

必須/オプション

必須

「タブ連結枠」プロパティの制限事項

このプロパティは、設定できるのはタブ・キャンバスのみです。

「タブ・ページ」プロパティ

Tab Page

説明

この項目を配置するタブ・ページの名前を指定します。

適用されるオブジェクト

項目

設定

Form Builder

デフォルト

なし

参照するビルトイン

■ GET_ITEM_PROPERTY (プログラムのプロパティ名は「Item_Tab_Page」です)

必須/オプション

項目がタブ・キャンバスに配置されている場合は必須

「タブ・ページXオフセット」プロパティ

Tab Page X Offset

説明

タブ・キャンバスの左側の枠とタブ・ページの左側の枠との間隔を表します。返される値は、フォーム座標系の単位がピクセル、センチメートル、インチ、またはポイントのどれであるかによって異なります。

適用されるオブジェクト

タブ・キャンバス

参照するビルトイン

■ GET_CANVAS_PROPERTY

「タブ・ページ X オフセット」プロパティの制限事項

- このプロパティは取得のみできます。設定はできません。
- このプロパティを設定できるのは、タブ・キャンバスのみです。タブ・キャンバス以外のキャンバスでは、0が戻されます。

「タブ・ページYオフセット」プロパティ

Tab Page Y Offset

説明

タブ・キャンバスの上の枠とタブ・ページの上の枠との間隔を表します。戻す値は、 $\frac{3}{4}$ ピクセル、センチメートル、インチまたはポイントを使用するフォーム座標システムによって決まります。

適用されるオブジェクト

タブ・キャンバス

参照するビルトイン

■ GET_CANVAS_PROPERTY

「タブ・セットYオフセット」プロパティの制限事項

- このプロパティは取得のみできます。設定はできません。
- このプロパティを設定できるのは、タブ・キャンバスのみです。タブ・キャンバス以外のキャンバスでは、0が戻されます。

「コーナーのスタイル」プロパティ

Tab Style

説明

タブ・キャンバス上のラベル付きタブの形を指定します。

適用されるオブジェクト

タブ・キャンバス

設定

Form Builder

デフォルト

面取り

必須/オプション

必須

「切離しメニュー」プロパティ

Tear-Off Menu

説明

メニューを切離しメニューとして定義するかどうかを指定します。

適用されるオブジェクト

メニュー

設定

Form Builder

デフォルト

いいえ

「切離しメニュー」の制限事項

切離しメニューをサポートするのは、Xウィンドウ・マネージャ上のプルダウン・メニュー・スタイルのみです。

「Timer_Name」プロパティ

説明

最後にタイムアウトとなったタイマーの名前を表します。

適用されるオブジェクト

アプリケーション

設定

設定できません。

参照するビルトイン

■ GET_APPLICATION_PROPERTY

必須/オプション

オプション

「Timer_Name」プロパティの制限事項

When-Timer-Expiredトリガー内で調べる場合のみ有効です。

「タイトル」プロパティ

Title

説明

そのオブジェクトに表示するタイトルを指定します。

適用されるオブジェクト

警告、フォーム・モジュール、値リスト、ウィンドウ

設定

Form Builder

必須/オプション

オプション

タイトル (値リスト)

デフォルト

NULL

必須/オプション

オプション

タイトル (ウィンドウ)

参照するビルトイン

■ GET_WINDOW_PROPERTY

■ SET_WINDOW_PROPERTY

必須/オプション

オプション

使用上の注意

- ウィンドウ・タイトルの長さの上限は、使用されているディスプレイ・ドライバによって異なります（たとえば、SVGA 1280x1024で、Windows NTで動作している場合、上限は78文字です）。
- ルート・ウィンドウ以外のウインドウにタイトルを指定しないと、Form Builderはウィンドウの「名前」プロパティに示されるそのウィンドウのオブジェクト名を使用します。
- ルート・ウィンドウにタイトルを指定せず、現行のメニューが「デフォルト」メニューの場合は、フォーム・モジュールの「名前」プロパティに指定されたフォーム・モジュール名がルート・ウィンドウ・タイトルに使用されます。また、現在のメニューが「プルダウン」または「バー」表示形式で実行されるカスタム・メニューの場合、Form Builderでは、ルート・ウィンドウ上のモジュールにある、メイン・メニュー名がタイトルに使用されます。このメイン・メニュー名は、メニュー・モジュールの「メイン・メニュー」プロパティで指定されているものです。

「ツールチップ」プロパティ

Tooltip

説明

マウス・カーソルが項目に入ったとき、項目の下にある小ボックスへ表示するヘルプ・テキストを指定します。

適用されるオブジェクト

項目

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

ブランク

必須/オプション

オプション

「ツールチップのバックグラウンド・カラー」プロパティ

Tooltip Background Color

説明

オブジェクトのバックグラウンド領域のカラーを指定します。

適用されるオブジェクト

項目

設定

プログラム

デフォルト

指定なし

参照するビルトイン

■ GET_ITEM_PROPERTY

■ SET_ITEM_PROPERTY

「ツールチップの塗りパターン」プロパティ

Tooltip Fill Pattern

説明

オブジェクトの塗り領域に使用されるパターンを指定します。パターンは、「Background_Color」プロパティおよび「Foreground_Color」プロパティで指定された2つのカラーでレンダリングされます。

適用されるオブジェクト

項目

設定

プログラム

デフォルト

指定なし

参照するビルトイン

■ GET_ITEM_PROPERTY

■ SET_ITEM_PROPERTY

「ツールチップのフォント名」プロパティ

Tooltip Font Name

説明

オブジェクト内のテキストに使用されるフォント・ファミリ、または書体を指定します。どのようなフォントが使用できるかはシステムによって異なります。

適用されるオブジェクト

項目

設定

プログラム

デフォルト

指定なし

参照するビルトイン

■ GET_ITEM_PROPERTY

■ SET_ITEM_PROPERTY

「ツールチップのフォント・サイズ」プロパティ

Tooltip Font Size

説明

フォントのサイズをポイント単位で指定します。

適用されるオブジェクト

項目

設定

プログラム

デフォルト

指定なし

参照するビルトイン

■ GET_ITEM_PROPERTY

■ SET_ITEM_PROPERTY

「ツールチップのフォント間隔」プロパティ

Tooltip Font Spacing

説明

フォントの幅（文字間のスペースの大きさ、またはカーニング）を指定します。

適用されるオブジェクト

項目

設定

プログラム

デフォルト

指定なし

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY

「ツールチップのフォント・スタイル」プロパティ

Tooltip Font Style

説明

フォントのスタイルを指定します。

適用されるオブジェクト

項目

設定

プログラム

デフォルト

指定なし

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY

「ツールチップのフォントの太さ」プロパティ

Tooltip Font Weight

説明

フォントの幅を指定します。

適用されるオブジェクト

項目

設定

プログラム

デフォルト

指定なし

参照するビルトイン

■ GET_ITEM_PROPERTY

■ SET_ITEM_PROPERTY

「ツールチップのフォアグラウンド・カラー」プロパティ

Tooltip Foreground Color

説明

オブジェクトのフォアグラウンド領域のカラーを指定します。項目については、項目内に表示されるテキストのカラーを定義します。

適用されるオブジェクト

項目

設定

プログラム

デフォルト

指定なし

参照するビルトイン

■ GET_ITEM_PROPERTY

■ SET_ITEM_PROPERTY

「ツールチップ可視属性グループ」プロパティ

Tooltip Visual Attribute Group

説明

実行時にツールのヒントに適用する名前付き可視属性を指定します。

適用されるオブジェクト

項目のツールチップ

設定

Form Builder

デフォルト

デフォルト

必須/オプション

必須

「ツールチップの黒地に白」プロパティ

Tooltip White on Black

説明

オブジェクトをモノクロのビットマップ表示装置上に、白地のテキストと黒地のバックグラウンドで表示するように指定します。

適用されるオブジェクト

項目

設定

プログラム

デフォルト

指定なし

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY

「開始プロンプト整列」プロパティ

Top Prompt Alignment

説明

プロンプトを項目の上枠のどの位置(始点、終点、または中央揃え)に揃えるかを指定します。
このプロパティは「レイアウト・スタイル」プロパティが「表」の場合にのみ有効です。

適用されるオブジェクト

枠

設定

Form Builder

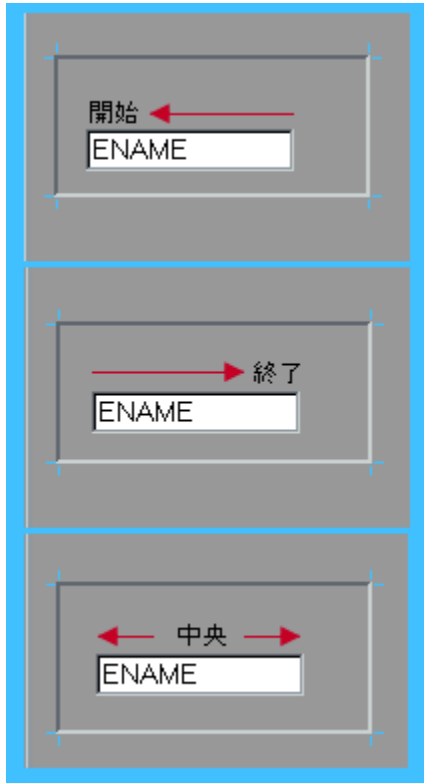
デフォルト

始点

必須/オプション

必須

「開始プロンプト整列」の表示



「開始プロンプトのオフセット」プロパティ

Top Prompt Offset

説明

「開始プロンプト整列」プロパティが「始点」に設定されている場合に、プロンプトとその項目間の間隔を指定します。

適用されるオブジェクト

枠

設定

Form Builder

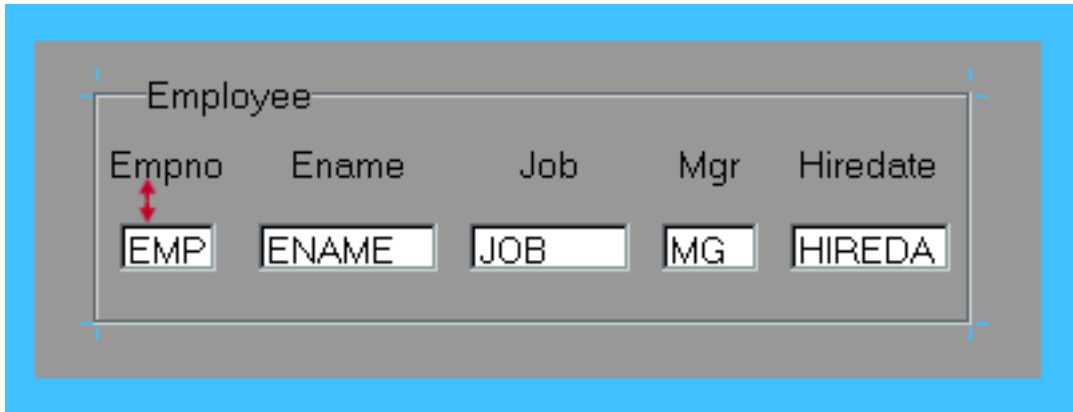
デフォルト

0 (文字セル)

必須/オプション

必須

「開始プロンプトのオフセット」の表示



「Top_Record」プロパティ

説明

このブロックで参照できる1番上のレコードのレコード番号を表します。(レコードには、ブロック内部のレコード・リスト上での順番に番号が付けられます。)

適用されるオブジェクト

ブロック

設定

設定できません。

参照するビルトイン

■ GET_BLOCK_PROPERTY

使用上の注意

TOP_RECORDプロパティとRECORDS_DISPLAYEDプロパティの値を両方とも調べれば、参照できる1番下のレコードを調べることができます。1番下のレコードとは、そのブロックに現在表示されているレコード内で最も番号が大きいレコードの番号をさします。

「タイトル」プロパティ

Top Title

説明

エディタ・ウィンドウの上部に表示するタイトル（最大72文字）を指定します。

適用されるオブジェクト

エディタ

設定

Form Builder

必須/オプション

オプション

「Topmost_Tab_Page」プロパティ

説明

タブ・キャンバスの1番上のタブ・ページを指定します。

適用されるオブジェクト

タブ・キャンバス

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_CANVAS_PROPERTY
- SET_CANVAS_PROPERTY

デフォルト

「タブ・ページ」ノードの下に表示される最初のタブ・ページ

「Topmost_Tab_Page」プロパティの制限事項

このプロパティは、設定できるのはタブ・キャンパスのみです。

「トランザクション・トリガー」プロパティ

Transactional Triggers

説明

このブロックをトランザクション制御ブロック、つまり、トランザクション・ブロックとして管理される非データベース・ブロックにするかどうかを指定します。このプロパティは、Oracle以外のデータ・ソースを使用し、トランザクション・トリガーを含むアプリケーションのために用意されています。Oracleデータベースを使用するアプリケーションでは、このプロパティを「いいえ」に設定してください。

Oracle以外のデータ・ソースを使用するアプリケーションを作成する場合は、トランザクション制御ブロックを作成してデータ・ブロックの機能をシミュレートする必要があります。設計時に実表が指定されていない(「問合せデータ・ソースの名前」ブロック・プロパティが「NULL」の)ブロックは制御ブロックです。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定

Form Builder

デフォルト

いいえ

使用上の注意

- トランザクション・トリガーは「問合せデータ・ソースの名前」プロパティが「NULL」のときのみ適用されます。
- 「トランザクション・トリガー」を「はい」に設定すると、「主キーの強化」プロパティと「列セキュリティの強化」プロパティが使用可能になります。

「トリガー・スタイル」プロパティ

Trigger Style

説明

トリガーのスタイルを指定します。オラクル社では、PL/SQLトリガーのみでコーディングします。

適用されるオブジェクト

トリガー

設定

Form Builder

デフォルト

PL/SQL

「トリガー・テキスト」プロパティ

Trigger Text

説明

トリガーの起動時に、Form Builderで実行するPL/SQLコードを指定します。

適用されるオブジェクト

トリガー

設定

Form Builder

必須/オプション

必須

「トリガー・タイプ」プロパティ

Trigger Type

説明

ユーザー命名トリガーは、特別な場合にのみ使用します。このタイプのトリガーは、通常、アプリケーションでは使用しません。

適用先

トリガー

設定

Form Builder

デフォルト

PL/SQL

必須/オプション

必須

使用上の注意

このプロパティに指定できるトリガー・タイプは次のどれかです。

ビルトイン	Form Builderによって提供されるトリガーで、特定の事前定義済み実行時イベントに対応している。
ユーザー命名	Form Builderから提供されないトリガー。ユーザー命名トリガーを実行できるのは、EXECUTE_TRIGGERビルトイン・プロシージャ・コールのみです。

「更新可」（ブロック）プロパティ

Update Allowed (Block)

説明

「更新可」項目プロパティで「はい」と設定されているブロック内の項目値を、エンド・ユーザーが変更できるようにするかどうかを指定します。（ブロックの「更新可」プロパティを「いいえ」に設定すると、そのブロック内のすべての項目の「更新可」が「いいえ」で上書きされます。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

■ GET_BLOCK_PROPERTY

■ SET_BLOCK_PROPERTY

デフォルト

はい

「更新可」(ブロック)プロパティの制限事項

「更新可」ブロック・プロパティを「はい」に設定しても、1つとして「更新可」項目プロパティを「はい」に設定した項目が同じブロック内になければ、そのブロックは更新できません。

「更新可」(項目)プロパティ

Update Allowed (Item)

説明

問合せ対象レコード内の実表項目の値を、エンド・ユーザーが変更してもよいかどうか指定します。「更新可」プロパティを「いいえ」に設定すれば、エンド・ユーザーが問合せ対象レコード内の該当項目にナビゲートすることは可能です。しかし、値を変更しようとする、Form Builderからエラー・メッセージ「FRM-40200：フィールドは、UPDATEに対してプロテクトがかかっています。」が表示されます。

「更新可」プロパティを「はい」に設定すると、エンド・ユーザーが「新規(挿入)」レコードに値を入力できるようになります。

適用されるオブジェクト

ボタン、チャート項目、イメージ項目を除くその他すべての項目

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_ITEM_INSTANCE_PROPERTY
- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_INSTANCE_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

はい

使用上の注意

- 定数UPDATE_ALLOWEDまたはUPDATEABLEを使用して、「更新可」(項目)プロパティをプログラムで設定できます。前のリリースとの互換性を考慮する場合は、定数UPDATEABLEを使用します。
- 実行時に「使用可能」がPROPERTY_FALSEに設定されていると、項目や項目インスタンスの「更新可」プロパティもPROPERTY_FALSEに設定されます。
- 「更新可」プロパティが複数のレベル(項目インスタンス、項目およびブロック)で指定されている場合、それらの値はAND結合されます。すなわち、項目のインスタンスの「更新可」プロパティを「はい」に(実行時にはPROPERTY_TRUEに)設定しても、ブロック・レベル項目レベルで一貫してその設定がなされていない限り、インスタンス・レベルでの設定は無効です。たとえば、「更新可」プロパティがインスタンス・レベルでは「はい」であり、項目レベルおよびブロック・レベルで「いいえ」の場合、ユーザーは項目インスタンスを更新できません。

「更新可」(項目)プロパティの制限事項

- SET_ITEM_PROPERTYビルトインを使用して「UPDATE_ALLOWED」プロパティを「True」に設定する場合、項目プロパティを次のように設定する必要があります。
- 「使用可能」を「はい」に(実行時にはPROPERTY_TRUEに)
- 「可視」を「はい」に(実行時にはPROPERTY_TRUEに)
- 「実表項目」を「はい」に(実行時にはPROPERTY_TRUEに)
- 「NULLのみ更新」を「いいえ」に(実行時にはPROPERTY_FALSEに)

「変更列のみ更新」プロパティ

Update Changed Columns Only

説明

問合せ対象レコードに更新マークが付いている場合、値が実際に変更された列のみについて、コミット中にデータベースに送信するSQL UPDATE文に組み込むかどうかを指定します。デフォルトでは、「更新列のみ更新」プロパティは「いいえ」に設定され、すべての列がUPDATE文に組み込まれます。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_BLOCK_PROPERTY
- SET_BLOCK_PROPERTY

デフォルト:

いいえ

必須/オプション

オプション

使用上の注意

- 「DML配列サイズ」プロパティを1より大きい値に設定すると、この「変更列のみを更新」プロパティは実行時には無視されます。すなわち、DML配列サイズが1より大きいときには、「変更列のみ更新」が「はい」に設定されていてもすべての列が更新されます。
- 「更新列のみ更新」を「いいえ」に設定すると、更新のたびにSQL文を再解析することなく、複数の更新で同じSQLを再利用できます。「更新列のみ更新」を「はい」に設定すると、更新のたびにUPDATE文が解析されるため、パフォーマンスが低下することがあります。通常は、LONGのようにネットワーク転送に時間のかかる列値で、オペレータもめったに更新しないのが明らかな場合のみ、「更新列のみ更新」を「はい」に設定します。
- 次のような場合に、「更新列のみ更新」プロパティを「はい」に設定します。

ネットワークの通信量を抑えたくて、オペレータが主に更新するレコードが1、2列のみの場合。

イメージやLONGなど、更新されない大きな項目が何度も送信されないようにする場合。

変更された列のみでデータベース・トリガーを起動する場合。たとえばセキュリティ・スキームをインプリメントする場合。列が更新されたときに起動し、表を更新しているユーザーのユーザーIDを書き込むデータベース・トリガーを使用します。

「Update_Column」プロパティ

説明

このプロパティを「はい」と設定すると、この項目は更新されたものとして扱われます。

「更新列のみ更新」ブロック・プロパティが「はい」に設定されている場合に、「Update Column」プロパティを「Property_True」に設定すると、その項目は更新されているものとみなされ、対応する列はデータベースに送信されるUPDATE文に組み込まれるべき項目として扱われます。

「更新列のみ更新」ブロック・プロパティを「はい」と設定し、「Update Column」を「Property_False」に設定すると、データベースに送るUPDATE文には、項目の列が含まれません。

「更新列のみ更新」ブロック・プロパティが「いいえ」に設定されている場合は、「Update Column」プロパティの値は無視され、実表の列が、すべてUPDATE文に組み込まれます。

適用されるオブジェクト

項目

設定

プログラム

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY

必須/オプション

オプション

使用上の注意

このプロパティは、主に「更新列のみ更新」プロパティと組み合わせて使用します。しかし、「更新列のみ更新」が「はい」と設定されているかどうかにかかわらず、このプロパティを使用すれば任意の列が更新されたかどうかをチェックできます。

注意: 「Update Column」プロパティの値は「レコード・ステータス」の値に影響しますが、すべての列の「Update Column」プロパティを「Property_Off」に設定しても、「レコード・ステータス」の値は「問合せ」に戻りません。「レコード・ステータス」の値を「問合せ」に戻す場合は、SET_RECORD_PROPERTYビルトインを使って明示的に設定する必要があります。

「コミット時に更新」プロパティ

Update Commit

説明

チャート項目を更新して、ソース・ブロックにコミットして変更してある新レコードや更新レコードを反映させるかどうかを指定します。

適用されるオブジェクト

チャート項目

設定

Form Builder

デフォルト

はい

必須/オプション

必須

「レイアウト時に更新」プロパティ

Update Layout

説明

フレームのレイアウトを更新したときに指定します。

自動	レイアウトは、枠が移動またはサイズ変更されたとき、および枠のレイアウト・プロパティが変更されたときに、更新されます。
手動	レイアウトは、レイアウト・ウィザードを使用して枠が変更されたとき、およびユーザーが「レイアウト更新」ボタンまたはメニュー・オプションをクリックしたときに更新されます。
ロック	レイアウトはロックされ、更新できません。

適用されるオブジェクト

枠

設定

Form Builder

デフォルト

はい

必須/オプション

必須

「NULLのみ更新」プロパティ

Update Only if NULL

説明

項目の現行の値がNULLのときのみ、オペレータで項目の値を変更可能にするかどうかを指定します。

適用されるオブジェクト

イメージ項目、リスト項目、サウンド項目、テキスト項目

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

いいえ

必須/オプション

オプション

使用上の注意

プログラムで「NULLのみ更新」プロパティを設定するのみなら、定数UPDATE_NULLを使用します。

「NULLのみ更新」プロパティの制限事項

項目プロパティが次のように設定されていなければなりません。

- 「変更可能」を「はい」に設定
- 「可視」を「はい」に設定
- 「更新可」を「いいえ」に設定

「Update_Permission」プロパティ

説明

「Update_Permission」を「いいえ」と設定すると、次の3つのアクションが許可されます。

- 「Update_If_Null」プロパティを「いいえ」に設定します。
- 「更新可」プロパティを「いいえ」に設定します。
- UPDATE文のSET句からこの列を削除して、Form Builderによって発行されるどのUPDATE文にも組み込まれないようにします。

適用されるオブジェクト

ボタンおよびチャート項目を除くすべての項目

設定

プログラム

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

はい

必須/オプション

オプション

使用上の注意

フォームの開発者は「Update_Permission」を使用して、所有するセキュリティ・メカニズムをインプリメントし、Form Builderのデフォルトの「列セキュリティの強化」プロパティを上書きすることができます。このプロパティは、Oracle以外のデータ・ソースを使用するアプリケーションのために用意されています。たとえば、On-Column-Securityトリガーを使用してカスタム・セキュリティ・スキームをインプリメントする場合など、任意のUPDATE文から特定の列の除外する必要がある場合に「Update_Permission」プロパティを使用します。

「更新プロシージャの引数」プロパティ

Update Procedure Arguments

説明

データを更新するプロシージャに渡す引数の、名前、データ型および値を指定します。「更新プロシージャの引数」プロパティは、「DMLデータ宛先タイプ」プロパティが「プロシージャ」に設定されている場合にのみ有効です。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定

Form Builder

デフォルト

NULL

必須/オプション

オプション

「更新プロシージャ名」プロパティ

Update Procedure Name

説明

データを更新するのに使用するプロシージャの名前を指定します。「更新プロシージャ名」プロパティは、「DMLデータ宛先タイプ」プロパティが「プロシージャ」に設定されている場合にのみ有効です。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定

Form Builder

デフォルト

NULL

必須/オプション

オプション

「更新プロシージャの結果セット列」プロパティ

Update Procedure Result Set Columns

説明

データを更新するプロシージャに対応付けられた、結果セット列の名前とデータ型を指定します。「更新プロシージャの結果セット列」プロパティは、「DMLデータ宛先タイプ」プロパティが「プロシージャ」に設定されている場合にのみ有効です。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定

Form Builder

デフォルト

NULL

必須/オプション

オプション

「問合せ時に更新」プロパティ

Update Query

説明

ソース・ブロック内でレコードを問合せ、変更を反映させるために、チャート項目を更新するかどうかを指定します。

適用されるオブジェクト

チャート項目

設定

Form Builder

デフォルト

はい

必須/オプション

必須

「セキュリティ使用」プロパティ

Use Security

説明

「モジュール・ロール」プロパティを使用してメニュー・モジュールに定義されたセキュリティ・スキームを施行するかどうかを指定します。

適用されるオブジェクト

メニュー・モジュール

設定

Form Builder

デフォルト

いいえ

使用上の注意

このプロパティを「いいえ」に設定すれば、開発者は、データベース・ロールのメンバーにならなくてもメニュー・モジュールをテストできます。テスト完了後の本稼働では「セキュリティ使用」を「はい」に戻せば、ロールを再び有効にできます。

「セキュリティ使用」プロパティの制限事項

なし

「3Dコントロール使用」プロパティ

Use 3D Controls

説明

Microsoft Windows上で、項目を3次元つまり凹凸を付けて表示するかどうかを指定します。

「3Dコントロール使用」を「はい」と設定すると、「可視属性グループ」プロパティが「デフォルト」に設定されたキャンバスのバックグラウンド・カラーは自動的にグレーになります。

また、「3Dコントロール使用」を「はい」と設定すると、たとえば項目レベルの「凹凸」プロパティが「凸」に設定されていても、すべての項目が自動的に凹で表示されます。

適用されるオブジェクト

フォーム

設定

Form Builder

デフォルト

新規フォームの場合は「はい」。Form Builderの前バージョンからアップグレードしたフォームの場合は「いいえ」。

「3Dコントロール使用」プロパティの制限事項

Microsoft Windowsにおいてのみ有効です。

「ユーザー名」プロパティ

Username

説明

現行のオペレータのユーザー名を表します。

適用されるオブジェクト

アプリケーション

設定

設定できません。

参照するビルトイン

■ GET_APPLICATION_PROPERTY

使用上の注意

このプロパティは、On-Logonトリガー内のLOGONビルトインまたはOracle以外のデータ・ソースに接続する場合に使用します。

「ユーザー名」プロパティにはユーザー名のみが戻されます。接続文字列も知りたい場合は、「接続文字列」プロパティの値を調べてください。

「User_Date/Datetime_Format」プロパティ

説明

環境変数FORMSnn_USER_DATE_FORMATまたはFORMSnn_USER_DATETIME_FORMATで設定された現在日付またはdatetime書式マスクを保持します。

User_Date_FormatとUser_Datetime_Formatの2種類のプロパティがあります。

適用されるオブジェクト

アプリケーション

設定

Form Builder内では設定できません。

参照するビルトイン

GET_APPLICATION_PROPERTY

「User_Interface」プロパティ

説明

現在使用されているユーザー・インタフェースの名前を表します。

適用されるオブジェクト

アプリケーション

設定

設定できません。

参照するビルトイン

GET_APPLICATION_PROPERTY

使用上の注意

このプロパティには次のいずれかの値が戻されます。

- BLOCKMODE
- CHARMODE
- MACINTOSH
- MOTIF
- MSWINDOWS
- MSWINDOWS32

- PM
- WIN32COMMON
- WEB
- X

「User_NLS_Date_Format」プロパティ

説明

現在のNLS日付書式マスクを取得します。

適用されるオブジェクト

アプリケーション

設定

Form Builder内では設定できません。

参照するビルトイン

GET_APPLICATION_PROPERTY

このプロパティは読取り専用です。このためSET_APPLICATION_PROPERTYでは指定できません。

たとえば、「PLSQL_DATE_FORMAT」プロパティを現在のNLS日付書式マスクの値に設定する場合、アプリケーションのWHEN-NEW-FORM-INSTANCEトリガー内で、次のようにコーディングできます。

```
SET_APPLICATION_PROPERTY(PLSQL_DATE_FORMAT,  
                           GET_APPLICATION_PROPERTY(USER_NLS_DATE_FORMAT));
```

デフォルト

なし

「User_NLS_Lang」プロパティ

説明

各国語サポートの、現行のランフォーム・セッション用に定義されている、NLS_LANG環境変数の完全な値を指定します。「USER_NLS_LANG」プロパティは、次のプロパティを連結したものと等価です。

- USER_NLS_LANGUAGE (言語のみ)
- USER_NLS_TERRITORY (地域のみ)
- USER_NLS_CHARACTER_SET (キャラクタ・セットのみ)

適用されるオブジェクト

アプリケーション

設定

Form Builder内では設定できません。オペレーティング・システム・レベルで設定してください。

参照するビルトイン

GET_APPLICATION_PROPERTY

デフォルト

デフォルトは通常「America_American.WE8ISO8859P1」ですが、すべてのデフォルトはポート固有のものとすることができます。

「リストで妥当性チェック」プロパティ

Validate from List

説明

テキスト項目の値の妥当性を、値リストに付加されたリスト内の値に照らしてForm Builderでチェックするかどうかを指定します。

適用されるオブジェクト

テキスト項目

設定

Form Builder

デフォルト

いいえ

必須/オプション

オプション

制限事項:

「値リスト」プロパティは必ず指定してください。

使用上の注意

「リストで妥当性チェック」プロパティが「はい」の場合は、「妥当性検査」イベントが発生するたびに、テキスト項目の現行の値と、値リストの最初の列表示の値を、Form Builderで比較します。

- テキスト項目内の値が、値リストの最初の列値のどれかと一致すると、値リストは表示されずに妥当性検査が成功して、処理が正常に継続されます。
- テキスト項目内の値が値リストの最初の列値のどれかと一致しないと、Form Builderで値リストが表示されます。その後、テキスト項目の値を検索基準として使用して、リストを自動的に縮小します。

たとえば、オペレータが6桁の製品コードのうち最初の3桁のみを入力して次の項目に移ろうとした場合を考えます。次の項目はナビゲートされるので、自動的に最初の3桁が一致するコードのみに絞られたリストをForm Builderで表示します。

- オペレータが値リストから任意の値を選択すると、Form Builderで値リストを画面から消去し、選択した値が対応する戻り項目に割り当てられます。

妥当性チェックに値リストを使用する場合、オペレータが値リストから任意の値を選択すれば、テキスト項目は一般に有効とみなされます。したがって、設計者は次の点に留意する必要があります。

- 値リストが付加されるテキスト項目を、値リストに表示される最初の列の戻り項目として定義すること。
- 値リストの値を有効にすること。

ただし、項目上でWhen-Validate-Itemトリガーは引き続き有効であり、このトリガーで実行される妥当性チェックも引き続き有効です。

また、値リストに表示される先頭列は、値リストの基礎となるレコード・グループの先頭列でないことがあるのでご注意ください。これは、一部のレコード・グループの列が値リスト構造体に入っていなかったか、非表示列である場合です。

「Validation」プロパティ

説明

任意のフォームで、Form Builderでデフォルトの、妥当性チェック処理を使用可能にするかどうかを指定します。

適用されるオブジェクト

フォーム・モジュール

設定

プログラム

参照するビルトイン

- GET_FORM_PROPERTY
- SET_FORM_PROPERTY

デフォルト

はい

使用上の注意

「Validation」プロパティを「いいえ」に設定すると、すべての内部フォームの妥当性チェックがバイパスされてしまい、WHEN-VALIDATEトリガーがまったく起動しなくなります。よってこのプロパティを設定するときは十分注意してください。

特別にForm Builderのデフォルトの妥当性チェック動作をすべて回避する場合は、プログラムによって短時間だけ「Validation」を「いいえ」に設定してください。再び「Validation」を「はい」に戻すと、まだ妥当性チェックをしていないテキスト項目の妥当性を、通常の処理規則に従ってチェックします。

「Validation」を「いいえ」に設定すると、Post-Changeトリガーは問合せ処理中のみ起動され、それ以外の場合はまったく起動しなくなります。

「有効単位」プロパティ

Validation Unit

説明

実行時のフォーム妥当性チェックの範囲を指定します。このプロパティにより、オペレータがフォームに入力可能なデータの最大値が決まり、Form Builderはその最大量以下のデータに対して妥当性チェックを実行します。通常、アプリケーションでは、「有効単位」を「項目」（ほとんどのプラットフォーム上でのデフォルト値）に設定します。よって、オペレータがある項目から次の項目にナビゲートしようとするとき、Form Builderによって項目内のデータの妥当性がチェックされます。

適用されるオブジェクト

フォーム・モジュール

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_FORM_PROPERTY
- SET_FORM_PROPERTY

デフォルト

デフォルト

使用上の注意

このプロパティに設定できる値は次のとおりです。

- デフォルト
- フォーム
- データ・ブロック
- レコード
- 項目

「チェック時の値」プロパティ

Value when Check

説明

チェック・ボックスに「チェック状態」として表示する値を指定します。たとえば、Y、1、MANAGER、または1992などを指定します。「チェック状態」の値と一致する値がフェッチされるかまたはチェック・ボックスに割り当てられると、チェック・ボックスは「チェック状態」の状態に表示されます。同様に、オペレータがチェック・ボックスを「チェック状態」の状態にトグルすると、チェック・ボックスの値が「チェック状態」の値になります。

適用されるオブジェクト

チェック・ボックス

設定

Form Builder

デフォルト

NULL

必須/オプション

オプション

「チェック時の値」プロパティの制限事項

「パラメータのデータ型」プロパティに指定したデータ型と互換性のある値を指定してください。

「未チェック時の値」プロパティ

Value when Unchecked

説明

チェックボックスを「チェックなし」の状態に表示するときの値を指定します。たとえば、Y、1、MANAGER、または1992などを指定します。「チェックなし」の値と一致する値がフェッチされるかまたはチェックボックスに割り当てられると、チェックボックスは「チェックなし」の状態に表示されます。同様に、オペレータがチェックボックスを「チェックなし」の状態にトグルすると、チェックボックスの値が「チェックなし」の値になります。

適用されるオブジェクト

チェックボックス

設定

Form Builder

デフォルト

NULL

必須/オプション

オプション。このプロパティをブランクにしておくと、「チェックなし」の値は「NULL」になります。

「未チェック時の値」プロパティの制限事項

「パラメータのデータ型」プロパティに指定したデータ型と互換性のある値を指定してください。

「VBX Control File」プロパティ

説明

VBXファイルを指定します。

適用されるオブジェクト

VBXコントロール

設定

Form Builder

デフォルト

なし

必須/オプション

必須

使用上の注意

どのVBXファイルを指定するかで、どのVBXコントロールが使用可能になるかが決まります。選択できるVBXファイルの数とタイプは、ご使用のシステム上にインストールされているサードパーティのVBXコントロールによって異なります。

パスがハードコードされたフォーム・モジュールを別のコンピュータ・システムに移すと、VBXファイルと位置が無効になるため、「VBXControl File」プロパティには絶対パスを指定しないでください。

絶対パスに対応付けられていないVBXコントロール・ファイルの検索基準は、システムのデフォルトの検索パスです。デフォルトの検索パスでは、指定したVBXコントロール・ファイルが見つからなければ、ORACLE.INIファイルのFORMS60_PATHパラメータを、VBXコントロール・ファイルの検索基準として使用します。さらに、FORMS60_PATHパラメータの検索パスでもVBXコントロール・ファイルが見つからない場合は、VBXコントロールが見つからないというランタイム・エラー・メッセージが表示されます。

「VBX Control File」プロパティの制限事項

Microsoft Windows 3.x（16ビット）においてのみ有効です。

「VBX Control Name」プロパティ

説明

VBXファイル内のVBXコントロールを指定します。VBXファイルの中には複数のVBXコントロールが入っているものがあります。VBXファイルにVBXコントロールが1つしか含まれていない場合でも、使用するVBXコントロールを指定する必要があります。

適用されるオブジェクト

VBXコントロール

設定

Form Builder

デフォルト

なし

「VBX Control Name」プロパティの制限事項

Microsoft Windows 3.x（16ビット）においてのみ有効です。

「VBX Control Value」プロパティ

説明

VBXコントロールの値プロパティを指定します。このプロパティには、Form Builder内のVBXカスタム項目の値を指定します。

適用されるオブジェクト

VBXコントロール

設定

Form Builder

参照するビルトイン

- VBX.GET_VALUE_PROPERTY
- VBX.SET_VALUE_PROPERTY

デフォルト

通常、VBXコントロールにはデフォルト値プロパティがあります。デフォルト値プロパティがある場合は、その値がForm Builderの「VBX ControlValue」プロパティのデフォルト値になります。VBXコントロールにデフォルト値プロパティがない場合は、Form Builderの「VBX Control Value」プロパティは「value」という名前のVBXプロパティです。VBXプロパティ「value」がないと、デフォルト値プロパティはForm Builderの「VBX Control Value」プロパティに割り当てられません。

必須/オプション

必須

使用上の注意

「VBX CONTROL VALUE」プロパティはVBXプロパティと自動的に同期化します。したがって、VBXプロパティを変更すると、その内容が「VBX CONTROL VALUE」プロパティにも反映されます。

「VBX Control Value」プロパティの制限事項

Microsoft Windows 3.x（16ビット）においてのみ有効です。

「垂直方向の埋込み」プロパティ

Vertical Fill

説明

「レイアウト・スタイル」プロパティが「フォーム」に設定されている場合に、レイアウト・ウィザードで、オブジェクトの周囲の空き領域を使用するかどうか指定します。

はい	レイアウト・ウィザードは使用可能な領域全体を使用して枠オブジェクトを配置します。したがって、「1行あたりの最大オブジェクト数」プロパティは無視されます。
いいえ	レイアウト・ウィザードは枠オブジェクトを配置するときに空き領域を使用しない。オブジェクトをラップするときは、次の枠行の最初に配置します。

適用されるオブジェクト

枠

設定

Form Builder

デフォルト

はい

必須/オプション

必須

「垂直文字位置」プロパティ

Vertical Justification property

説明

テキスト・オブジェクトの垂直方向の文字位置を「上」、「中央揃え」または「下」のいずれかに指定します。

適用されるオブジェクト

図形テキスト

設定

Form Builder

デフォルト

上

必須/オプション

必須

「垂直方向のマージン」プロパティ

Vertical Margin

説明

枠の上下の境界線の間の距離と枠内のオブジェクトを指定します。

適用されるオブジェクト

枠

設定

Form Builder

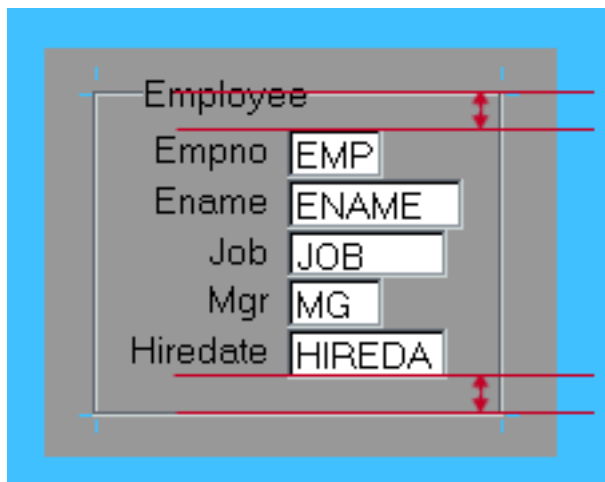
デフォルト

1文字セル（または、そのフォームの座標システムでこれと等価の値）

必須/オプション

必須

「垂直方向のマージン」の表示



「垂直方向のオブジェクト・オフセット」プロパティ

Vertical Object Offset

説明

枠内のオブジェクト同士の垂直方向の間隔を指定します。

適用されるオブジェクト

枠

設定

Form Builder

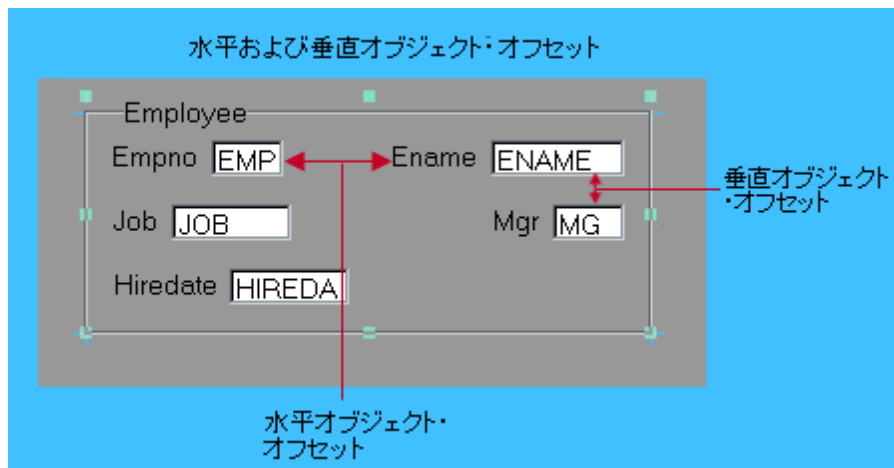
デフォルト

0

必須/オプション

必須

「垂直方向のオブジェクト・オフセット」の表示



「垂直原点」プロパティ

Vertical Origin

説明

テキスト・オブジェクトの相対位置を、オブジェクトの原点を基準にして「上揃え」、「中央揃え」または「下揃え」のいずれかに指定します。

適用されるオブジェクト

図形テキスト

設定

Form Builder

デフォルト

上揃え

必須/オプション

必須

「垂直ツールバー・キャンバス」プロパティ

Vertical Toolbar Canvas

説明

ウィンドウ上に垂直ツールバーとして表示するキャンバスを指定します。ただし、指定するキャンバスは、現行のウィンドウに割り当てられた（「ウィンドウ」プロパティで設定）垂直ツールバー・キャンバス（「キャンバス・タイプ」プロパティが「垂直ツール・バー」に設定されているキャンバス）にする必要があります。

適用されるオブジェクト

ウィンドウ

設定

Form Builder

デフォルト

NULL

必須/オプション

垂直ツールバーを作成する場合は必須

使用上の注意

- 「プロパティ」ウィンドウでは、「キャンバス・タイプ」プロパティが「垂直ツール・バー」に設定されたキャンバスのみが、このプロパティのポップリストに表示されます。
- 実行時に、Form Builderはウィンドウに指定された垂直ツールバーを表示しようとします。しかし、同じウィンドウに同じタイプのツールバーが複数割り当てられている（キャンバスの「ウィンドウ」プロパティが指定されたウィンドウを指し示すように設定されている）場合は、ナビゲーション・イベントやプログラムによる制御に応答して別のツールバーが表示される可能性があります。
- Microsoft Windows上では、「フォーム垂直ツールバーのキャンバス」フォーム・プロパティを使用して垂直ツールバー・キャンバスがMDIアプリケーション・ウィンドウ上に表示されるように設定した場合、指定した垂直ツールバー・キャンバスはウィンドウ上に表示されません。

「高さ」プロパティ/「幅」プロパティ

Viewport Height/ Viewport Width

説明

スタック・キャンバス用のビューの幅と高さを指定します。ビューのサイズと位置は、キャンバスの中の、実行時にウィンドウに実際に表示される部分を定義します。

注意: コンテント・キャンバスまたはツールバー・キャンバスでは、ビューがキャンバスを割り当てているウィンドウで表され、「高さ」プロパティと「幅」プロパティは適用されません。

適用されるオブジェクト

キャンバス

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

SET_VIEW_PROPERTY

デフォルト

0,0

必須/オプション

オプション

「高さ」プロパティと「幅」プロパティの制限事項

このプロパティは、スタック・ビュー（「キャンバス・タイプ」プロパティが「スタック」に設定されている）のみで有効です。コンテント・ビューのビューポート・サイズは、コンテント・ビューが表示されるウィンドウの実行時のサイズによって決まります。

「ビューポートのX位置」プロパティ/「ビューポートのY位置」プロパティ

Viewport X Position/ Viewport Y Position

説明

スタック・キャンバス左上隅のX座標とY座標を、ウインドウの現行内容にあるビューの、上左隅からみた相対位置で指定します。

適用されるオブジェクト

キャンバス

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_VIEW_PROPERTY
- SET_VIEW_PROPERTY

デフォルト

0,0

必須/オプション

オプション

「ビューポートのX位置」プロパティと「ビューポートのY位置」プロパティの制限事項

このプロパティは、コンテンツキャンバスビュー、つまり、「キャンバス・タイプ」プロパティが「コンテンツ」に設定されたキャンバスビューでは無効です。

「キャンバス上のビューポートのX位置」プロパティ/「キャンバス上のビューポートのY位置」プロパティ

Viewport X Position on Canvas/ Viewport Y Position on Canvas

説明

ビューの左上隅の位置を、キャンバスの左上隅からの相対位置で指定します。ビューポートのサイズと位置によりビュー、つまり、キャンバスの中で、割り当てられているウィンドウに実際に表示する部分を定義します。

適用されるオブジェクト

キャンバス

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_VIEW_PROPERTY
- SET_VIEW_PROPERTY

デフォルト

0,0

「可視」プロパティ

Visible

説明

オブジェクトを、現行では表示するのか、また、参照できる状態にするかどうかを指定します。「可視」プロパティを「はい」または「いいえ」に設定すると、キャンバスやウィンドウを表示したり隠したりできます。

適用されるオブジェクト

キャンバス、ウィンドウ

設定

プログラム

参照するビルトイン

- GET_VIEW_PROPERTY
- GET_WINDOW_PROPERTY
- SET_VIEW_PROPERTY
- SET_WINDOW_PROPERTY

デフォルト

TRUE

使用上の注意

- 現行の項目を含むキャンバスを隠すことはできません。
- 現行の項目を含むウィンドウは隠すことができます。

注意: オペレーティング・システムの中には、フォーム内のウィンドウしか隠せないものがあります。

- GET_WINDOW_PROPERTYビルトインを使用してウィンドウの可視状態を判別する場合、Form Builderでは次のルールが適用されます。
- ウィンドウ全体が別のウィンドウの後ろに隠れていても、ウィンドウが表示されていれば、そのウィンドウは参照できるとみなされます。
- アイコン化（最小化）されているウィンドウはオペレータが参照できるとみなされます。これは、最小化されていても、ウィンドウが画面にマッピングされているためです。
- GET_VIEW_PROPERTYビルトインを使用してキャンバスの可視性を判別する場合、Form Builderでは次のルールが適用されます。
- ビューは次の場合に参照できるとみなされます。a) そのウィンドウで1番手前に表示されている場合。b) 他のビューに一部分しか隠れていない場合。
- ビューは次の場合に参照できないとみなされます。a) ウィンドウでコンテンツ・ビューの後ろに隠れたスタック・ビューの場合。b) ビューが他のスタック・ビューの1つによって完全に隠されている場合。ただし、複数のスタック・ビューによってビュー全体が隠されている場合は、参照できるとみなされます。
- ウィンドウの表示状態は、キャンバスの「可視」プロパティの値には影響しません。つまり、キャンバスが表示されているウィンドウが現在画面にマッピングされていなくても、その

キャンバスが参照できるとみなされることがあります。

「可視」(キャンバス) プロパティ

Visible (Canvas)

説明

スタック・キャンバスが割り当てられているウィンドウにおけるこのキャンバスの初期状態、つまり、表示された状態または隠れた状態のいずれかを指定します。

適用先

スタック・キャンバス

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_VIEW_PROPERTY (VISIBLE)
- SET_VIEW_PROPERTY (VISIBLE)

デフォルト:

はい

「可視」(キャンバス) プロパティの制限事項

- ビューは表示された状態でも、同じウィンドウに割り当てられたコンテンツ・ビューや別のスタック・ビューの後ろに隠れて見えない場合があります。

「可視」(項目) プロパティ

Visible (Item)

説明

キャンバスに割り当てられた項目を実行時に表示するか隠すかを指定します。

適用されるオブジェクト

すべての項目

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY
- GET_RADIO_BUTTON_PROPERTY
- SET_RADIO_BUTTON_PROPERTY

デフォルト

はい

使用上の注意

- 定数VISIBLEまたはDISPLAYEDを使用して、「可視」(項目)プロパティをプログラムで設定できます。前のリリースとの互換性を考慮する場合は、定数DISPLAYEDを使用します。

「可視」(項目)プロパティの制限事項

項目がデフォルトのマスター/ディテール・リレーションの外部キーの一部である場合、デフォルト値は「いいえ」です。

「可視」(タブ・ページ)プロパティ

Visible (Tab Page)

説明

実行時にタブ・ページを表示するか隠すかを指定します。

適用先

タブ・ページ

適用先

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_TAB_PAGE_PROPERTY

■ SET_TAB_PAGE_PROPERTY

デフォルト:

はい

「水平メニュー・ツールバー表示」プロパティ/「垂直メニュー・ツールバー表示」プロパティ

Visible in Horizontal/Vertical Menu Toolbar

説明

メニュー項目をフォームの水平メニュー・ツールバーや垂直メニュー・ツールバーに（アイコンで）表示するかどうかを指定します。

適用されるオブジェクト

メニュー項目

設定

Form Builder

デフォルト

いいえ

必須/オプション

オプション

「水平メニュー・ツールバー表示」プロパティの制限事項

開発者は、メニュー・ツールバー上に表示する各メニュー項目に対応付けるアイコンを用意する必要があります。

「メニューに表示」プロパティ

Visible in Menu

説明

実行時にメニュー項目を表示するか隠すかを指定します。

適用先

メニュー項目

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_MENU_ITEM_PROPERTY
- SET_MENU_ITEM_PROPERTY

デフォルト:

はい

「可視属性」プロパティ

Visual Attribute

説明

実行時にオブジェクトに適用する名前付き可視属性を指定します。可視属性は、オブジェクトの外観を決定するフォント、カラーおよびパターンの各属性を定義します。

適用されるオブジェクト

キャンバス、タブ・ページ、項目、ラジオ・ボタン

設定

プログラム

参照するビルトイン

- GET_ITEM_INSTANCE_PROPERTY
- GET_ITEM_PROPERTY
- GET_RADIO_BUTTON_PROPERTY
- GET_TAB_PAGE_PROPERTY
- SET_CANVAS_PROPERTY
- SET_ITEM_INSTANCE_PROPERTY

- SET_ITEM_PROPERTY
- SET_RADIO_BUTTON_PROPERTY
- SET_TAB_PAGE_PROPERTY

使用上の注意

実行時に適切なGET_ビルトイン・ファンクションを実行してこのプロパティの値を取得すると、次のいずれかの値が戻されます。

- 名前付き可視属性の名前
- リソース・ファイルに定義された論理属性の名前
- DEFAULT (項目は、リソース・ファイルに定義されたデフォルトの属性を使用します)

「可視属性」プロパティの制限事項

可視属性は、フォーム・モジュールに定義された名前付き可視属性、または実行時リソース・ファイルに定義された論理属性にする必要があります。

「可視属性グループ」プロパティ

Visual Attribute Group

説明

オブジェクトの個々の属性設定 (フォント名、バックグラウンド・カラー、塗りパターンなど) を導出する方法を指定します。このプロパティに設定できる値は次のとおりです。

デフォルト	オブジェクトはデフォルトのカラーおよびパターン、フォント設定で表示されます。可視属性グループを「デフォルト」に設定すると、個々の属性の設定に現行のシステム・デフォルト値が反映されます。実際は、オブジェクトのタイプ、使用しているリソース・ファイル、プラットフォームなど、さまざまな因子の組み合わせによって設定される値が決まります。
名前付き可視属性	オブジェクトに名前付き可視属性が適用されます。名前付き可視属性は、オブジェクト・ナビゲータで作成した独立したオブジェクトで、単語処理・プログラムと非常によく似たスタイルを持つインタフェース・オブジェクトに適用されます。「可視属性グループ」に名前付き可視属性を設定すると、各属性に名前付き可視属性オブジェクト用に定義された属性の値が設定されます。現行のフォームに名前付き可視属性が1つも含まれていない場合は、このプロパティのポップアップ・リストに「デフォルト」と表示されます。

適用されるオブジェクト

すべてのインタフェース・オブジェクト

設定

Form Builder

デフォルト

デフォルト

使用上の注意

- 「デフォルト」および名前付き可視属性プロパティには、次の属性がプロパティ・パレットと同じ順序で表示されます。

フォント名	オブジェクト内のテキストに使用するフォント・ファミリまたは活字書体。どのようなフォントが使用できるかはシステムによって異なります。
フォント・サイズ	フォントのサイズ（単位：ポイント）。
フォント・スタイル	フォントのスタイル。
フォント間隔	フォントの幅、つまり、文字間隔（カーニング）。
フォントの太さ	フォントの太さ。
フォアグラウンド・カラー	フォアグラウンド領域のオブジェクトの色。項目では、「フォアグラウンド・カラー」属性は項目内に表示されるテキストのカラーを定義します。
バックグラウンド・カラー	オブジェクトのバックグラウンド領域のカラー
塗りパターン	オブジェクトの塗り領域として使用します。パターンは、「バックグラウンド・カラー」とフォアグラウンド・カラー」に指定された2つのカラーでレンダリング処理されます。
文字モードの論理属性	Oracle Terminalリソース・ファイルに定義されたキャラクタ・モードの論理属性の名前を指定します。これは、アプリケーションのキャラクタ・モード・バージョンでデバイス属性のベースとして使用するものです。
白黒	オブジェクトをモノクロ・ビットマップ表示装置上にバックグラウンド黒、テキスト白で表示するかどうかを指定します。 オブジェクト・タイプによって有効な属性が異なります。たとえば、ウィンドウ・オブジェクトに対してフォント属性を指定しても、意味がありません。（ウィンドウのタイトル・バーに使用するフォントはシステムから導出されます）。

- 新規フォームの新規オブジェクトには「デフォルト」の可視属性が割り当てられます。デフォルト値は内部的に定義されています。新規項目のデフォルトのフォントは、オプションのFORMS60_DEFAULTFONT環境変数を設定して上書きしバイラプレートにできます。たとえば、Microsoft Windowsでは、次に示すようにこの変数をレジストリで設定できます。FORMS60_DEFAULTFONT="COURIER.10".指定したデフォルト・フォントは、「新規ブ

ロック」ウィンドウで作成される新規ボイラープレート・テキスト、および「可視属性グループ」が「デフォルト」に設定された項目で使用されます。

- レイアウト・エディタで項目を作成すると、その項目の可視属性の初期値は、レイアウト・エディタのフォント、カラーおよびパターンに現在設定されている値、つまり「フォント」ダイアログ、「カラー」パレット、「パターン」パレットに指定されている値になります。
- Microsoft Windows上では、ボタンおよびウィンドウのタイトル・バー、ウィンドウの枠線のカラーは、Windowsのコントロール・パネルの該当要素のカラー設定を使ってコントロールします。ここで設定されたカラーをForm Builderで変更することはできません。
- Microsoft Windows上で「3Dコントロール使用」フォーム・プロパティを「はい」(デフォルト値)に設定すると、項目は影付きで描画され、立体的に3次元で表示されます。このプロパティを「はい」に設定すると、結果的に、「可視属性グループ」プロパティが「デフォルト」に設定されたキャンバスのカラーは、Windowsのコントロール・パネルに設定されたカラー（ほとんどのカラー・パレットでグレー）になります。このカラーは、明示的に名前付き可視属性をキャンバスに適用すれば上書きできます。
- 「可視属性グループ」が「デフォルト」に設定された項目、あるいは可視属性の一部が指定されていない項目は、その項目が割り当てられているキャンバスからその可視属性を継承します。同様に、「可視属性グループ」が「デフォルト」に設定されたキャンバス、あるいは可視属性の一部が指定されていないキャンバスは、そのキャンバスが表示されるウィンドウからその可視属性を継承します。たとえば、ウィンドウのバックグラウンド・カラーを「CYAN」に設定し、そのウィンドウに割り当てられたキャンバスのバックグラウンド・カラーを指定しないままにすると、実行時、そのキャンバスはそのウィンドウから「CYAN」のバックグラウンドを継承します。設計時には、ウィンドウ-キャンバスやキャンバス-項目の継承から導出された可視属性設定は、レイアウト・エディタが再度オープンされた場合にのみ明らかになります。
- プロパティ・クラスをオブジェクトに適用して、可視属性の値を指定できます。「可視属性グループ」プロパティ全体をプロパティ・クラスにしたり、あるいは各属性プロパティを1つ以上まとめて1つのプロパティ・クラスを作成したりできます。（「可視属性グループ」プロパティと各属性プロパティが同じプロパティ・クラスに含まれている場合は、「可視属性グループ」プロパティの値が優先されます。
- 可視属性の値を含む名前付き可視属性とプロパティ・クラスを両方とも同じオブジェクトに適用した場合は、名前付き可視属性の値が優先され、プロパティ・クラスの可視属性の値は無視されます。
- リソース・ファイルに定義された論理属性定義は、Form Builderで定義した可視属性、およびローカル環境変数定義、デフォルトのForm Builder属性より優先されます。リソース・ファイルを編集するには、Oracle Terminalユーティリティを使用します。

「可視属性タイプ」プロパティ

Visual Attribute Type

説明

設計の間の可視属性のタイプを「共通」、「プロンプト」または「タイトル」のいずれかに指定します。

適用されるオブジェクト

可視属性全般

設定

Form Builder

デフォルト

共通

必須/オプション

必須

「WHERE句」プロパティ/「ORDER BY句」プロパティ

WHERE Clause/ORDER BY Clause

説明

デフォルトの「WHERE句」プロパティとデフォルトの「ORDER BY句」プロパティは、データ・ブロックに対応付けられたデフォルトのSELECT文の標準SQL句です。これらの句は、オペレータまたはアプリケーションによってブロック内で問合せが実行されると、そのたびにForm Builderによって組み立てられ発行されるSELECT文に自動的に付加されます。

適用されるオブジェクト

ブロック

設定

Form Builder、プログラム

参照するビルトイン

- GET_BLOCK_PROPERTY
- SET_BLOCK_PROPERTY

必須/オプション

オプション

使用上の注意

- 予約語WHEREおよびORDER BYはオプションです。これらの予約語を指定しなければ、Form Builderによって文の前に自動的に追加されます。
- WHERE句で参照できるオブジェクトは次のとおりです。
 - ブロックのデータ・ブロック表内の列（LONG列を除く）
 - フォーム・パラメータ（:PARAMETER.my_parameter）
- ORDER BY句で参照できるオブジェクトは次のとおりです。
 - ブロックのデータ・ブロック表内の列（LONG列を除く）
- WHERE句およびORDER BY句では、埋込みコメントはサポートされていません。

「WHERE句」プロパティ/「ORDER BY句」プロパティの制限事項

- 「WHERE句」プロパティの最大長は32,000バイトです。
- グローバル変数またはフォーム・パラメータは、ORDER BY句では参照できません。

「WHERE句」プロパティ/「ORDER BY句」プロパティの例

次の例では、「WHERE句」を使用して、注文追跡システムからshipdate列がNULLのレコードのみを取り出しています。また、ORDER BY句を使用して、選択されたレコードを日付の小さい（新しい）ものから日付の大きい（古い）ものに並べ替えています。

```
WHERE shipdate IS NULL  
ORDER BY orderdate
```

上のWHERE句およびORDER BY句の文では、基本的な条件を指定してレコードを取り出しています。オペレータは、フォームを「問合せ入力」モードに設定して非定形の問合せ条件を入力すれば、さらに取り出すレコードを絞ることができます。

「白黒」プロパティ

White on Black

説明

オブジェクトをモノクロのビットマップ表示装置上に、白地のテキストと黒地のバックグラウンドで表示するように指定します。

適用されるオブジェクト

項目、タブ・ページ、キャンバス、ウィンドウ、ラジオ・ボタン

設定

プログラム

デフォルト

指定なし

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY
- GET_RADIO_BUTTON_PROPERTY
- SET_RADIO_BUTTON_PROPERTY
- GET_TAB_PAGE_PROPERTY
- SET_TAB_PAGE_PROPERTY
- GET_CANVAS_PROPERTY
- SET_CANVAS_PROPERTY
- GET_WINDOW_PROPERTY
- SET_WINDOW_PROPERTY

「Width」プロパティ/「Height」プロパティ (WD, HT)

Width/Height

説明

「サイズ」を参照。

「ウィンドウ」プロパティ

Window

説明

実行時にキャンバスを表示するウィンドウを指定します。

適用されるオブジェクト

キャンバス

設定

Form Builder

参照するビルトイン

GET_VIEW_PROPERTY

デフォルト

フォームのルート・ウィンドウの場合はROOT_WINDOW。そうでなければ、オブジェクト・ナビゲータで「ウィンドウ」ノードの下に表示されるウィンドウ・リストの最初のウィンドウ。

必須/オプション

実行時に表示するキャンバスでは必須

「Window_Handle」プロパティ

説明

Microsoft Windows上では、ウィンドウ・ハンドルは一意の内部文字定数で、このハンドルを使用してオブジェクトを参照することができます。任意の項目またはウィンドウのウィンドウ・ハンドルを取得できます。

適用されるオブジェクト

フォーム、ブロック、項目

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- GET_WINDOW_PROPERTY
- GET_RADIO_BUTTON_PROPERTY

デフォルト

NULL

使用上の注意

- GET_ITEM_PROPERTYビルトインで項目名と「WINDOW_HANDLE」プロパティを指定すれば、項目を参照するためのウィンドウ・ハンドルを取得できます。
- GET_WINDOW_PROPERTYビルトインでウィンドウ名と「WINDOW_HANDLE」プロパティを指定すれば、ウィンドウを参照するためのウィンドウ・ハンドルを取得できます。
GET_WINDOW_PROPERTYビルトインのウィンドウ名がFORMS_MDI_WINDOWの場合は、MDIクライアント・ウィンドウのハンドルが戻ります。MDIクライアント・ウィンドウのハンドルは、子MDIウィンドウおよびコントロールを作成するときに使用します。
- GET_RADIO_BUTTON_PROPERTYビルトインでラジオ・グループの項目名または項目ID、およびラジオ・ボタンの名前、WINDOW_HANDLEプロパティを指定すれば、ラジオ・ボタンを参照するためのウィンドウ・ハンドルを取得できます。
- ラジオ・グループのウィンドウ・ハンドルを取得するには、GET_ITEM_PROPERTYビルトインで項目名にラジオ・グループ名を指定します。フォーカスを取得しているボタンのウィンドウ・ハンドルが戻ります。フォーカスを取得しているボタンがない場合は、選択されているボタンのウィンドウ・ハンドルが戻ります。フォーカスを取得しているボタンも選択されているボタンもない場合は、最初のボタンのウィンドウ・ハンドルが戻ります。

「Window_Handle」プロパティの制限事項

Microsoft Windowsにおいてのみ有効です。（その他のプラットフォームではNULLが戻ります。）

「Window_State」プロパティ

説明

ウィンドウの現在の表示状態、つまり、次のいずれかを指定します。

NORMAL	ウィンドウの現在の「幅」および「高さ」、「X位置」、「Y位置」プロパティの値に従って、ウィンドウが表示されます。
MINIMIZE	ウィンドウが最小化（アイコン化）され、デスクトップのビットマップ・グラフィック上に表示されます。
MAXIMIZE	ウィンドウ・マネージャの表示形式に従って、ウィンドウが画面一杯に拡大されます。

適用されるオブジェクト

ウィンドウ

設定

プログラム

参照するビルトイン

- GET_WINDOW_PROPERTY
- SET_WINDOW_PROPERTY

デフォルト

NORMAL

使用上の注意

表示の最小化や最大化の状態はウィンドウ・マネージャが管理していて、「幅」プロパティや「高さ」プロパティにより定義されたようには、ウィンドウの現在の幅や高さの設定に影響しません。したがって、ウィンドウの表示状態が最小化または最大化のときに、SET_WINDOW_PROPERTYまたはRESIZE_WINDOWコールによって「幅」または「高さ」プロパティが変更されれば、そのウィンドウに適用されます。しかし、オペレータは、そのウィンドウが「NORMAL」状態に戻るまで、ウィンドウのサイズが変わったことを確認できません。

同様に、GET_WINDOW_PROPERTYは、ウィンドウが、現在、最小化または最大化の表示状態であっても、常に、ウィンドウの現在の「幅」プロパティと「高さ」プロパティの設定を戻します。

「Window_State」プロパティの制限事項

Motif上では「Window_State」を「MAXIMIZE」に設定できません。

「ウィンドウ・スタイル」プロパティ

Window Style

説明

ウィンドウのスタイル、つまり「文書」か「ダイアログ」のいずれかを指定します。複数ドキュメント・インタフェース (MDI) ウィンドウ管理システムをサポートするウィンドウ・マネージャ上では、文書ウィンドウとダイアログ・ウィンドウの表示形式が異なります。

適用されるオブジェクト

ウィンドウ

設定

Form Builder

デフォルト

文書

制限事項:

2次ウィンドウでのみ有効です (ルート・ウィンドウは常に文書ウィンドウです)。

使用上の注意

MDIアプリケーションは、アプリケーションウィンドウと呼ばれるデフォルト・ウィンドウを表示します。アプリケーション内の他のすべてのウィンドウは、「文書」ウィンドウ、または「ダイアログ」ウィンドウです。

文書ウィンドウは、常に、アプリケーション・ウィンドウの枠内に表示されます。オペレータがアプリケーション・ウィンドウのサイズを文書ウィンドウより小さく変更すると、文書ウィンドウがクリップされます。また、オペレータはアプリケーション・ウィンドウの作業領域と同じ大きさまで文書ウィンドウを最大化できます。

ダイアログ・ウィンドウはどこにでも自由に表示できるウィンドウで、「移動可能」に定義されていれば、オペレータはこのウィンドウをアプリケーション・ウィンドウの外に移動できます。オペレータがアプリケーション・ウィンドウのサイズをダイアログ・ウィンドウより小さく変更しても、ダイアログ・ウィンドウはクリップされません。

「ラップ形式」プロパティ

Wrap Style

説明

テキストの1行の長さがテキスト項目やエディタ・ウィンドウの幅を越えたときに、テキストをどのように表示するかを指定します。

このプロパティの設定値と効果は次のとおりです。

なし	行を折り返さない。右の枠線を越えたテキストは表示されません。
CHARACTER	その行に表示できる最後の文字で行を折り返し、次の行に残りのテキストを表示します。
単語	その行に表示できる最後の単語で行を折り返し、次の行に残りのテキストを表示します。（英語の場合のみ）

適用されるオブジェクト

テキスト項目、エディタ

設定

Form Builder

参照するビルトイン

GET_ITEM_PROPERTY

デフォルト

単語

「ラップ形式」プロパティの制限事項

複数行テキスト項目にのみ有効です。

「テキストの折返し」プロパティ

Wrap Text

説明

テキスト・オブジェクト内のテキストを、枠ボックス内に収まるように次の行に折り返すかどうかを指定します。

適用されるオブジェクト

図形テキスト

設定

Form Builder

デフォルト

はい

必須/オプション

必須

「X角の半径」プロパティ

X Corner Radius

説明

角の丸い四角形の角の水平方向の丸め半径を（レイアウト単位で）指定します。

適用されるオブジェクト

図形（角の丸い四角形）

設定

Form Builder

デフォルト

10

必須/オプション

必須

「X位置」プロパティ/「Y位置」プロパティ

X Position/Y Position

説明

オブジェクトを画面上のどの位置に表示するかを指定します。項目は、その項目の左隅上の位置をキャンパスの左上隅からの相対位置で指定します。指定した値は、「座標」フォーム・プロパティに指定されたフォームの現行の座標単位（文字セルまたはセンチメートル、インチ、ピクセル、ポイント）で解釈されます。

適用されるオブジェクト

すべての項目、エディタ、値リスト、ウィンドウ、キャンバス

設定

Form Builder、プログラム

使用上の注意

次の各情報は、現在のオブジェクトに固有のものです。

項目

その項目が所有しているキャンバス上のどの位置に表示されるかを指定します。

参照するビルトイン

- GET_ITEM_PROPERTY
- SET_ITEM_PROPERTY
- GET_RADIO_BUTTON_PROPERTY
- SET_RADIO_BUTTON_PROPERTY

デフォルト

x,y(0,0)

値リスト

値リストを画面上のどの位置に表示するかを指定します。（0,0）は、ルート・ウィンドウが画面のどこに表示されるかにかかわらず、画面の左上角を表します。値リストは、フォームの外を含め、画面上のあらゆる場所に表示できます。

参照するビルトイン

- GET_LOV_PROPERTY
- SET_LOV_PROPERTY

デフォルト

x,y(0,0)

ウィンドウ

ウィンドウを画面上のどの位置に表示するかを指定します。(0,0)は、画面の左上角を表します。

参照するビルトイン

- GET_WINDOW_PROPERTY
- SET_WINDOW_PROPERTY

デフォルト

x,y(0,0)

「X位置」プロパティと「Y位置」プロパティの制限事項

- すべての項目およびエディタ、値リストの値は0または正にする必要があります。
- 指定できる精度は、フォームの現行の座標単位により異なります。場合によって、丸め処理が行われることがあります。

「Y角の半径」プロパティ

Y Corner Radius

説明

角の丸い四角形の角の垂直方向の丸め半径を（レイアウト単位で）指定します。

適用されるオブジェクト

図形（角の丸い四角形）

設定

Form Builder

デフォルト

10

必須/オプション

必須

オプション

Form Builderコンポーネントについて

Form Builderは、次のプログラムまたはコンポーネントで構成され、コマンド・ラインから、またはアイコンをクリックして個別に実行できます。

Form Builder	Form Builderは、ユーザーがForm Builderアプリケーションの作成、コンパイルおよび実行に使用する設計コンポーネントです。Form Builderを使用すると、フォーム、メニューおよびライブラリの3タイプのモジュールを作成できます。
Forms Runtime	フォーム・オペレータは、完成したアプリケーションを実行するのにForms Runtimeを使用します。アプリケーションの設計者として、設計段階でフォームのテストとデバッグにForms Runtimeを使用することもできます。Forms RuntimeはForm Compilerが作成した実行形式ファイルを読み取ります。
Webプレビューア	アプリケーション開発者はWebプレビューアを使用して、フォームをローカル環境でテストします。このときフォームはブラウザまたはAppletviewerの中で、Forms Serverから実行されているかのように動作します。Forms Runtimeと同様に、WebプレビューアはForm Compilerが作成した実行形式ファイルを読み取り、フォームを実行します。
Form Compiler	Forms Runtimeが実行できる実行形式ファイルを作成するためにForm Compilerを使用します。

Form Compilerにより、フォームをさまざまな形式で変換できます。Form Compilerを使用すると、次のことを行うことができます。

- バイナリ、テキストおよびデータベース・モジュール格納形式間でファイルを変換します。
- モジュール定義をデータベース表に挿入します。
- データベースからモジュール定義を削除します。
- 異なるプラットフォームに移行するときにアプリケーション・モジュールを再コンパイルします。
- Form BuilderおよびSQL*Forms、SQL*Menuの旧バージョンで作成されたアプリケーションをアップグレードします。

Form Builderコンポーネントの起動

プラットフォームには、アイコンをサポートするものやコマンド・ラインをサポートするものがあります。ユーザーのコンピュータ・プラットフォームに依存しますが、次の2通りの方法のいずれかでForm Builder、Form Compiler、WebプレビューアまたはForms Runtimeの各コンポーネントを起動できます。

アイコン	Form Builder、Forms RuntimeおよびForm Compilerの各コンポーネントの異なるアイコンが表示されます。コンポーネントを起動するには、それをダブルクリックします。
コマンド・ライン	コマンド・ラインでコマンドを入力することによってコンポーネントを起動したとき、このセッションで使用するオプションを指定する場合は、コマンド・ラインでキーワード・パラメータを入力します。

Form Builderコンポーネントの起動の詳細は、使用しているオペレーティング・システムのForm Builderドキュメンテーションを参照してください。

コマンド・ラインからのForm Builderコンポーネントの起動

コマンド・ラインからForm Builderコンポーネントを起動するには、システム・プロンプトで次の文を入力します。

`component_name [module_name] [userid/password] [parameters]`

パラメータの内容は次のとおりです。

component_name 使用するForm Builderコンポーネントを指定します。

- Form Builder - ifbld60
- Forms Runtime - ifrun60
- Webプレビューア - ifweb60
- Form Compiler - ifcmp60

Form Builderコンポーネント起動の例

<i>ifrun60</i>	ユーザー・イグジット・ルーチンへのコールがない状態でMicrosoft WindowsでForms Runtimeコンポーネントを起動します。
<i>module_name</i>	ユーザー・イグジット・ルーチンを通じてコール可能な外部関数が実行可能ファイルとリンクしていることを示すには、 <i>component_name</i> にxを追加します。 有効なコンポーネント名の詳細は、お使いのオペレーティング・システムのForm Builderドキュメンテーションを参照してください。
<i>module_name</i>	ロードするモジュール（フォーム、メニューまたはライブラリ名）を指定します。モジュール名を省略すると、Form Builderはダイアログを表示し、オープンするモジュールを選択できます。
<i>userid/password</i>	ORACLEユーザー名およびパスワードを指定します。
<i>parameters</i>	現行ランタイム・セッションでアクティブにするオプションのコマンド・ライン・パラメータを指定します。オプション・パラメータは、「keyword1=value1 keyword2=value2...」の形式で指定します。 ifrun60 custform scott/tiger statistics=yes

注意: 例では、ユーザー・イグジット・インタフェースのコールがない状態で、Microsoft Windows 上のForm Builderを実行します。したがって、Forms Runtimeコンポーネント名は"ifrun60"と入力します。ユーザーは自分のプラットフォームとアプリケーションの*component_name*の値を正しく置き換える必要があります。

キーワードの使用法

Form Builderには、3項目のパラメータがあります。

- MODULEおよびUSERID
- オプション（オプションを設定するためのコマンド・ライン・パラメータ）
- フォーム・パラメータ

最初の2つのパラメータ、MODULEおよびUSERIDが一意であるのは、位置またはキーワード表記法を使用して入力できるからです。キーワード表記法を使用して、コマンド・ラインにオプション・パラメータを入力します（オプション・パラメータのほとんどは、ダイアログを使用しても設定できます）。フォーム・パラメータは、特定フォームのために設計時に定義されるオプション入力変数です。

MODULEおよびUSERID

最初の2つのパラメータ、MODULEおよびUSERIDを指定された順序で入力する場合、次の例に示されるように、キーワードを省略して値のみを入力できます。

```
ifrun60 custform scott/tiger
```

無効な例:

```
ifrun60 scott/tiger
```

この順序は、ユーザー名/パスワードの値が順不同なので、無効であり、USERIDキーワードの後に配置する必要があります。キーワードのかわりに位置表記法を使用するとき、前述の例と同様に、コンポーネント名のすぐ後にMODULEパラメータの値を挿入する必要があります。

有効な例:

```
ifrun60 module=custform userid=scott/tiger
ifrun60 userid=scott/tiger
ifrun60
```

モジュール名のみを示す場合、Form Builderは、そのモジュール名およびユーザーID/パスワードを入力するよう、プロンプトします。

オプション

コマンド・ラインにオプションを設定するためには、キーワード表記法を使用します。オプションの詳細は、次を参照してください。

- Forms Runtimeオプションの設定
- Form Compilerオプションの設定
- Form Builderオプションの設定

次の構文規則は、オプションおよびフォーム・パラメータなど、すべてのキーワード・パラメータに適用されます。

- 引数の等号記号(=)の前後にはスペースを入れないでください。
- 引数と引数の間は、1つ以上のスペースで区切ってください。この際、スペースのかわりにカンマを使用しないでください。

無効な例:

```
ifrun60 custform scott/tiger statistics = yes
ifrun60 custform scott/tiger statistics=yes,debug=yes
```

有効な例:

```
ifrun60 custform scott/tiger statistics=yes
ifrun60 custform scott/tiger statistics=yes debug=yes
```

フォーム・パラメータ

フォーム・パラメータは、設計時に定義する変数です。フォーム・パラメータは、起動時にフォームが要求する入力値を定義および設定するために単純な機構を提供します。フォーム・パラメータの値を入力するとき、オペレータは標準コマンド・ライン構文を使用して、コマンド・ラインにそれらを入力します。

フォーム・パラメータのデフォルト値は、「パラメータの初期値」プロパティから得られます。オペレータは、コマンド・ラインでフォーム・パラメータの新しい値を指定することによってForms Runtime起動時にデフォルト値を無効にできます。

次の例の場合、myname_paramは、Form Builderで定義されたユーザー定義のフォーム・パラメータです。

注意: フォーム・パラメータ値にスペースまたは句読点が含まれている場合は、その値を二重引用符で囲みます。

例

```
ifrun60 empform scott/tiger myname_param="Msr.Dubois"
```

コマンド・ライン・オプションでのヒント・テキストの表示

構文およびパラメータに関するヘルプを得るには、システム・プロンプトでコンポーネント名とこれに続けて"help=yes"を入力します。

例

```
ifrun60 help=yes
```

データベースへのログオン

データベースに明示的にログオンするには、USERIDコマンド・ライン・キーワードを使用するか、あるいはForm Builderで、「ファイル」→「接続」を選択します。

USERID

USERIDには、ORACLEユーザー名およびパスワードを指定します。Net8接続文字列を合せて指定することもできます。接続文字列の最大長は255文字です。

ログオンするには、次のフォームのうちどれか1つを使用します。

```
username/password
```

```
username/password@database
```

期限切れパスワード

Oracle8データベース・サーバーには、データベース管理者が使用できるパスワード失効機能が用意されています。これは、ユーザーに一定の基準でパスワードの更新を促すためのものです。

パスワードが期限切れになった場合、ログオン時に新しいパスワードを入力する機会がFormsによって提供されます（Formsの起動ダイアログ・ボックスを使用して、期限切れになる前にパスワードを変更することもできます）。

データベースへのログオン例

次のコマンドを指定して、ORDER_ENTRYフォームを実行します。

```
ifrun60 order_entry scott/tiger@dbname
```

Forms Runtimeのオプションの設定

Forms Runtimeオプションでは、Forms ランタイム・セッション時のForm Builderのデフォルト動作が指定されます。次の2通りの方法のいずれかでForms Runtimeを設定できます。

- 「Forms Runtimeオプション」ダイアログ・ボックスでオプションを設定します。

■ Forms Runtimeをコールしたときに、コマンド・ラインでパラメータをForm Builderに渡します。

さらに、「作業環境」ダイアログ・ボックスでForms Runtimeのオプションを指定して、Form Builderから実行するフォームに対してデフォルトの環境を指定できます。「作業環境」ダイアログ・ボックスを表示するには、「ツール」→「作業環境」を選択します。

注意: Form Builderで設定される「Forms Runtime」作業環境は、Form Builder内から実行するフォームのみに適用されます。

ベースHTMLファイルのserverargsパラメータで、Webプレビューアに対するオプションを設定することもできます。このHTMLファイルの名前は、「作業環境」ダイアログ・ボックスの「ランタイム」タブまたはコマンド・ライン上で指定できます。

以下に「Formsランタイム・オプション」ウィンドウから指定できるForms Runtimeオプションとそれらの対応キーワード・パラメータをリストします。

キーワード・パラメータをコマンド・ライン・オプションとして入力する場合は、複数のパラメータを任意の順序で同時に入力できます。

```
ifrun60 module=myform userid=scott/tiger debug=YES statistics=YES
```

オプション名	キーワード・パラメータ	デフォルト
Oracle*Terminalリソース・ファイル	Term	
デバッグ・モードで実行しますか	Debug	いいえ
デバッグ・メッセージ	Debug_Messages *	いいえ
入力キー・ストロークを書き込むファイル	Keyout	
入力キー・ストロークを読み込むファイル	Keyin	
出力内容の書き込み先ファイル	Output_File	
書き込んでいる出力内容を表示しますか	Interactive	はい
配列SQL処理を使用しますか	Array	はい
レコードをテンポラリ・ファイルに書き込みますか	Buffer_Records	いいえ
ログオン指定画面を表示しますか	Logon_Screen	いいえ
起動時にブロック・メニューを表示しますか	Block_Menu	いいえ
V2スタイルのトリガー・ステップSQL処理を最適化しますか	OptimizeSQL	はい
トランザクション・モード処理を最適化しますか	OptimizeTP	はい
消音モードで実行しますか	Quiet	いいえ
統計を表示	Statistics	いいえ
問合せ専用モードで実行しますか	Query_Only	いいえ
ヘルプ情報を表示	Help	いいえ
ウィンドウの状態	Window_State	NORMAL
PECSデータを集めますか	PECS	OFF
オプション・スクリーン	Options_Screen *	いいえ

SDI モードを使用	USESDI	いいえ
HTML ファイルへのパス (Web実行時のみ)	HTML	

*コマンド・ラインのみで使用可能です。「Formsランタイム・オプション」ダイアログ・ボックスからは使用できません。

Array (Forms Runtime)

説明

「Forms Runtime」セッション時に配列処理を行います。

配列処理を抑止すると、Formsは、サーバー上のデータベースからクライアントに問合せ結果を1度に1行のみを戻すことを要求します。同様に、Formsは、データベースに、配列処理が抑止されたら、クライアントからサーバーにINSERTまたはUPDATE、DELETEについて1度に1行のみを送信することを要求します。

配列処理を抑止すると、通常、最初に検索されたレコードが、配列処理で多くのレコードをフェッチした場合よりも速く表示されます。ただし、ネットワーク・オーバーヘッドが減少できるので、数多くのレコードをフェッチして表示するときにかかる合計時間は、配列処理の場合よりも短くなります。

オプション名

配列SQL処理を使用しますか

デフォルト

YES

Array (Forms Runtime) 例

```
ifrun60 module=myform userid=scott/tiger array=NO
```

Block_Menu (Forms Runtime)

説明

フォームのかわりに最初のスクリーンとして (ログイン・スクリーンが表示される場合は、その後に) ブロック・メニューを自動的に表示します。

作業環境名

起動時にブロック・メニューを表示しますか

デフォルト

NO

Block_Menu (Forms Runtime) 例

```
ifrun60 module=myform userid=scott/tiger block_menu=YES
```

Buffer_Records (Forms Runtime)

説明

メモリー上のバッファ・レコード数を、（各ブロック当たり）最低許容行数に3を加えた値に設定します。ブロックが、この最小値を超えて問合せでレコードを検索すると、Form Builderは、これらの追加レコードを、ディスクのテンポラリ・ファイルにバッファします。

このオプションを設定すると、Formsランタイム実行時のメモリーは節約できますが、ディスクI/Oにより処理速度が低下することがあります。

Buffer_Records=NOと指定すると、Form Builderは、最小値を各ブロックの「バッファ・レコード数」プロパティで指定された数に設定します。

オプション名

レコードをテンポラリ・ファイルに書き込みますか

デフォルト

NO

Buffer_Records (Forms Runtime) 例

```
ifrun60 module=myform userid=scott/tiger buffer_records=YES
```

Debug (Forms Runtime)

説明

Forms Runtimeセッションのデバッグ・モードをコールします。トリガーでBREAKビルトインが使用される場合、または「Form Builder」メニューから「ヘルプ」→「デバッグ」コマンドを使用する場合は、デバッガがブレーク処理を行います。

Windows以外のプラットフォームでデバッガによるブレーク処理を行うためには、デバッグ・ランフォーム実行可能ファイルを使用する必要があります。

```
ifdbg60 module=myform userid=scott/tiger debug=YES
```

オプション名

デバッグ・モードでの実行しますか

デフォルト

NO

Debug (Forms Runtime) 例

```
ifdbg60 module=myform userid=scott/tiger debug=YES
```

Debug_Messages (Forms Runtime)

説明

Debug_Messagesは、フォームの実行中にトリガー実行に関するメッセージを表示します。

デフォルト

NO

Debug_Messages (Forms Runtime) 例

```
ifrun60 module=myform userid=scott/tiger debug_messages=YES
```

Help (Forms Runtime)

説明

Form Builderヘルプ・スクリーンを起動します。

オプション名

ヘルプ情報を表示

デフォルト

NO

Help (Forms Runtime) 例

```
ifrun60 help=YES
```

Interactive (Forms Runtime)

説明

Interactiveは、キースクリプト・ファイルを入力として使用しているとき、出力をファイルにプリントすると同時に、端末スクリーンに表示すること(すなわち、対話型実行)を指定します。Interactive=NOを使用して、バッチ・モードでフォームを実行しているときにスクリーン出力を抑止します。

このパラメータは、キャラクタ・モード端末のみに適用されます。

注意: 対話形式を使用しているときは必ずKeyinおよびOutput_Fileパラメータを使用する必要があります。Keyinファイルは、入力またはキースクリプト・ファイルを指定します。Output_Fileは、出力またはログ・ファイルを指定します。

オプション名

書き込んでいる出力内容を表示

デフォルト

YES

Interactive (Forms Runtime) 例

```
ifrun60 module=myform userid=scott/tiger keyin=myfile.key  
output_file=mydisplay.out interactive=NO
```

Keyin (Forms Runtime)

説明

キースクリプト・ファイルを入力項目としてフォームに読み込ませることができます。キースクリプト・ファイルは、Forms Runtimeセッションを起動、実行および終了します。

指定するファイル名は、入力またはキースクリプト・ファイルです。

デフォルトでは、Form Builderは端末スクリーンのアクションすべてを実行します。スクリーン出力を抑止する場合は、Interactive=NOを指定して、Output_Fileを使用して、出力ファイルを指定します。

このパラメータは、キャラクタ・モード端末のみに適用されます。

オプション名

入力キー・ストロークを読み込むファイル

Keyin (Forms Runtime) 例

```
ifrun60 module=myform userid=scott/tiger keyin=myfile.key
```

Keyout (Forms Runtime)

説明

Forms Runtimeセッション時に関与したキーストロークをキースクリプト・ファイルで獲得します。キースクリプト・ファイルには、フォーム内のナビゲート、ファンクションの起動およびトランザクションの実行に関与するキー・ストロークが組み込まれます。

ファイル名は出力またはキースクリプト・ファイルを指定します。

このパラメータは、キャラクタ・モード端末のみに適用されます。

オプション名

入力キー・ストロークを書き込むファイル

Keyout (Forms Runtime) 例

```
ifrun60 module=myform userid=scott/tiger keyout=newfile.key
```

Logon_Screen (Forms Runtime)

説明

パスワードを入力していない場合に、ログオン・スクリーンが強制的に表示されるようにします。Logon_Screenを使用するとき、ユーザー名とパスワードは指定しません(指定しても、Form Builderは、それを無視します)。

(参照できる) コマンド・ラインにパスワードを入力しない場合は、Logon_Screenを使用します。

オプション名

ログオン指定画面を表示

デフォルト

NO

Logon_Screen (Forms Runtime) 例

```
ifrun60 module=myform userid=scott/tiger logon_screen=YES
```

OptimizeSQL (Forms Runtime)

説明

Form Builderが、データベース・カーソルを共有することによって、V2スタイルのトリガーでSQL文処理を最適化するように指定します。

デフォルトで、Form Builderは、フォームがV2トリガーで明示的に実行する各SQL文に個別のデータベース・カーソルを割り当てます。この動作は処理能力を高めます。なぜなら、各SQL文の解析が、Forms Runtimeセッションが実行された最初のときのみ行われ、毎行行われなくなるからです。

OptimizeSQL=NOを指定すると、Form Builderは、V2トリガーのすべてのSQL文に個別カーソルを割り当てます。これらの文はそのカーソルを共有、つまり再使用します。これにより、メモリーは節約できますが、SQL文を実行のたびに解析する必要がありますので、処理速度は遅れます。

この動作は、「新規カーソル領域」トリガー・ステップ特性を介して微調整できます。SQL文を含むトリガー・ステップで、この特性がオンになっていると、Form Builderは、文に個別カーソルを割り当てて、事実上その文のOptimizeSQLパラメータを上書きします。

注意: OptimizeSQLは、PL/SQLトリガーの文に全く影響を及ぼしません。

オプション名

V2スタイルのトリガー・ステップSQL処理を最適化しますか

デフォルト

YES

OptimizeSQL (Forms Runtime) 例

```
ifrun60 module=myform userid=scott/tiger optimizesql=NO
```

OptimizeTP (Forms Runtime)

説明

トランザクション・モード処理を最適化します。

デフォルトでは、Form Builderは、フォームがデータの転記または問合せの一部として暗黙的に実行する各SQL文に別々のデータベース・カーソルを割り当てます。この動作は処理能力を高めます。なぜなら、各SQL文の解析が、Formsランタイム・セッションが実行された最初のときのみ行われ、毎行行われなくなるからです。

ただし、問合せSELECT文に割り当てられるカーソルは、実行するたびに解析する必要があるので、注意してください。問合せが実行によって変わるので、この例外が存在します。

OptimizeTP=NOを指定すると、Form Builderは、各問合せSELECT文にのみ別々のカーソルを割り当てます。その他のすべての暗黙的SQL文はカーソルを共有、つまり再使用します。これにより、メモリーは節約できますが、すべてのINSERTおよびUPDATE、DELETE、SELECT FOR UPDATE文を実行のたびに解析する必要がありますので、処理速度は遅くなります。

オプション名

トランザクション・モード処理を最適化しますか

デフォルト

YES

OptimizeTP (Forms Runtime) 制限事項

標準Form Builder処理を、On-InsertおよびOn-Update、On-Deleteトリガーに置換すると、OptimizeTPパラメータは全く影響を及ぼしません。それは、これらのトリガーが暗黙的に発行されるINSERT、UPDATEおよびDELETE文を置き換えるためです。

OptimizeTP (Forms Runtime) 例

```
ifrun60 module=myform userid=scott/tiger optimizetp=NO
```

Options_Screen (Forms Runtime)

説明

「オプション」ウィンドウを表示します。

このパラメータは、GUI表示のみに適用されます。

デフォルト

NO

Options_Screen (Forms Runtime) 例

```
ifrun60 module=myform userid=scott/tiger options_screen=YES
```

Output_File (Forms Runtime)

説明

フォームの端末出力をスクリーンに表示すると同時に、ログ・ファイルに書き込みます。スクリーン出力を抑止する場合は、Interactive=NOを使用したあと、Output_Fileを指定します。

このパラメータは、キャラクタ・モード端末のみに適用されます。

注意: Output_Fileを使用する場合は必ずKeyinパラメータを使用する必要があります。Keyinファイルは、入力またはキースクリプト・ファイルを指定します。Output_Fileは、出力またはログ・ファイルを指定します。

オプション名

出力内容の書き込み先ファイル

Output_File (Forms Runtime) 例

```
ifrun60 module=myform userid=scott/tiger keyin=myfile.key  
output_file=mydisplay.out
```

PECS (Forms Runtime)

説明

Performance Event Collection Services (PECS) を使用可能にして、フォームを実行します。

PECSは、次の作業を実行するときに使用できるパフォーマンス測定ツールです。

- Form Builderまたはアプリケーション特定イベントのリソースの使用率（各イベントのCPU時間または1時間で処理されるトランザクション）を測定します。
- パフォーマンスの問題（各イベントの経過時間）を突きとめます。
- オブジェクトのカバレッジ（テスト実行中にトリガー、警告またはウィンドウなどの特定のオブジェクトが使用されたかどうか）を測定します。

■ (トリガーおよびプロシージャのPL/SQLコードについて)行単位のカバレッジを測定します。

PECSオプションは、ONまたはOFF、FULLに設定できます。

■ オブジェクトのカバレッジの場合、PECS=ONに設定します。

■ オブジェクトのカバレッジと行単位のカバレッジの場合、次のようにします。

■ Debug=ONでコンパイルします。

■ PECS=FULLで実行します。

■ デフォルトはPECS=OFFです。

Windows以外のプラットフォームでPECSを使用するには、デバッグ・ランフォーム実行可能ファイルを使用する必要があります。

```
ifdbg60 module=myform userid=scott/tiger PECS=ON
```

デフォルト:

OFF

PECS (Forms Runtime) 例

```
ifdbg60 module=myform userid=scott/tiger PECS=ON
```

Query_Only (Forms Runtime)

説明

フォームを問合せ専用モードで起動します。このオプションをオンに設定するのは、CALL_FORM(query_only)ビルトインを使用することと同じです。

作業環境名

問合せ専用モードで実行しますか

デフォルト

NO

Query_Only (Forms Runtime) 例

```
ifrun60 module=myform userid=scott/tiger query_only=YES
```

Quiet (Forms Runtime)

説明

Forms Runtimeセッションの消音モードをコールします。消音モードでは、メッセージはピープ音を鳴らしません。BELLビルトインをコールすることにより、トリガーからピープ音を明示的に鳴らすことができます。quiet=NOはデフォルトで、ピープ音が鳴ることを示します。ピープ音をオフにするには、quiet=YESに設定します。

オプション名

消音モードで実行しますか

デフォルト

NO

Quiet (Forms Runtime) 例

```
ifrun60 module=myform userid=scott/tiger quiet=YES
```

Statistics (Forms Runtime)

説明

セッションの終わりに、セッション中に同時に使用したカーソルの最大数を示すメッセージを表示します。このメッセージは、メッセージ・ラインではなく、端末スクリーンに表示されます。

このオプションは、データベースに次のコマンドも発行します。

```
ALTER SESSION SET SQL_TRACE TRUE
```

このコマンドは、サーバー上にトレース・ファイル・ディレクトリを表示して、現行セッションのSQLトレース機能を使用可能にします。¾データベースのパフォーマンスに関する機能の詳細は、『Oracle8 Serverチューニング』を参照してください。

Form Builder内からフォームを実行中に、この機能を使用する場合、「統計表示」ランタイム・オプションをアクティブにします。

オプション名

統計を表示

デフォルト

NO

Statistics (Forms Runtime) 例

```
ifrun60 module=myform userid=scott/tiger statistics=YES
```

Term (Forms Runtime)

説明

現行のデバイスおよび製品にデフォルト・マッピング以外のマッピングを指定します。

<i>resfile</i>	指定するファイル名は、OracleTerminalリソース・ファイルの名前です。resfileを指定しないと、Form Builderは、デフォルトがプラットフォームに固有のファイル名になり、大部分のプラットフォームでは"FMR"で実行が開始されます。たとえば、Microsoft Windowsのデフォルト・ファイルはFMRJAWです。
<i>mymapping</i>	指定するマッピング名は、この「Form Builder」セッションで使用するマッピングです。

注意: ユーザーまたはDBAは、Oracle Terminalでマッピングを定義します。リソース・ファイルの詳細は、使用しているオペレーティング・システムのForm Builderドキュメンテーションを参照してください。

Web上でフォームを実行している際に、使用するリソース・ファイルの完全なパスを指定するには、resfile引数のみを使用します。

オプション名

Oracle*Terminalリソース・ファイル

Term (Forms Runtime) 例

```
ifrun60 module=myform userid=scott/tiger@<alias> term=resfile:mymapping
```

Web上でフォームを実行している場合:

```
serverargs="myform.fmx scott/tiger@<alias> term=c:¥formdir¥resfile.res"
```

Window_State (Forms Runtime)

説明

Forms Runtimeの開始時のMDIアプリケーション・ウィンドウのサイズを設定します。

MAXIMIZE, に設定すると、MDIアプリケーション・ウィンドウはForms Runtimeセッションの開始時に最大になります。MINIMIZEに設定すると、MDIアプリケーション・ウィンドウはForms Runtimeセッションの開始時に最小になります。NORMAL設定は、標準サイズであるMDIアプリケーション・ウィンドウを起動します。

オプション名

ウィンドウの状態

デフォルト

NORMAL

Window_State (Forms Runtime) 制限事項

Microsoft Windowsにおいてのみ有効です。Webから実行中のフォームはサポートされていません。

Window_State (Forms Runtime) 例

```
ifrun60 module=myform userid=scott/tiger window_state=MAXIMIZE
```

Form Compilerオプションの設定

Form Compilerオプションでは、Form Compilerセッション時のForm Builderのデフォルト動作が指定されます。オプションには、フォームを実行およびテストするため開発中のファイル生成に適用されるものや、ファイルを旧バージョンからバージョン6.0に変換しているときにのみ適用されるものがあります。

次の2通りの方法でForm Compilerオプションを設定できます。

- 「Form Compilerオプション」ダイアログ・ボックスのオプションを設定します。
- Form Compilerをコールするときにコマンド・ラインでForm Compilerにパラメータを渡します。

以下に「フォーム・コンパイラ・オプション」ウィンドウのForm Compilerオプションおよびそれらの対応キーワード・パラメータをリストします。個々のForms Runtimeオプションに関する詳細については、チャートに続いて表示されるアルファベット順に記述されている対応パラメータ・リストを参照してください。

Form Compilerパラメータのアルファベット順リストで、次の情報がパラメータごとに記述されています。

- デフォルト以外の値をパラメータに設定するときの例

■ 関連モジュール・タイプ: フォーム、メニュー、ライブラリまたはすべて

■ 説明

■ デフォルト

キーワード・パラメータをコマンド・ライン・オプションとして入力する場合は、複数のパラメータを任意の順序で同時に入力できます。

```
ifcmp60 module=myform userid=scott/tiger batch=YES statistics=YES
```

オプション名	キーワード・パラメータ
ファイル	Module
userid/password	Userid
モジュール・タイプをFORM、MENU、LIBRARYから選択してください	Module_Type
モジュール・アクセスはFILEまたはDATABASE	Module_Access
デバッグ・モードでビルドしますか	Debug
統計を表示	Statistics
データベースにログオンしますか	Logon
出力内容の書き込み先ファイル	Output_File
スクリプト・ファイルを書きますか	Script
データベースからモジュールを削除しますか	Delete
データベースにモジュールを挿入しますか	Insert
データベースからファイルにモジュールを取り出しますか	Extract
3.0 Formまたは5.0 Menuから4.5モジュールにアップグレードしますか	Upgrade
SQL*Menu 5.0ロール情報をアップグレードしますか	Upgrade_Roles
アップグレードするバージョン	Version
アップグレード時に使用するCRTファイル	CRT_File
アップグレード時にランフォーム/ランメニューをビルドしますか	Build
アップグレード時にkey-up/downトリガーを追加しますか	Add_Triggers
アップグレード時に実行マクロステップにNOFAILを追加しますか	Nofail
ヘルプ情報を表示	Help
Options_Screen	Options_Screen*
バッチ	Batch*

*コマンド・ラインのみで使用可能です。「フォーム・コンパイラ・オプション」ダイアログからは使用できません。

Add_Triggers (Form Compiler)

説明

KEY-PRVRECおよびKEY-NXTRECIトリガーが存在した場合は、必ずForms2.0または2.3から4.0にアップグレードするときに、key-upトリガーおよびkey-downトリガーを追加するかどうかを指示します。

モジュール

フォーム

デフォルト

NO

Add_Triggers (Form Compiler) 例

```
ifcmp60 module=myform userid=scott/tiger upgrade=yes version=23  
add_triggers=YES
```

Batch (Form Compiler)

説明

対話形式メッセージを抑止します。バッチ生成を実行しているときに使用します。

モジュール

フォーム

デフォルト

NO

Batch (Form Compiler) 例

```
ifcmp60 module=myform userid=scott/tiger batch=YES
```

Build (Form Compiler)

説明

「アップグレード」とともに「ビルド」オプションを使用します。upgrade=YESを指定し、buildを省略すると、Form Builderは2つのファイルを作成し、このためデフォルト値build=YESをアクセプトします。

- アップグレードしたバイナリ開発モジュール (.FMBまたは.MMBファイル)
- アップグレードしたForms Runtime実行可能モジュール (.FMXまたは.MMXファイル)

自動的にForms Runtimeモジュールを作成することを望むことを否定する場合、build=NOを指定します。

モジュール

フォーム、メニュー

デフォルト

YES

Build (Form Compiler) 例

```
ifcmp60 module=myform userid=scott/tiger upgrade=YES build=NO
```

Compile_All (Form Compiler)

説明

指定したモジュール内でプログラム単位をコンパイルします。

注意: 「出力ファイル」を使用して別の場所を指定しない限り、出力ファイルは現在のディレクトリに置かれます。

モジュール

フォーム、メニュー、ライブラリ

デフォルト

NO

Compile_All (Form Compiler) 例

```
ifcmp60 module=myform userid=scott/tiger compile_all=YES
```

CRT_File (Form Compiler)

説明

SQL*Formsバージョン2.0または2.3からアップグレードするとき使用するCRTファイルを指示します。

モジュール

フォーム

CRT_File (Form Compiler) 例

```
ifcmp60 module=myform userid=scott/tiger upgrade=yes version=20  
crt_file=myfile.crt
```

Debug (Form Compiler)

説明

デバッグ可能なフォームを作成します。

「Debug(Form Compiler)」オプションを選択すると、ランタイム・ソース・レベル・デバツカが使用するユーザーのFMXファイルが作成されます。したがって、実行の場合にdebug=yesを指定するためにはdebug=yesでコンパイルしておく必要があります。

オプション名

デバッグ・モードでビルドしますか

デフォルト

NO

Debug (Form Compiler) 例

```
ifcmp60 module=myform userid=scott/tiger debug=yes
```

Delete (Form Compiler)

説明

データベースから直接モジュールを削除します。

モジュール

すべて

デフォルト

NO

Delete (Form Compiler) 例

```
ifcmp60 module=myform userid=scott/tiger delete=YES
```

Extract (Form Compiler)

説明

データベースからモジュールを抽出して、同じモジュール名のファイルとして保存します。

モジュール

すべて

デフォルト

NO

Extract (Form Compiler) 例

```
ifcmp60 module=myform userid=scott/tiger extract=YES
```

Help (Form Compiler)

説明

Form Builderヘルプ・スクリーンを起動します。

モジュール

すべて

デフォルト

NO

Help (Form Compiler) 例

```
ifcmp60 help=YES
```

Insert (Form Compiler)

説明

Form Compilerのコマンド・ラインからモジュールを直接データベースに挿入します。

モジュール

すべて

デフォルト

NO

使用上の注意

Insertオプションは、Upgradeオプションとの組み合わせでは機能しません。

Insert (Form Compiler) 例

```
ifcmp60 module=myform userid=scott/tiger insert=YES
```

Logon (Form Compiler)

説明

Form Compilerがデータベースにログオンすべきかどうかを指定します。モジュールが表を参照するPL/SQLコードを含んでいる場合、生成するにはデータベースへの接続が必要となります。

モジュール

フォーム

デフォルト

YES

Logon (Form Compiler) 例

```
ifcmp60 module=myform userid=scott/tiger logon=NO
```

Module_Access (Form Compiler)

説明

モジュールをオープンして、ファイル・システムまたはデータベースに保存するかどうかを指定します。

モジュール

すべて

デフォルト

FILE

Module_Access (Form Compiler) 例

```
ifcmp60 module=myform userid=scott/tiger module_access=database
```

Module_Type (Form Compiler)

説明

現行モジュールのモジュール・タイプを指定します。Module_Typeを指定することにより、フォームおよびメニュー、ライブラリ・モジュールの名前を同じにすることができます。

モジュール

すべて

デフォルト

FORM

Module_Type (Form Compiler) 例

```
ifcmp60 module=orders userid=scott/tiger module_type=menu
```

Nofail (Form Compiler)

説明

Forms 2.0からアップグレードしているときに限り、NOFAILキーワードを実行マクロ・ステップに追加するかどうかを指示します。

モジュール

フォーム

デフォルト

NO

Nofail (Form Compiler) 例

```
ifcmp60 module=myform userid=scott/tiger upgrade=yes version=20  
nofail=YES
```

Options_Screen (Form Compiler)

説明

「オプション」ウィンドウを起動します。

このパラメータはGUI表示のみに適用されます。

モジュール

すべて

デフォルト

NO

Options_Screen (Form Compiler) 例

```
ifcmp60 module=myform userid=scott/tiger options_screen=YES
```

Output_File (Form Compiler)

説明

生成したファイルにファイル名を指定します。

upgrade=yesで生成すると、output_fileは次を指定します。

- アップグレードされたバイナリ開発用モジュール（.FMBまたは.MMB、.PLLファイル）の完全名

注意: 生成されたライブラリ・ファイルの名前を指定するには、Output_FileとともにStrip_Sourceを使用する必要があります。

- アップグレードしたForms Runtime実行可能モジュール（.FMX or .MMXファイル）のルート名（拡張子なし）

upgrade=yesおよびbuild=noで使用する時、ファイルの拡張子は無視されます。

モジュール

すべて

Output_File (Form Compiler) 例

```
ifcmp60 module=myform userid=scott/tiger upgrade=yes  
output_file=myform.fmb
```

Parse (Form Compiler)

説明

モジュールのテキスト・ファイル形式(.FMT、.MMT、.PLD)をバイナリ形式(.FMB、.MMB、.PLL)に変換します。

この動作は、「変換」コマンドを使用すると、Form Builder内からでも実行できます。

モジュール

すべて

デフォルト

NO

Parse (Form Compiler) 例

```
ifcmp60 module=myform parse=YES
```

Script (Form Compiler)

説明

バイナリ・ファイル形式(.FMBまたは.MMB、.PLL)をテキスト形式(.FMTまたは.MMT、.PLD)に変換します。

この動作は、「変換」コマンドを使用すると、Form Builder内からでも実行できます。

モジュール

すべて

デフォルト

NO

Script (Form Compiler) 例

```
ifcmp60 module=myform script=YES
```

Statistics (Form Compiler)

説明

セッションの終わりに、コンパイルされたフォーム内のさまざまなオブジェクトの数をリストしたメッセージを表示します。

- オブジェクト統計: 警告、エディタ、値リスト、プロシージャ、レコード・グループ、キャンバス、可視属性およびウィンドウの数と、オブジェクトの総数
- トリガー統計: フォーム・トリガー、ブロック・トリガー、項目トリガーの数およびトリガーの総数
- ブロック統計: 配列フェッチがONのブロック数、平均の配列フェッチ・サイズおよびブロックの総数
- 項目統計: ボタン、チェックボックス、表示項目、イメージ項目、リスト項目、ラジオ・グループ、テキスト項目、ユーザー領域の数および項目の総数

モジュール

フォーム

デフォルト

NO

Statistics (Form Compiler) 例

```
ifcmp60 module=myform userid=scott/tiger statistics=YES
```

Strip_Source (Form Compiler)

説明

ライブラリ・ファイルからソース・コードを削除し、pcodeのみを含んでいるライブラリ・ファイルを作成します。生成されたファイルは運用時には使用できますが、後でForm Builderで編集できません。

Strip_Sourceを使用するときは、Output_File (Forms Runtime) パラメータを使用して出力ファイルを指定する必要があります。

モジュール

ライブラリ

デフォルト

NO

Strip_Source (Form Compiler) 例

```
ifcmp60 module=old_lib.pll userid=scott/tiger strip_source=YES  
output_file=new_lib.pll
```

Upgrade (Form Compiler)

説明

モジュールを、SQL*Forms 2.0、2.3または3.0からForm Builder 5.0に、あるいはSQL*Menu 5.0からForm Builder 5.0メニュー・モジュールにアップグレードします。

- SQL*Forms 3.0またはSQL*Menu 5.0からForm Builder 5.0にアップグレードするには、upgrade=yesと指定して、versionを省略します。
- SQL*Forms 2.0からアップグレードするには、upgrade=yesおよびversion=20と指定します。
- SQL*Forms 2.3からアップグレードするには、upgrade=yesおよびversion=23と指定します。

モジュール

フォーム、メニュー

デフォルト

NO

使用上の注意

Upgradeオプションは、Insertオプションとの組合せでは機能しません。

Upgrade (Form Compiler) 例

```
ifcmp60 module=myform userid=scott/tiger upgrade=YES
```

Upgrade_Roles (Form Compiler)

説明

SQL*Menu 5.0表権限をOracle 8 のデータベース・ロールにアップグレードします。

注意: メニュー・ロールは、すべての特定メニュー・アプリケーションから独立しています(モジュール名は指定されません)。1つの実行で、upgrade=yesおよびupgrade_roles=yesと指定できません。

モジュール

なし

デフォルト

NO

Upgrade_Roles (Form Compiler) 例

```
ifcmp60 userid=system/manager upgrade_roles=YES
```

Version (Form Compiler)

説明

どのバージョンからアップグレードするかを指示します。バージョン2.3 (version=23) またはバージョン2.0 (version=20) からアップグレードするには、upgrade=yes をともに使用します。

バージョン3.0からアップグレードするには、upgrade=yesを指定して、versionパラメータを省略します。

モジュール

フォーム

Version (Form Compiler) 例

```
ifcmp60 module=myform userid=scott/tiger upgrade=yes version=23
```

Widen_Fields (Form Compiler)

説明

「Upgrade」とともに「Widen_Fields」オプションを使用します。バージョン5.0にアップグレードしているとき、各フィールドの凹凸によって、1フィールドあたり最大1文字が失われることがあります。アップグレード時に、このオプションを指定すると、各フィールドの画面幅に自動的に1文字が追加されます。

注意: 最高許容値には影響しません。

このオプションは、1～6文字のフィールドを多く含むForm Builder 3.0の文字モード・アップグレード・アプリケーションをアップグレードするときに最も有用です。Widen_Fieldsオプションの影響は、ユーザーのインタフェース設計によって異なるので、慎重にテストする必要があります。ここで影響とは次のことです。

- フィールド間のスペースに上限があると、テキスト項目がボイラープレート・テキストにオーバーラップすることがあります。
- 現在、2フィールドが相互にフラッシュであるとき、Widen_Fieldsオプションにより、両フィールドはオーバーラップします。

モジュール

フォーム

デフォルト

NO

Widen_Fields (Form Compiler) 例

```
ifcmp60 module=myform userid=scott/tiger upgrade=yes widen_fields=YES
```

Form Builderオプションの設定

「Form Builder」作業環境では、Form Builderセッションのデフォルト動作が指定されます。「作業環境」ダイアログ・ボックスをコールする場合は、Form Builderで「ツール」→「作業環境」を選択します。オプションを設定するには、チェックボックスをクリックするか、または選択するオプションのファイル名を記入します。

「作業環境」ダイアログ・ボックスには、「Form Builder」と「Forms Runtime」の作業環境が含まれています。

Form Builderの作業環境

現行Form Builderセッションのデフォルトを指定する場合は、次のオプションを設定します。

- ビルド前に保存
- 実行前にビルド
- ヒント表示の抑止
- モジュール非同期実行
- システム・エディタの使用
- アクセス（ファイル、データベース、ファイル/データベース）
- 表示（フォーム、メニュー、ライブラリ、すべて）
- プリンタ
- カラー・パレット
- カラー・モード

個々のオプションの詳細については、次のアルファベット順リストを参照してください。

ランタイム・オプション

Form Builderから実行するフォームのデフォルトを指定する場合は、次の「ランタイム」オプションを設定します。

- ファイルのバッファ・レコード
- デバッグ・モード
- 配列処理
- SQL処理の最適化

- トランザクション・モード処理の最適化
- 統計表示
- ブロック・メニューの表示
- 問合せ専用モード
- 消音モード

「ランタイム」オプションは、この章の前半にリストされています。

キーワード・パラメータ

「作業環境」ダイアログにリストされているオプションの他に、Form Builderコマンド・ラインでこれらのキーワード・パラメータを設定できます。

- Module_Type
- Module_Access
- Help

Form Builderオプション設定例

```
ifbld60 module=orders userid=scott/tiger module_type=menu
```

カラー・モード

どのようにForm Builderカラー・パレットをシステムにロードするかを判断します。フォームをロード、オープンまたは作成するたびに、Form Builderは、Form Builderカラー・パレットをシステムのカラー表にロードします。このシステム・カラー表は、同時に処理できるカラー数が限定されているので、異なるカラー・パレットを使用する場合、Form Builderは、複数フォームを同時に正確に変更できないことがあります。このため、「Form Builder」カラー・パレットをアクティブに変更している場合を除いて、「Read Only - Shared」オプションを使用します。

「カラー・モード」オプション

Editable	「Form Builder」カラー・パレットを変更する場合のみ「Editable」モードを選択します。一度、カラー・パレットを変更すると、「Read Only - Shared」モードに戻ります。「Editable」モードでは、各カラーが、現行のシステム・カラー表について独自のエントリを持っています。表にスペースがなくなると、カラー・パレットはロードを拒否することがあります。 Form Builderカラー・パレットを変更するには、次のようにします。 ■ 「カラー・モード」を「Editable」に変更して、オプションを保存します。（ツール -> 環境設定、「一般」タブ、「カラー・モード」） ■ Form Builderを再起動します。 ■ カラー・パレットを変更するには、書式 -> レイアウト・オプション -> カラー・パレットを使用します(レイアウト・エディタが開いているときのみ)。 ■ Form Builderカラー・パレットをファイルに保存するには、ファイル -> エクスポート -> カラー・パレットを使用します（レイアウト・エディタが開いているときのみ）。 ■ 新規のカラー・ファイルを使用するには、オプションを変更します（ツール -> 環境設定、「一般」タブ、カラー・パレット）。 「カラー・モード」を「ReadOnly - Shared」に戻して、オプションを保存します。Form Builderを再起動します。
Read Only-Shared	「Read Only - Shared」モードでは、Form Builderカラー・パレットから新規エントリを追加する前に、複製したカラーを現行のシステム・カラー表内の同じエントリにマッピングします。「Read Only - Shared」では、「Form Builder」カラー・パレットを切り替えるときに発生するカラー・フリッカーを回避できるようにします。
Read Only-Private	このオプションは、Graphics Builderとの一貫性のために提供され、Form Builderには関係ありません。Form Builderでは、「Read Only - Shared」にマッピングされます

デフォルト

Read Only - Shared

カラー・パレット

説明

新規フォームを作成するとき、自動的にロードされる「Form Builder」カラー・パレットの名前を指定します。このフィールドをブランクにしておくと、デフォルトの「Form Builder」カラー・パレットがロードされます。

カラー・パレットの詳細は、「カラー・パレットについて」を参照してください。

実行前にビルド

説明

ユーザーがForm Builderからフォームを実行するときに、Form Builderでアクティブ・モジュールを自動的にコンパイルするかどうかを決めます。「実行前にビルド」がチェックされているとき、ユーザーが「**プログラム**」→「**フォーム実行**」コマンドを発行して、指定のフォームを実行したときにForm Builderは次のことを実行します。

- アクティブなフォーム、メニューまたはライブラリのモジュールをビルドして、そのモジュールと同じ名前を持つ実行ファイルを作成します。
- 「実行」ダイアログ・ボックスで指定した.FMXファイル（フォームの実行ファイル）を実行します。

このオプションを使用すると、フォームを変更して実行するたびに個別の「コンパイル」および「実行」コマンドの発行を避けることができます。ただし、このオプションはモジュールを保存しません。モジュールを保存するには、「**ファイル**」→「**上書き保存**」コマンドを発行するか、「ビルド前に保存」オプションをチェックしておく必要があります。

さらに、「実行前にビルド」オプションがチェックされているとき、Form Builderは、フォームに連結しているメニューまたはライブラリ・モジュールをコンパイルしません。ユーザーは、個別にメニューおよびライブラリをコンパイルしてから、それらを参照するフォームを実行する必要があります。

デフォルト:

Off

Help (Form Builder)

説明

Form Builderヘルプ・スクリーンを起動します。

モジュール:

すべて

デフォルト

NO

Help (Form Builder) 例

```
ifbld60 help=YES
```

HTMLファイル名

説明

Webプレビューアでフォームを実行するときに使用するHTMLファイルを指定します。

Webプレビューアでフォームをプレビューするとき、環境設定またはデフォルトによって指定された実行時オプションを伴って、コンテナHTMLファイルが動的に作成されます。このファイルは、フォームを実行するためにWebプレビューアに送られます。Form Builderにより作成されたカスタムHTMLファイルと置き換えるには、カスタムHTMLファイルのパスとファイル名を入力する必要があります。

「アクセス」作業環境（Form Builder）

説明

モジュールをオープンして、ファイル・システムまたはデータベースに保存するかどうかを指定します。

このオプションは、Module_Accessパラメータを使用してコマンド・ライン上で設定することも、「作業環境」ダイアログ・ボックスの「アクセス」タブで設定することもできます。

コマンド・ライン・パラメータを指定すると、現行Form Builderセッション1回ごとのアクセスが可能になります。コマンド・ラインで、「Module_Access」オプションは、fileまたはdatabaseに設定できます。

Form Builderセッションでこのオプションを常に有効にするには、「アクセス」作業環境(「ツール」→「作業環境」を選択し、「アクセス」タブを利用)を使用して、自分の作業環境ファイルを変更します。

「アクセス」オプションで、次の格納作業環境の1つを指定して、モジュールをオープンおよび保存できます。

ファイル	モジュールはファイル・システムからロードされ、ファイル・システムに保存されます。
データベース	モジュールはデータベースからロードされ、データベースに保存されます。
確認	モジュールはファイル・システムまたはデータベースからロードして、ファイル・システムまたはデータベースに保存できます。Form Builderは、これらの操作を実行するたびに、ファイルの場所をユーザーに問い合わせます。

モジュール

すべて

デフォルト

FILE

「アクセス」作業環境 (Form Builder) 例

```
ifbld60 module=myform userid=scott/tiger module_access=database
```

Module_Type (Form Builder)

説明

現行モジュールのモジュール・タイプを指定します。Module_Typeを指定することにより、フォームおよびメニュー、ライブラリ・モジュールの名前を同じにすることができます。

モジュール

すべて

デフォルト

FORM

Module_Type (Form Builder) 例

```
ifbld60 module=orders userid=scott/tiger module_type=menu
```

プリンタ

デフォルトのプリンタの名前。この名前はオペレーティング・システムに依存しています。

プリンタの詳細は、使用しているオペレーティング・システムのForm Builderマニュアルを参照してください。

モジュールの非同期実行

実行するフォームがForm Builder自身に関して同期モードで実行されるのかあるいは非同期モードで実行されるのかを決めます。

- 「モジュールの非同期実行」がオフのとき、Form Builderから実行するフォームは同期モードで実行されます。つまり、フォームを終了までForm Builderで作業を行うことはできません。
- 「モジュールの非同期実行」がオンのとき、Form Builderから実行するフォームは非同期モードで実行されます。したがって、Form BuilderとForms Runtimeとの間を自由に移動できます。

フォームを同期モードで実行すると、Form Builderは、発生したForms Runtime起動エラーをForm Builderで警告を表示して知らせます。フォームを非同期モードで実行すると、Forms RuntimeとForm Builderとの間で一切交信が行われることがなく、Forms RuntimeエラーはForm Builderで報告されません。

デフォルト

Off

ビルド前に保存

ユーザーが「ファイル」→「管理」→「コンパイル・ファイル」を選択したとき、あるいは「実行前にビルド」作業環境がチェックされていて実行前にフォームがビルドされたときに、Form Builderが現行モジュールをビルドする前にそれを自動的に保存するかどうかを決めます。

デフォルト

Off

サブクラス・パス

説明

下記のオプションのどれかを指定して、サブクラス化されたオブジェクトとともに元のオブジェクトのパスを保存するかどうかを判断します。

サブクラス化されたオブジェクトをとともう元のオブジェクトに関するパスの保存について、次のいずれかの環境設定を指定します。

削除	サブクラス化されたオブジェクトにおいて参照される元のオブジェクトのファイル名からパスを削除します。
保管	サブクラス化されたオブジェクトは、完全なパスに従って元のオブジェクトを参照します。
確認	ユーザーがオブジェクトをサブクラス化するたびに、Form Builderはダイアログ・ボックスを表示して、パスを削除するか残すかを問い合わせます。

デフォルト

ASK

注意: サブクラス化されたオブジェクトは、元のオブジェクトからプロパティ値を継承し、元のオブジェクトの保存先フォームのファイル名によって元のオブジェクトを参照します。サブクラス化されたオブジェクトとともにフォームの完全なパス名が保存されるか、あるいはファイル名

のみが保存されます。サブクラス化されたオブジェクトを含んでいるフォームがオープンされると、Form Builderはサブクラス化されたオブジェクトに対して指定されたファイルを探します。ファイル名がパスなしで指定されている場合、Form Builderは自身が起動された現在のディレクトリからファイルを探します。

ヒント表示の抑止

ユーザーがForm Builderで作業を行っているときにメッセージ・ラインからヒント表示を抑止するかどうかを決めます。

デフォルト

Off

TERM (Form Builder)

説明

現行のデバイスおよび製品にデフォルト・マッピング以外のマッピングを指定します。

resfile	指定するファイル名は、OracleTerminalリソース・ファイルの名前です。resfileを指定しないと、Form Builderは、デフォルトがプラットフォームに固有のファイル名になり、大部分のプラットフォームでは"FMR"で実行が開始されます。たとえば、Microsoft Windowsのデフォルト・ファイルはFMRUSWです。
mymapping	指定するマッピング名は、この「Form Builder」セッションで使用するマッピングです。

リソース・ファイルの詳細は、使用しているオペレーティング・システムのForm Builderマニュアルを参照してください。

注意: ユーザーまたはDBAは、Oracle Terminalでマッピングを定義します。

TERM (Form Builder) 例

```
ifbld60 module=myform userid=scott/tiger term=resfile:mymapping
```

USESDI (Forms RuntimeおよびWeb Forms Runtime)

説明

Forms RuntimeセッションまたはWeb Forms Runtimeセッションの実行中は、ウィンドウ管理のシングル・ドキュメント・インタフェース (SDI) システムを使用してください。

複数ドキュメント・インタフェース (MDI) のルート・ウィンドウはありません。MDIツールバーは親ウィンドウに存在し、メニューが各ウィンドウに付加されます。

usesdi=YESの場合、FORMS_MDI_WINDOW定数をコールすると、MDIウィンドウ・ハンドルとしてNULLが戻されます。

オプション名

なし

デフォルト

YES

使用上の注意:

SDIフォームは固有のウィンドウではありません。このため、Microsoft Windowsにおける[Alt]+[Tab]のような、特定OSに固有のウィンドウへのアクセス方法ではSDIウィンドウに移動できません。

USESDI (Forms Runtime) 例

```
ifrun60 module=myform userid=scott/tiger usesdi=YES
```

システム・エディタの使用

マルチライン・テキスト項目からエディタをコールしたときにどのエディタForms Runtimeを使用するかを決めます。「システム・エディタの使用」がチェックされていない場合、Form Builderはデフォルト・エディタを表示します。「システム・エディタの使用」がチェックされている場合、Form Builderは、システムに定義されたデフォルトのシステム・エディタを表示します。

注意: 「システム・エディタの使用」がチェックされており、固有のドキュメント・フォーマットでエディタを使用している場合、そのエディタのフォーマットでドキュメントを保存するかわりに、ASCIIテキストとしてそのドキュメントを保存する必要があります。

デフォルト・システム・エディタの定義の詳細は、使用しているオペレーティング・システムのForm Builderマニュアルを参照してください。

デフォルト

Off

ユーザー作業環境ファイル

「作業環境」ダイアログ・ボックスは、オプションを設定するとき最も便利な方法ですが、（通常、PREFS.ORAと呼ばれる）作業環境ファイルに直接それらを設定することもできます。

「Form Builder」オプションを実行させる作業環境ファイルは、ユーザーが作業環境を変更するたびに自動的に更新されます。ユーザーがForm Builderを起動したときにForm Builderは更新作業環境ファイルを読み取ります。このファイルには、「Form Builder」および「Forms Runtime」オプションのそれぞれをユーザーが事前設定できるようにするキーワードと設定が含まれています。

この章でリストしている、ユーザー作業環境ファイルのForm BuilderまたはForms Runtimeキーワード・パラメータをどれでも使用できます。たとえば、消音モードでForm Builderから実行されるフォームを確実なものとするために、次のラインをユーザー作業環境ファイルに含めます。

```
FORMS.QUIET=ON
```

作業環境ファイルで、ユーザーはForm Builderのマッピングを事前設定することもできます。ほとんどのプラットフォームでは、作業環境ファイルは、PREFS.ORAと命名され、ログイン・ディレクトリに常駐する必要があります。

作業環境またはマッピングを指定しているコマンド・ライン・パラメータでForm Builderを起動すると、コマンド・ライン・パラメータにより作業環境ファイルの設定が取り消されます。さらに、作業環境ファイルのラインにエラーがある場合、Form Builderは、そのファイルを読み込むとき、そのラインを無視します。

オプションの構文

「Form Builder」または「Forms Runtime」オプションを事前設定するには、ちょうどコマンド・ラインでの操作のように、必要なキーワードと設定を作業環境ファイルに含めてください。次の構文を使用します。

```
keyword = {on | off | string}
```

キーワードおよび該当する値のリストについては、作業環境を保存してから、PREFS.ORAファイルの現行内容を調べます。

前置きダイアログ

説明

Form Builderの起動時に「ようこそ」画面を表示するかどうかを判断します。

チェックされていると、Form Builderの起動時に「ようこそ」画面が表示されます。チェックされていないと、Form Builderは新しい、空白の「module1」モジュールを表示した状態で起動します。

デフォルト

ON

前置きページ

説明

ウィザードの起動時に特定のウィザードに対する「ようこそ」ページを表示するかどうかを判断します。

チェックされていると、ウィザードの起動時に「ようこそ」ページが表示されます。チェックされていないと、ウィザードは「ようこそ」ページを表示しません。

適用されるオブジェクト

- データ・ブロック・ウィザード
- 値リスト・ウィザード
- レイアウト・ウィザード
- チャート・ウィザード

デフォルト

ON

システム変数

システム変数

システム変数は、Form Builderの内部状態を追跡し記録する、Form Builder変数です。アプリケーションの動作を制御するため、システム変数の値を参照することができます。

Form Builderにより、システム変数の値がフォームごとにメンテナンスされます。つまり、すべてのシステム変数の値は、現行のフォームにのみ対応しています。使用可能なシステム変数の名前は次のとおりです。

- SYSTEM.BLOCK_STATUS
- SYSTEM.COORDINATION_OPERATION
- SYSTEM.CURRENT_BLOCK
- SYSTEM.CURRENT_DATETIME
- SYSTEM.CURRENT_FORM
- SYSTEM.CURRENT_ITEM
- SYSTEM.CURRENT_VALUE
- SYSTEM.CURSOR_BLOCK
- SYSTEM.CURSOR_ITEM
- SYSTEM.CURSOR_RECORD
- SYSTEM.CURSOR_VALUE
- SYSTEM.CUSTOM_ITEM_EVENT
- SYSTEM.CUSTOM_ITEM_EVENT_PARAMETERS
- SYSTEM.DATE_THRESHOLD*
- SYSTEM.EFFECTIVE_DATE*
- SYSTEM.EVENT_WINDOW
- SYSTEM.FORM_STATUS
- SYSTEM.LAST_QUERY
- SYSTEM.LAST_RECORD
- SYSTEM.MASTER_BLOCK

- SYSTEM.MESSAGE_LEVEL*
- SYSTEM.MODE
- SYSTEM.MOUSE_BUTTON_PRESSED
- SYSTEM.MOUSE_BUTTON_SHIFT_STATE
- SYSTEM.MOUSE_ITEM
- SYSTEM.MOUSE_CANVAS
- SYSTEM.MOUSE_X_POS
- SYSTEM.MOUSE_Y_POS
- SYSTEM.MOUSE_RECORD
- SYSTEM.MOUSE_RECORD_OFFSET
- SYSTEM.RECORD_STATUS
- SYSTEM.SUPPRESS_WORKING*
- SYSTEM.TAB_NEW_PAGE
- SYSTEM.TAB_PREVIOUS_PAGE
- SYSTEM.TRIGGER_BLOCK
- SYSTEM.TRIGGER_ITEM
- SYSTEM.TRIGGER_RECORD

アスタリスク（*）で示されている4つ以外のシステム変数はすべて読み専用の変数です。明示的に値を割り当てることのできるシステム変数は、この4つの変数のみです。Form Builderでは、日付および時間のデフォルト値が6つ用意されています（「日付と時刻のシステム・デフォルト値」を参照）。

ローカル変数

システム変数は導出されるため、値がトリガーの存続期間で変更されない場合は、システム値をローカル変数に保存して、システム変数の値を毎回入手するかわりに、そのローカル変数を何度も使用できます。

日付と時刻のシステム・デフォルト値

Form Builderには、日付と時刻に関する情報を提供する6つの特別なデフォルト値として、`$$DATE$$`、`$$DATETIME$$`、`$$TIME$$`、`$$DBDATE$$`、`$$DBDATETIME$$`および

\$\$DBTIME\$\$があります。これらの変数の使用に関しては次に示すような特別の制限があります。

- クライアント/サーバーのアプリケーションを作成中の場合、ネットワークを越えて日付・時刻情報を取得することのパフォーマンスへの影響を考慮してください。
- 非ORACLEデータソースにアクセス中の場合、\$\$DBDATE\$\$や\$\$DBDATETIME\$\$は使用しないでください。かわりに、When-Create-Recordトリガーを使用して、データソースに固有な方法で現在の日付を選択します。
- \$\$DATE\$\$、\$\$DATETIME\$\$および\$\$TIME\$\$を使用して、ローカル・システムの日付/時刻を取得し、\$\$DBDATE\$\$、\$\$DBDATETIME\$\$および\$\$DBTIME\$\$を使用してデータベースの日付/時刻を取得します。この日付/時刻は、たとえば、タイム・ゾーンの異なるリモート・データベースに接続している場合には、ローカル・システムの日付/時刻と異なることがあります。
- これらの変数は、「初期値」または「最大許容値」/「最小許容値」の各プロパティの設定のみに使用します。

システム変数の例

現ブロックにしたがってナビゲートする、Key-NXTBLKトリガーをフォーム・レベルで作成する必要がありますと想定します。次のトリガーにより、このファンクションが実行されます。ローカル変数に格納されているSYSTEM.CURSOR_BLOCKを使用してください。

```
DECLARE
    curblk VARCHAR2(30);
BEGIN
    curblk := :System.Cursor_Block;
    IF curblk = 'Orders'
        THEN Go_Block('Items');
    ELSIF curblk = 'Items'
        THEN Go_Block('Customers');
    ELSIF curblk = 'Customers'
        THEN Go_Block('Orders');
    END IF;
END;
```

大文字の戻り値

すべてのシステム変数は大/小文字を区別します。またその多くは、引数を大文字の値に戻します。これは、IF文で結果を比較する方法に影響します。

\$\$DATE\$\$システム変数

構文

\$\$DATE\$\$

説明

\$\$DATE\$\$により、現行のオペレーティング・システム日付（クライアント側）が検索されます。「初期値」または「最小許容値」/「最大許容値」の各プロパティを使用してテキスト項目にデフォルト値または範囲を指定するには、\$\$DATE\$\$を使用します。テキスト項目はCHARあるいはDATE、DATETIMEデータ型です。

フォーム・パラメータに対するデフォルト値として、\$\$DATE\$\$を使用します。この場合、パラメータの値はフォームの起動時に1度のみ計算されます。

使用上の注意

\$\$DATE\$\$と\$\$DATETIME\$\$の違いは、\$\$DATETIME\$\$が09:17:59などの有意な時間コンポーネントを含むのに対して、\$\$DATE\$\$の時間コンポーネントは、常に00:00:00に固定されています。

システム変数の表示形式は、デフォルトのデータ型書式マスク、あるいはユーザーが指定した書式マスクによって規定されます。たとえば、デフォルトのDD-MON-YY書式を使用するには、DATEデータ型を指定します。（デフォルトの書式マスクは、NLS_LANGの値によって異なります。

\$\$DATE\$\$では日付のみが表示されますが、その見えない値には、コミット時間に保存された時間コンポーネントが挿入されています。DATETIMEデータ型を指定して、デフォルトを\$\$DATE\$\$とすると、基礎となる値はDD-MON-YYYY HH:MM:SS、つまり、01-DEC-1994 00:00:00などになります。（ただし、01-DEC-1994のみが表示されます）。

このフィールドと、データ型DATEのSHIPDATEフィールドなどの、書式マスクに時間コンポーネントのないフィールドを比較する場合は、\$\$DATE\$\$を使用します。このケースでは、\$\$DATE\$\$とSHIPDATEにはどちらも00:00:00の時間コンポーネントがあります。このため、同じ日に評価される2つの日付は正常に比較されます。

\$\$DATE\$\$の例

例1

ORDERDATEと呼ばれる、DATEテキスト項目の値を、現行の日付のデフォルトにすると想定します。ORDERDATEテキスト項目を定義する場合、テキスト項目の「初期値」プロパティで\$\$DATE\$\$を指定します。

例2

:PARAMETER.STARTUP_DATEなどのパラメータで\$\$DATE\$\$を使用する場合、このパラメータを参照するごとに、アプリケーションを開始した日付を使用できます。

```
IF :PARAMETER.Startup_Date + 1 < :System.Current_Datetime
  THEN Message ('You have been logged on for more than a day.');
```

```
ELSE Message ('You just logged on today.');
```

```
END IF;
```

\$\$DATETIME\$\$システム変数

構文

\$\$DATETIME\$\$

説明

\$\$DATETIME\$\$により、現行のオペレーティング・システム日付と時刻が検索されます。「初期値」または「最小許容値」/「最大許容値」の各プロパティを使用してテキスト項目にデフォルト値または範囲を指定するには、\$\$DATETIME\$\$を使用します。テキスト項目はCHARまたはDATETIMEデータ型です。

フォーム・パラメータのデフォルト値として、\$\$DATETIME\$\$を使用します。この場合、パラメータの値はフォームの起動時に1度のみ計算されます。

使用上の注意

システム変数の表示形式は、デフォルトのデータ型書式マスク、あるいはユーザーが指定した書式マスクによって規定されます。たとえば、デフォルトのDD-MON-YY HH:MM:SS書式が必要な場合、DATETIMEデータ型を指定する必要があります。（デフォルトの書式マスクは、NLS_LANGの値によって異なります。

\$\$DATE\$\$と\$\$DATETIME\$\$の違いは、\$\$DATETIME\$\$が09:17:59などの有意な時間コンポーネントを含むのに対して、\$\$DATE\$\$の時間コンポーネントは、常に00:00:00に固定されています。

注意: 時間コンポーネントの指定時以外は、\$\$DATE\$\$のかわりとして\$\$DATETIME\$\$を使用しないでください。たとえば、DD-MON-YYのデフォルトDATE書式マスクで\$\$DATETIME\$\$を使用すると、書式マスクに時間コンポーネントが挿入されていないため、ユーザーに見えない値をデータベースにコミットすることになります。特定の時間情報にコミットしたため、後で日付を問い合わせたときに値が一致せず、行を戻せなくなります。

\$\$DATETIME\$\$の例

ORDERDATEと呼ばれる、DATETIMEテキスト項目の値を現行のオペレーティング・システム日付と時刻のデフォルトにすると想定します。ORDERDATEテキスト項目を定義する場合、「初期値」プロパティで\$\$DATETIME\$\$を指定します。

\$\$DBDATE\$\$システム変数

構文

\$\$DBDATE\$\$

説明

\$\$DBDATE\$\$により、現行のデータベース日付が検索されます。「初期値」または「最小許容値」/「最大許容値」の各プロパティを使用してテキスト項目にデフォルト値または範囲を指定するには、\$\$DBDATE\$\$を使用します。テキスト項目はCHAR、DATEまたはDATETIMEデータ型です。

使用上の注意

\$\$DBDATE\$\$と\$\$DBDATETIME\$\$の違いは、\$\$DBDATETIME\$\$が09:17:59などの有意な時間コンポーネントを含むのに対して、\$\$DBDATE\$\$の時間コンポーネントは、常に00:00:00に固定されています。

サーバ・マシン上の現在の日付をDATE項目のデフォルトにする場合、たとえば、タイム・ゾーンがクライアントと異なる可能性のあるリモート・データベースに接続する場合は、\$\$DBDATE\$\$を使用します。

システム変数の表示形式は、デフォルトのデータ型書式マスク、あるいはユーザーが指定した書式マスクによって規定されます。たとえば、デフォルトのDD-MON-YY書式が必要な場合、DATEデータ型を指定する必要があります。（デフォルトの書式マスクは、NLS_LANGの値によって異なります。

\$\$DBDATE\$\$では日付のみが表示されますが、その見えない値には、コミット時間に保存された時間コンポーネントが挿入されています。DATETIMEデータ型を指定して、デフォルトを\$\$DBDATE\$\$とすると、基礎となる値はDD-MON-YYYY HH:MM:SS、つまり、01-DEC-1994 00:00:00などになります。（ただし、01-DEC-1994のみが表示されます）。

\$\$DBDATE\$\$の制限事項

- 非ORACLEデータソースにアクセス中なら、\$\$DBDATE\$\$は使用しないでください。かわりに、When-Create-Recordトリガーを使用して、データソースに固有な方法で現在の日付を選択します。

\$\$DBDATE\$\$の例

ORDERDATEと呼ばれる、DATEテキスト項目の値を現行のデータベース日付のデフォルトにする場合は、ORDERDATEテキスト項目に対して、「初期値」プロパティで\$\$DBDATE\$\$を指定します。

\$\$DBDATETIME\$\$システム変数

構文

\$\$DBDATETIME\$\$

説明

\$\$DBDATETIME\$\$により、ローカル・データベースから現行の日付と時刻が検索されます。「初期値」または「最小許容値」/「最大許容値」の各プロパティを使用してテキスト項目にデフォルト値または範囲を指定するには、\$\$DBDATETIME\$\$を使用します。テキスト項目はCHARまたはDATETIMEデータ型です。

使用上の注意

サーバ・マシン上の現在の日付をDATE項目のデフォルトにする場合、たとえば、タイム・ゾーンがクライアントと異なるリモート・データベースに接続する場合は、\$\$DBDATETIME\$\$を使用します。

システム変数の表示形式は、デフォルトのデータ型書式マスク、あるいはユーザーが指定した書式マスクによって規定されます。たとえば、デフォルトのDD-MON-YY HH:MM:SS書式が必要な場合、DATETIMEデータ型、またはCHARデータ型を指定する必要があります。（デフォルトの書式マスクは、NLS_LANGの値によって異なります。）

クライアント/サーバ・アプリケーションを構築している場合、ユーザーのネットワーク構成の複雑さによって、\$\$DBDATETIME\$\$の使用がパフォーマンスに関係することがあります。

注意: 時間コンポーネントの指定を計画する場合以外は、\$\$DBDATE\$\$のかわりとして\$\$DBDATETIME\$\$を使用しないでください。たとえば、DD-MON-YYのデフォルトDATE書式マスクで\$\$DBDATETIME\$\$を使用すると、書式マスクに時間コンポーネントが挿入されていないため、ユーザーに見えない値をデータベースにコミットすることになります。特定の時間情報にコミットしたため、後で日付を問い合わせたときに値が一致せず、行を戻せなくなります。

\$\$DBDATETIME\$\$の制限事項

非ORACLEデータソースにアクセス中なら、\$\$DBDATETIME\$\$は使用しないでください。かわりに、When-Create-Recordトリガーを使用して、データソースに固有な方法で現在と時刻の日付を選択します。

\$\$\$DBDATETIME\$\$\$の例

ORDERDATEと呼ばれる、DATETIMEテキスト項目の値を現行のデータベース日付と時刻のデフォルトにすると想定します。ORDERDATEテキスト項目を定義する場合、「最小許容値」/「最大許容値」で\$\$\$DBDATETIME\$\$\$を指定します。

\$\$\$DBTIME\$\$\$システム変数

構文

\$\$\$DBTIME\$\$\$

説明

\$\$\$DBTIME\$\$\$により、ローカル・データベースから現行の時刻が検索されます。「初期値」または「最小許容値」/「最大許容値」の各プロパティを使用してテキスト項目にデフォルト値または範囲を指定するには、\$\$\$DBTIME\$\$\$を使用します。テキスト項目はCHARまたはTIMEデータ型です。

使用上の注意

タイム・ゾーンがクライアントと異なる可能性のあるリモート・データベースに接続するときは、\$\$\$DBDATE\$\$\$を使用します。

システム変数の表示形式は、デフォルトのデータ型書式マスク、あるいはユーザーが指定した書式マスクによって規定されます。たとえば、デフォルトのHH:MM:SS書式が必要な場合、TIMEデータ型を指定する必要があります。(デフォルトの書式マスクは、NLS_LANGの値によって異なります。

クライアント/サーバー・アプリケーションを構築している場合、ユーザーのネットワーク構成の複雑さによって、\$\$\$DBTIME\$\$\$の使用がパフォーマンスに関係することがあります。

\$\$\$DBTIME\$\$\$の制限事項

非ORACLEデータソースにアクセス中なら、\$\$\$DBTIME\$\$\$は使用しないでください。かわりに、When-Create-Recordトリガーを使用して、データソースに固有な方法で現在の時刻を取得します。

\$\$\$DBTIME\$\$\$の例

ORDERTIMEと呼ばれる、TIMEテキスト項目の値を現行のデータベース時刻のデフォルトにすると想定します。ORDERTIMEテキスト項目を定義する場合、「初期値」プロパティで\$\$\$DBTIME\$\$\$を指定します。

\$\$TIME\$\$システム変数

構文

```
$$TIME$$
```

説明

\$\$TIME\$\$により、現行のオペレーティング・システム時刻が検索されます。「初期値」または「最小許容値」/「最大許容値」の各プロパティを使用してテキスト項目にデフォルト値または範囲を指定するには、\$\$TIME\$\$を使用します。テキスト項目はCHARまたはTIMEデータ型です。

また、\$\$TIME\$\$をフォーム・パラメータのデフォルト値として使用できます。この場合、パラメータの値はフォームの起動時に1度だけ計算されます。

使用上の注意

システム変数の表示形式は、デフォルトのデータ型書式マスク、あるいはユーザーが指定した書式マスクによって規定されます。たとえば、デフォルトのHH:MM:SS書式が必要な場合、TIMEデータ型を指定する必要があります。（デフォルトの書式マスクは、NLS_LANGの値によって異なります。

\$\$TIME\$\$の例

ORDERTIMEと呼ばれる、TIMEテキスト項目の値を、現行のオペレーティング・システム時刻のデフォルトにすると想定します。ORDERTIME項目を定義する場合、「初期値」プロパティで\$\$TIME\$\$を指定します。

SYSTEM.BLOCK_STATUSシステム変数

構文

```
SYSTEM.BLOCK_STATUS
```

説明

SYSTEM.BLOCK_STATUSにより、トリガー処理の際にカーソルが位置しているデータ・ブロック、または現データ・ブロックのステータスが示されます。その値は、次の3つの文字列のうちの1つになります。

CHANGED	変更されたレコードが1つ以上ブロックに含まれていることを示します。
NEW	新規レコードのみがブロックに含まれていることを示します。

QUERY	データベースから取り出された有効レコードのみがブロックに含まれていることを示します。
-------	--

使用上の注意

毎回、この値が参照されるときは、Form Builderによって組み立てられます。ブロックにレコードが多数ある場合は、SYSTEM.BLOCK_STATUSの使用がパフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性があります。

SYSTEM.BLOCK_STATUSの例

ブロック内でコミットに変更がある場合に、ブロックを消去する前にコミットを実行するトリガーを作成する必要があると想定します。次のKey-CLRBLKトリガーによって、この機能が実行されます。

```
IF :System.Block_Status = 'CHANGED'  
    THEN Commit_Form;  
END IF;  
Clear_Block;
```

SYSTEM.COORDINATION_OPERATIONシステム変数

構文

SYSTEM.COORDINATION_OPERATION

説明

このシステム変数はSYSTEM.MASTER_BLOCKと連係して働き、On-Clear-Detailsトリガーがトリガーを開始する調整の原因となる操作タイプと、マスター/ディテール・リレーションのマスター・ブロックを、判別するときに使用されます。

2つのシステム変数の値は、ブロックの同期化の、消去フェーズ全体にわたって一定のまま残ります。SYSTEM.MASTER_BLOCKにより、駆動する側のマスター・ブロックの名前が示され、SYSTEM.COORDINATION_OPERATIONにより、マスター・ブロックで発生した、調整の原因となるイベントが示されます。

Clear_All_Master_Detailsプロシージャは、リレーションが作成されると自動的に生成されます。これはSYSTEM.COORDINATION_OPERATIONの値をチェックし、CLEAR_RECORDとSYNCHRONIZEイベントのための特殊な処理を提供します。この処理は、その他の調整の原因となるイベントの処理とは異なる場合があります。Clear_All_Master_Detailsプロシージャは、SYSTEM.MASTER_BLOCKの値もチェックし、リレーション調整のマスター・ブロックの処理で、変更のあるブロックのみを探索しているかを検証します。

たとえば、下に示すようなブロック間のリレーション階層では、ブロックCにいるときに[Next Record]キーまたは「レコード」「次」メニュー・コマンドを使用して次のレコードに移動するとブロックE、F、G、Hが消去されます（さらにC→EやC→FのリレーションのDeferred_Coordinationプロパティによっては、これらのブロックは引き続き問合せの対象となることがあります）。

ブロックCのOn-Clear-Detailsトリガーを起動させると、その結果は次のようになります。

```
:System.Coordination_Operation   = 'NEXT_RECORD'
:System.Master_Block              = 'C'
```

Clear_All_Master_Detailsプロシージャは、ブロックCのディテールをすべて消去し、その結果、Clear_Block動作の「連鎖リレーション」が発生します。その結果、ブロックFが消去されます。

FがGとHのマスターであり、消去されているため、ブロックFに対してもOn-Clear-Detailsトリガーが起動されます。ただし、ブロックFの消去はブロックCの調整の原因となるイベントによって（間接的に）駆動されているため、ブロックFのOn-Clear-Detailsトリガーの値が残されません。

```
:System.Coordination_Operation   = 'NEXT_RECORD'
:System.Master_Block              = 'C'
```

注意: この2つのシステム変数の値は、On-Clear-Detailsトリガーの有効範囲、またはそのトリガーからコールされたプログラム単位で正しく定義されます。この限られたコンテキスト以外では、この2つの変数の値は未定義であり、使用しないでください。

SYSTEM.COORDINATION_OPERATIONをチェックすることが適切な場合の使用可能な値は、次の表で説明されています。

値	説明	原因
MOUSE	現レコード以外のレコードへのマウス移動	マウス
UP	前にあるレコードに移動	メニュー、キー、PL/SQL
DOWN	後ろにあるレコードに移動	メニュー、キー、PL/SQL
SCROLL_UP	レコードを上へスクロール	メニュー、キー、PL/SQL
SCROLL_DOWN	レコードを下へスクロール	マウス、キー、PL/SQL
CLEAR_BLOCK	現ブロック消去	メニュー、キー、PL/SQL
CLEAR_RECORD	現レコード消去	メニュー、キー、PL/SQL
CREATE_RECORD	レコード新規作成	マウス、メニュー、キー、PL/SQL
DELETE_RECORD	現レコード削除	メニュー、キー、PL/SQL
DUPLICATE_RECORD	現レコード複製	メニュー、キー、PL/SQL
FIRST_RECORD	最初のレコードへ移動	PL/SQL
LAST_RECORD	最後のレコードへ移動	PL/SQL
NEXT_RECORD	次のレコードへ移動	マウス、メニュー、キー、PL/SQL
PREVIOUS_RECORD	前のレコードへ移動	マウス、メニュー、キー、PL/SQL
GO_RECORD	番号でレコードへジャンプ	PL/SQL

ENTER_QUERY	問合せモードに入る	メニュー、キー、PL/SQL
EXECUTE_QUERY	問合せ実行	メニュー、キー、PL/SQL
COUNT_QUERY	問合せレコード数のカウント	メニュー、キー、PL/SQL
NEXT_SET	次のレコード・セットのフェッチ	メニュー、キー、PL/SQL
SYNCHRONIZE_BLOCKS	コミット・エラー後の再開	内部のみ

SYSTEM.CURRENT_BLOCKシステム変数

構文

SYSTEM.CURRENT_BLOCK

説明

SYSTEM.CURRENT_BLOCKシステム変数によって表示される値は、現行のナビゲーション単位によって異なります。

- 現行のナビゲーション単位が (Pre-、Post-Item、RecordおよびBlockトリガーの単位と同様に) ブロックまたはレコード、項目の場合は、SYSTEM.CURRENT_BLOCKの値はFormsで処理されているブロック、またはカーソルが位置しているブロックの名前になります。
- 現行のナビゲーション単位が (Pre-およびPost-Formトリガーの単位と同様に) フォームの場合は、SYSTEM.CURRENT_BLOCKの値はNULLになります。

値は常に文字列です。

注意: SYSTEM.CURRENT_BLOCKは、前バージョンとの互換性を保つために組み込まれています。かわりにSYSTEM.CURSOR_BLOCKおよびSYSTEM.TRIGGER_BLOCKを使用することをお勧めします。

SYSTEM.CURRENT_DATETIMEシステム変数

構文

SYSTEM.CURRENT_DATETIME

説明

SYSTEM.CURRENT_DATETIMEは、オペレーティング・システム日付を表示する変数です。値は以下の書式のCHAR文字列です。

DD-MON-YYYY HH24:MM:SS

デフォルト

現行の日付

使用上の注意

PL/SQLトリガーまたはプロシージャで現行のオペレーティング・システム日付と時刻を使用する必要がある場合は、SYSTEM.CURRENT_DATETIMEが役立ちます。\$\$DBDATETIME\$\$のかわりにSYSTEM.CURRENT_DATETIMEを使用すると、データベースへの問合せによるパフォーマンスへの影響を避けられます。

注意: ローカル時間とデータベース時間は異なる場合もあります。

SYSTEM.CURRENT_DATETIMEの例

```
/*
**
** Trigger:WHEN-TIMER-EXPIRED
** Example:Update on-screen time every 30 seconds
*/
DECLARE
    time VARCHAR2(20);
BEGIN
    time := :System.Current_Datetime;
    :control.onscreen := SUBSTR(time, instr(time, ' ') + 1);
END;
```

SYSTEM.CURRENT_FORMシステム変数

構文

SYSTEM.CURRENT_FORM

説明

SYSTEM.CURRENT_FORMにより、Form Builderで実行されるフォームの名前が表示されます。値は常に文字列です。

使用上の注意

現行のフォームの名前を取得するには、GET_APPLICATION_PROPERTYビルトイン処理を使用できます。

SYSTEM.CURRENT_FORMの例

コール先フォームで、それをコールしたフォームの名前を識別できるようにする必要があると想定します。Form Builderがコールを発行する前に、次のユーザー定義プロシージャを起動することができます。このプロシージャによって、CALLING_FORMという名前のグローバル変数に、現行のフォームの名前が格納されます。

```
PROCEDURE STORE_FORMNAME IS
BEGIN
    :GLOBAL.Calling_Form := :System.Current_Form;
END;
```

SYSTEM.CURRENT_ITEMシステム変数

構文

```
SYSTEM.CURRENT_ITEM
```

説明

SYSTEM.CURRENT_ITEMシステム変数によって表示される値は、現行のナビゲーション単位によって異なります。

- 現行のナビゲーション単位が（Pre-およびPost-Itemトリガーと同様に）項目の場合は、SYSTEM.CURRENT_ITEMの値はFormsで処理されている項目、またはカーソルが位置している項目の名前になります。戻り項目の名前には、ブロック名接頭辞は挿入されません。
- 現行のナビゲーション単位が（Pre-およびPost-Record、Block、Formトリガーの単位と同様に）レコードまたはブロック、フォームの場合は、SYSTEM.CURRENT_ITEMの値はNULLになります。

値は常に文字列です。

注意: SYSTEM.CURRENT_ITEMは、前バージョンとの互換性を保つために組み込まれています。かわりにSYSTEM.CURSOR_ITEMまたはSYSTEM.TRIGGER_ITEMを使用することをお勧めします。

SYSTEM.CURRENT_VALUEシステム変数

構文

```
SYSTEM.CURRENT_VALUE
```

説明

SYSTEM.CURRENT_VALUEにより、SYSTEM.CURRENT_ITEMに登録された項目の値が表示されます。

値は常に文字列です。

注意: SYSTEM.CURRENT_VALUEは、前バージョンとの互換性を保つために組み込まれています。かわりにSYSTEM.CURSOR_ITEMおよびSYSTEM.CURSOR_VALUEを使用することをお勧めします。

SYSTEM.CURSOR_BLOCKシステム変数

構文

SYSTEM.CURSOR_BLOCK

説明

SYSTEM.CURSOR_BLOCKシステム変数によって表示される値は、現行のナビゲーション単位によって異なります。

- 現行のナビゲーション単位が (Pre-およびPost-Item、Record、Blockトリガーの単位と同様に) ブロックまたはレコード、項目の場合は、SYSTEM.CURSOR_BLOCKの値はカーソルが位置しているブロックの名前になります。値は常に文字列です。
- 現行のナビゲーション単位が (Pre-およびPost-Formトリガーの単位と同様に) フォームの場合は、SYSTEM.CURSOR_BLOCKの値はNULLになります。

SYSTEM.CURSOR_BLOCKの例

現ブロックにしたがってナビゲートする、Key-NXTBLKトリガーをフォーム・レベルで作成する必要がありますと想定します。次のトリガーにより、このファンクションが実行されます。ローカル変数に格納されているSYSTEM.CURSOR_BLOCKを使用してください。

```
DECLARE
    curblk VARCHAR2(30);
BEGIN
    curblk := :System.Cursor_Block;
    IF curblk = 'ORDERS'
        THEN Go_Block('ITEMS');
    ELSIF curblk = 'ITEMS'
        THEN Go_Block('CUSTOMERS');
    ELSIF curblk = 'CUSTOMERS'
        THEN Go_Block('ORDERS');
```

```
END IF;  
END;
```

SYSTEM.CURSOR_ITEMシステム変数

構文

```
SYSTEM.CURSOR_ITEM
```

説明

SYSTEM.CURSOR_ITEMにより、入力フォーカス（カーソル）が位置しているブロックおよび項目、ブロック項目の名前が表示されます。

値は常に文字列です。

使用上の注意

提供されたトリガー内では、ナビゲーションを実行する場合、SYSTEM.CURSOR_ITEMの値が変更されます。これは、シングル・トリガーの開始から終わりまで同じままのSYSTEM.TRIGGER_ITEMとは異なります。

SYSTEM.CURSOR_ITEMの制限事項

現行のナビゲーション単位が項目でないトリガー、つまりPre-およびPost-Record、Block、Formトリガーの場合は、SYSTEM.CURSOR_ITEMの使用は避けてください。このようなトリガーでは、SYSTEM.CURSOR_ITEMの値はNULLになります。

SYSTEM.CURSOR_ITEMの例

カーソルが位置している項目の値（SYSTEM.CURSOR_VALUEにより表示される値）を取り、その値に定数を乗算し、さらに修正された値を同じ項目に読み込むユーザー定義プロシージャを作成する必要があると想定します。次のユーザー定義プロシージャでは、COPYビルトイン処理が使用され、このファンクションが実行されます。

```
PROCEDURE CALC_VALUE IS  
    new_value NUMBER;  
BEGIN  
    new_value := TO_NUMBER(:System.Cursor_Value) * .06;  
    Copy(TO_CHAR(new_value), :System.Cursor_Item);  
END;
```

SYSTEM.CURSOR_RECORDシステム変数

構文

```
SYSTEM.CURSOR_RECORD
```

説明

SYSTEM.CURSOR_RECORDにより、カーソルが位置しているレコードの番号が表示されます。この数字は、ブロックのレコード・リスト内のレコードの現在の物理順序です。値は常に文字列です。

SYSTEM.CURSOR_RECORDの例

現レコードが最初のレコードの場合、ITEMSブロックの最初のテキスト項目で「前項目」を再定義して、ORDERSブロックの最後のテキスト項目までナビゲートする必要があると想定します。ITEMS.ORDERIDテキスト項目に、次のKey-PRV-ITEMトリガーを指定すれば、このファンクションが実行されます。

```
IF :System.Cursor_Record = '1'  
  THEN Go_Item('orders.total');  
  ELSE Previous_Item;  
END IF;
```

SYSTEM.CURSOR_VALUEシステム変数

構文

```
SYSTEM.CURSOR_VALUE
```

説明

SYSTEM.CURSOR_VALUEにより、カーソルが位置している項目の値が表示されます。値は常に文字列です。

使用上の注意

現行のナビゲーション単位が項目でないトリガー、つまりPre-RecordおよびPre-Blockの各トリガーの場合は、SYSTEM.CURSOR_VALUEには、ナビゲート先の項目の値ではなく、ナビゲート元の項目の値が挿入されることに注意してください。

SYSTEM.CURSOR_VALUEの制限事項

- Pre-FormトリガーおよびPost-Formトリガーでは、SYSTEM.CURSOR_VALUEの使用は避けてください。ここではSYSTEM.CURSOR_VALUEの値はNULLになります。

SYSTEM.CURSOR_VALUEの例

カーソルが位置している項目の値を取り、その値に定数を乗算し、さらに修正された値を同じ項目に読み込むユーザー定義プロシージャを作成する必要があると想定します。次のユーザー定義プロシージャでは、COPYビルトイン処理が使用され、このファンクションが実行されます。

```
PROCEDURE CALC_VALUE IS
    new_value NUMBER;
BEGIN
    new_value := TO_NUMBER(:System.Cursor_Value) * .06;
    Copy(TO_CHAR(new_value), :System.Cursor_Item);
END;
```

SYSTEM.CUSTOM_ITEM_EVENTシステム変数

構文

```
SYSTEM.CUSTOM_ITEM_EVENT
```

説明

SYSTEM.CUSTOM_ITEM_EVENTには、VBXコントロール（16ビットのMicrosoft Windowsの場合）またはActiveXコントロール（32ビットWindowsの場合）で起動されるイベントの名前が格納されます。

SYSTEM.CUSTOM_ITEM_EVENTの例

前の項目へナビゲートする前に、SpinButton#VBXコントロールでSpinDownイベントが起動されたかどうかをチェックしてください。

```
IF :System.Custom_Item_Event = 'SpinDown' THEN
    :QTY := :QTY -1;
END IF;
```

SYSTEM.CUSTOM_ITEM_EVENT_PARAMETERSシステム変数

構文

```
SYSTEM.CUSTOM_ITEM_EVENT_PARAMETERS
```

説明

SYSTEM.CUSTOM_ITEM_EVENT_PARAMETERSには、VBXコントロール（16ビットのMicrosoft Windowsの場合）またはActiveXコントロール（32ビットWindowsの場合）で起動されるイベントの補足的な引数が格納されます。

SYSTEM.CUSTOM_ITEM_EVENT_PARAMETERSの例

VBXコントロール・イベントの値が入っている'Button'パラメータの値を取得し、'Button'値をユーザー定義のMove_Imageサブプログラムに渡します。

```
DECLARE
  parmType  NUMBER;
  parmValue VARCHAR2(80);
BEGIN
  Get_Parameter_Attr(:System.Custom_Item_Event_Parameters,
                    'Button',parmType,parmValue);

  /*
  ** The value of the 'Button' parameter represents the
  ** direction to move an image.The user-defined Move_Image
  ** subprogram moves an image two pixels in the direction
  ** specified by 'Button' parameter.
  */
  Move_Image(parmValue);
END;
```

SYSTEM.DATE_THRESHOLDシステム変数

構文

SYSTEM.DATE_THRESHOLD

説明

SYSTEM.DATE_THRESHOLDにより、データベース日付の再問合せしきい値が表示されます。この変数は\$\$DBDATE\$\$、\$\$DBDATETIME\$\$および\$\$DBTIME\$\$の3つのシステム変数と連係して働き、Form Builderがデータベース日付をRDBMSに同期化する頻度を制御します。この変数の値は、次の書式で指定する必要があります。

MI:SS

RDBMSの頻繁な問合せはパフォーマンスを低下させるため、この値を妥当な値に保持することをお薦めします。ただし、この値の同期化の頻度が十分でないと、矛盾が生じる場合があるこ

とに注意してください。また、クライアント/サーバー・アプリケーションを構築している場合、ネットワーク構成の複雑さによって、SYSTEM.DATE_THRESHOLDのパフォーマンスが変わることがあります。

デフォルト

01:00（経過時間1分後に同期化実行）。

これは、1分おきにFormsでRDBMSがポーリングされるわけではありません。Formsは、システム変数\$\$DBDATE\$\$、\$\$DBDATETIME\$\$、\$\$DBTIME\$\$またはSYSTEM.EFFECTIVE_DATEの値を生成する必要がある場合は、常に（ローカル・オペレーティング・システムで計測した）経過時間の合計を最後に問い合わせたRDBMS値に追加して、有効な日付を更新します。

経過時間の合計が日付のしきい値を超過している場合、RDBMS時間を検索するための新規問合せが実行され、経過カウンターがリセットされます。

使用上の注意

フォームでデータベース日付が参照されない場合、SYSTEM.DATE_THRESHOLDの値に関わらず、Form BuilderによるRDBMS日付の検索問合せは実行されません。

オペレーティング・システム・クロックとRDBMSクロックは、数時間経過した後でも、1、2秒もずれることはほとんどありません。ただし、データベース管理者は、RDBMSクロックをいつでも再設定できるため、安全上、しきい値を2、3分ほどに設定しておくことをお勧めします。

Formsの1ブロックには、このような\$\$DBDATE\$\$、\$\$DBDATETIME\$\$または\$\$DBTIME\$\$デフォルトへの複数の参照が含まれていることがあります。SYSTEM.DATE_THRESHOLDをデフォルトで1分に設定すれば、1つのフォームのほとんどの参照を、RDBMSの単一の問合せで満たすことができます。

SYSTEM.EFFECTIVE_DATEシステム変数

構文

SYSTEM.EFFECTIVE_DATE

説明

SYSTEM.EFFECTIVE_DATEにより、有効なデータベース日付が表示されます。この変数の値は、常に次の書式にする必要があります。

DD-MON-YYYY HH24:MI:SS

デフォルト

RDBMS日付

使用上の注意

このシステム変数はテストに便利です。これを特定の時刻の設定に使用できるため、アプリケーション中の画面の時刻では、後続のテスト結果は、既知の有効出力を異なっていると表示されません。

SYSTEM.EFFECTIVE_DATEの制限事項

この変数は、データベースにDUAL表の定義が含まれている場合にのみ有効です。

SYSTEM.EFFECTIVE_DATEの例

DATEまたはTIMEのテキスト項目を3つのシステム変数\$\$DBDATE\$\$、\$\$DBDATETIME\$\$または\$\$DBTIME\$\$の一つにセットしたとします。その日付または時間を上書きする場合は、SYSTEM.EFFECTIVE_DATEシステム変数を特定の日付/時間に設定することができます。

```
:System.Effective_Date := '31-DEC-1997 10:59:00'
```

有効日付は、データベースのクロックでは「進む」ことにご注意ください。たとえば、前述の例にある日付を時間単位で設定すると、日付は次のように表示されます。

```
31-DEC-1997 11:59:00
```

値はRDBMS日付と同期化されます。データベース管理者がRDBMS日付を変更する場合、SYSTEM.EFFECTIVE_DATEは、旧RDBMS日付と新規RDBMS日付の間の変更と同じだけ自動的に変更されます。アプリケーションで有効日付の参照が必要な場合はいつでも、FormsによってRDBMSがポーリングされます。

SYSTEM.EVENT_WINDOWシステム変数

構文

```
SYSTEM.EVENT_WINDOW
```

説明

SYSTEM.EVENT_WINDOWシステム変数により、ウィンドウ・イベント・トリガーの1つを起動したアクションの対象となった、最後のウィンドウの名前が表示されます。次のトリガーにより、この変数が更新されます。

■ WHEN-WINDOW-ACTIVATED

- WHEN-WINDOW-CLOSED
- WHEN-WINDOW-DEACTIVATED
- WHEN-WINDOW-RESIZED

このようなトリガーから、変数の値を次のものに割り当てることができます。

- グローバル変数
- パラメータ
- 変数
- NULLキャンバス項目を含む項目

SYSTEM.EVENT_WINDOWの例

次の例では、対象となるウィンドウに従って、入力フォーカスを特定の項目に設定します。

```
IF :System.Event_Window = 'ROOT_WINDOW' THEN
  Go_Item('EMPNO');
ELSIF :System.Event_Window = 'DEPT_WINDOW' THEN
  Go_Item('DEPTNO');
END IF;
```

SYSTEM.FORM_STATUSシステム変数

構文

```
SYSTEM.FORM_STATUS
```

説明

SYSTEM.FORM_STATUSにより、現行のフォームの状態が表示されます。その値は、次の3つの文字列のうちの1つになります。

CHANGED	変更されたレコードのあるブロックが1つ以上フォームに含まれていることを示します。フォームのレコードが1つ以上変更され、対応するナビゲーション単位も変更された後にのみ、SYSTEM.FORM_STATUSの値がCHANGEDになります。
NEW	新規レコードのみがフォームに含まれていることを示します。
QUERY	問合せがオープンになっていることを示します。フォームには、「問合せ」レコードがあるブロックが少なくとも1つは含まれますが、「変更」レコードのあるブロックは含まれません。

使用上の注意

毎回、この値が参照されるときは、Formsによって組み立てられます。フォームに多数のブロックとレコードが含まれている場合、SYSTEM.FORM_STATUSの使用はパフォーマンスに影響する可能性があります。

SYSTEM.FORM_STATUSの例

フォーム内でコミットに変更がある場合に、フォームを消去する前にコミットを実行するトリガーを作成する必要があると想定します。次のKey-CLRFRMトリガーによって、このファンクションが実行されます。

```
IF :System.Form_Status = 'CHANGED'  
    THEN Commit_Form;  
END IF;  
Clear_Form;
```

SYSTEM.LAST_FORMシステム変数

構文

SYSTEM.LAST_FORM

説明

SYSTEM.LAST_FORMにより、複数フォーム・アプリケーションの前のフォームの文書IDが表示されます。ここでは、OPEN_FORMを使用して複数のフォームが起動されています。その値は、フォーム文書IDあるいはNULLの2つの文字列のうちのどちらかになります。

使用上の注意

SYSTEM.LAST_FORMはCALL_FORMと同時に有効になりません。

SYSTEM.LAST_QUERYシステム変数

構文

SYSTEM.LAST_QUERY

説明

現行のランフォーム・セッション中に、SYSTEM.LAST_QUERYにより、ブロックの挿入のためにForm Builderで最近使用された問合せSELECT文が表示されます。値は常に文字列です。

SYSTEM.LAST_QUERYの例

例1

Form Builderで実行する問合せと同一の情報を検索するレポートを、Reportsで生成する必要があると想定します。次の例では、最後の問合せから句ごとにWHERE/ORDERを抽出し、その結果をRUN_PRODUCTビルトイン処理を使用してReportsに渡すためのSYSTEM.LAST_QUERYの使用方法が表示されています。

```

FUNCTION Last_Where_Clause
RETURN VARCHAR2
IS
    tmp_lstqry VARCHAR2(10000) := :System.Last_Query;
    tmp_curb1k VARCHAR2(40);
    tmp_index NUMBER;
    tmp_where VARCHAR2(2000);
BEGIN
    /*
    ** See if we can find the word 'WHERE' in
    ** the text of the Last Query
    */
    tmp_index:= INSTR(tmp_lstqry,'WHERE');
    /*
    ** If we found it (at a positive index into
    ** the string), we extract the remainder of
    ** the text that follows the word 'WHERE' as
    ** the Where clause.This might include ORDER BY
    ** clause, too.
    */
    IF tmp_index > 0 THEN
        tmp_where := SUBSTR(tmp_lstqry, tmp_index + 6);
    END IF;
    RETURN (tmp_where);
EXCEPTION
    WHEN OTHERS THEN
        RETURN NULL;
END;
```

例2

```

PROCEDURE Run_Report_For_Last_Query
IS
    p1 ParamList;
    wc VARCHAR2(2000); -- The Where Clause to Pass
```

```
BEGIN
/*
** Create a parameter list for parameter passing
*/
pl := Create_Parameter_List('tmp');
/*
** Get the Where Clause from the Last Query
** using a user-defined function
*/
wc := Last_Where_Clause;
/*
** If there is a Non-NULL Last Where clause to
** pass, add a text parameter to the parameter
** list to specify the parameter name and its
** value. In this case the report definition has
** a parameter named 'the_Where_Clause' that
** it's expecting.
*/
IF wc IS NOT NULL THEN
    Add_Parameter(pl,                                -- Handle to
                                                         -- the ParamList
    'the_Where_Clause',                             -- Name of Parameter
                                                         -- in the Report
    TEXT_PARAMETER,                                -- Type of Parameter
    wc                                              -- String Value
                                                         -- for Parameter
    );
END IF;
/*
** Launch the report, passing parameters in the
** parameter list.
*/
Run_Product(REPORTS,                                -- The Product to call
    'rep0058.rdf',                                -- The name of the
                                                         -- report definition
    SYNCHRONOUS,                                    -- The communications mode
    BATCH,                                          -- The Execution Mode
    FILESYSTEM,                                    -- The Location of the
                                                         -- reports document
    pl                                              -- The Handle to the
                                                         -- parameter list
    );
/* Delete the parameter list */
```

```
    Destroy_Parameter_List(pl);  
END;
```

SYSTEM.LAST_RECORDシステム変数

構文

SYSTEM.LAST_RECORD

説明

SYSTEM.LAST_RECORDは、現在のレコードがブロックのレコード・リストの最後のレコードかどうかを示します。この値は次の2つのCHAR値のうちの1つになります。

TRUE	現在のレコードが現在のブロックのレコード・リストの最後のレコードであることを示しています。
FALSE	現在のレコードが現在のブロックのレコード・リストの最後のレコードではないことを示しています。

SYSTEM.LAST_RECORDの例

オペレータがブロックのレコード・リストの最後のレコードにナビゲートしたときに、カスタム・メッセージを表示するユーザー定義プロシージャを作成するとします。次のユーザー定義プロシージャにより、基本機能が実行されます。

```
PROCEDURE LAST_RECORD_MESSAGE IS  
BEGIN  
    IF :System.Last_Record = 'TRUE'  
        THEN Message('最後の行です');  
    END IF;  
END;
```

標準処理に加えて、[Down]、[Next Record]および[Scroll Down]を再定義して、ユーザー定義プロシージャをコールすることができます。

SYSTEM.MASTER_BLOCKシステム変数

構文

SYSTEM.MASTER_BLOCK

説明

このシステム変数はSYSTEM.COORDINATION_OPERATIONと連係して働き、トリガーを開始する調整の原因となる操作タイプと、マスター/ディテール・リレーションのマスター・ブロックを、On-Clear-Detailsトリガーが決定するのに役立ちます。

2つのシステム変数の値は、どのブロックの同期化でも、消去フェーズ全体にわたって一定のまま残ります。SYSTEM.MASTER_BLOCKにより、駆動する側のマスター・ブロックの名前が示され、SYSTEM.COORDINATION_OPERATIONにより、マスター・ブロックに発生する、調整の原因となるイベントが示されます。

詳細は、SYSTEM.COORDINATION_OPERATIONのリファレンス項目を参照してください。

SYSTEM.MESSAGE_LEVELシステム変数

構文

SYSTEM.MESSAGE_LEVEL

説明

SYSTEM.MESSAGE_LEVELは、メッセージの重大度レベル（0、10、15、20または25）の1つを格納します。デフォルト値は0です。

SYSTEM.MESSAGE_LEVELは、文字列または数値のどちらにも設定できます。0～25の間の任意の値を割り当てることができます。0より小さい値または25を超える値を指定すると、エラーが生成されます。

ランフォーム・セッション中、Formsでは、指示された重大度レベルと同一、またはそのレベルより低い（重大でない）重大度レベルのメッセージはすべて抑制されます。

標準PL/SQL構文で、SYSTEM.MESSAGE_LEVELシステム変数に値を割り当てます。

```
:System.Message_Level := value;
```

SYSTEM.MESSAGE_LEVELの正当な値は0、5、10、15、20および25です。ユーザーが選択する重大度レベルに関係なく、Formsは、プロンプトや重要なエラー・メッセージの抑止はしません。

SYSTEM.MESSAGE_LEVELの例

Form Builderで、最も重大なメッセージ（レベル25）のみを表示する必要があると想定します。次のPre-Formトリガーでは、レベル20以下のメッセージはすべて抑制されます。

```
:System.Message_Level := '20';
```

SYSTEM.MODEシステム変数

構文

SYSTEM.MODE

説明

SYSTEM.MODEにより、フォームが標準あるいは問合せ入力、フェッチ処理モードのどれであるかが示されます。値は常に文字列です。

NORMAL	フォームが現在通常処理モードであることを示します。
ENTER-QUERY	フォームが現在問合せ入力モードであることを示します。
QUERY	フォームが現在フェッチ処理モードであり、問合せを処理中であることを示します。

使用上の注意

SYSTEM.MODEを使用して現ブロックが問合せ入力モードであるかどうかをチェックするときに、制御ブロックでWhen-Button-Pressedトリガーからテストする場合は、制御ブロックが現ブロックでないため、問合せ入力モードにはならないことに注意してください。

SYSTEM.MODEの例

オペレータが問合せモードに入り、入力フォーカスが特定のテキスト項目にある場合に、Formsで値リストを表示する必要があると想定します。次のトリガーで、その操作が完了します。

```
/*
** When-New-Item-Instance Trigger
*/
BEGIN
  IF :System.Cursor_Item = 'EMP.EMPNO' and
     :System.Mode = 'ENTER-QUERY'
  THEN
    IF NOT Show_Lov('my_lov') THEN
      RAISE Form_Trigger_Failure;
    END IF;
  END;
```

SYSTEM.MOUSE_BUTTON_MODIFIERSシステム変数

構文

```
SYSTEM.MOUSE_BUTTON_MODIFIERS
```

説明

SYSTEM.MOUSE_BUTTON_MODIFIERSは、SHIFT、ALTまたはCONTROLなど、クリックの間に押下されたキーを表します。値は常に文字列です。

たとえば、オペレータがマウス・ボタンを押しながら[Ctrl]キーと[Shift]キーを押すと、SYSTEM.MOUSE_BUTTON_MODIFIERの内容は「Shift+Control+」という値になります。

この変数によって戻される値は、すべてのプラットフォーム間で一様であり、言語が異なっても変化しません。SYSTEM.MOUSE_BUTTON_SHIFT_STATEのかわりに、SYSTEM.MOUSE_BUTTON_MODIFIERSを使用することをお勧めします。

指定できる値は次のとおりです。「Shift+」、「Caps Lock+」、「Control+」、「Alt+」、「Command+」、「Super+」、「Hyper+」

SYSTEM.MOUSE_BUTTON_PRESSEDシステム変数

構文

```
SYSTEM.MOUSE_BUTTON_PRESSED
```

説明

SYSTEM.MOUSE_BUTTON_PRESSEDは、クリックされたボタン番号を1、2、3（左、中央、右）のいずれかで表します。値は常に文字列です。

注意: Motifプラットフォームではマウス右ボタンをクリックしてもSYSTEM.MOUSE_BUTTON_PRESSEDの値は設定されません。

SYSTEM.MOUSE_BUTTON_PRESSEDの例

```
/*
**  Trigger:When-Mouse-Click
**  Example:When mouse button 1 is pressed,
**           a help window appears.
*/
DECLARE
    the_button_pressed  VARCHAR(1);
BEGIN
    the_button_pressed := :System.Mouse_Button_Pressed;
    IF the_button_pressed = '1' THEN
        Show_Window('online_help',20,5);
```

```
END IF;  
END;
```

SYSTEM.MOUSE_BUTTON_SHIFT_STATEシステム変数

構文

```
SYSTEM.MOUSE_BUTTON_SHIFT_STATE
```

説明

SYSTEM.MOUSE_BUTTON_SHIFT_STATEにより、SHIFTあるいはALT、CONTROLなどのクリックするときに押すキーが示されます。値は常に文字列です。文字列自身は、ユーザのプラットフォームの影響を受けることがあります。たとえば、Microsoft Windowsでは、復帰した文字列はオペレーティング・システムの言語に含まれます。

押すキー	値
SHIFT	Shift+
CONTROL	Ctrl+
ALT	Alt+
SHIFT+CONTROL	Shift+Ctrl+

SYSTEM.MOUSE_BUTTON_SHIFT_STATEの例

```
/*  
** Trigger:When-Mouse-Click  
** Example:If the operator presses down on the Shift key and  
**          then clicks on a boilerplate image, a window  
**          appears.  
*/  
DECLARE  
    key_pressed VARCHAR(30) := 'FALSE';  
    x_position_clicked NUMBER(30);  
    y_position_clicked NUMBER(30);  
  
BEGIN  
    key_pressed := :System.Mouse_Button_Shift_State;  
    x_position_clicked := To_Number(:System.Mouse_X_Pos);  
    y_position_clicked := To_Number(:System.Mouse_Y_Pos);  
/*  
** If the operator shift-clicked within the x and y  
** coordinates of a boilerplate image, display a window.  
*/  
    IF key_pressed = 'Shift+' AND x_position_clicked
```

```
BETWEEN 10 AND 20 AND y_position_clicked BETWEEN 10
AND 20 THEN
    Show_Window('boilerplate_image_window');
END IF;
END;
```

SYSTEM.MOUSE_CANVASシステム変数

構文

```
SYSTEM.MOUSE_CANVAS
```

説明

マウスがキャンバス内に位置している場合、SYSTEM.MOUSE_CANVASでは、そのキャンバスの名前はCHAR値として表示されます。マウスが項目内に位置している場合は、その項目を含むキャンバス名がこの変数によって表示されます。

次の場合は、SYSTEM.MOUSE_CANVASはNULLになります。

- マウスがキャンバス外にある場合。
- オペレータがマウスの左ボタンを押し、マウスを移動する場合。
- プラットフォームがGUI以外のものである場合。

SYSTEM.MOUSE_CANVASの例

```
/*
**  Trigger:When-Mouse-Move
**  Example:When the mouse enters any one of several overlapping
**           canvases, Form Builder brings that canvas to the
**           front.
*/
DECLARE
    canvas_to_front VARCHAR(50);
BEGIN
    canvas_to_front := :System.Mouse_Canvas;
    Show_View(canvas_to_front);
END;
```

SYSTEM.MOUSE_FORMシステム変数

構文

```
SYSTEM.MOUSE_FORM
```

説明

マウスがフォーム文書に位置している場合、SYSTEM.MOUSE_FORMでは、そのフォーム文書の名前はCHAR値として表示されます。たとえば、マウスがForm_Module1に位置する場合は、SYSTEM.MOUSE_ITEMの値はFORM_MODULE1になります。

注意: プラットフォームがGUIプラットフォームでない場合は、SYSTEM.MOUSE_FORMがNULLになります。

SYSTEM.MOUSE_ITEMシステム変数

構文

```
SYSTEM.MOUSE_ITEM
```

説明

マウスが項目内に位置している場合、SYSTEM.MOUSE_ITEMでは、その項目の名前はCHAR値として表示されます。たとえば、マウスがブロック2の項目1に位置する場合は、SYSTEM.MOUSE_ITEMの値はBLOCK2.ITEM1になります。

次の場合は、SYSTEM.MOUSE_ITEMはNULLになります。

- マウスが項目外にある場合。
- オペレータがマウスの左ボタンを押し、マウスを移動する場合。
- プラットフォームがGUI以外のものである場合。

SYSTEM.MOUSE_ITEMの例

```
/* Trigger: When-Mouse-Click
**   Example: Dynamically repositions an item if:
**           1) the operator clicks mouse button 2
**              on an item and
**           2) the operator subsequently clicks mouse button
**              2 on an area of the canvas that is
**              not directly on top of another item.
**/
```

```
DECLARE
    item_to_move      VARCHAR(50);
    the_button_pressed VARCHAR(50);
    target_x_position NUMBER(3);
    target_y_position NUMBER(3);
    the_button_pressed VARCHAR(1);
BEGIN
    /* Get the name of the item that was clicked.
    */
    item_to_move := :System.Mouse_Item;
    the_button_pressed := :System.Mouse_Button_Pressed;
    /*
    ** If the mouse was clicked on an area of a canvas that is
    ** not directly on top of another item, move the item to
    ** the new mouse location.
    */
    IF item_to_move IS NOT NULL AND the_button_pressed = '2' THEN
        target_x_position := To_Number(:System.Mouse_X_Pos);
        target_y_position := To_Number(:System.Mouse_Y_Pos);
        Set_Item_Property(item_to_move,position,
            target_x_position,target_y_position);
        target_x_position := NULL;
        target_y_position := NULL;
        item_to_move := NULL;
    END IF;
END;
```

SYSTEM.MOUSE_RECORDシステム変数

構文

```
SYSTEM.MOUSE_RECORD
```

説明

マウスがレコード内にあると、SYSTEM.MOUSE_RECORDはそのレコードのレコード番号をCHAR値として示します。

注意: マウスが項目外にある（つまりレコード内に位置していない）場合、SYSTEM.MOUSE_RECORDは0になります。

SYSTEM.MOUSE_RECORDの例

```
/*
```

```
** Trigger:When-Mouse-Move
** Example:If the mouse is within a record, display a window
**          that contains an editing toolbar.
**/
DECLARE
    mouse_in_record  NUMBER(7);
BEGIN
    mouse_in_record := To_Number(:System.Mouse_Record);

    IF mouse_in_record > 0 THEN
        Show_Window('editing_toolbar');
    END IF;
END;
```

SYSTEM.MOUSE_RECORD_OFFSETシステム変数

構文

SYSTEM.MOUSE_RECORD_OFFSET

説明

マウスがレコード内に位置している場合、SYSTEM.MOUSE_RECORD_OFFSETでは、最初に参照できるレコードからのオフセットがCHAR値として表示されます。

SYSTEM.MOUSE_RECORD_OFFSETは、マウス・トリガー内でのみ有効です。この値は、可視行のうち、どの行でマウスがクリックされたかを示します。

たとえば、マウスがマルチ・レコード・ブロック内の参照可能な5つのレコードの2番目にあるときは、SYSTEM.MOUSE_RECORD_OFFSETは2です。

注意: マウスが項目外にある（つまりレコード内に位置していない）場合、SYSTEM.MOUSE_RECORD_OFFSETは0になります。

SYSTEM.MOUSE_X_POSシステム変数

構文

SYSTEM.MOUSE_X_POS

説明

SYSTEM.MOUSE_X_POSでは、現行のフォーム座標システムの単位で、マウスのX座標が（CHAR値として）表示されます。マウスが項目内にある場合、値は項目の境界線の左上隅か

らの相対位置です。マウスがキャンパスに位置する場合は、値はそのキャンパスの左上隅を基準とします。

注意: キャラクタ・モード・プラットフォームでは、SYSTEM.MOUSE_X_POSが常にNULLになります。

SYSTEM.MOUSE_X_POSの例

```
/*  
** Example: See SYSTEM.MOUSE_ITEM and  
**          SYSTEM.MOUSE_BUTTON_SHIFT_STATE.  
*/
```

SYSTEM.MOUSE_Y_POSシステム変数

構文

SYSTEM.MOUSE_Y_POS

説明

SYSTEM.MOUSE_Y_POSでは、現行の座標システムの単位で、マウスのY座標が（CHAR値として）表示されます。マウスが項目内にある場合、値は項目の境界線の左上隅からの相対位置です。マウスがキャンパスに位置する場合は、値はそのキャンパスの左上隅を基準とします。

注意: キャラクタ・モード・プラットフォームでは、SYSTEM.MOUSE_Y_POSが常にNULLになります。

SYSTEM.MOUSE_Y_POSの例

```
/*  
** Example: See SYSTEM.MOUSE_ITEM and  
**          SYSTEM.MOUSE_BUTTON_SHIFT_STATE.  
*/
```

SYSTEM.RECORD_STATUSシステム変数

構文

SYSTEM.RECORD_STATUS

説明

SYSTEM.RECORD_STATUSにより、カーソルが位置しているレコードの状態が表示されます。その値は、次の4つの文字列のうちの1つになります。

CHANGED	問合せのあったレコードの検証ステータスがChangedであることを示します。
INSERT	レコードの検証ステータスがChangedであり、このレコードはデータベースに存在しないことを示します。
NEW	レコードの検証ステータスがNewであることを示します。
QUERY	レコードの検証ステータスが有効で、データベースから検索されたことを示します。

使用上の注意

SYSTEM.RECORD_STATUSおよびGET_RECORD_PROPERTYビルトイン処理は、どちらも提供されたブロックでレコードの状態に戻り、ほとんどの場合は同一の状態に戻ります。ただし、特定のケースでは、結果が異なることがあります。

SYSTEM.RECORD_STATUSは、現レコードがシステムになれば未定義であるため、特定の場合にNULLの値に戻すことができます。たとえば、When-Clear-Blockトリガーでは、Form Builderはその処理順序のブロック・レベルにあります。このためレポートする現レコードがなく、SYSTEM.RECORD_STATUSの値はNULLになっています。

一方、GET_RECORD_PROPERTYは、処理順序またはそのレコードが現レコードであるかどうかに関わらず、特定のレコードの状態に戻るため、常にその値はNEW、CHANGED、QUERYまたはINSERTになります。

SYSTEM.RECORD_STATUSの例

変更されたレコードを消去する前に、コミットを実行するトリガーを作成する必要があると想定します。次のKey-CLRRECトリガーによって、このファンクションが実行されます。

```
IF :System.Record_Status IN ('CHANGED', 'INSERT') THEN
    Commit_Form;
END IF;
Clear_Record;
```

SYSTEM.SUPPRESS_WORKINGシステム変数

構文

SYSTEM.SUPPRESS_WORKING

説明

「しばらくお待ちください…」メッセージの表示時に通常行われる画面の更新を防ぐため、SYSTEM.SUPPRESS_WORKINGは、ランフォーム内の「しばらくお待ちください…」メッセージを抑止します。この変数の値は次の2つのCHAR値のうちの1つになります。

TRUE	Form Builderに「しばらくお待ちください…」メッセージを出させないようにします。
FALSE	Form Builderに、引き続き「しばらくお待ちください…」メッセージを出させるようにします。

SYSTEM.SUPPRESS_WORKINGの例

オペレータがフォームを入力する場合、フォームをデータで満杯にする必要があると想定します。次のWhen-New-Form-Instanceトリガーでは、ブロックをデータで満たすときに通常発生する、不要な更新が防止されます。

```
:System.Suppress_Working := 'TRUE';
Go_Block ('DEPT');
Execute_Query;
Go_Block ('EMP');
Execute_Query;
Go_Block ('DEPT');
:System.Suppress_Working := 'FALSE';
```

SYSTEM.TAB_NEW_PAGEシステム変数

構文

```
SYSTEM.TAB_NEW_PAGE
```

説明

システム変数SYSTEM.TAB_NEW_PAGEでは、そこまでナビゲーションを実行するタブ・ページの名前が指定されます。この変数は、When-Tab-Page-Changedトリガーの内部で使用します。

SYSTEM.TAB_NEW_PAGEの例

```
/* Use system variable SYSTEM.TAB_NEW_PAGE inside a
** When-Tab-Page-Changed trigger to change the label of
** the tab page to UPPERCASE when an end user navigates
** into the tab page:
*/
DECLARE
    tp_nm    VARCHAR2(30);
    tp_id    TAB_PAGE;
    tp_lbl   VARCHAR2(30);
BEGIN
    tp_nm := :SYSTEM.TAB_NEW_PAGE;
    tp_id := FIND_TAB_PAGE(tp_nm);
    tp_lbl := GET_TAB_PAGE_PROPERTY(tp_id, label);
```

```
IF tp_nm LIKE 'ORD%' THEN
    SET_TAB_PAGE_PROPERTY(tp_id, label, 'ORDERS');
END IF;
END;
```

SYSTEM.TAB_PREVIOUS_PAGEシステム変数

構文

```
SYSTEM.TAB_PREVIOUS_PAGE
```

説明

システム変数SYSTEM.TAB_PREVIOUS_PAGEでは、そこからナビゲーションを実行するタブ・ページの名前が指定されます。この変数は、When-Tab-Page-Changedトリガーの内部で使われます。

SYSTEM.TAB_PREVIOUS_PAGEの例

```
/* Use system variable SYSTEM.TAB_PREVIOUS_PAGE inside a
** When-Tab-Page-Changed trigger to change the label of the
** tab page to initial-cap after an end user navigates out
** of the tab page:
*/
DECLARE
    tp_nm    VARCHAR2(30);
    tp_id    TAB_PAGE;
    tp_lbl   VARCHAR2(30);
BEGIN
    tp_nm := :SYSTEM.TAB_PREVIOUS_PAGE;
    tp_id := FIND_TAB_PAGE(tp_nm);
    tp_lbl := GET_TAB_PAGE_PROPERTY(tp_id, label);
    IF tp_nm LIKE 'ORD%' THEN
        SET_TAB_PAGE_PROPERTY(tp_id, label, 'Orders');
    END IF;
END;
```

SYSTEM.TRIGGER_BLOCKシステム変数

構文

```
SYSTEM.TRIGGER_BLOCK
```

説明

SYSTEM.TRIGGER_BLOCKでは、現行のトリガーが最初に起動されたときにカーソルが位置していたブロックの名前が表示されます。現行のトリガーがPre-またはPost-Formトリガーであれば、値はNULLになります。値は常に文字列です。

SYSTEM.TRIGGER_BLOCKの例

現行のトリガーが最初に起動されたときにカーソルが位置していたブロックまでナビゲートするフォーム・レベル・プロシーダを書き込む必要があると想定します。次の文により、このファンクションが実行されます。

```
Go_Block(Name_In('System.Trigger_Block'));
```

SYSTEM.TRIGGER_ITEMシステム変数

構文

```
SYSTEM.TRIGGER_ITEM
```

説明

SYSTEM.TRIGGER_ITEMにより、現在起動されているトリガーの有効範囲にある項目（BLOCK.ITEM）が表示されます。キー・トリガー内で参照するときは、トリガーの開始時にカーソルが位置していた項目が表示されます。値は常に文字列です。

使用上の注意

SYSTEM.TRIGGER_ITEMは、提供されたトリガーの開始から終わりまで、同一のまま残ります。これは、ナビゲーションを実行したときに、提供されたトリガー内で変更されることもあるSYSTEM.CURSOR_ITEMとは異なります。

SYSTEM.TRIGGER_ITEMの制限事項

現行のナビゲーション単位が項目でないトリガー、つまり、Pre-およびPost-Record、Block、Formトリガーの場合は、SYSTEM.TRIGGER_ITEMの使用は避けてください。このようなトリガーでは、SYSTEM.TRIGGER_ITEMの値はNULLになります。

SYSTEM.TRIGGER_ITEMの例

現行のトリガーが最初に起動されたときにカーソルが位置していた項目までナビゲートするユーザー定義プロシーダを書き込む必要があると想定します。次の文により、このファンクションが実行されます。

```
Go_Item(:System.Trigger_Item);
```

SYSTEM.TRIGGER_NODE_SELECTEDシステム変数

構文

```
SYSTEM.TRIGGER_NODE_SELECTED
```

説明

SYSTEM.TRIGGER_NODE_SELECTEDには、WHEN-TREE-NODE-SELECTEDトリガーにおいてのみ有効な値が組み込まれ、この値により、選択または選択解除を目的としてトリガーを起動するかどうかを示されます。この値はTRUEまたはFALSEです。

SYSTEM.TRIGGER_RECORDシステム変数

構文

```
SYSTEM.TRIGGER_RECORD
```

説明

SYSTEM.TRIGGER_RECORDにより、Formsで処理されているレコードの番号が表示されます。この数字は、ブロックのレコード・リスト内のレコードの現在の物理順序です。値は常に文字列です。

SYSTEM.TRIGGER_RECORDの例

次のブロックでは、IF文でSYSTEM.TRIGGER_RECORDが使用され、処理を継続する前に現レコードを識別します。

```
IF :System.Trigger_Record = '1'  
    THEN Message('First item in this order.');
```

```
END IF;
```


記号

「凹凸」プロパティ, 18

1

「1行あたりの最大オブジェクト数」プロパティ, 201

3

「3Dコントロール使用」プロパティ, 359

A

Add_Triggers (Form Compiler) オプション, 419

「Application Instance」プロパティ, 9

Array (Forms Runtime) オプション, 406

B

「Background_Color」プロパティ, 17

Batch (Form Compiler) オプション, 419

「Block Description」プロパティ, 19

Block_Menu (Forms Runtime) オプション, 406

Buffer_Records (Forms Runtime) オプション, 407

Build (Form Compiler) オプション, 420

「Builtin_Date_Format」プロパティ, 20

C

「Calling_Form」プロパティ, 23

CHAR, 65

「Checked」プロパティ, 30

Compile_All (Form Compiler) オプション, 420

「Coordination_Status」プロパティ, 48

CRT_File (Form Compiler) オプション, 421

「Current_Form_Name」プロパティ, 51

「Current_Form」プロパティ, 51

「Current_Record」プロパティ, 52

「Current_Row_Background_Color」プロパティ, 52

「Current_Row_Fill_Pattern」プロパティ, 53

「Current_Row_Font_Name」プロパティ, 54

「Current_Row_Font_Size」プロパティ, 54

「Current_Row_Font_Spacing」プロパティ, 55

「Current_Row_Font_Style」プロパティ, 56

「Current_Row_Font_Weight」プロパティ, 56

「Current_Row_Foreground_Color」プロパティ, 57

「Current_Row_White_on_Black」プロパティ, 58

「Cursor_Mode」プロパティ, 58

「Cursor_Style」プロパティ, 60

CUSTOM_ITEM_EVENT_PARAMETERSシステム変数, 461

CUSTOM_ITEM_EVENTシステム変数, 461

D

「Database_Value」プロパティ, 70

DATE, 65

Date_Format_Compatibility_Modeプロパティ, 72

DATETIME, 65

Debug Messages (Forms Runtime) オプション, 408
Debug (Form Compiler) オプション, 421
Delete (Form Compiler) オプション, 422
「Display_Height」プロパティ, 88
「Display_Width」プロパティ, 88
「DMLデータ宛先タイプ」プロパティ, 92
「DMLデータ宛先名」プロパティ, 91
DMLの使用法における戻り値句, 93
「DMLの戻り値」プロパティ, 93
「DML配列の大きさ」プロパティ, 90, 351

E

「Enterable」プロパティ, 102
Error_Date/Datetime_Formatプロパティ, 102
Extract (Form Compiler) オプション, 422

F

「Fill_Pattern」プロパティ, 106
「First_Block」プロパティ, 109
「First_Detail_Relation」プロパティ, 110
「First_Item」プロパティ, 110
「First_Master_Relation」プロパティ, 111
「Flag User Value Too Long」プロパティ, 113
「Font_Name」プロパティ, 114
「Font_Size」プロパティ, 114
「Font_Spacing」プロパティ, 115
「Font_Style」プロパティ, 116
「Font_Weight」プロパティ, 117
「Foreground_Color」プロパティ, 118
Form Builderオプション
 設定, 431
Form Builderコンポーネント, 400
 ～について, 400
 開始, 400
Form Builderのコンポーネント, 400
Form Builderの作業環境, 404
 「Form Compiler」オプション, 417
 設定, 417

「Form_Name」プロパティ, 125
Forms Runtime, 400
 起動, 400, 401
Forms Runtimeのオプション, 404
FORMSnn_User_Date/Datetime_Format, 360

H

Help (Form Builder) オプション, 434
Help (Form Compiler) オプション, 422
Help (Forms Runtime) オプション, 408
HTMLファイル名, 435

I

Insert (Form Compiler) オプション, 423
Interactive (Forms Runtime) オプション, 409
「Item_Is_Valid」プロパティ, 167
「Item_Tab_Page」プロパティ, 168

K

「Keyboard Help Description」プロパティ, 174
Keyin (Forms Runtime) オプション, 409
Keyout (Forms Runtime) オプション, 410

L

「Last_Block」プロパティ, 180
「Last_Item」プロパティ, 180
「Last_Query」プロパティ, 181
Logon (Form Compiler) オプション, 423
Logon_Screen (Forms Runtime) オプション, 410

M

Module_Access (Form Compiler) オプション, 424
「Module-NLS_Lang」プロパティ, 214
Module_Type (Form Builder) オプション, 436
Module_Type (Form Compiler) オプション, 424
MOUSE_BUTTON_MODIFIERSシステム変数, 471

N

「Next_Detail_Relation」プロパティ, 225
「Next_Master_Relation」プロパティ, 226
「NextBlock」プロパティ, 224
「NextItem」プロパティ, 225
Nofail (Form Compiler) オプション, 425
NULL
 空白を変換, 65
 「NULLのみ更新」プロパティ, 354
NUMBER, 65

O

「OLE In-place Activation」プロパティ, 231
「OLE Inside-Out Support」プロパティ, 231
「OLE テナント・タイプ」プロパティ, 236
「OLEアクティブ・スタイル」プロパティ, 229
「OLEクラス」プロパティ, 230
「OLEサイズ変更スタイル」プロパティ, 234
「OLEテナント・タイプ表示」プロパティ, 305
「OLEテナント形態」プロパティ, 235
「OLEポップアップ・メニュー項目」プロパティ, 232
「OLEポップアップ・メニュー表示」プロパティ, 304
「Operating_System」プロパティ, 237
「Optimizer_Hint」プロパティ, 237
「Optimize SQL Processing」(Forms Runtime) 作業環境, 411
Options_Screen (Form Compiler) オプション, 425
Options_Screen (Forms Runtime) オプション, 412

「Oracle Terminalリソース・ファイル」オプション, 416
「Order By」プロパティ, 238
ORDER BY句, 387
Output_Date/Datetime_Formatプロパティ, 239
Output_File (Form Compiler) オプション, 425
Output_File (Forms Runtime) オプション, 413

P

Parse (Form Compiler) オプション, 426
「Password」プロパティ, 246
PECS (Forms Runtime) オプション, 413
「PL/SQLライブラリの位置」プロパティ, 247
「PL/SQLライブラリのソース」プロパティ, 248
「PLSQL_Date_Format」プロパティ, 246
「PreviousBlock」プロパティ, 253
「PreviousItem」プロパティ, 254
「Prompt_White_on_Black」プロパティ, 269

Q

Query Only (Forms Runtime) オプション, 414
「Query_Hits」プロパティ, 279
「Query_Options」プロパティ, 280
Quiet (Forms Runtime) オプション, 415

R

「Records_to_Fetch」プロパティ, 287
「REF項目にインクルード」プロパティ, 155
REF列, 289
「Report Server」プロパティ, 294
Runtime_Compatibility_Modeプロパティ, 72

S

「Savepoint Mode」プロパティ, 298
「Savepoint_Name」プロパティ, 299
Script (Form Compiler) オプション, 427
「Secure」(メニュー・パラメータ)プロパティ, 301
SQL処理
 「Optimize SQL Porcessing」(Forms Runtime)
 作業環境, 411
Statistics (Form Compiler) オプション, 427
Statistics (Forms Runtime) オプション, 415
「Status」(ブロック)プロパティ, 324
「Status」(レコード)プロパティ, 324
Strip_Source (Form Compiler) , 428

T

「Tab Page X Offset」プロパティ, 331
「Tab Page Y Offset」プロパティ, 332
Term (Form Builder) オプション, 438
Term (Forms Runtime) オプション, 416
「Timer_Name」プロパティ, 333
「Top Title」プロパティ, 345
「Top_Record」プロパティ, 344
「Topmost_Tab_Page」プロパティ, 345
「Transactional Triggers」プロパティ, 346
TRIGGER_NODE_SELECTEDシステム変数, 483

U

「Update Commit」プロパティ, 353
「Update Layout」プロパティ, 353
「Update_Permission」プロパティ, 355
Upgrade (Form Compiler) オプション, 428
Upgrade_Roles (Form Compiler) オプション, 429
「User_Date/Datetime_Format」プロパティ, 360
「User_Interface」プロパティ, 361
「User_NLS_Date_Format」プロパティ, 362
「User_NLS_Lang」プロパティ, 363

USESDI (Forms Runtime) オプション, 438

V

V2スタイルのトリガー・ステップ処理を最適化, 411
「Validation」プロパティ, 365
VBX
 CUSTOM_ITEM_EVENT_PARAMETERSシス
 テム変数, 461
 CUSTOM_ITEM_EVENTシステム変数, 461
「VBX Control File」プロパティ, 368
「VBX Control Name」プロパティ, 369
「VBX Control Value」プロパティ, 370
Version (Form Compiler) オプション, 429

W

Web Forms
 USESDIオプション, 438
Web Forms, 438
WHERE句, 387
Widen_Fields (Form Compiler) オプション, 430
「Window_Handle」プロパティ, 390
「Window_State」プロパティ, 391
Window_State (Forms Runtime) オプション, 416
「Wrap Text」プロパティ, 394

X

「X位置のリスト」プロパティ, 187
「X位置」プロパティ, 396
「X角の半径」プロパティ, 395

Y

「Y位置のリスト」プロパティ, 188
「Y位置」プロパティ, 396

「Y角の半径」プロパティ, 397

あ

「アイコン・ファイル名」プロパティ, 149
「アイコン化可能」プロパティ, 212
「アイコン化タイトル」プロパティ, 213
「アイコン化」プロパティ, 151
「アクセス・キー」プロパティ, 4
「アクセス」作業環境 (Form Builder), 435

値

CURRENT_VALUEシステム変数, 457
CURSOR_VALUEシステム変数, 460

「値リスト」プロパティ, 185
「圧縮品質」プロパティ, 42
「圧縮」プロパティ, 42

アプリケーションの調整, 411

OptimizeSQLオプション, 411
トランザクション・モード処理の最適化, 412
「現レコード可視属性グループ」プロパティ, 50

い

「移動可能」プロパティ, 217

イベント

EVENT_WINDOWシステム変数, 464
「イメージ形式」プロパティ, 152
「イメージの深さ」プロパティ, 151
「インプリメンテーション・クラス」プロパティ, 153

う

ウィンドウ

EVENT_WINDOWシステム変数, 464
「ウィンドウ・スタイル」プロパティ, 393
「ウィンドウ」プロパティ, 390

え

「エディタ」プロパティ, 95, 96
「延期」プロパティ, 74
「エントリでレイズ」プロパティ, 281

お

「オーディオ・チャンネル」プロパティ, 10
オブジェクト名の別名, 5
オプション, 404

Form Builderオプションの設定, 431
Form Compilerオプションの設定, 417
Forms Runtimeオプション, 404
作業環境ファイル, 440

か

カーソル

Optimize SQL Processingオプション, 411
Statistics (Forms Runtime) オプション, 415
トランザクション・モードの最適化, 412

「カーソル位置を保持」プロパティ, 171
「開始 - 連結プロンプト使用可」プロパティ, 7
「開始角」プロパティ, 321
「開始プロンプト整列」プロパティ, 321, 342
「開始プロンプトのオフセット」プロパティ, 322, 343

「回転角度」プロパティ, 297
「開放」プロパティ, 290
「拡張可能」プロパティ, 6
「可視」(キャンバス) プロパティ, 380
「可視」(項目) プロパティ, 380
「可視」(タブ・ページ) プロパティ, 381

可視属性

「Oracle Terminalリソース・ファイル」オプション, 416
「可視属性グループ」プロパティ, 384
「可視属性タイプ」プロパティ, 387

「可視属性」プロパティ, 383
「可視」プロパティ, 378
「カスタム・スペース」プロパティ, 61
「カラー・パレット」オプション, 433
「カラー・モード」オプション, 432
「空のブランチを許可」プロパティ, 6
「関連メニュー」プロパティ, 10

き

「キー・モード」プロパティ, 172
「キーボード・アクセラレータ」プロパティ, 173
「キーボード・テキスト」プロパティ, 85
「キーボード・ヘルプの表示」プロパティ, 85
「キーボード状態」プロパティ, 176
「キーボードで移動可能」プロパティ, 175
期限切れのパスワード, 404
「記号を表示」プロパティ, 311
「起動コード」プロパティ, 323
「キャンバス・タイプ」プロパティ, 24
「キャンバス」プロパティ, 23
「境界線パターン」プロパティ, 95
「境界ボックスはスケーリング可能」プロパティ, 19
切捨て, 113
 ユーザー入力値, 113
「切離しメニュー」プロパティ, 333

く

空白をNULLに変換, 65
「グラフィック・タイプ」プロパティ, 139
「クリップ高さ」プロパティ, 30
「クリップのX位置」プロパティ, 31
「クリップのY位置」プロパティ, 32
「クリップ幅」プロパティ, 31
「クローズ可能」プロパティ, 32
「クローズ」プロパティ, 33

け

「警告スタイル」プロパティ, 4
「計算モード」プロパティ, 22
「結合形式」プロパティ, 170
「結合条件」プロパティ, 168
「権限なしで表示」プロパティ, 87

こ

「更新可」(項目)プロパティ, 349
「更新可」(ブロック)プロパティ, 348
「更新プロセスの引数」プロパティ, 356
「更新プロセスの結果セット列」プロパティ, 357
「更新プロセス名」プロパティ, 357

項目

CURRENT_ITEMシステム変数, 457
CURRENT_VALUEシステム変数, 457
CURSOR_ITEMシステム変数, 459
CURSOR_VALUEシステム変数, 460
CUSTOM_ITEM_EVENT_PARAMETERSシステム変数, 461
CUSTOM_ITEM_EVENTシステム変数, 461
TRIGGER_ITEMシステム変数, 482

「項目と同期」プロパティ, 328
「(項目の)コピー値」プロパティ, 49
「項目のタイプ」プロパティ, 166

項目の高さ, 390

項目の幅, 390

「項目ロール」プロパティ, 165
「固定境界ボックス」プロパティ, 111
「固定長」(項目)プロパティ, 112
「固定長」(メニュー置換パラメータ)プロパティ, 112
「コマンド・タイプ」プロパティ, 39
「コマンド・テキスト」プロパティ, 38
「コメント」プロパティ, 40
「孤立モード」プロパティ, 165
「コンソール・ウィンドウ」プロパティ, 44
コントロール・プロパティについて, 3

「コントロール・プロパティ」プロパティ, 45
「コントロール・ヘルプ」プロパティ, 45
コンパイル
 「デバッグ」モード, 421

さ

サーバー側のデータ変更, 93
最高許容値, 141
「最初のナビゲーション・データ・ブロック」プロパティ, 108
「サイズ調整形式」プロパティ, 319
「サイズ」プロパティ, 316
「サイズ変更可能」プロパティ, 296
「再生ボタン表示」プロパティ, 307
「最大化可能」プロパティ, 198
「最大長」(フォーム・パラメータ)プロパティ, 199
「最大長」(メニュー置換パラメータ)プロパティ, 200
「最大長」プロパティ, 198
「最長問合せ時間」プロパティ, 201
最低許容値, 141
再問合せ, 93
サウンド, 313
 「サウンド形式」プロパティ, 319
 「サウンド品質」プロパティ, 320
作業環境
 Form Builderオプション, 431
 ユーザー環境設定ファイル, 440
「削除可」プロパティ, 76
「削除プロセス結果セット列」プロパティ, 77
「削除プロセスの引数」プロパティ, 76
「削除プロセス名」プロパティ, 77
「座標システム」プロパティ, 46
サブクラス・パス, 437
「サブクラス情報」プロパティ, 325
「サブメニュー名」プロパティ, 326
「サマリー・ファンクション」プロパティ, 327
「サマリー結果項目」プロパティ, 327
「サマリーの予備計算」プロパティ, 250

し

時間 (DATETIMEの一部), 65
「時間標識表示」プロパティ, 312
「式」プロパティ, 126
時刻と日付
 システム変数, 445
時刻のシステム変数
 \$\$DATETIME\$\$, 448
 \$\$DBDATETIME\$\$, 450
 \$\$DBTIME\$\$, 451
 \$\$TIME\$\$, 452
「システム・エディタの使用」オプション, 439
システム変数
 BLOCK_STATUS, 452
 COORDINATION_OPERATION, 453
 CURRENT_BLOCK, 455
 CURRENT_DATETIME, 455
 CURRENT_FORM, 456
 CURRENT_ITEM, 457
 CURRENT_VALUE, 457
 CURSOR_BLOCK, 458
 CURSOR_ITEM, 459
 CURSOR_RECORD, 460
 CURSOR_VALUE, 460
 CUSTOM_ITEM_EVENT, 461
 CUSTOM_ITEM_EVENT_PARAMETERS, 461
 DATE_THRESHOLD, 462
 EFFECTIVE_DATE, 463
 EVENT_WINDOW, 464
 FORM_STATUS, 465
 LAST_FORM, 466
 LAST_QUERY, 466
 LAST_RECORD, 469
 MASTER_BLOCK, 469
 MESSAGE_LEVEL, 470
 MODE, 471
 MOUSE_BUTTON_PRESSED, 472
 MOUSE_BUTTON_SHIFT_STATE, 473
 MOUSE_CANVAS, 474
 MOUSE_FORM, 475
 MOUSE_ITEM, 475

MOUSE_RECORD, 476
MOUSE_RECORD_OFFSET, 477
MOUSE_X_POS, 477
MOUSE_Y_POS, 478
RECORD_STATUS, 478
SUPPRESS_WORKING, 479
TAB_NEW_PAGE, 480
TAB_PREVIOUS_PAGE, 481
TRIGGER_BLOCK, 481
TRIGGER_ITEM, 482
TRIGGER_RECORD, 483
アルファベット順リスト, 444
日付と時刻, 445

システム変数, 444

実行時, 404

「実行の階層」プロパティ, 104
「実行前にビルド」オプション, 434
「実行モード」(チャート)プロパティ, 103
「実行モード」(レポート)プロパティ, 103
「実際単位」プロパティ, 283
「自動位置」プロパティ, 12
「自動最新表示」プロパティ, 13
「自動スキップ」(値リスト)プロパティ, 16
「自動スキップ」(項目)プロパティ, 15
「自動選択」プロパティ, 15
「自動問合せ」プロパティ, 12
「自動表示」プロパティ, 12
「自動列幅」プロパティ, 11
「次ナビゲーション項目」プロパティ, 223
「下タイトル」(エディタ)プロパティ, 19
「終了時に隠す」プロパティ, 140
「主キー」(項目)プロパティ, 255
「主キーの強化」(ブロック)プロパティ, 101
「主キャンバス」プロパティ, 255
「終了角」プロパティ, 100
「シュリンクラップ」プロパティ, 314
「上 - 連結プロンプト使用可」プロパティ, 8
「小/大文字区別なしの問合せ」プロパティ, 26
「小/大文字区別」プロパティ, 27
消音モードで実行, 415
「使用可能」(項目)プロパティ, 98
「使用可能」(タブ・ページ)プロパティ, 99
「使用可能」(メニュー項目)プロパティ, 99

修飾

表の名前, 5

「初期キーボード状態」プロパティ, 156
「初期値」(項目)プロパティ, 158
「初期メニュー」プロパティ, 157
「書式マスク」プロパティ, 120
「白黒」プロパティ, 389

す

「垂直原点」プロパティ, 374
「垂直スクロール・バー表示」プロパティ, 312
「垂直ツールバー・キャンバス」プロパティ, 375
「垂直方向の埋込み」プロパティ, 371
「垂直方向のオブジェクト・オフセット」プロパティ, 373
「垂直方向のマージン」プロパティ, 372
「垂直文字位置」プロパティ, 371
「水平オブジェクト・オフセット」プロパティ, 146
「水平原点」プロパティ, 147
「水平スクロール・バー表示」プロパティ, 303
「水平ツールバー・キャンバス」プロパティ, 148
「水平マージン」プロパティ, 145
「水平メニュー・ツールバー表示」プロパティ/「垂直メニュー・ツールバー表示」プロパティ, 382
「水平文字位置」プロパティ, 144
「スクロール・バー整列」プロパティ, 300
「スクロール・バー高さ」プロパティ, 300
「スクロール・バー幅」プロパティ, 301
「スクロール・バー表示」プロパティ, 309
「スライダー表示」プロパティ, 310

せ

「セキュリティ使用」プロパティ, 358
「接続文字列」プロパティ, 44

設定

Form Builderのオプション, 431
Form Compilerのオプション, 417
プロパティ, 2

「前ナビゲーション項目」プロパティ, 252
「線の間隔」プロパティ, 183
「線幅」プロパティ, 184
「全レコードの問合せ」プロパティ, 271
「線を表示」プロパティ, 304

そ

「挿入可」(項目)プロパティ, 160
「挿入可」(ブロック)プロパティ, 160
「挿入プロシージャの引数」プロパティ, 162
「挿入プロシージャの結果セット列」プロパティ,
163
「挿入プロシージャ名」プロパティ, 162
「その他のレポート・パラメータ」プロパティ, 239

た

「タイトル」プロパティ, 334
「対話モード」プロパティ, 164
「高さ」プロパティと「幅」プロパティ, 376

タブ

TAB_NEW_PAGEシステム変数, 480
TAB_PREVIOUS_PAGEシステム変数, 481
「タブ・スタイル」プロパティ, 332
「タブ・ページ」プロパティ, 330
「タブ連結枠」プロパティ, 330
「単一オブジェクト整列」プロパティ, 314
「単一レコード」プロパティ, 315

ち

「チェック時の値」プロパティ, 367
「遅延を必須強制」プロパティ, 74
「チャート・タイプ」プロパティ, 28
「チャートのサブタイプ」プロパティ, 29
調整

COORDINATION_OPERATIONシステム変数,
453
「調整」プロパティ, 47

つ

「通信モード」(チャート)プロパティ, 40
「通信モード」(レポート)プロパティ, 41
「ツールチップ可視属性グループ」プロパティ, 341
「ツールチップの黒地に白」プロパティ, 341
「ツールチップの塗りパターン」プロパティ, 336
「ツールチップのバックグラウンド・カラー」プロ
パティ, 336
「ツールチップのフォアグラウンド・カラー」プロ
パティ, 340
「ツールチップのフォント・サイズ」プロパティ, 338
「ツールチップのフォント・スタイル」プロパティ,
339
「ツールチップのフォント間隔」プロパティ, 338
「ツールチップのフォントの太さ」プロパティ, 339
「ツールチップのフォント名」プロパティ, 337
「ツールチップ」プロパティ, 335
「次のナビゲーション・データ・ブロック」プロパ
ティ, 222

て

「ディザ」プロパティ, 90
「ディスプレイ幅」(値リスト)プロパティ, 87
「ディスプレイへの出力書込み」オプション, 409
「ディテール・データ・ブロック」プロパティ, 79
「ディテール参照項目」プロパティ, 79
「データ・ソースのX軸」プロパティ, 64
「データ・ソースのY軸」プロパティ, 64
「データ・ソースのデータ・ブロック」(チャート)
プロパティ, 63
「データ・ソースのデータ・ブロック」(レポート)
プロパティ, 64
「データ・ブロック・メニューにリスト済み」プロ
パティ/「データ・ブロックの記述」プロパティ, 189

「データ・ブロックの記述」プロパティ, 62
「データ隠蔽」プロパティ, 43
データ型, 65
「データ型 (レコード・グループ)」プロパティ, 69
「データ型」プロパティ, 65
「データ問合せ」プロパティ, 63
データの同期, 93
データベース
 ログイン, 404
「データベース・ブロック」プロパティ, 70
デバッグ・モード (「ランタイム」オプション), 407
「デフォルト・フォント・スケール」プロパティ, 74
「デフォルト・ボタン」プロパティ, 73
「デフォルト警告ボタン」プロパティ, 73

と

問合せ
 LAST_QUERYシステム変数, 466
「問合せ可」(項目)プロパティ, 272
「問合せ可」(ブロック)プロパティ, 272
「問合せ時に更新」プロパティ, 358
問合せ専用モードで実行, 414
「問合せ長」プロパティ, 277
「問合せデータ・ソース・タイプ」プロパティ, 276
「問合せデータ・ソース引数」プロパティ, 274
「問合せデータ・ソースの名前」プロパティ, 71
「問合せデータ・ソース名」プロパティ, 275
「問合せデータ・ソース列」プロパティ, 275
「問合せ入力モードで起動」プロパティ, 107
「問合せのみ」プロパティ, 278
「問合せ配列サイズ」プロパティ, 273
「問合せ名」プロパティ, 278
同期
 モジュール実行, 436
「統計を表示」オプション, 415
トランザクション・モード処理の最適化 (Forms Runtime), 412
トリガー
 Add_Triggers (Form Compiler) オプション, 419
 TRIGGER_BLOCKシステム変数, 481

TRIGGER_ITEMシステム変数, 482
TRIGGER_RECORDシステム変数, 483
V2スタイルのトリガーを最適化, 411
「トリガー・スタイル」プロパティ, 347
「トリガー・タイプ」プロパティ, 348
「トリガー・テキスト」プロパティ, 347
「取出しレコードの最大数」プロパティ, 202

な

「長さ」(レコード・グループ)プロパティ, 183
ナビゲーション
 CURSOR_BLOCKシステム変数, 458
「ナビゲーション形式」プロパティ, 221
名前
 「ファイル名」プロパティ, 104
「名前」プロパティ, 220

に

「入力キー・ストロークのファイルへの書込み」オプション, 410

ぬ

「塗り」プロパティ, 105

は

パスワード, 404
「バッファ・レコード数」プロパティ, 227
「端形式」プロパティ, 25
「幅スタイル」プロパティ, 62
「早送りボタン表示」プロパティ, 302
「パラメータ・データ型」プロパティ, 240
「パラメータの初期値」(フォーム・パラメータ)プロパティ, 245

「パレット」オプション, 433
「パレット表示」プロパティ, 306

ひ

日付と時刻

システム変数, 445

日付と時刻のシステム変数

\$\$DATE\$\$, 447

\$\$DATE\$\$と\$\$DATETIME\$\$の違い, 447

\$\$DATETIME\$\$, 448

\$\$DBDATE\$\$, 449

\$\$DBDATETIME\$\$, 450

\$\$DBTIME\$\$, 451

\$\$TIME\$\$, 452

CURRENT_DATETIME, 455

DATE_THRESHOLD, 462

EFFECTIVE_DATE, 463

日付と時刻のシステム変数, 445

「必須」(項目)プロパティ, 294

「必須」(メニュー・パラメータ)プロパティ, 295

「ビューポートのX位置」プロパティ, 378

「ビューポートのX位置」プロパティ、「ビューポートのY位置」プロパティ, 377

「ビューポートのY位置」プロパティ, 378

「表示項目数」プロパティ, 226

「表示品質」プロパティ, 86

「表示前フィルタ」プロパティ, 106

「表示レコード数」プロパティ, 228

表の名前の修飾, 5

「ビルド前に保存」オプション, 437

「ヒント」(項目)プロパティ, 142

「ヒント」(メニュー項目)プロパティ, 143

「ヒント」(メニュー置換パラメータ)プロパティ, 144

「ヒントの自動表示」プロパティ, 85

「ヒント表示の抑止」オプション, 438

ふ

ファイル

「ファイル名」プロパティ, 104

「ファイルからの入力キー・ストロークの読み込み」オプション, 409

「ファイルへの出力書き込み」オプション, 413

「ファイル名」プロパティ, 104

フォーム

CURRENT_FORMシステム変数, 456

FORM_STATUSシステム変数, 465

LAST_FORMシステム変数, 466

「フォーム垂直ツールバーのキャンバス」プロパティ, 120

「フォーム水平ツールバーのキャンバス」プロパティ, 119

「複数行」プロパティ, 218

「複数行プロンプト使用可」プロパティ, 7

「複数選択」プロパティ, 219

複数のセクション, 219

「プリンタ」オプション, 436

「プログラム・ユニット・テキスト」プロパティ, 256

ブロック

BLOCK_STATUSシステム変数, 452

CURRENT_BLOCKシステム変数, 455

CURSOR_BLOCKシステム変数, 458

LAST_RECORDシステム変数, 469

MASTER_BLOCKシステム変数, 469

TRIGGER_BLOCKシステム変数, 481

「ブロック・メニューの表示」作業環境, 406

プロパティ

「Cursor Mode」, 58

概要, 2

設定と変更, 2

プロパティの説明を読む, 3

変更, 2

リレーション・タイプ, 289

プロパティ, 58

「プロパティ・クラス」プロパティ, 269

「プロンプト・フォントの間隔」プロパティ, 264

「プロンプト整列オフセット」プロパティ, 258

「プロンプト整列」プロパティ, 257

「プロンプトの可視属性グループ」プロパティ, 268
「プロンプトの塗りパターン」プロパティ, 262
「プロンプトのバックグラウンド・カラー」プロパティ, 260
「プロンプトのフォアグラウンド・カラー」プロパティ, 266
「プロンプトのフォント・サイズ」プロパティ, 263
「プロンプトのフォント・スタイル」プロパティ, 265
「プロンプトのフォントの太さ」プロパティ, 265
「プロンプトのフォント名」プロパティ, 263
「プロンプトの文字位置」プロパティ, 267
「プロンプトの読み込み順」プロパティ, 267
「プロンプト表示スタイル」プロパティ, 261
「プロンプト」プロパティ, 257
「プロンプト連結オフセット」プロパティ, 260
「プロンプト連結棒」プロパティ, 259

へ

「別名」プロパティ, 5
「ヘルプ情報の表示」オプション, 408
「ヘルプ」プロパティ, 140

変更

プロパティ, 2
「変更列のみ更新」プロパティ, 351

ほ

「方向」プロパティ, 80
「ほかの値のチェックボックス・マッピング」プロパティ, 29
「ほかの値のマッピング」プロパティ, 197
「ボタン1のラベル」
警告ボタンのラベル, 22
「ポップアップ・メニュー」プロパティ, 249
ボリューム, 313
「ボリューム調節ボタン」プロパティ, 313

ま

マウス・イベント

MOUSE_BUTTON_PRESSEDシステム変数, 472
MOUSE_CANVASシステム変数, 474
MOUSE_FORMシステム変数, 475
MOUSE_ITEMシステム変数, 475
MOUSE_RECORD_OFFSETシステム変数, 477
MOUSE_RECORDシステム変数, 476
MOUSE_X_POSシステム変数, 477
MOUSE_Y_POSシステム変数, 478
「マウス・ナビゲーション限界」プロパティ, 217
「マウス・ナビゲート」プロパティ, 216
「前置きダイアログ」作業環境 (Form Builder), 440
前置きページ, 441
「前のナビゲーション・データ・ブロック」プロパティ, 252
「巻戻しボタン表示」プロパティ, 308
「マジック項目」プロパティ, 195
マスター/ディテールのリンク・タイプ, 289
「マスター削除」プロパティ, 78
マスターとディテールのリンク, 289
「マスターなし操作防止」プロパティ, 251
「未チェック時の値」プロパティ, 367

め

「メイン・メニュー」プロパティ, 196
メッセージ
MESSAGE_LEVELシステム変数, 470
ランタイム・メッセージの抑止, 479
「メッセージ」プロパティ, 212
「メニュー・スタイル」プロパティ, 211
「メニュー・ソース」プロパティ, 210
「メニュー・ディレクトリ」プロパティ, 203
「メニュー・パラメータ初期値」(メニュー置換パラメータ)プロパティ, 245
「メニュー・ファイル名」プロパティ, 204
「メニュー・モジュール」プロパティ, 208
「メニュー・ロール」プロパティ, 209

「メニュー継承」プロパティ, 156
「メニュー項目コード」プロパティ, 205
「メニュー項目タイプ」プロパティ, 206
「メニュー項目ラジオ・グループ」プロパティ, 206
「メニュー説明」プロパティ, 203
「メニューに表示」プロパティ, 382
「メニューのアイコン」プロパティ, 150

も

モード

MODEシステム変数, 471
「モード」プロパティ, 214
「文字位置」プロパティ, 170
「文字セル幅/高さ」プロパティ, 28
「モジュール・アクセス」(Form Builder) 作業環境,
435
「モジュール・ロール」プロパティ, 215
「モジュールの非同期実行」オプション, 436
モジュールを非同期で実行, 436
「戻り項目」(値リスト)プロパティ, 296

や

「矢印スタイル」プロパティ, 9

ゆ

「有効単位」プロパティ, 366
ユーザーID, 404
ユーザー環境設定ファイル, 440
「ユーザー名」プロパティ, 360

よ

「読み込み順」プロパティ, 282

ら

「ライブラリをフォームと共有」プロパティ, 302
「ラジオ・ボタンの値」プロパティ, 280
「ラップ形式」プロパティ, 394
「ラベル」(項目)プロパティ, 177
「ラベル」(タブ・ページ)プロパティ, 179
「ラベル」(メニュー項目)プロパティ, 178
「ラベル」(メニュー置換パラメータ)プロパティ,
179
「ランタイム互換性モード」プロパティ, 297

り

「リスト・タイプ」プロパティ, 186
「リスト形式」プロパティ, 186
「リスト項目値」プロパティ, 184
「リストで妥当性チェック」プロパティ, 363
「リスト内の要素」プロパティ, 97
「リレーション・タイプ」プロパティ, 289

れ

「レイアウト・スタイル」プロパティ, 182
「レイアウト・データ・ブロック」プロパティ, 181
レコード

CURSOR_RECORDシステム変数, 460
LAST_RECORDシステム変数, 469
RECORD_STATUSシステム変数, 478
TRIGGER_RECORDシステム変数, 483
「レコード・グループ・タイプ」プロパティ, 286
「レコード・グループの問合せ」プロパティ, 285
「レコード・グループフェッチサイズ」プロパティ,
285
「レコード・グループ」プロパティ, 139, 284
「レコード間の距離」プロパティ, 89
「レコード削除時の動作」プロパティ, 78
「レコード方向」プロパティ, 287
「列値」(レコード・グループ)プロパティ, 38

「列仕様」プロパティ, 36
「列セキュリティの強化」プロパティ, 100
「列タイトル」(値リスト)プロパティ, 38
「列マッピング・プロパティ」プロパティ, 34
「列名」プロパティ, 36
「レポート宛先タイプ」プロパティ, 293
「レポート宛先名」プロパティ, 292
「レポートの宛先形式」プロパティ, 290

ろ

ログイン
 データベース, 404
ログオン
 データベース, 404
「ログオン指定のためのスクリーン表示」オプション, 410
「録音ボタン表示」プロパティ, 308
「ロック・プロシージャの引数」プロパティ, 190
「ロック・プロシージャの結果セット列」プロパティ, 191
「ロック・プロシージャ名」プロパティ, 191
「ロック・モード」プロパティ, 193

「ロック・レコード」プロパティ, 192

わ

「枠整列」プロパティ, 127
「枠タイトル整列」プロパティ, 129
「枠タイトルのオフセット」プロパティ, 134
「枠タイトルの可視属性グループ」プロパティ, 136
「枠タイトルの間隔」プロパティ, 135
「枠タイトルのバックグラウンド・カラー」プロパティ, 130
「枠タイトルのフォアグラウンド・カラー」プロパティ, 133
「枠タイトルのフォント・スタイル」プロパティ, 132
「枠タイトルのフォントの大きさ」プロパティ, 131
「枠タイトルのフォントの間隔」プロパティ, 132
「枠タイトルのフォントの太さ」プロパティ, 133
「枠タイトルのフォント名」プロパティ, 131
「枠タイトルの読み込み順」プロパティ, 134
「枠タイトル」プロパティ, 129
「枠のバックグラウンド・カラー」プロパティ, 94
「枠のフォアグラウンド・カラー」プロパティ, 94